

**2023年度
授業改善のための学生アンケート
実施報告書**

**東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学**

目 次

はじめに	1
2023 年度授業改善のための	
学生アンケートについて	2
授業・レッスンアンケート用紙	3
参考資料 ～ 全体集計結果表	11
講義・演習系、実技（個人レッスン）、大学院 全体集計結果	

専攻別集計結果・アンケート結果考察

◆ 大学 ◆

ピアノ	21
声楽	45
管弦打楽器	59
音楽創造	79
音楽療法	85
PACS	91
音楽専門教育科目	99
基礎教育科目	183
教職に関する専門科目	225
音楽療法に関する科目	245
文化教養科目	255
外国人留学生に関する科目	261

◆ 短大 ◆

ピアノ	275
声楽	285
管弦打楽器	295
シンガーソングライター・アーティスト	305
ピアノ指導者	311
音楽専門教育科目	317
基礎教育科目	343
文化教養科目	355

◆ 大学院 ◆

ピアノ領域	363
管弦打領域	373
声楽領域	381
作曲領域	395
共通科目	403

はじめに

近年多様な背景を持って入学する学生に対して、学士課程教育の改革や改善が鋭意進められています。本学でも、これらの状況を踏まえて教育の改善、充実をはかるため全学的なFD活動が実行されています。継続的な研修会をはじめ、各種アンケートの実施等、FD活動の実質化を計ってきました。

本学の「授業改善のための学生アンケート」は、平成17年度からの実施以来、教育内容、指導方法の改善に重要な役割を果たしてきました。教員一人一人が自主的に自己点検、評価を行い教育の質的向上を目指す重要なエビデンスになっています。今後はピアレビューを踏まえた授業公開やアクティブ・ラーニングの活用等の実質化を推進したいと思います。教育に関する問題、課題は絶えることはありません。今後とも改革、改善のため不断の対応を進めて行きたいと思えます。

令和6年3月

東邦音楽大学・短期大学

FD委員会

山崎 明美(委員長)

佐藤 泰弘

高橋 幸雄

遠山 菜穂美

秦 はるひ

宮野 陽子

中島 裕紀

國谷 尊之

木下 容子

江沢 博昭

太田 恵雄

田中 健一

2023 年度 授業改善のための学生アンケートについて

I 実施目的

「授業改善のための学生アンケート」は、学生の視点から見た授業・レッスン内容、方法、教材などについて意見を聴取し、より充実した授業・レッスンにするための参考資料とするものである。

II 実施対象科目

原則として、すべての開講科目・レッスンについて行う。

III 実施機関

東邦音楽大学・同短期大学 FD 委員会

IV 調査内容

別紙のとおり

V 実施手順

各授業・レッスン担当教員が、授業・レッスン時間終了前に、学生に本調査の趣旨を説明し、用紙を配布した。学生が回答記入後、回収した。

VI 集計

集計は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

VII 教員への結果通知

各授業・レッスン担当教員の各授業・レッスンごとの個人集計分は、令和6年3月初旬から順次手渡し、分析を依頼した。

VIII 結果の公表と活用

調査結果については、自己点検・評価特別検討委員会で報告書にまとめ、委員会の責任において公表する。各教員は調査結果を参考にして、次年度の授業・レッスンの内容の改善に役立てる。

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目系用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に教えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を5点法で評価してください。

科目名

曜日

担当教員名

時限

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例

良い例



悪い例



うすい

強く
そう思う

ある程度
そう思う

どちらとも
言えない

あまりそう
思わない

全くそう
思わない

I 授業への取り組みについて

a. この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	⑤	④	③	②	①
b. この授業の出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
c. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
d. 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	⑤ 5時間以上	④ 4時間	③ 3時間	② 2時間	① 1時間未満

II 授業内容・授業方法について

a. この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	⑤	④	③	②	①
b. この授業の難易度はどうでしたか。	⑤ 難しい	④ やや難しい	③ 適切	② やや易しい	① 易しい
c. 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	⑤	④	③	②	①
d. この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	⑤	④	③	②	①
e. 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	⑤	④	③	②	①
f. 授業内外における質問や相談の対応は適切だった。	⑤	④	③	②	①
g. 授業回数や時間は守られていた。	⑤	④	③	②	①
h. この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①

III 授業の成果について

a. 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	⑤	④	③	②	①
b. 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	⑤	④	③	②	①
c. この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	⑤ 新しい知識・技能が身についた	④ 新しいものの見方が身についた	③ 関連分野をさらに学びたくなった	② 問題発見・問題解決能力がついた	① コミュニケーション能力が向上した
d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

IV 自由記述欄 この授業で良かった点、改善すべき点等について書いてください。

授業改善のための学生アンケート

実技(個人レッスン)用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を5点法で評価してください。

科目名

担当教員名

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例 悪い例



うすい

強く
そう思う 5
ある程度
そう思う 4
どちらとも
言えない 3
あまりそう
思わない 2
全くそう
思わない 1

I レッスンへの取り組みについて

a. このレッスンの出席は良好であった。	5	4	3	2	1
b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5	4	3	2	1
c. 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5 5時間以上	4 4時間	3 3時間	2 2時間	1 1時間未満

II レッスン内容・指導方法について

a. このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5	4	3	2	1
b. このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5	4	3	2	1
c. 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5	4	3	2	1
d. レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5	4	3	2	1
e. このレッスンの回数や時間は守られていた。	5	4	3	2	1

III 授業の成果について

a. 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5	4	3	2	1
b. このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5	4	3	2	1
c. このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5	4	3	2	1

IV 自由記述欄 このレッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目・
レッスン(共通)用

東邦音楽大学
大学院

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に教えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を5点法で評価してください。

科目名	曜日(授業のみ記入)
担当教員名	時限(授業のみ記入)

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例 悪い例  良い例 

		強く そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
I 授業・レッスンへの取り組みについて	a. この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5	4	3	2	1
	b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5	4	3	2	1
	c. 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5 5時間以上	4 4時間	3 3時間	2 2時間	1 1時間未満
II 授業・レッスンの内容・指導方法について	a. シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5	4	3	2	1
	b. 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5	4	3	2	1
	c. 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5	4	3	2	1
	d. この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5	4	3	2	1
	e. 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)	5	4	3	2	1
III 授業・レッスンの成果について	a. この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5	4	3	2	1
	b. この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5	4	3	2	1
	c. この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5	4	3	2	1
	d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5	4	3	2	1

IV 自由記述欄 この授業・レッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

全体集計結果表

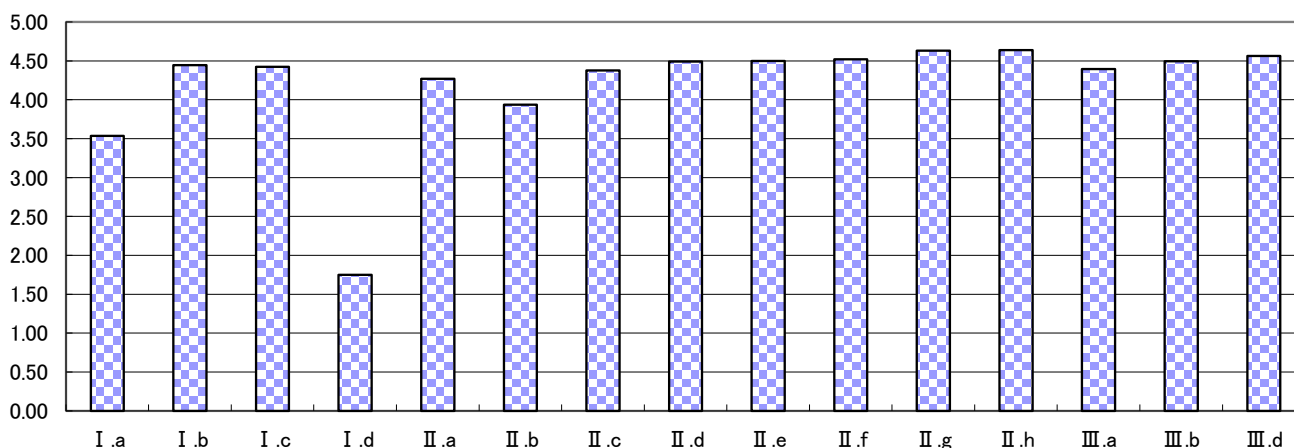
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

区分	大学
科目数	180

履修者数	2,344
回答者数	1,848

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.54	582	508	340	146	268	1,844	4
			31.6	27.5	18.4	7.9	14.5		
	b	4.44	1,143	462	161	70	8	1,844	4
			62.0	25.1	8.7	3.8	0.4		
c	4.42	1,078	536	170	39	17	1,840	8	
		58.6	29.1	9.2	2.1	0.9			
d	1.75	117	82	182	304	1,155	1,840	8	
		6.4	4.5	9.9	16.5	62.8			
II	a	4.27	974	431	402	16	16	1,839	9
			53.0	23.4	21.9	0.9	0.9		
	b	3.94	207	374	1,131	73	60	1,845	3
			11.2	20.3	61.3	4.0	3.3		
	c	4.38	1,070	452	280	36	7	1,845	3
			58.0	24.5	15.2	2.0	0.4		
	d	4.49	1,197	416	185	36	11	1,845	3
			64.9	22.5	10.0	2.0	0.6		
e	4.50	1,213	390	197	30	12	1,842	6	
		65.9	21.2	10.7	1.6	0.7			
f	4.52	1,233	374	209	22	7	1,845	3	
		66.8	20.3	11.3	1.2	0.4			
g	4.63	1,371	311	120	27	12	1,841	7	
		74.5	16.9	6.5	1.5	0.7			
h	4.64	1,347	348	131	10	6	1,842	6	
		73.1	18.9	7.1	0.5	0.3			
III	a	4.40	1,013	586	211	20	11	1,841	7
			55.0	31.8	11.5	1.1	0.6		
	b	4.49	1,188	434	167	32	16	1,837	11
			64.7	23.6	9.1	1.7	0.9		
c	-	1,331	762	662	431	363	1,811	37	
d	4.56	1,119	311	118	37	10	1,595	253	
		70.2	19.5	7.4	2.3	0.6			

大学 講義全体平均点



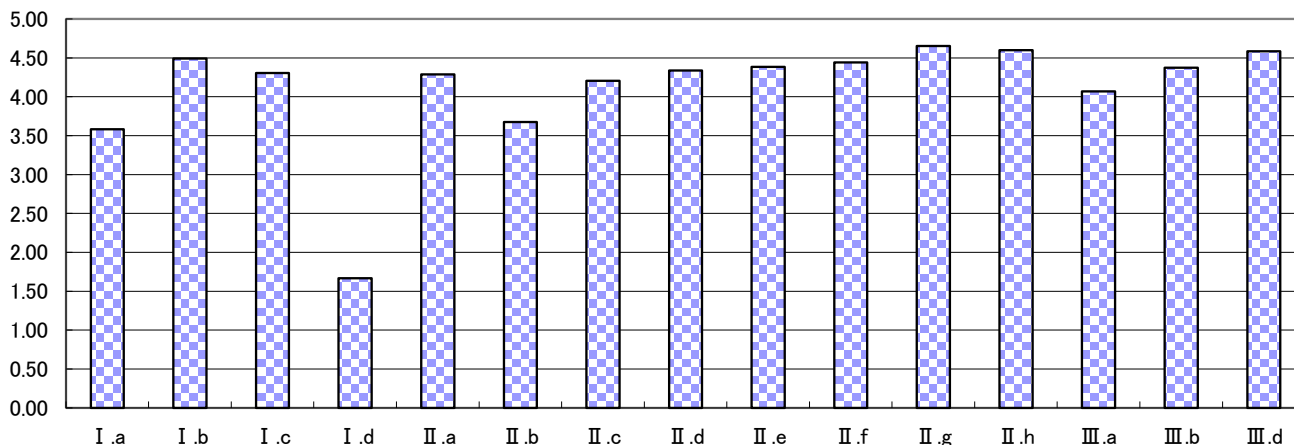
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

区分	短大
科目数	36

履修者数	216
回答者数	175

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.58	44	70	28	10	23	175	0
			25.1	40.0	16.0	5.7	13.1		
	b	4.49	109	51	7	8	0	175	0
			62.3	29.1	4.0	4.6	0.0		
c	4.30	80	74	14	5	1	174	1	
		46.0	42.5	8.0	2.9	0.6			
d	1.67	4	9	21	32	109	175	0	
		2.3	5.1	12.0	18.3	62.3			
II	a	4.29	86	57	28	4	0	175	0
			49.1	32.6	16.0	2.3	0.0		
	b	3.67	23	56	87	4	5	175	0
			13.1	32.0	49.7	2.3	2.9		
	c	4.21	80	61	27	4	3	175	0
			45.7	34.9	15.4	2.3	1.7		
	d	4.34	92	57	21	3	2	175	0
			52.6	32.6	12.0	1.7	1.1		
e	4.38	96	53	24	1	1	175	0	
		54.9	30.3	13.7	0.6	0.6			
f	4.44	104	44	27	0	0	175	0	
		59.4	25.1	15.4	0.0	0.0			
g	4.65	131	29	14	0	1	175	0	
		74.9	16.6	8.0	0.0	0.6			
h	4.60	121	39	14	1	0	175	0	
		69.1	22.3	8.0	0.6	0.0			
III	a	4.07	57	79	33	6	0	175	0
			32.6	45.1	18.9	3.4	0.0		
	b	4.37	91	62	18	4	0	175	0
			52.0	35.4	10.3	2.3	0.0		
c	-	133	81	70	18	16	167	8	
d	4.58	99	39	10	1	0	149	26	
		66.4	26.2	6.7	0.7	0.0			

短大 講義全体平均点



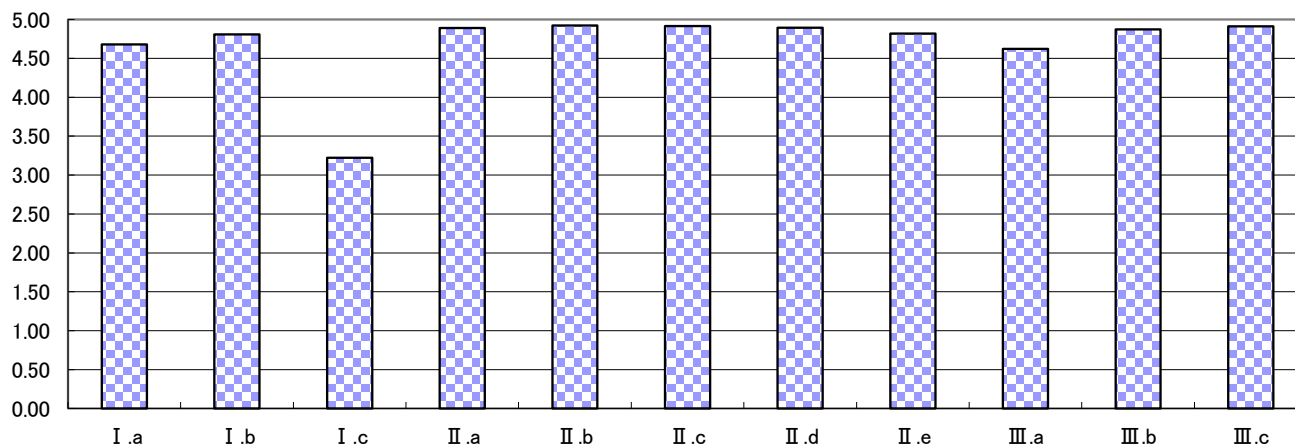
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

区分	大学
科目数	55

履修者数	359
回答者数	302

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.68	222	69	6	4	1	302	0
			73.5	22.8	2.0	1.3	0.3		
	b	4.81	249	49	3	1	0	302	0
II	a	4.89	274	25	1	2	0	302	0
			90.7	8.3	0.3	0.7	0.0		
	b	4.92	282	16	2	1	0	301	1
III	a	4.62	211	69	18	3	0	301	1
			70.1	22.9	6.0	1.0	0.0		
	b	4.87	270	27	3	2	0	302	0
IV	a	4.91	280	18	3	1	0	302	0
			92.7	6.0	1.0	0.3	0.0		
	c	4.91	280	18	3	1	0	302	0

大学 実技(個人レッスン)全体平均点

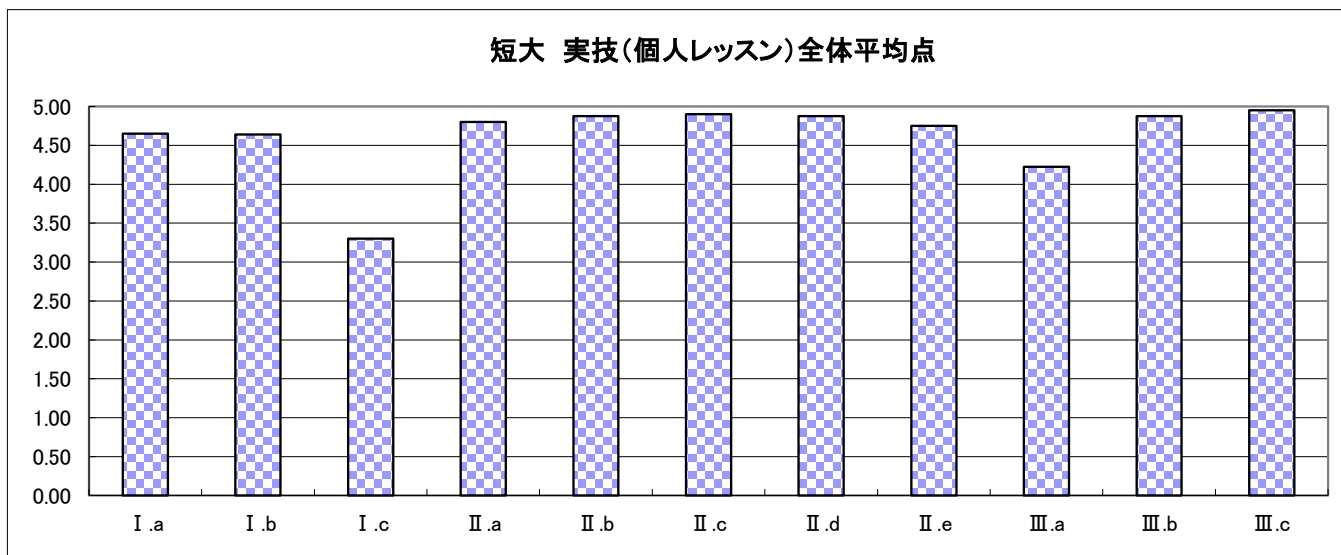


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

区分	短大
科目数	23

履修者数	45
回答者数	40

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数	
			5	4	3	2	1			
I	a	4.65	29	8	3	0	0	40	0	
			72.5	20.0	7.5	0.0	0.0			
	b	4.64	25	14	0	0	0	39	1	
c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.30	15	3	7	9	6	40	0	
			37.5	7.5	17.5	22.5	15.0			
II	a	4.80	33	6	1	0	0	40	0	
			82.5	15.0	2.5	0.0	0.0			
	b	4.88	36	3	1	0	0	40	0	
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.90	38	1	0	1	0	40	0
				95.0	2.5	0.0	2.5	0.0		
d	4.88	35	5	0	0	0	40	0		
e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	32	6	2	0	0	40	0	
			80.0	15.0	5.0	0.0	0.0			
III	a	4.23	15	19	6	0	0	40	0	
			37.5	47.5	15.0	0.0	0.0			
	b	4.88	35	5	0	0	0	40	0	
c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95	38	2	0	0	0	40	0	
			95.0	5.0	0.0	0.0	0.0			

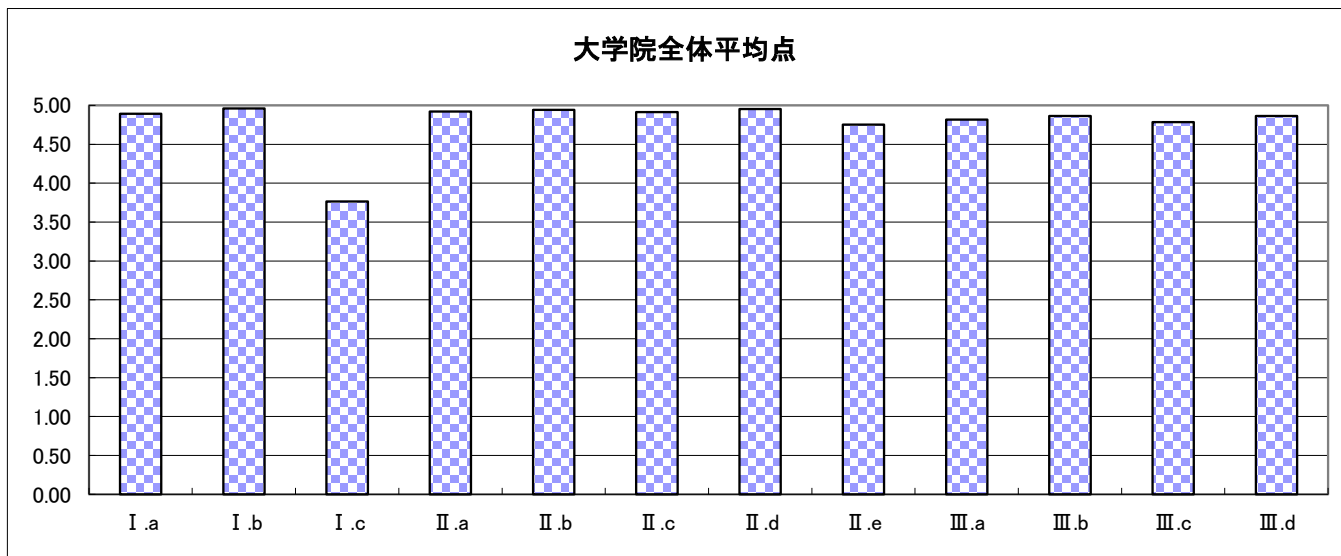


授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

区分	大学院
科目数	34

履修者数	135
回答者数	103

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数	
			5	4	3	2	1			
I	a	4.89	92	11	0	0	0	103	0	
			89.3	10.7	0.0	0.0	0.0			
	b	4.96	99	4	0	0	0	103	0	
c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.76	51	14	15	6	16	102	1	
			50.0	13.7	14.7	5.9	15.7			
II	a	4.92	96	6	1	0	0	103	0	
			93.2	5.8	1.0	0.0	0.0			
	b	4.94	99	2	2	0	0	103	0	
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.91	96	5	2	0	0	103	0
				93.2	4.9	1.9	0.0	0.0		
d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.95	99	3	1	0	0	103	0	
e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)	4.75	62	7	2	1	1	73	30	
			84.9	9.6	2.7	1.4	1.4			
III	a	4.82	91	7	3	2	0	103	0	
			88.3	6.8	2.9	1.9	0.0			
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.86	91	10	2	0	0	103	0
				88.3	9.7	1.9	0.0	0.0		
c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.79	89	8	4	2	0	103	0	
			86.4	7.8	3.9	1.9	0.0			
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	93	6	4	0	0	103	0	
			90.3	5.8	3.9	0.0	0.0			



東邦音樂大學

ピアノ

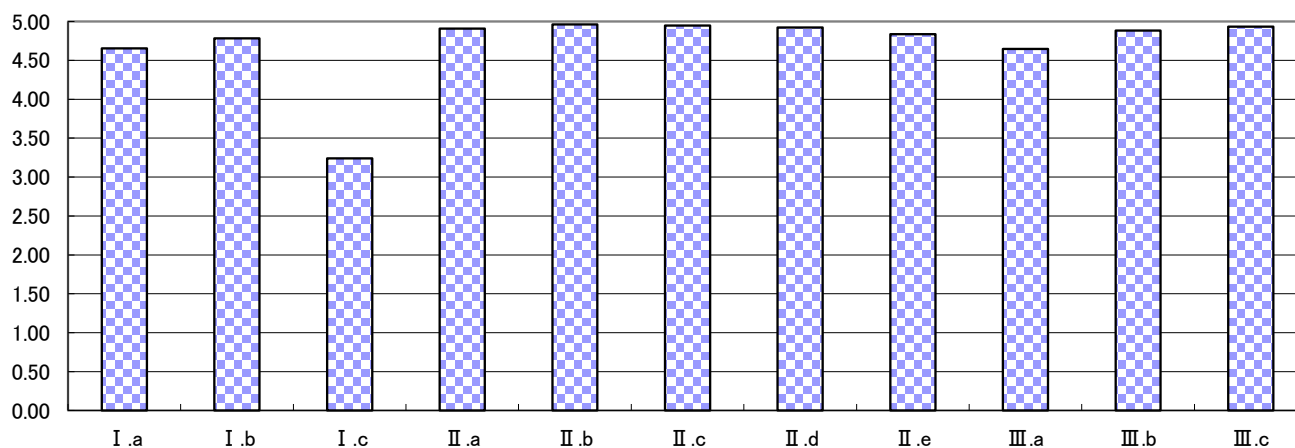
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	01. ピアノ
科目数	22

履修者数	178
回答者数	153

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.65	111	35	4	2	1	153	0
			72.5	22.9	2.6	1.3	0.7		
	b	4.78	124	26	2	1	0	153	0
			81.0	17.0	1.3	0.7	0.0		
c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.24	46	19	32	38	18	153	0
				30.1	12.4	20.9	24.8		
II	a	4.91	141	11	0	1	0	153	0
			92.2	7.2	0.0	0.7	0.0		
	b	4.96	147	6	0	0	0	153	0
			96.1	3.9	0.0	0.0	0.0		
	c	4.95	145	8	0	0	0	153	0
			94.8	5.2	0.0	0.0	0.0		
d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.92	142	10	1	0	0	153	0
				92.8	6.5	0.7	0.0		
e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.84	132	16	3	1	0	152	1
				86.8	10.5	2.0	0.7		
III	a	4.65	108	37	7	1	0	153	0
			70.6	24.2	4.6	0.7	0.0		
	b	4.88	136	16	1	0	0	153	0
			88.9	10.5	0.7	0.0	0.0		
c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	144	8	1	0	0	153	0
				94.1	5.2	0.7	0.0		

01. ピアノ 全体平均点

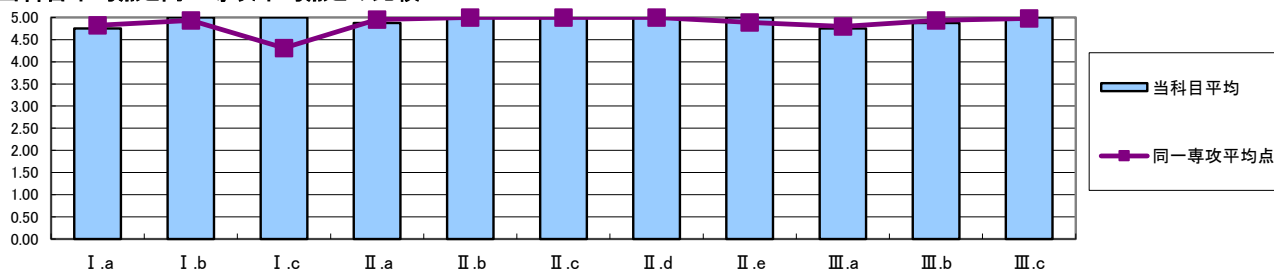


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	ピアノ	職名	02. 教授	履修者数	8
教員名	國谷 尊之			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度は、大学のピアノ専門レッスンを8名担当した。学年別の内訳は1年次生2名、2年次生1名、3年次生4名、4年次生1名である。うち1年次生1名は教職実践専攻である。
 レッスンでの表現技術や知識の習得のみならず、コミュニケーションスキルや社会人基礎力の向上についての指導も取り入れ、それがさらに能動的な学びにつながるよう考えている。教職実践専攻の学生については、教職科目の学習にも役立つソルフェージュ力を向上させることも念頭に置いた。アンケート結果からは、どの学生も十分な練習・研究の時間をとり、到達目標を達成できたことが示された。

● 問題点

将来の進路希望、知識・技能、障がいの有無など、多様な学生が在学している。学生それぞれの特徴の特徴に合ったレッスンを心がけているが、そこに意識のズレが無いかどうかは引き続き留意する。

● 改善の方策

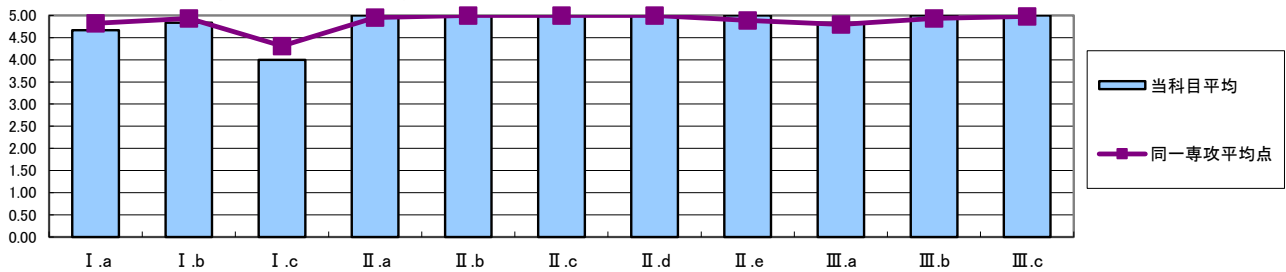
今年度のアンケート結果を継続できるよう、前項に述べたことを引き続き心がけていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	ピアノ	職名	02. 教授	履修者数	9
教員名	中島 裕紀			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.83	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

令和5年度は、演奏専攻の学生を含む9名の履修者がおり、内6名からの回答を得た。学生たちは、それぞれの進度の中で、大変熱心にレッスンに向かっており、意欲的であり、活気のある雰囲気の中でレッスンを行うことができた。コロナ禍を経て、ようやく伸びやかにレッスンをすることができた1年であったが、むしろ結束力が向上したような感がある。

また、通常のレッスンに加えて、ミュージックフェスティバルにほぼ全員が演奏等でアクティブに参加することができたことも、意欲の向上につながったと考える。副科ピアノの学生も含め、現在クラスの中が大変良い雰囲気、さまざまな要素が相乗効果をもたらしていると分析する。

● 問題点

集計結果は、非常に高いスコアを示しており、特に問題点を抽出することはできなかった。

● 改善の方策

現在、教員と学生との信頼関係も非常に良い状態にあり、それが、学生のモチベーション向上にも働いているため、引き続き、この状態を保つことができるように心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

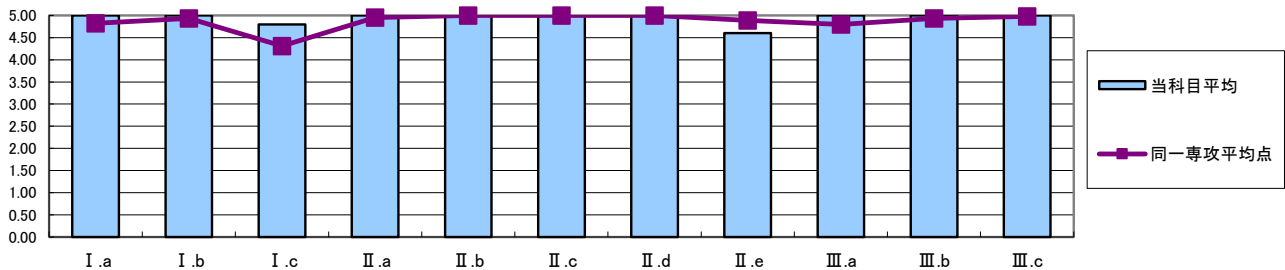
科目名	ピアノ
教員名	太田 幸子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.80	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.60	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

専門生5人を担当する。5人共に熱心によく頑張っていたと思います。演奏科コース1名と大学院受験の学生も1人含んでいました。演奏科コースは年間2回の試験と他に2回の演奏会もあります。長いプログラムを組み、大曲を演奏する様になる為、一番最後のレッスンに組んでおりますが、試験、演奏会が間近になると時間も長くなります。又、大学院受験生も大曲の曲数が多く、45分では無理なレッスン時間であり、レッスンを増やして行いました。特に後期においては学校だけのレッスンで行うために時間の延長はありましたが、附属生、他の学生も勉強になるため喜んで聴講しておりました。

● 問題点

特になし

● 改善の方策

特になし

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

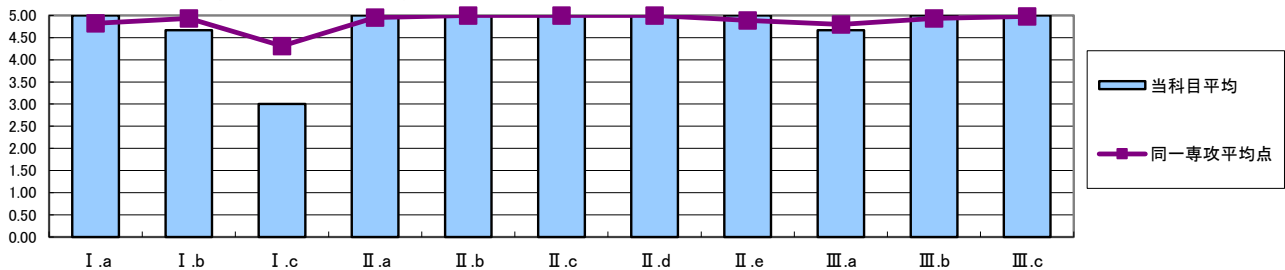
科目名	ピアノ
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ピアノを専門とする学生を対象とする、ピアノ実技の専門性を高めることを目的とした、各 Semester 1 5 回からなる科目である。履修者は 1 回につき 45 分間の個人レッスンを受講する。2023 年度の履修者数は 4 名であった。

● 問題点

履修者の取り組みにおいて、各自に熱意や積極性は見られるものの、1 回のレッスンのための平均練習時間は少ない。それに対して、開講時に示された到達目標への達成度は、概ね高いポイントを示している。各自の意欲の度合いと実際の到達度が、やや噛み合っていない印象を受ける。

● 改善の方策

各自、より専門性が高く知識や技術に裏打ちされた演奏がいかなるものであるのか、常に研究し目標を高く設定していくことが重要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

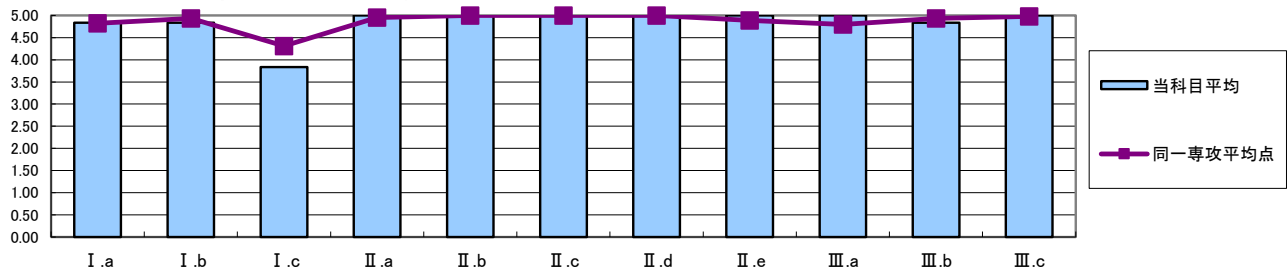
科目名	ピアノ
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.83	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.83	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.83	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度、大学ピアノ科6名を担当しました。
 コロナも五類に下がり平常の日常生活が戻って来ました。生徒たちは伸び伸びと積極的に音楽に向き合い、ピアノソロ以外にもアンサンブル等にも意欲的に挑戦していました。ソナタも全楽章を通して学ぶことも出来、大変成長した一年に感じました。

● 問題点

残念ながら6名みんなが意欲的かと思えば、決してそうではなく、数名はなかなか譜読みも遅く、練習も疎かな生徒もいました。集計結果でICが平均より下がっていることが物語っています。

● 改善の方策

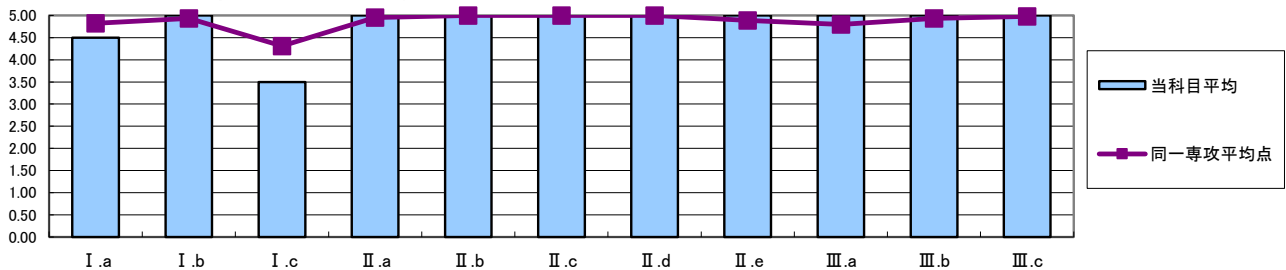
生徒に飽きさせないよう可能性を広げ、生徒にあった練習プログラムを提供し練習時間を増やすようにしていきたいと思いました。そして生徒一人一人寄り添って、良い部分を伸ばしていきたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	ピアノ	職名	08. 講師	履修者数	2
教員名	亀山 久美子			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度は大学三年生と二年生のピアノ専攻生2名から回答を得た。
 設問 I は I c の練習時間に3の回答が見られ、学生自身のモチベーション維持に大変苦心した結果が表れている。
 I a、I b の設問では4と5の回答を得ており、学生の自己研鑽に対する熱意と努力を、レッスンのみならず実技試験や演奏会等でアウトプット出来たことによる実感が伺える。
 特に三年生はピアノ科のオーケストラとの共演に選んでいただき大きな責任を伴ったことで、学生自身の刺激となり向上心や意欲に結び付けるなど、大変大きな成長を見せてくれた。
 その他の設問 II、III、共に両者5の回答となった。

● 問題点

設問 I c の練習時間に3の回答。
 2023年度は学生自身の精神的なメンタルコントロール(意欲低下等)に大変苦心していた様子であった。
 この問題に関しては、レッスンをいかに有効に使い学生を心理的にサポートできるかに集中し、援助する必要がある。
 設問 I b が5の回答であることから自身の熱意と実際の行動エネルギー低下の狭間で苦悩していたことや、この一年間自身の心理をいかに立て直し奮い立たせ努力していたかを伺い知ることができる。

● 改善の方策

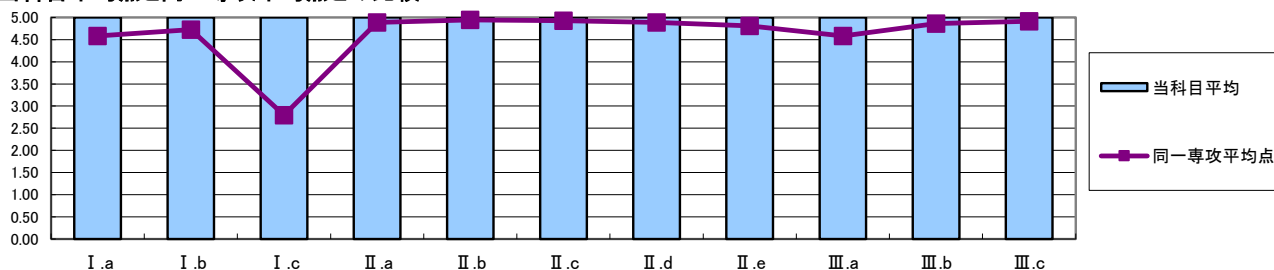
設問 I c においては2024年現在も継続している課題なので、今後も学生の僅かな変化やレッスン時、学内の様子などを注意深く見守る必要がある。
 本年2023年は学生の苦悩に対し、ピアノ科主任や科の先生方に早急に相談・対策することができ、大変有り難く助けていただいた。
 学生の心理面と専門技術・芸術面でのサポートやきめ細かなカウンセリングは勿論のこと、各先生方、教務の方々とのオープンな連携を取って学生ファーストの体制を継続していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	02. 教授	履修者数	1
教員名	國谷 尊之			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度は副科ピアノ1名を担当した。中国からの留学生であり、群馬大学教育学部からの大学3年次編入学生である。日本語能力に全く問題なく、学修意欲は非常に旺盛で、ピアノにおける時代様式に基づく演奏表現、身体の使い方、ペダリング等のピアノ奏法、楽式分析など、昨年度よりも全体的に難易度の高い課題に取り組むことができた。アンケート結果からは、学生が十分に練習・研究の時間をとり、学修成果を達成したことが伺える。

● 問題点

副科ピアノには、単にピアノが上達することではなく、音楽的素養を高め大学での学び全体を充実させる役割があると考えている。留学生を含む多様な学生に対して、今後もその点に留意していく必要がある。

● 改善の方策

今年度のアンケート結果を継続できるよう、前項に述べたことを引き続き心がけていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

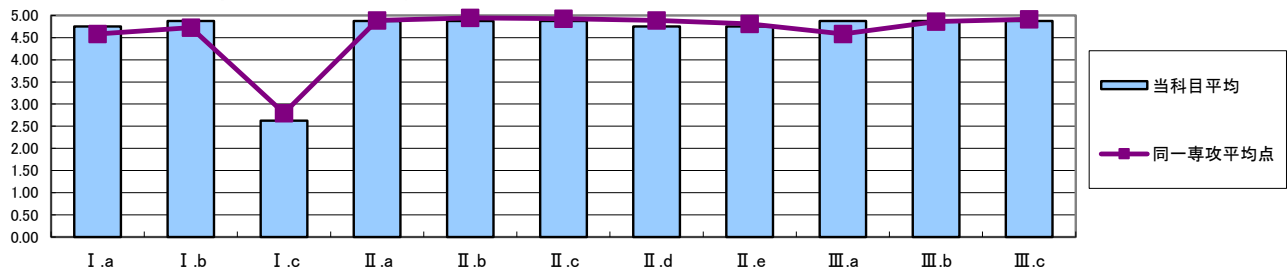
科目名	副科ピアノ
教員名	中島 裕紀

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	10
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.63	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.88	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.88	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

令和5年度は、10名の履修者がおり、その中で8名から回答を得た。副科ピアノは、専門を別に持っていないながら取り組む点で、一人一人意欲や目的に温度差があるものだが、進度はほぼ初心者から、専攻生に匹敵するほどのレベルの学生まで、まちまちでありながら、意欲が非常に高く、各人の進度に合わせてながらも音楽的なレッスンを行うことができた。また、欠席がほとんどなかったこともその意欲を物語るものであった。

● 問題点

アンケートに対する回答は、どれも高いスコアを示しており、特に問題点は見受けられない。練習時間に関しては、副科という特性上、あまり高いものを要求できないが、アンケートの中には少ない学生もいた。

● 改善の方策

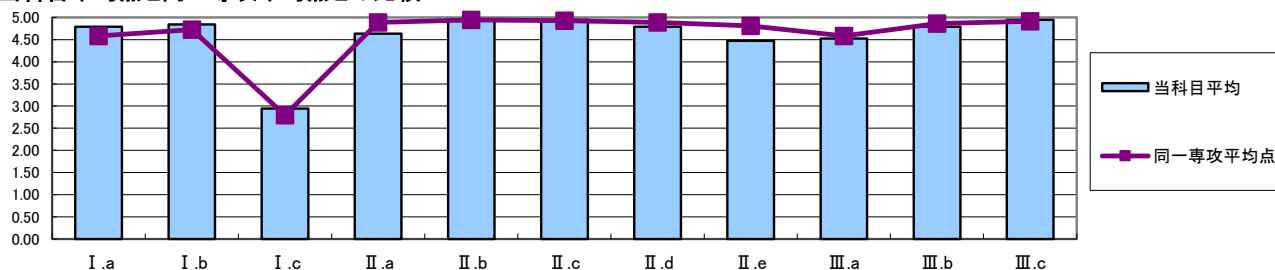
現在、意欲的な学生が多いので、今後ともこの雰囲気を継続しながら、副科ピアノの目的が何かをこれからも明確に示し、少しでも練習時間を伸ばすことができるようにしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	03. 特任教授	履修者数	21
教員名	太田 幸子			回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.79	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.84	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.95	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.63	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.95	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.95	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.79	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.47	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.53	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.79	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

学生21名中19人より回答を得る。川越キャンパスでは、学生の記述にもある通り、学生数が多く休憩も少ない状態でスケジュールをこなしております。電話、ミーティング等入り副科20分のレッスンでは、ずれてしまうことが仕方ないと思います。学生もよく理解しており感謝しております。

● 問題点

特になし

● 改善の方策

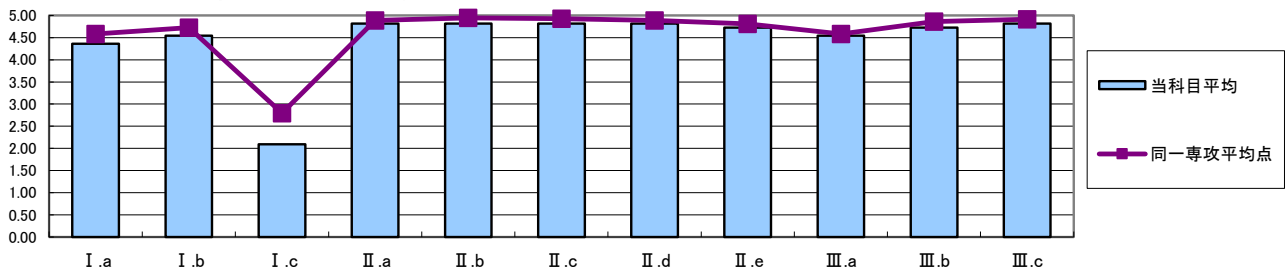
特になし

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	06. 専任講師	履修者数	13
教員名	浦川 玲子			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.36	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.09	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.82	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.82	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.82	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.73	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.55	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.73	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ピアノ以外の楽器等を専攻する学生が、音楽の研鑽に必要なピアノ演奏の知識や技能を身に付けるための科目である。履修者は個人レッスン(20分間)を毎週1回のペースで、1 Semesterにつき計15回受講する。2023年度の履修者数は13名であった。

● 問題点

出席や積極性に関しては概ね良好であるが、練習量については平均点を下回る。レッスンの内容や教員の対応についての評価は概ね良好である。目標の達成度がやや低めであるものの、総合的に意義のあるものとして捉えられている。

● 改善の方策

意欲に反して練習時間が確保できないなどの個々の状況をよく見極めながら、楽曲選択やレッスン時間設定などを工夫し、より効果的な指導方法を探っていく必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

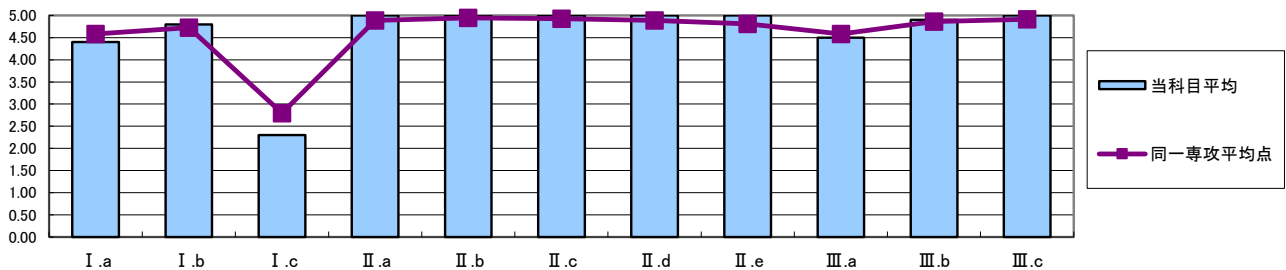
科目名	副科ピアノ
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	12
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.40	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.30	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.90	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度、大学副科ピアノ12名担当しました。副科ピアノの場合、学生が弾きたい曲を選んでいます。初めは熱心に向き合ってもらえて早めに完成する生徒もいれば、明らかに練習してこない生徒もいました。

● 問題点

集計結果を見てもIcが低く、どうしたら練習してもらえるのか毎年の課題です。せっかく自ら副科ピアノを履修しているのに勿体無いを思います。I.aの出欠席も僅かに低いです。

● 改善の方策

好きな曲のみならず、生徒にあった適切な曲を選んでいきたいと思っています。ここが重要だと思います。無理のない範囲内でその子にあった選曲を心がけていきたいです。試験前に一度だけおさらい会が出来、生徒自身が練習したことの成果に繋がったことが結果として大変意義あるものと感じました。

自由記述

- ・楽しかったです。
- ・技術面を教えてくださったことが良かったです。
- ・楽しくてアドバイスがとても的確でわかりやすく、練習も頑張れました。
- ・生徒のやる気に合わせた熱量で指導していただいた。有意義なレッスンだった。
- ・いつも楽しく優しく教えて頂きました！ありがとうございます！

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

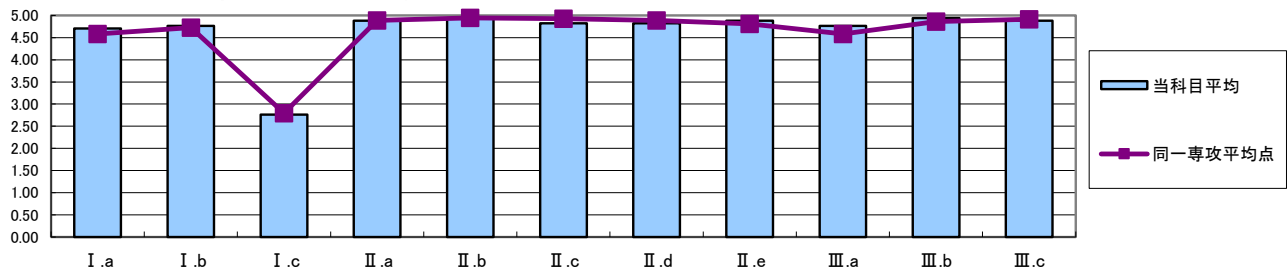
科目名	副科ピアノ
教員名	野田 説子

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	19
回答者数	17

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.71	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.76	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.76	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.94	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.82	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.82	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.88	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.76	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.94	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科の学生達は、総じて真面目に取り組んでいる。ただ自分の専門や演奏会に時間を取られてしまうので、副科ピアノの練習時間を作るのが難しいようだ。

● 問題点

ほとんどの学生は出席が良好で、取り組む姿勢も真面目である。ただ音楽の基礎的な力が弱い学生が目立つ。日常的に忙しいようで、練習時間の確保が出来ないようである。

● 改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、具体的に示していくことを心がける。

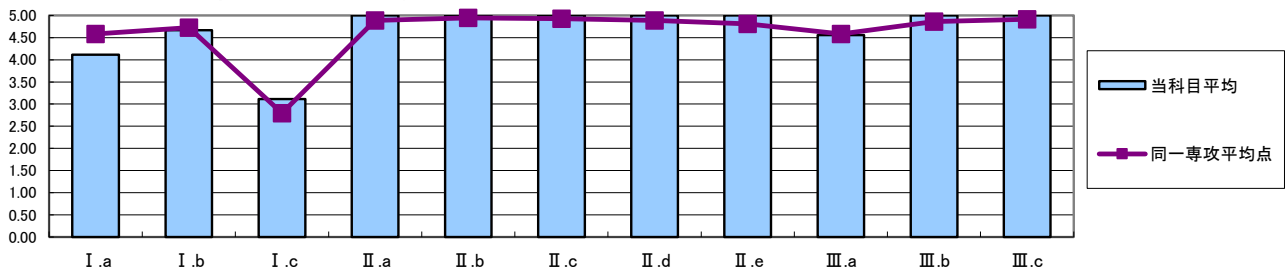
また、自信や意欲が失わないように努めていく

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	08. 講師	履修者数	12
教員名	浅野 和子			回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.11	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.11	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.56	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目的 ピアノを通して音楽の楽しさやハーモニーの重要性、また専攻実技の手助けになるようなレッスンを目指す。
内容 テクニックが上達する事と、曲を通じて音楽的な表現を模索する。

受講者 12名

状況説明 受講者は高学年になる程欠席が多かったと思います。また早い時間のレッスンも欠席者が多かったと思います。しかし無断欠席はおりませんでした。

● 問題点

I aの「このレッスンの出席は良好であった」についての回答が3と4が思ったよりも多かったことです。

● 改善の方策

高学年になるにつれ就職活動や実習などでレッスンを欠席することが増えます。さらに慣れで気が緩んだりする事もあるので、注意をしていきたいです。

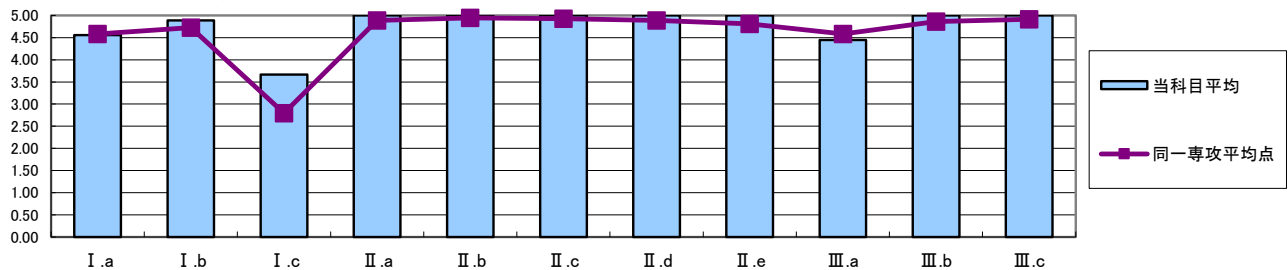
また2023年度は授業の関係で早い時間からレッスンをしていた学生が数名いたのですが、今年度はゆとりを持った時間で無理がないようにスケジュールを立てました。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	08. 講師	履修者数	11
教員名	亀山 久美子			回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.56	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.89	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.67	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.44	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度は副科ピアノ履修11名の内、9名から回答を得た。
 説明 I aと設問 III a(開講時の到達目標)は5と4回答が多く、設問 I b(熱意を持って～)はほぼ全員が5の回答であり、設問 II a～eも全て5の回答、設問 III bと III cも5の回答であった。
 そして、設問 II c(練習時間)で5～2の回答が均等に見られた。

今年度も四年を除く各学年それぞれの状況を踏まえながら、コミュニケーションやヒアリングを多く交えることを念頭にレッスンを展開した。
 一年生も多かったが、それぞれの個性の豊かさを良く把握でき、比較的早めに萎縮も取れ学生達の魅力を伺い知ることが出来た。

初めて中国留学生を二名担当したが両者とも非常に熱心な受講姿勢を見せてくれた上、大変な努力家で言葉の壁をもカバーしてくれていた。

設問 I c(練習時間)においては3と4が多く、次いで5→1の回答となり、例年通り学生の状況によっては練習時間の確保に苦心したことが顕著に出ている。

専攻の練習やオーディションへの熱意、学業とピアノ練習時間との兼ね合いが難しい学生も見られたが、そんな中でも練習時間を確保ししっかり自身の課題克服に向けた成長をこなす学生もおり、両極の状態がハッキリ感じられた。

設問 II a～e(レッスン内容と教員について)全て5の回答。

設問 III a(開講時の到達目標)が4と5の回答、III b、c(レッスンに対する評価)については全員5の回答を得た。

今年度は持ち上がりの学生も多かったが、一年生の環境の変化に寄る心理的ケアも優先する目標を立てレッスンに臨んだ。

今年度は学生からのコメントも多く寄せられ、各々が副科レッスンに対しポジティブな反応であったことが、現在の指導に対するアンサーとして大きな収穫であった。

● 問題点

設問 I c(練習時間)の確保。
 設問 III a(開講時の到達目標)において、改善策の模索と工夫。

● 改善の方策

設問 I -c(練習時間)においては今年度のレッスン指導で行った練習の方策・課題の出し方に一定の効果が見られたことから、更なるアプローチを試行したい。

学生個々に対するカウンセリングとヒアリングを日常的に交え、個々の特性に沿ったアプローチをする必要がある。

設問 III a(開講時の到達目標)においては、ピアノの重要性や音楽の基礎におけるメソッドの魅力について、いかに学生へ伝えるかを探る努力を怠らないこと。

何名かのコメントを見る限り、ポジティブな印象を記入してくれており指導の方向性を決める助けとなっている。

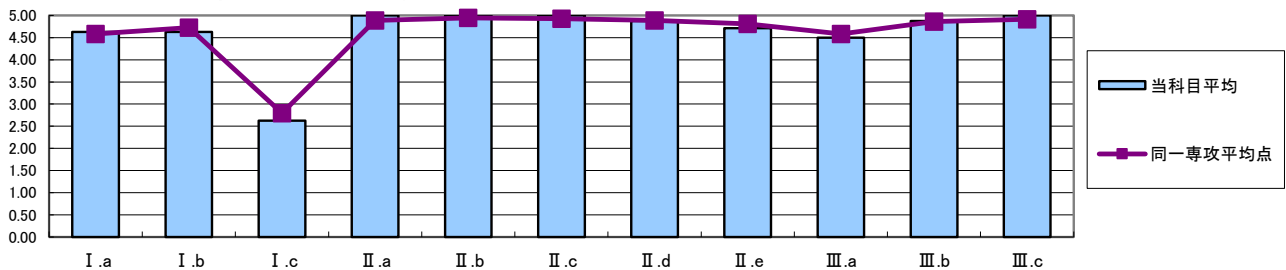
更に、記入していない学生の声なき声にも心を傾ける必要性を常に念頭に、レッスン指導とサポートを続けていくこと。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	08. 講師	履修者数	8
教員名	藤原 新治			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.63	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.63	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.88	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.71	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受け持ち生徒8名。(うち2名は留学生)毎週火曜日9:50-14:30
 一人当たり30分を確保。譜読みが進んでいない生徒に関しては一緒に分析をしながら譜読みを進めていくなどして弾くだけではなく楽譜を読む力にもフォーカスした。
 教材伴奏法などを履修している生徒には課題の手助けとコード奏、即興伴奏なども教えてピアノに関わる他の教科の補助も心がけた。
 コードがわかったことで多少なりとも自信が付き、伴奏が怖くなくなってきたとの声も聞けた。本題に副科ピアノに関しては年度初めに大体のスケジュールを伺い、また本人の希望の曲や、どの程度までピアノが弾けるようになりたいかを詳しく聞き、無理のない学習計画を立てた。

● 問題点

授業数が守られているかに関しては、講師都合で休んだ場合、次回各々の時間を30-40分にするなどして対応している。

● 改善の方策

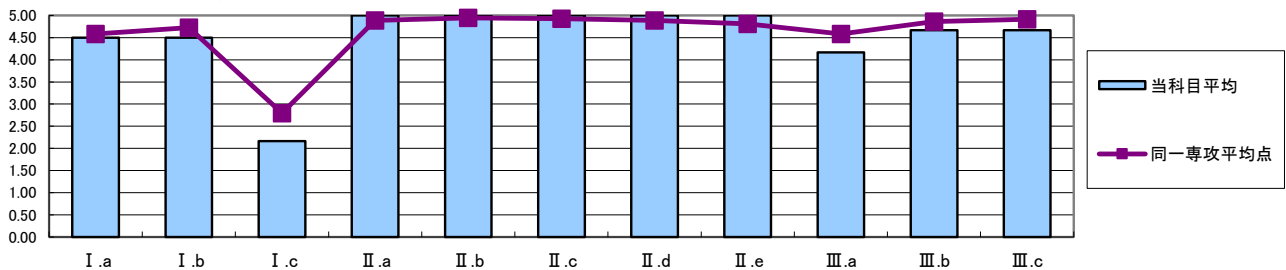
今年度は六名とさらに少数なので、よりキメの細かい指導と、ピアノに関する他の教科のサポートもピアノ科教員としてしていきたい。それにより生徒達が少しでもピアノと深く関わることを期待して今のスタイルを崩さずやっていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	08. 講師	履修者数	7
教員名	藪田 京子			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.17	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度はほぼ全ての学生が意欲的に当科目に取り組み、副科であっても相当な学習目標に到達できた学生が多かった。その事が集計結果にも表れている。
 設問Iのcに特に低い値が出ていて、これは専攻科目でない事から仕方ないと言える。にと関わらず大変に関心を持ってレッスンに取り組んだ学生の多かった事は特筆に値する年度であった。設問IIIに関して、学生の技術習得と音楽的視野の広がりは見受けられ、数名の学生は当初予測のつかなかったような新しい個性を示す演奏をしたので、新鮮な驚きもあった。設問IIに関して、全てで高い値となり、各学生の各課題に応じたレッスンを展開した結果が表れている。残念な事に、1名の学生の学習意欲がとても低かった。出席も良くなく、関心も無く、学ぶ姿勢が全く無かった。

● 問題点

その無関心の学生に関して、設問IとIIIの評価が高すぎると見る事ができる。学習目標の到達、意欲、出席、意義、総合判断、全てにおいて、教員側からは最低とみなすのが当然と感じたが、本人は「どちらとも言えない」という半端な無難な回答に留まっている。

● 改善の方策

意欲のない学生は履修しない事が考えられるし、事実履修していないので、解決策も無駄になるのだが、設問IIでの高評価のレッスンでも意欲を高める事に結びつかなかったとすると、そのような問題のある学生にも対応できる、アンケート項目では収まらない幅広い見識でレッスンに臨む事が適切であろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

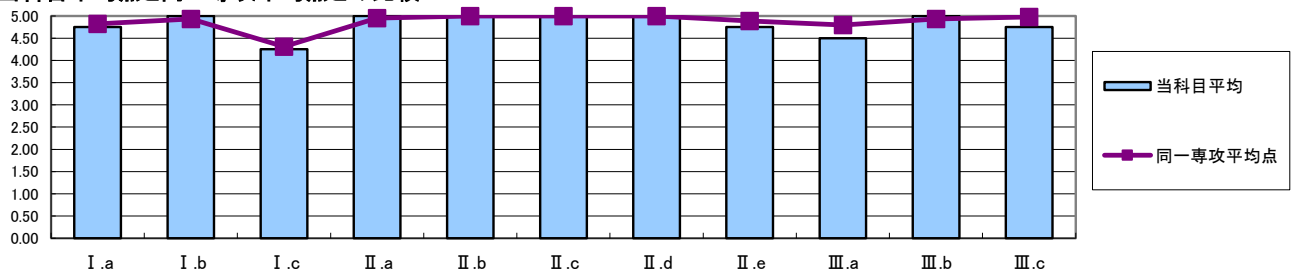
科目名	ピアノ
教員名	大場 文恵

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.25	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



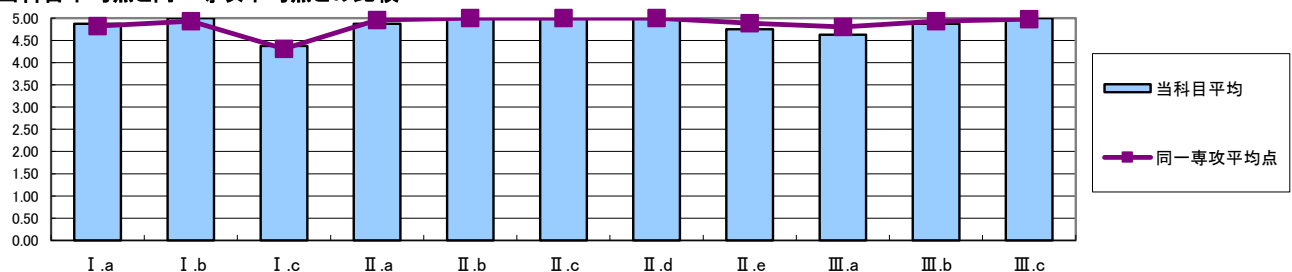
科目名	ピアノ
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	8
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.88	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.38	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.63	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

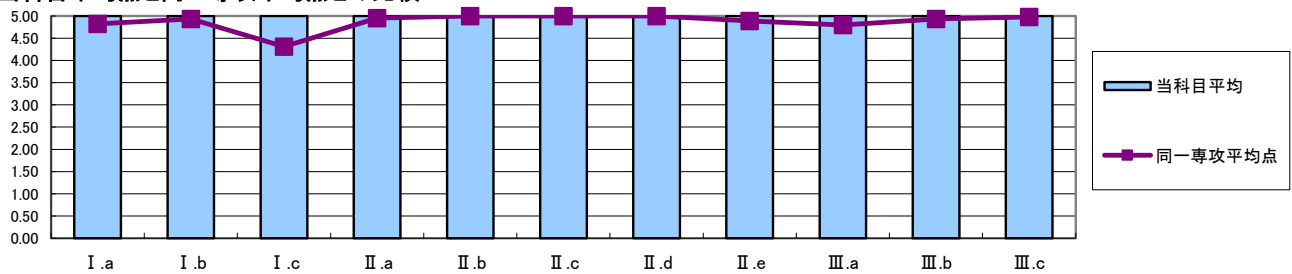
科目名	ピアノ
教員名	藤井 一興

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



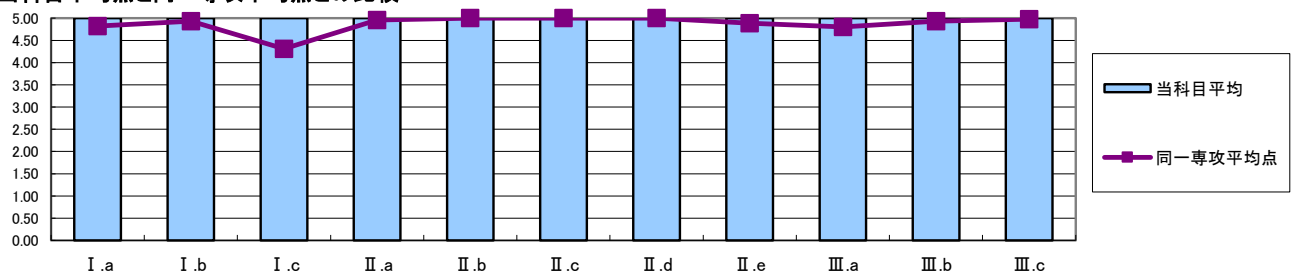
科目名	ピアノ
教員名	泉 玲子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.31
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.96
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.89
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

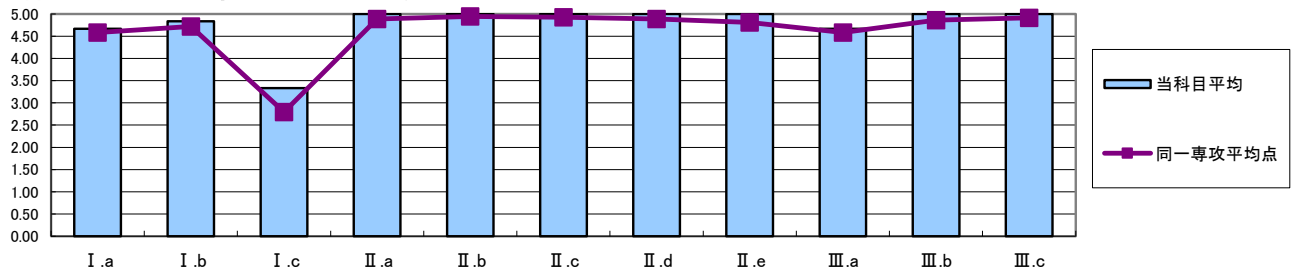
科目名	副科ピアノ
教員名	大場 文恵

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	7
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.33	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



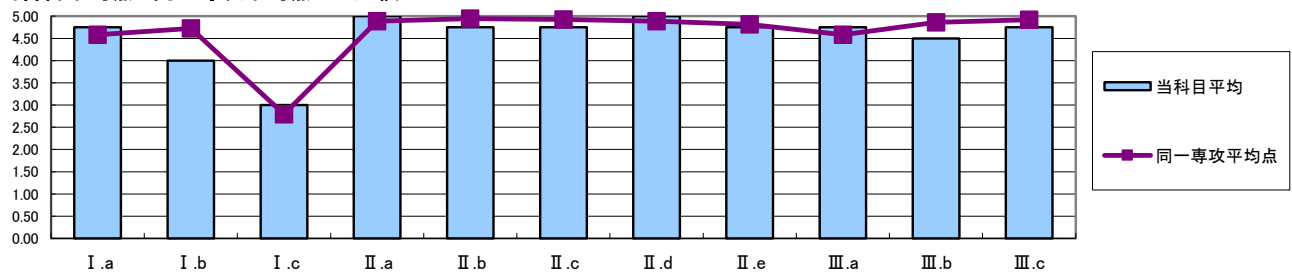
科目名	副科ピアノ
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.58
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.72
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.89
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.75	4.93
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.81
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



声 楽

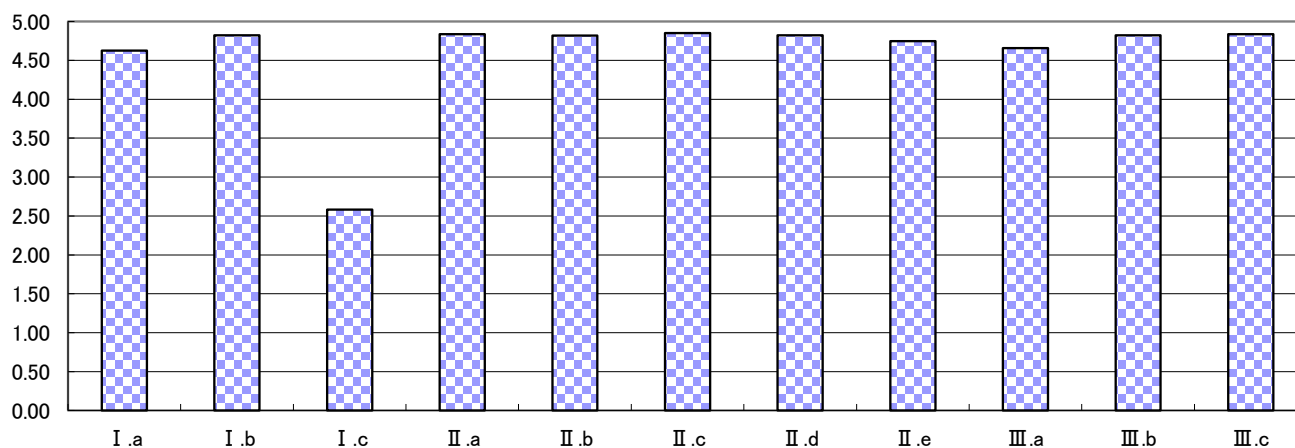
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	02. 声楽
科目数	9

履修者数	82
回答者数	67

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.63	47	17	1	2	0	67	0
			70.1	25.4	1.5	3.0	0.0		
	b	4.82	55	12	0	0	0	67	0
			82.1	17.9	0.0	0.0	0.0		
c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.58	17	2	7	18	23	67	0
			25.4	3.0	10.4	26.9	34.3		
II	a	4.84	59	6	1	1	0	67	0
			88.1	9.0	1.5	1.5	0.0		
	b	4.82	58	5	2	1	0	66	1
			87.9	7.6	3.0	1.5	0.0		
	c	4.85	60	5	1	1	0	67	0
			89.6	7.5	1.5	1.5	0.0		
d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.82	60	3	3	1	0	67	0
			89.6	4.5	4.5	1.5	0.0		
e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	55	9	1	2	0	67	0
			82.1	13.4	1.5	3.0	0.0		
III	a	4.66	50	12	4	1	0	67	0
			74.6	17.9	6.0	1.5	0.0		
	b	4.82	58	7	1	1	0	67	0
			86.6	10.4	1.5	1.5	0.0		
c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.84	60	4	2	1	0	67	0
			89.6	6.0	3.0	1.5	0.0		

02. 声楽 全体平均点

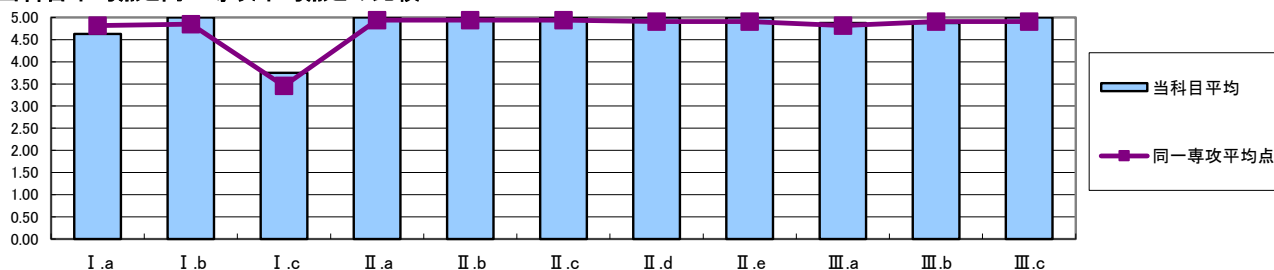


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	声楽	職名	01. 主任教授	履修者数	9
教員名	山崎 明美			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.63	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.75	3.45
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.88	4.82
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	4.91
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学において専攻声楽の学生9名を担当している。当日欠席の1名を除く8名から提出された。専攻声楽は、個人レッスンの形態で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されると言う形式で進められる。専攻声楽におけるレッスン目的は、1、声楽技術の習得一呼吸法、レガート唱法の習得、なめらかな声区変換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど。2、さらにそれを向上させること。3、課題曲の背景を理解すること一作曲家についてはもちろんのこと、その時代背景、音楽背景、他の作品との比較等々。4、言葉への十分な取り組みを行うこと一語学としての基礎知識を習得する事はもちろん、正確で美しい発音、内容を正しく把握する。想像力を持って表現する、である。4年間を通してこれらの目的をそれぞれが認識し、成長できるよう指導している。個人個人を対象とするため、それぞれに応じた内容となるが、進捗状況においても個々の目標を設定し、そのことを十分に認識していくことが大切である。アンケートにおいては、学生側の取り組みに対する設問1、教員の授業の進め方に対する設問2、授業の総合評価に関する設問3が設定されている。集計結果において本講座はほぼ5点となった。

● 問題点

唯一3点台となった設問は「1回のレッスンのために平均どのくらい練習しましたか」である。この設問は1週間の練習時間の合計を尋ねているものであるが、回答によっては3時間または2時間となっており、点数としては3点、2点となった。

● 改善の方策

音楽を練習するものにとって、1日どのくらい練習をするのかというのが常に頭にある。学生によっては1週間の合計ではなく、1日3時間または1日2時間の練習と勘違いしたものと思われる。アンケート作成時に1週間の練習時間の合計を記述するように注意を流すことが必要である。アンケートの結果はほぼ満点となり、自由記述においても学生の満足度を伺うことができた。さらなる改善をしながら学生の成長できるレッスンを行っていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

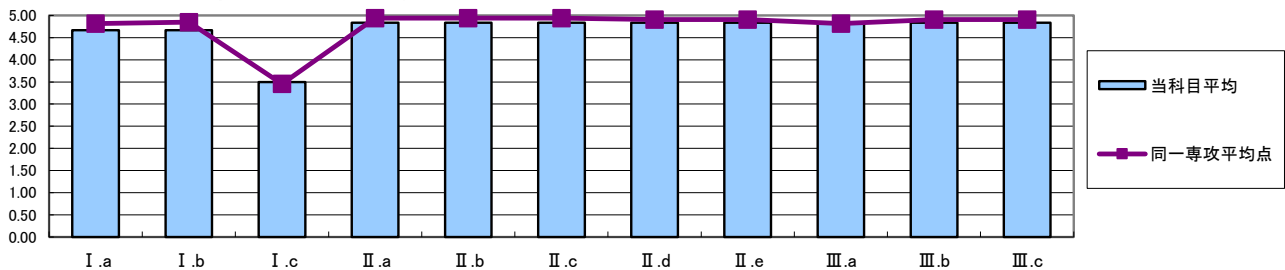
科目名	声楽
教員名	佐藤 泰弘

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.45
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.83	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.83	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.83	4.91
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.91
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.83	4.82
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.83	4.91
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

毎週木曜日と金曜日に分けて、毎週一回、前期15回以上、後期15回以上のレッスン回数をこころがけた。声楽家を目指す学生にとって、大学時代は基礎を養成していくのに大切な修業期間であるとも言える。そこで大学1年生、2年生の学生には、声楽レッスンの中で必ず呼吸法の訓練、発声練習のきめ細やかな指導も熱心に行った。最近の若い学生はコンコーネという教則本を嫌がる傾向もあるが、基礎的歌唱テクニックのためにも、またソルフェージュ教育のためにも、楽しく一つ一つ学ばせて克服していく事も取り組んだ。大学3年生以上になると、学内演奏会やオペラ研究などの楽曲発表も増えていくので、基礎力訓練を続行しながら、楽曲をまとめていく音楽構成力の養成にも尽力した。

● 問題点

アンケート集計結果からも、声楽レッスンの予習・復習が十分に出来ていないことが明らかである。時たま、学生がレッスンの前に譜読みも音取りもしてなくて、レッスンで音取りに時間がかかりかかる場合もある。また、予習が充分でない一つの現象として、楽譜に記載されている楽語の意味を質問されても、答えられない学生が少なくないというのは、音楽大学学生として恥ずかしい現象も起きている。

● 改善の方策

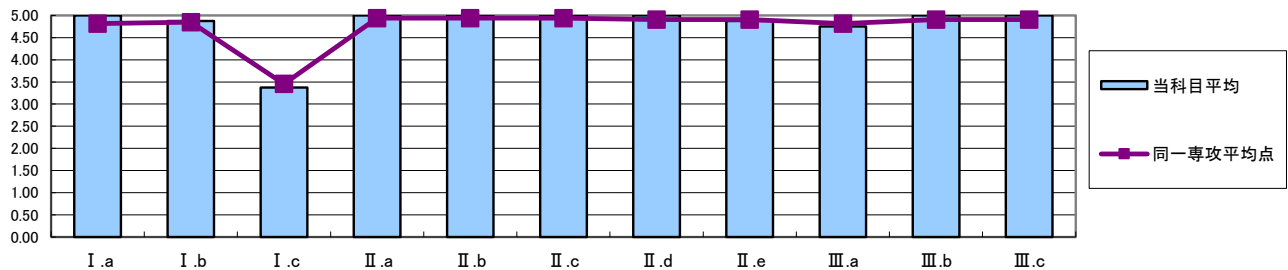
大学時代にレパートリー作りを少しでも多く増やしていくために、学生達にレッスンを円滑に進めるよう、予習・復習の重要性を繰り返し教示していく必要がある。また、音楽大学卒業後に世の中で通用する音楽家、または音楽社会人になっていくためにも、使用頻度の高い楽語は学ばせて記憶させていくことは急務である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	声乐	職名	04. 准教授	履修者数	8
教員名	伊藤 和広			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.38	3.45
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.88	4.91
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.82
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.91
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、大学1年生が2名、2年生が2名、3年生前期が1名、後期が1名、4年生が2名の計8名を担当しました。アンケートには全員が回答しています。8名中、留学生が3名おり、また、8名中7名が男子学生でしたが、全体に仲がよく聴講に来る学生も多く、皆大変意欲的に学習していました。シラバスに提示されている科目の目的は概ね達成できたということが今年度の分析結果になります。

● 問題点

アンケート集計結果から大きな問題点を感じません。

● 改善の方策

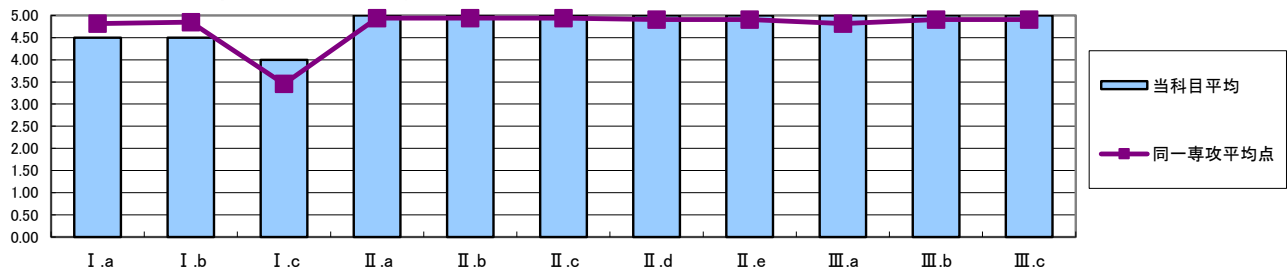
レッスンのための練習が少なかったと回答した学生が数名おります。個別に指導します。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	声楽	職名	04. 准教授	履修者数	7
教員名	武藤 直美			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.45
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.82
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.91
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

7名の受講生に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。今回は2名の受講生がアンケート回答してくれました。

受講生は積極的にレッスンに臨んでおり、声楽に必要な外国言語及び楽曲分析を的確に実施しており、技術の向上がみられました。また、3年生4年生1名ずつの回答でしたが、学内演奏会や卒業試験と昨年同様演奏曲数が増えておりながら、きちんと準備ができていたようにおもわれました。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題点はないと思われます。レッスンの内容ではありませんが、学生からフランス語の朗読法の授業があればとの記述がございました。

● 改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本とし、受講生の更なる技術の向上を目的とし、また、3年生の学内演奏、4年生の卒業演奏及び作品ノート提出に向け、早めの課題提供と進捗状況の把握に務める所存であります。イタリア語、ドイツ語は朗読法の授業を履修することができますが、その他の言語に関しましてはレッスン内で細かく指導する必要があると思料いたします。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

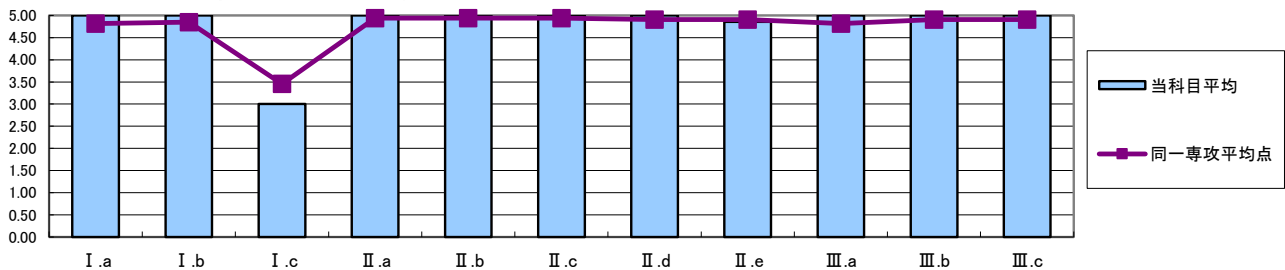
科目名	声楽
教員名	岩見 真佐子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.45
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	4.91
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.82
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.91
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

声楽専攻実技のレッスンは、ディプロマポリシーを到達目標に掲げ、カリキュラムポリシーの実践にむけ本年度のシラバスに従い、個々の専攻力習熟度、発達段階に応じて開講。大学の授業開講日及び補講日を通じて、前期15回後期15回計30回を確保しました。

個々の声域や身体的条件により、取り組む歌唱課題曲の選曲については十分に意見交換を重ね、本人の目標設定と心技体のバランスに配慮し進めた。本アンケートの各項目で概ね良い成果がみられ、声楽専攻に求められる力の習得に向けて学生の理解を確認しながらレッスン成果につながったと拝察されます(12月現状)。

最終学年にクラス変更となっている学生1名については、抱える現状を共有するまでにかなりの時間を要し、専攻実技レッスンとしてはPDCA確認のための課題を幾つか提案しながら本人の取り組みと習熟力の確認を図ったため、個性を活かせる発展課題を多岐にわたり提示しています(アンケート記述)。1月以降も継続してディプロマポリシーの到達に向けたレッスンプランを進めている現状が続いています。

本年度で修了学生2名については、学内での発表の場を重ね、専攻力の4年間の取り組みを自らPDCAで、成果が各自の自信につながるような環境を整えることに努めた。当学年は初期指導にこれまでとは違う配慮が求められたが、自らの学びを総合的に判断し結び付けてゆく力がこの一年で大きく成長した現状がみられます。

● 問題点

アンケート第I.c項のレッスン内評価及び同一専攻平均値については、キャップ制など学生の履修環境を整えているものの、学生自身が興味をもって取り組むレッスン・授業を優先して取り組んでいる現状があります。それは学修意欲を支える重要なファクターと受けとめています。又、経済的な理由で学生生活が多岐にわたり慌ただしく、必修での参加行事など自らの学修環境を整えるために主専攻レッスンを生かしている学生も多くみられます。

● 改善の方策

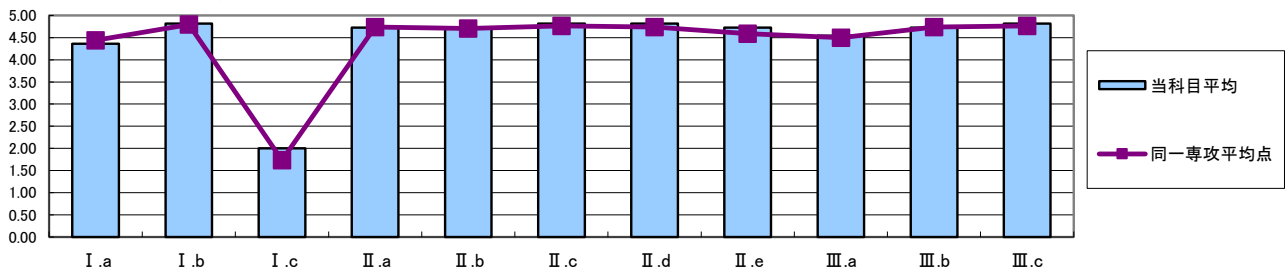
心身ともに健康に声楽専攻力を身につけられるよう、レッスンでの質的な内容の維持、その効果的な実践、学生個々の興味に添った作品の提案に引き続き取り組んでゆく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科声楽	職名	03. 特任教授	履修者数	13
教員名	佐藤 泰弘			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.36	4.44
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.82	4.79
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.74
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.73	4.74
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73	4.71
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.82	4.76
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.82	4.74
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.73	4.59
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.55	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.73	4.74
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.76

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

毎週木曜日と金曜日に学生達を振り分けて、毎週一回20分、年間を通して、前期15回、後期15回のレッスン回数は確保した。僅か20分であっても、能率良く凝縮したレッスンにするよう務めた。声楽専攻学生の声楽レッスンに比べて、決して厳しくなり過ぎないように、楽しく声楽実習を体験させることを主眼に置いた。一回のレッスンの中で発声、コンコーネ、イタリア歌曲が全て盛り込むよう進めていった。

● 問題点

楽しく歌わせて声楽を体験学習させていることは概ね達成している。しかしながら、たとえ副科声楽であっても、集計結果から予習・復習が圧倒的に不足している事が明らかになった。

● 改善の方策

音楽大学学生にとっての予習・復習は、専攻実技のために多くの時間が必要であることは納得出来る。しかしながら、副科レッスンを円滑に進めるために、短時間でも譜読みをする予習をするべきだということは繰り返し指示していく。そして、楽語の意味を全て明らかにするという予習は、副科声楽レッスンのためのみならず、将来、音楽家、音楽社会人として世の中で通用するために、必要不可欠であることも繰り返し指導していく必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

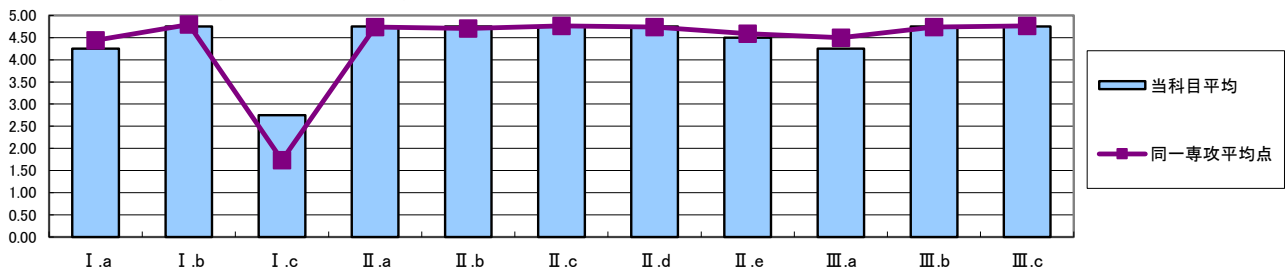
科目名	副科声楽
教員名	伊藤 和広

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.25	4.44
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.79
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.75	1.74
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.74
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.71
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.75	4.76
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.74
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.59
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.74
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.76

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、5名を担当し、アンケートには4名が回答しています。今年度新しく受け持った学生が3名、前年度から引き続き受け持った学生が2名でした。副科は20分と短いレッスン時間であることから、学生の相談に応じているうちにレッスンが終了してしまうことも多かったです。特に声楽は身体が楽器であるため、心や精神バランスにより豊かな声が出るということ等今年度は多角的なレッスンを展開する機会が多かったです。以上を踏まえて集計結果を分析しますと、シラバスに提示されている科目の目的は概ね達成できたということが今年度の分析結果です。

● 問題点

アンケートの集計結果から、大きな問題点は無いと考察します。

● 改善の方策

練習時間が少なかったと回答している学生が数名おります。副科の練習時間が確保できるよう工夫します。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

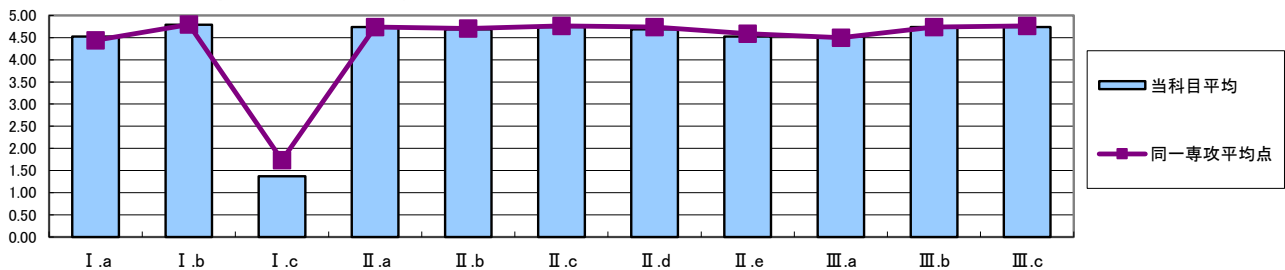
科目名	副科声楽
教員名	岩見 真佐子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	25
回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.53	4.44
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.79	4.79
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.37	1.74
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.74	4.74
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.68	4.71
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.74	4.76
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.68	4.74
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.53	4.59
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.53	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.74	4.74
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.74	4.76

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科声楽専攻実技のレッスンは、ディプロマポリシーを到達目標に掲げ、カリキュラムポリシーの実践にむけ本年度のシラバスに従い、個々の習熟度、発達段階に応じて開講。本年度の履修者数25名（大学4年生 名/大学3年生 名/大学2年生 名）が、大学の授業開講日及び各自の希望により設定した補講レッスン日を通じ、前期15回後期15回計30回を確保しました。

個々の声域や身体的条件、経験値、取り組む歌唱課題曲の選曲については、声楽実技としての前期後期のレッスン内評価に一定の基準が求められることに配慮。クラス全体で取り組む方向性と実施内容、進め方においては履修者の個人的な事情に影響が出ないように、年度開始時に設定、クラス全体共有事項とし開講しています。本アンケートの各項目で概ね良い成果がみられ、声楽に求められる歌唱する力、表現の習得に向けて学生の理解を確認しながらレッスン成果につながったと拝察されます（12月現状）。

声楽力の理解と実践については、音楽表現につながる課題曲の設定、外国語の歌唱に求められる留意点については、原語の演奏表現への体得、この2点を軸として、学生自らの学びを総合的に判断し結び付けてゆく力が身につく現状（成果として本授業履修者が声楽での実技試験で教員採用試験に合格）がみられます。

● 問題点

アンケート実施の12月は欠席者が増えていることがあげられる。近年の学生履修の現状としては、同一専攻内の履修者同士での問題（専攻実技の能力差、協働力差）の影響が、履修意欲、出席率などに現れており、学生間で難しい現状を抱えていることに配慮し、レッスン時間帯は専攻に関係なくクラス全体で非公開として実施したが、レッスン内容を維持するためにも、出席を促すことが求められる。

● 改善の方策

履修 I、履修 II、についての課題曲選定と歌唱指導のステップについては概ね2年間での効果的な設定ができていると思われる。特に同一専攻の履修者に対しては、参加しやすいレッスン組みに向けて、年度初めの全体の調整に更に工夫を重ねることが求められる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

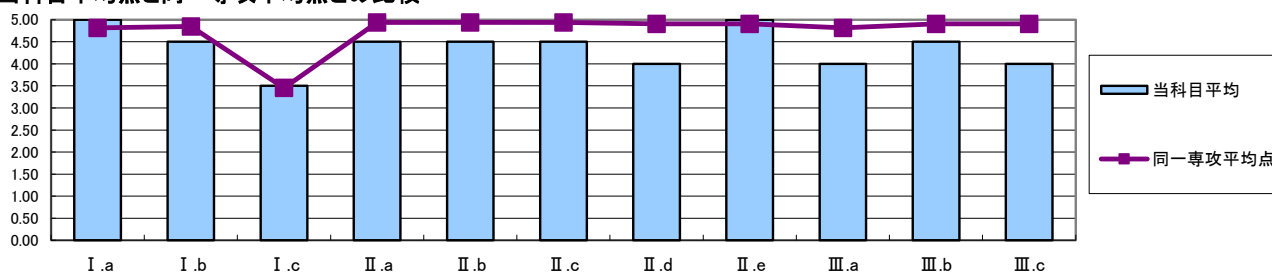
科目名	声乐
教員名	片岡 啓子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.82
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.45
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.91
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.82
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.91
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



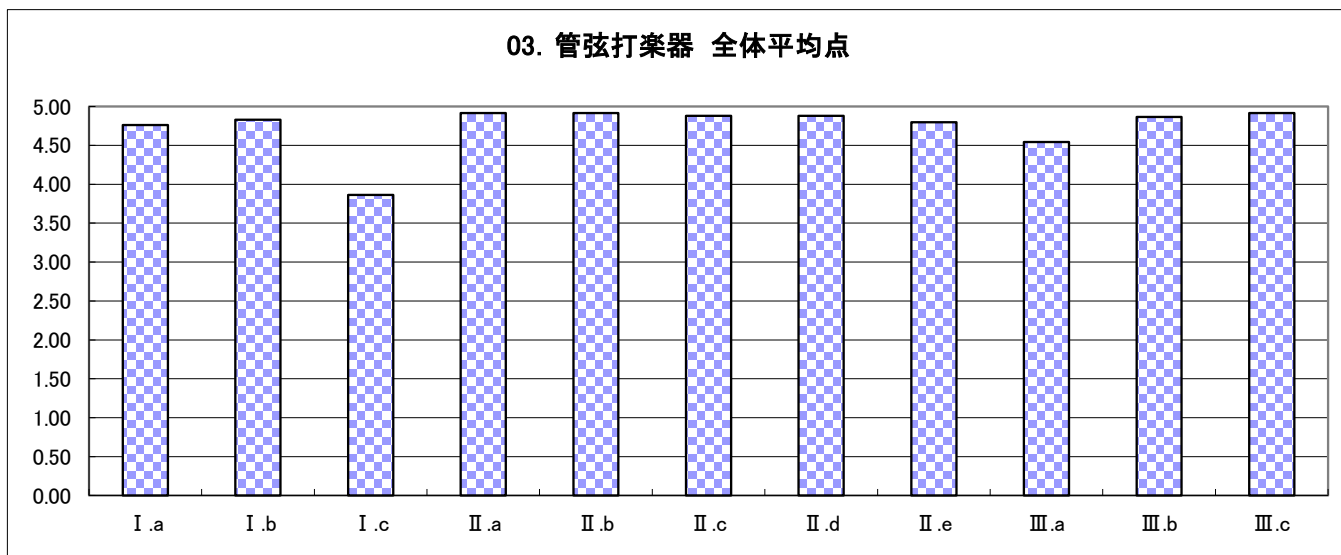
管弦打樂器

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	17

履修者数	70
回答者数	59

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.76	46	12	1	0	0	59	0
			78.0	20.3	1.7	0.0	0.0		
	b	4.83	50	8	1	0	0	59	0
I	c	3.86	25	11	15	6	2	59	0
			42.4	18.6	25.4	10.2	3.4		
	a	4.92	54	5	0	0	0	59	0
II	b	4.92	54	5	0	0	0	59	0
			91.5	8.5	0.0	0.0	0.0		
	c	4.88	54	3	2	0	0	59	0
II	d	4.88	53	5	1	0	0	59	0
			89.8	8.5	1.7	0.0	0.0		
	e	4.80	50	7	1	1	0	59	0
III	a	4.54	40	12	6	1	0	59	0
			67.8	20.3	10.2	1.7	0.0		
	b	4.86	54	3	1	1	0	59	0
III	c	4.92	54	5	0	0	0	59	0
			91.5	8.5	0.0	0.0	0.0		

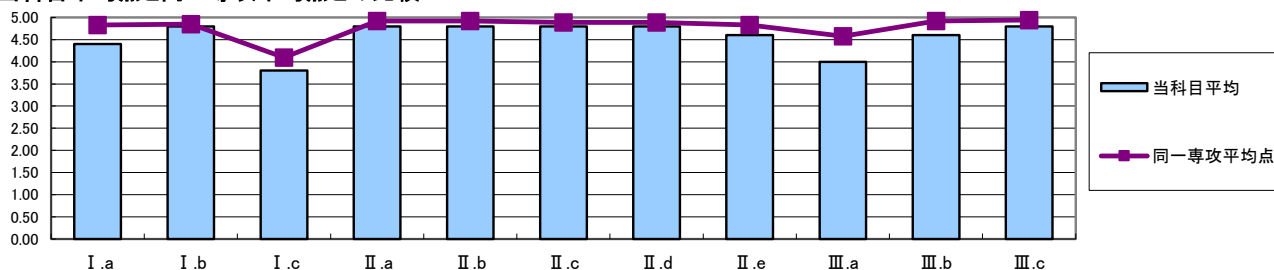


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	管弦打	職名	01. 主任教授	履修者数	5
教員名	宮野 陽子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.40	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.80	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.80	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.80	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.80	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.60	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.60	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1～4年生まで5人の学生を担当した。
 1年生は私が川越に行く月木は授業がほぼ1～5限までフルに入っていて、レッスン時間が確保できないので、火曜日の午後に文京で行った。オケの譜読みが大変だったにも関わらず、課題はよく練習してきて、附属の時より意識が上がってきて、好調な滑り出しだった。しかし、夏休み前に体育の授業で左小指を骨折。前期のしけんは受けられず、本人も落ち込んだ。夏休み中にリハビリも頑張り、後期からまた再度気合いを入れ直し、頑張ることができた。小指はほぼ完治して、演奏に支障はなく、ホッとしている。
 2年生は、室内楽や弦楽合奏にも興味が出てきて、積極的に取り組んでいた。アンサンブルには時間が取られるので、ソロの方が疎かになりがちだが、計画的に譜読みを進めていた。
 3年生は昨年从不登校気味で、特に実技系が出て来なかった。オーケストラも分奏もレッスンも、出席はギリギリだった。レッスンは実際は欠席は5回を超えたが、補講をして補った。試験はモチベーションも上がらず、見ているも辛そうだった。学内演奏が一番上手く弾けたと思う。ウィーン研修も楽しかったようで、帰ってきてから演奏も向上した。
 4年生は2人。1人は学生最後の年だから、と誘われるままに色々なこと(アンサンブルやオケ)に手を出しすぎ、最後自分の試験曲が間に合わなくなってしまった。が、全てが良い教訓となり、アドバンスに進んで更に勉強を続けている。もう1人は少し問題を抱えている学生であるが、就活もしながら最後までよく頑張った。

アンケートで、1人このレッスンを有意義に感じられなかった学生がいたのは残念である。精神的に辛い思いをしているのは分かるが、十分に理解して寄り添うことができなかつたと反省している。

● 問題点

1人の学生を除いては、意識のズレはさほど無かつたと思う。それぞれ精一杯取り組んでいたし、音楽家としての意識も向上しているように見える。

● 改善の方策

弦楽器は合奏やアンサンブルをしている時間が長い。1人では経験できないので、学生の間になるべく沢山経験する必要がある。が、まだ身に付けなくてはならない基本的な事も沢山ある。こちらが上手く交通整理をして進めていかなければならない。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

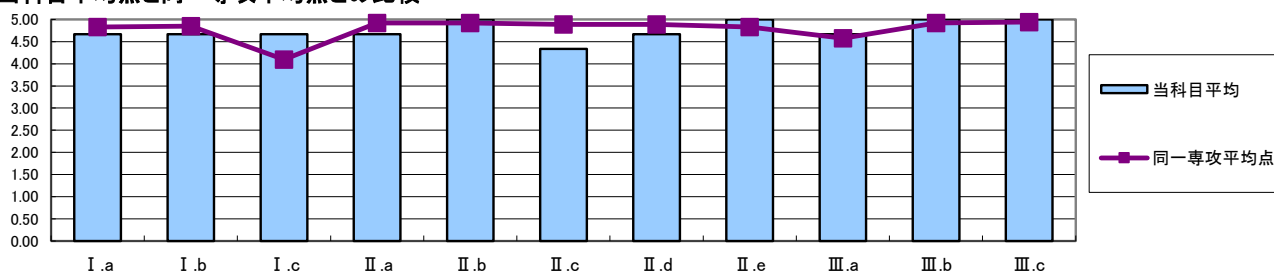
科目名	管弦打
教員名	吉川 武典

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	6
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.67	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.33	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

特に問題はありません。順調に進んでいます。

● 問題点

問題点は特に感じていません

● 改善の方策

特にありません

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

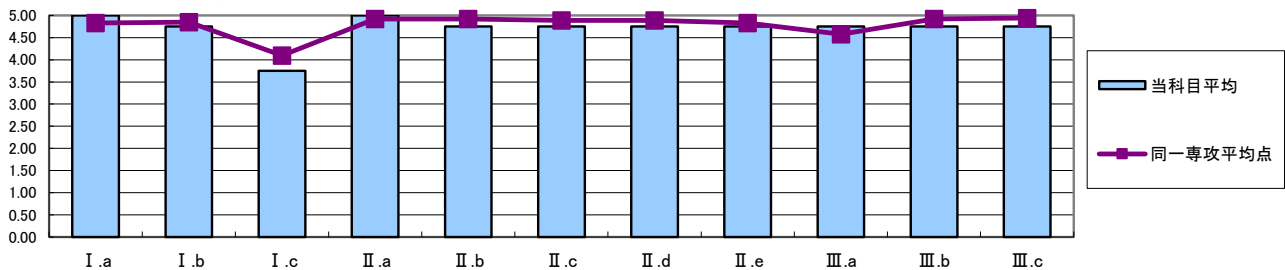
科目名	管弦打
教員名	益田 善太

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.75	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.75	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度の専攻フルートの履修生は2名で、4年次1名、3年次1名、2年次2名であった。各々、1年次から、もしくは入学前から指導している学生で、それ相応の信頼関係が築かれた上でのレッスンとなった。レッスンは週一回約1時間でコンスタントに行えたと思っている。各学生が向上心を持ち、どうしたら上手になれるかと言う問題意識を持ってレッスンに臨んでくれた事もあり、ある程度は良いレッスンが出来たのではないと思う。アンケートにもそれが表れた様に感じている。時には叱る事もあるけれども、それが学生の上達として次につながるものになってくれたのは、これまでのコミュニケーションの成果と良い学生に恵まれたおかげであると思う。指導が受け入れられ実を結ぶのは、そこに技術的に納得がいく力量と、説明に信頼があって初めて成り立つものであるから、たゆまぬ努力を続けていきたい。

● 問題点

日々のレッスンには問題を感じないが、自ら考え、失敗していく中で、教わるのではなく学ぶ力を各学生が付けていく事が、今後のステップアップには必要不可欠になってくると思われる。

● 改善の方策

自ら考え、失敗しながら学ぶ時間を与える為に、教え急がず見守りながら待つやる忍耐力が必要になってくると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

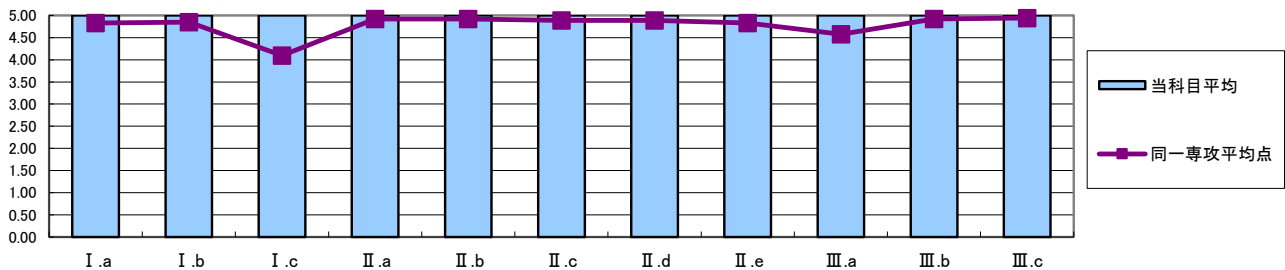
科目名	管弦打
教員名	加藤 里志

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

シラバスに沿い、目的を確認しながらそれぞれの生徒に対して現状を確認しながら、具体的な目標を持って各学生が十分にそれを達成できた。毎週木曜日にレッスンを行い、受講者4名(学部3名、アドバンス1名)、12~16時に開講。

● 問題点

教員と学生間での目標や目的に対するズレは無し。

● 改善の方策

問題なし

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

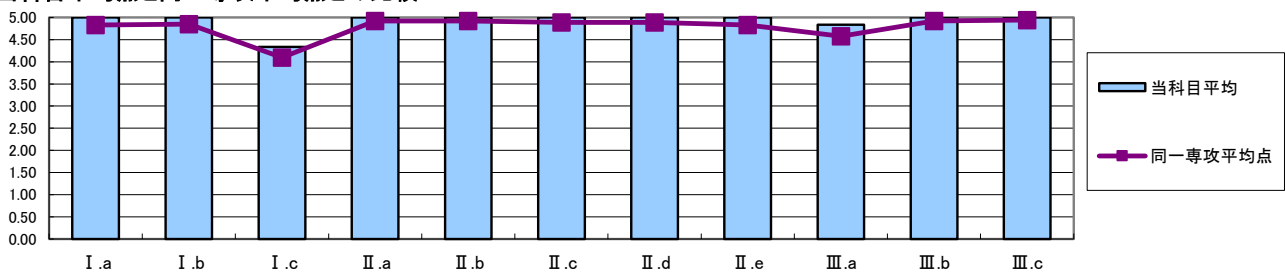
科目名	管弦打
教員名	小原 裕樹

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.33	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.83	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目の目的は金管楽器の基礎奏法、応用技術を身につける、演奏能力を高めることである。内容、授業形態は実技個人レッスンである。受講者数は4年生1名、3年生1名（留学生）2年生2名（うち1名留学生）1年生2名 合計6名で、開講曜日は金曜日である。全ての学生が基本的には真面目に練習をしているが、ソルフェージュ能力がかなり劣っている学生が数人いる。IcとIIIa以外は平均点が5点で、学生からは問題点はあがっていないようである。Icのどのくらい練習をしたかとの問いには、殆どの学生が5時間以上と答えていて、平均すると4.33だがこれはかなり高い数値ではあるが、実際のところは疑問が残る。IIIaは到達目標に対する問いだが、これも4.83高い数値だと思う。

● 問題点

練習時間に関しては学生はかなりアバウトに答えているのではないかと、到達目標もほぼ到達していると考えているということは、良いことではあるが、もう少しモチベーションを高く持ってもらうようにするにはどうするかを、それぞれの学生に合わせて考えていかなければならないだろう。

● 改善の方策

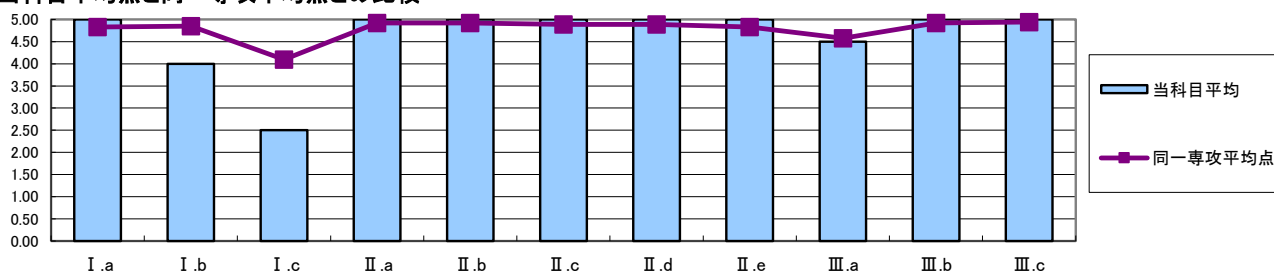
短期的な目標と長期的な目標を分けて考えさせ、短期的な目標に達成感を持たせながら、長期的な目標に向かっていくモチベーションを持ち続けられるよう、それぞれの学生にあった指導内容を考えてゆく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	管弦打	職名	08. 講師	履修者数	2
教員名	須永 真純			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

実技(個人レッスン)クラリネット1年生2名。
 「熱意をもって積極的に取り組んだ」1名どちらとも言えない、と回答。
 「練習時間について」1名2.2時間、1名3.3時間と回答。
 「到達目標を十分に達成できた。」1名ある程度そう思う、と回答。
 それ以外においての回答は全て5であった。

● 問題点

練習量に関しては、個人事情も考慮して行ったため、十分な確保ができなかったのではないかとと思われるが、音大生としては物理的な量において不十分である。また、それにより目標達成感覚に影響していると推測される。
 また、アンケート結果と分析結果により考慮すると、意識のズレに関してはほぼないことがわかる。

● 改善の方策

次年度においても、学生の事情に合わせてレッスンを行いたいと考えているが、目的を十分に理解してもらうよう取り組み、あわせた課題の「量」を増やし、学生達の限界を超えていけるよう配慮していくことと、音楽に真剣に取り組んだことで、人間性の成長に繋がるよう指導し、できる限りの成功体験に結びつけたいと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

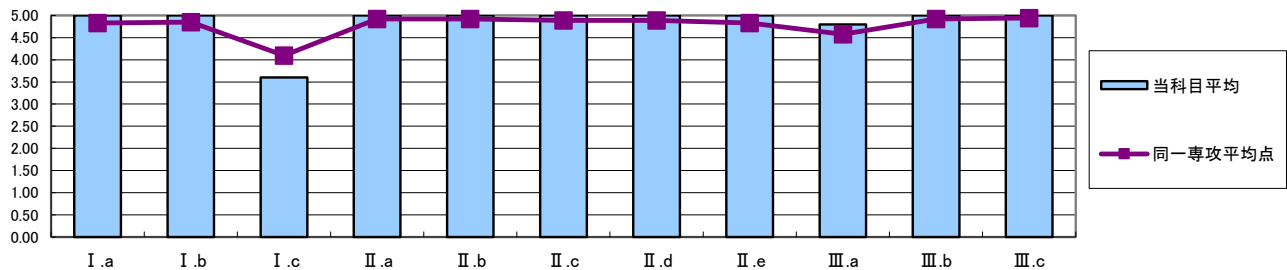
科目名	管弦打
教員名	中村 明子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.60	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学3年2名、大学2年2名、演奏専攻1年1名、合計5名の学生達は病欠以外はほぼ無遅刻無欠席。アンケート結果から、専攻平均から大きく外れる項目も無いようです。学生達はそれぞれの意欲と感情を素直にぶつけてきます。

● 問題点

レッスンの為の練習時間だけ平均よりやや低いですが、学生によってはそのレッスン内容からも私自身も感じているところです。

● 改善の方策

実技試験曲に、やる気の有る学生には本人の実力より難易度がかなり高めの曲を選ぶ事で、彼らはよく練習し、結果も良好なのでコチラは問題ありません。反面、実力が中々伸びない2年生2名(原因は主にソルフェージュのスキルの低さ)には、まずは練習の仕方の指導から始めていますので、来年度は自分で練習出来るようになり、それが実力アップに繋がるよう、本人達の意識を確認しながら努力を続けたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

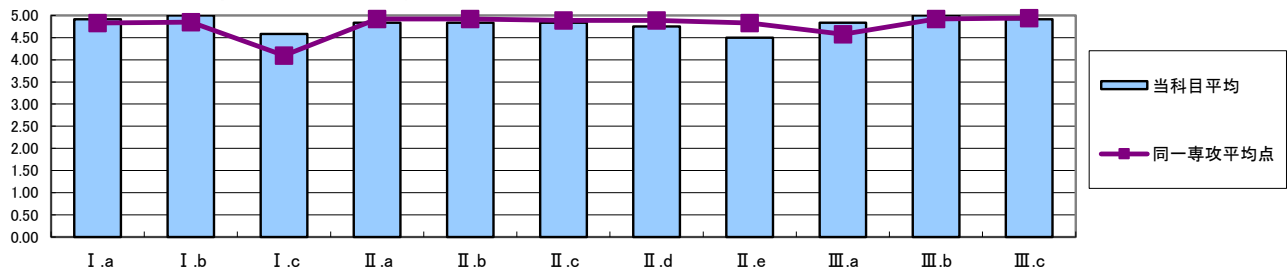
科目名	管弦打
教員名	渡辺 由美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	12
回答者数	12

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.92	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.58	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.83	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.83	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.83	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

レッスンでは「自分を打楽器で表現するアイデアを実現するために必要なものは何か」について考えさせ、音楽を表現し伝える際に必要な実践的なスキルを磨き、イメージを具体化するために、さまざまなテクニックや表現力を修得させた。

レッスン毎の課題、実技試験、門下での発表会などを通し、音楽応用力を拡大することを目的とする。資質能力や学ぶ姿勢の向上を念頭に置き、個々の学生の希望や学修の進捗を踏まえつつ、可能性を最大限に伸ばす教育の実践を心掛けた指導を行った。

学生は、大学での学びの目的や意義をしっかりと理解し、学校内での勉強会、楽器の技術向上は勿論、学校外での演奏会やコンクール出場、オーケストラ鑑賞、中高生の楽器指導などにも積極的に取り組んでいた。

● 問題点

アンケート結果を受けて改めて振り返ると、レッスンに向けて楽器練習だけでは得られない知識を図書館を利用するなど、広く音楽を学ぶ意識を植え付けたい。

- ・レッスンシラバスの活用
- ・レッスン目標に沿って行われていたか。
- ・予習、復習をすすめる

● 改善の方策

- ・第一回目のレッスン時に年間予定を確認する
- ・個々の問題に対して状況に応じて再構築する
- ・予習や復習の内容をレッスン時明確に伝え、より具体化する
- ・学生の要望に対しシラバスと乖離した場合調整する

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

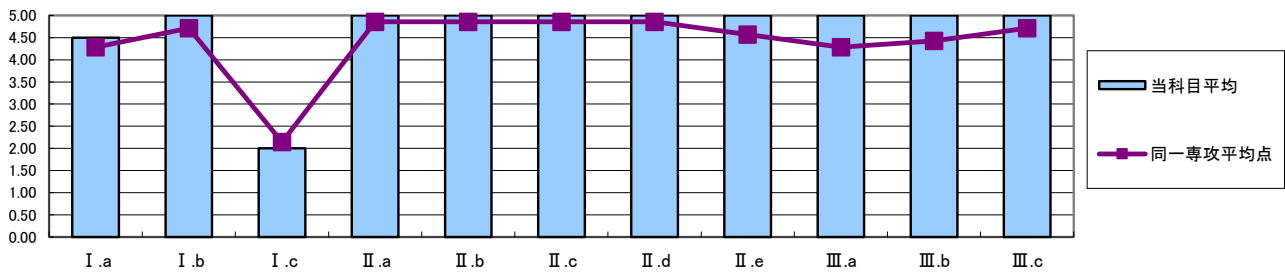
科目名	副科管弦打
教員名	宮野 陽子

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.29
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.71
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.14
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.86
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.57
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.29
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.43
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

4人いたが、1人は留学生で9月に卒業していった。他の3人も忙しいながらも、一生懸命に取り組んでいた。2年生の聴覚障害の学生も、時間を決めて欠かさず練習するので、音も音程も安定してきた。短大から編入してきた3年生は、ポジション移動も器用にこなし、ザイツのコンチェルトが弾ける様になった。声楽科の3年生も計画的に練習を進めており、音程やリズムなどは自分で正確に取れる様になった。

● 問題点

特に問題点はない。

● 改善の方策

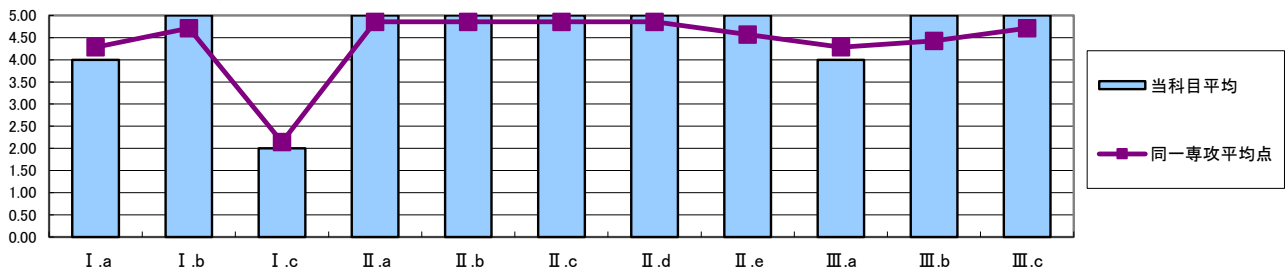
来年もそれぞれ、自分のペースで楽しみながら続けてもらいたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科管弦打	職名	08. 講師	履修者数	2
教員名	小原 裕樹			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.29
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.71
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.14
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.86
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.57
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.29
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.43
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目の目的は金管楽器の基本奏法、基礎知識を身につけ表現能力を高め、様々なソロ・合奏体の中での演奏ができる能力を身に着ける。

内容、授業形態は実技個人レッスンである。受講者数は4年生1名、3年生1名の計2名であるが、1名はアンケート実施日に欠席だったため、回答は1名のみであった。開校曜日は金曜日。

どの項目もほぼ同一専攻平均点であった。

● 問題点

この集計結果からは教員と学生間の意識のズレはあまり感じられないが、実際にレッスンの成果が出ているかは常に注意深く見ていかなければならないであろう。

● 改善の方策

副科の場合専攻にも増して一人一人の実力の差が大きいため、教材を含めそれぞれに合った適切な指導を行っていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

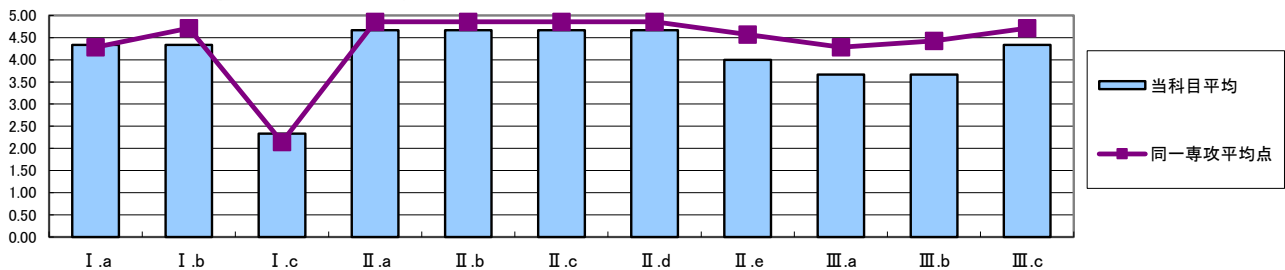
科目名	副科管弦打
教員名	須永 真純

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.33	4.29
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.71
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	2.14
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.86
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.86
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.67	4.86
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.86
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.57
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67	4.29
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	3.67	4.43
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科実技(個人レッスン)クラリネット1年生1名、3年生1名、4年生1名の3名。
 「練習時間について」1名1.1時間、1名2.2時間、1名4.4時間と回答。
 「到達目標を十分に達成できた。」1名あまりそう思わない、と回答。
 「新しい音楽的視野が広がった」1名あまりそう思わない、と回答。
 それ以外においての回答は5又は4であった。

● 問題点

練習時間に関しては、さまざまではあるが、今年度においては、クラリネットの技術的な部分についてのレッスンだけでなく、知識についての時間を多く取ったため、練習量に対して少ない結果となったと考えられ、それとともに目標の明示、新しい音楽的視野の提供が課題となる。

● 改善の方策

昨年度の問題点であった、レッスン回数や時間については、学生との連絡を十分に配慮したことで、今年度の概ね解決に至っていると判断できる。
 今後も学生の目標に合わせて内容を選択していくが、明確に目標を立てることと、ある程度の技術的なことや音楽的な課題にも配慮し、自主的に取り組む時間(量)を増やしたいと思えるような内容が必要と考える。
 昨年度の問題点であった、レッスン回数や時間については、学生との連絡を十分に配慮したことで、今年度の概ね解決に至っていると判断できる。
 今後も学生の目標に合わせて内容を選択していくが、明確に目標を立てることと、ある程度の技術的なことや音楽的な課題にも配慮し、自主的に取り組む時間(量)を増やしたいと思えるような内容が必要と考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

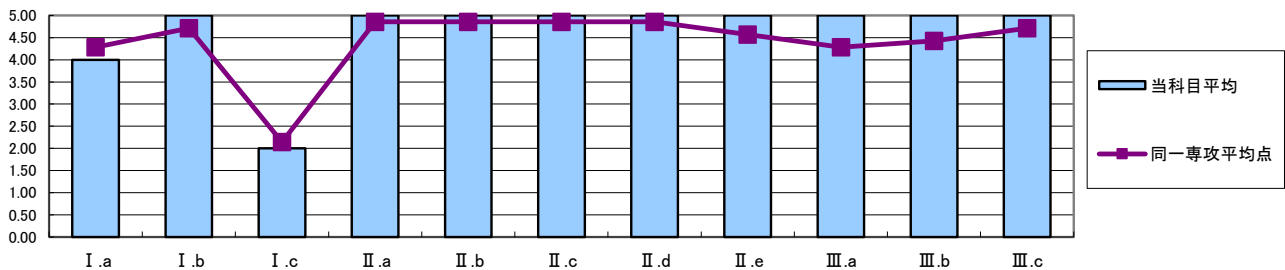
科目名	副科管弦打
教員名	中村 明子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.29
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.71
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.14
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.86
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.57
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.29
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.43
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学4年、3年1人ずつ担当しました。
4年生は声楽専攻で代表演奏など活躍している学生だったので、授業内評価で。3年生はピアノ専攻ですが、付属高校の時からプラスに参加等など積極的で、大学でもプラス、フルートアンサンブルに参加し、実技試験にも積極的に取り組んでいました。

● 問題点

アンケートに答えてくれた3年生は介護施設でのアルバイトを通じて介護資格の習得に励み、その試験とレッスンご重なったの欠席があり、それがI.aの点の低さに繋がっています。

● 改善の方策

就活でアンケート記入の無かった学生も無事就職し、3年生も来年また履修する様なので、また一緒に充実した時間を過ごせたら、と思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

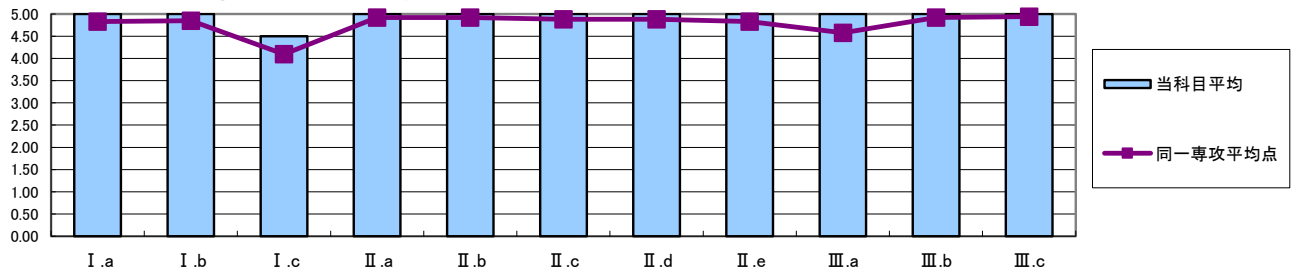
科目名	管弦打
教員名	清水 高師

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.50	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



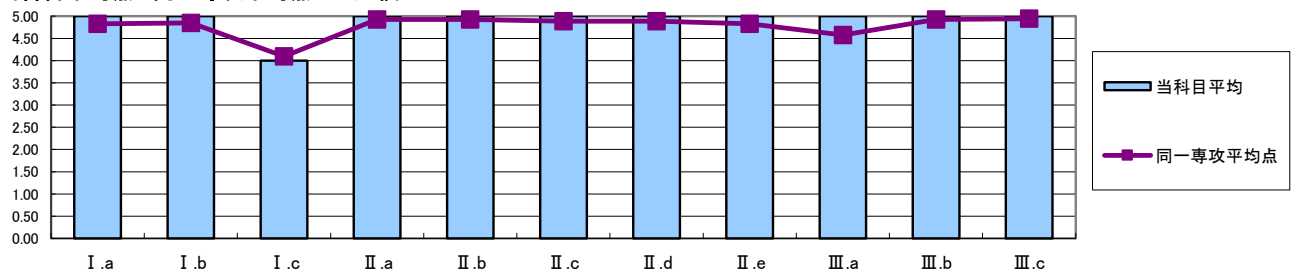
科目名	管弦打
教員名	天満 敦子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

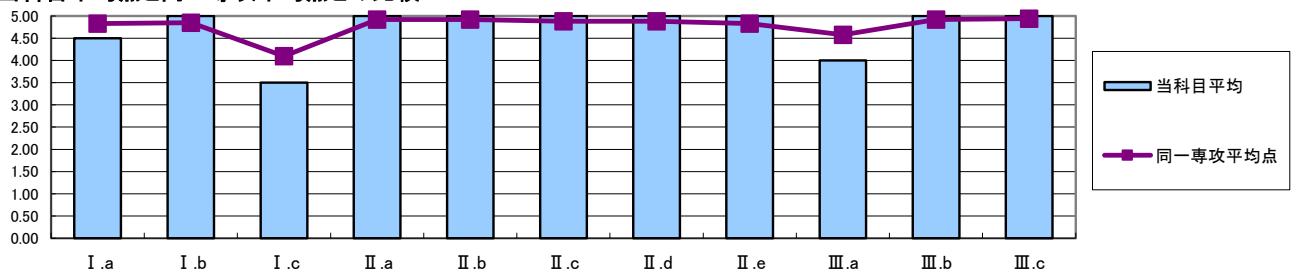
科目名	管弦打
教員名	加古 勉

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



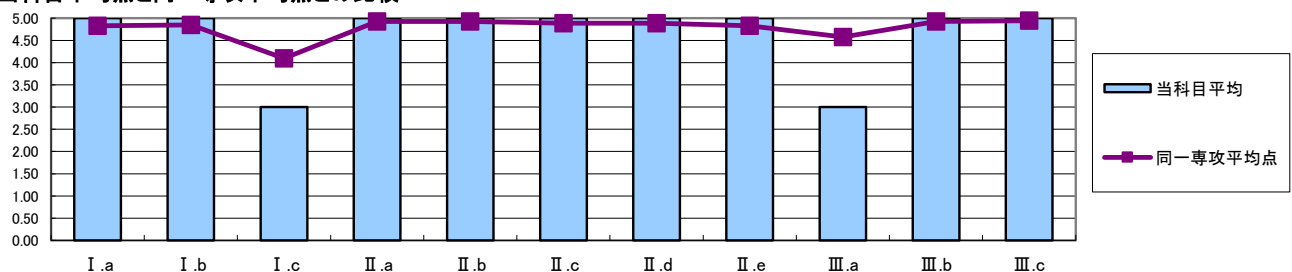
科目名	管弦打
教員名	齋藤 充

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

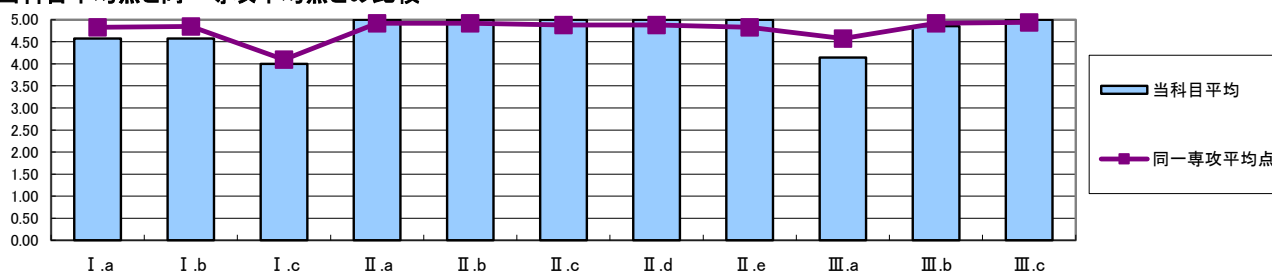
科目名	管弦打
教員名	松尾 賢一郎

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.57	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.85
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.10
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.92
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.14	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.86	4.92
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.94

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



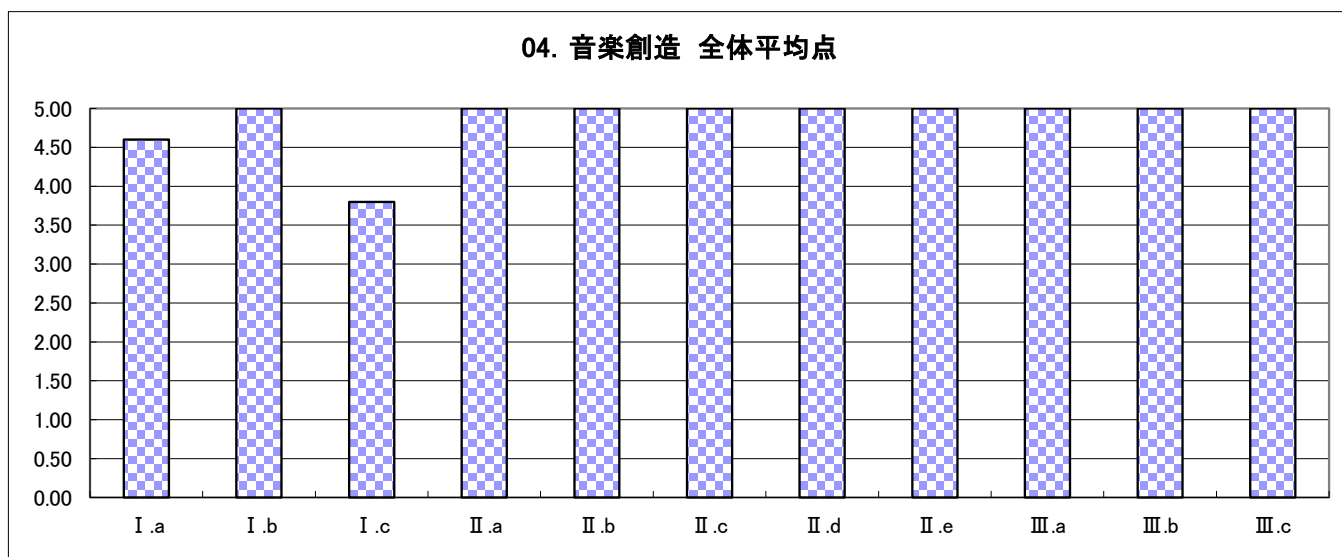
音樂創造

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	04. 音楽創造
科目数	2

履修者数	9
回答者数	5

設問	項目	平均点	回答数(人)/回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.60	3	2	0	0	0	5	0
	60.0		40.0	0.0	0.0	0.0			
	b	5.00	5	0	0	0	0	5	0
100.0	0.0		0.0	0.0	0.0				
c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.80	1	2	2	0	0	5	0
			20.0	40.0	40.0	0.0	0.0		
II	a	5.00	5	0	0	0	0	5	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
	b	5.00	5	0	0	0	0	5	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
	c	5.00	5	0	0	0	0	5	0
100.0	0.0		0.0	0.0	0.0				
d	5.00	5	0	0	0	0	5	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
e	5.00	5	0	0	0	0	5	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
III	a	5.00	5	0	0	0	0	5	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
	b	5.00	5	0	0	0	0	5	0
100.0	0.0		0.0	0.0	0.0				
c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5	0	0	0	0	5	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

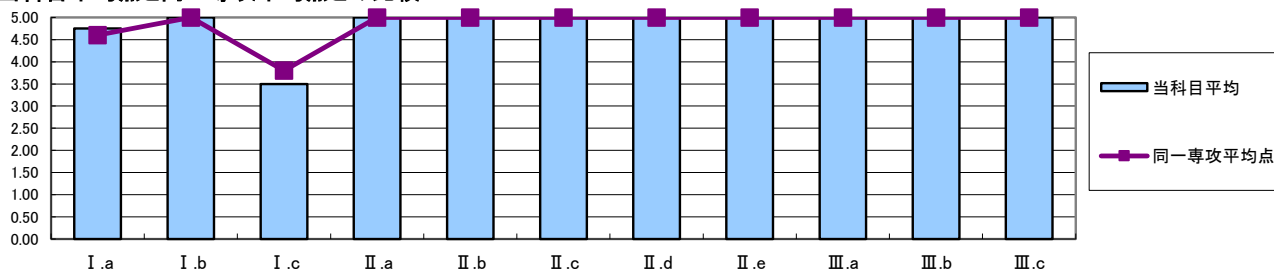


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	音楽創造	職名	05. 特任准教授	履修者数	5
教員名	井上 淳司			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.60
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	5.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

23年度は1年次生2名、2～4年次生各1名ずつ計5名のレッスンを行った。アンケートに回答したのはうち4名である。1年次は木管、金管、弦楽器からそれぞれ1つ楽器を選び、前期は旋律線のみ、後期は和声付けのあるものを、2年次は前期に上述楽器より二重奏、後期は伴奏付きのもの、3年次は前期に歌曲を後期に室内楽、4年次はオーケストラ作品の提出を課した。本来は作曲の基礎訓練である和声法、対位法および形式論は入学以前に終了しておくことが望ましいが、近年必ずしも全ての学生がその様な状態にはなっておらず、レッスンに形式論も含むこととなった。学生にとって限られたレッスン時間の中で扱う質や量の多さを、レッスンへのやる気や作曲意欲が欠如しないように、学生に理解させそして応用して自由作曲に役立つように指導することが重要であるが、基礎的な知識や素養が乏しいので訂正、修正、加筆することが度々であった。2年次後期と3年次前期提出作品は演奏審査を課している。

● 問題点

今年度はアンケートに回答したのは4名で、人数的に必ずしもアンケートの体をなしているとは言えない。作曲は演奏実技と違い、時間をかけるのと成果は一致しない。アンケートからは特に問題点となる事項は読み取れないが、出来るだけ多くの知識や経験を積んでもらうための本人の柔軟性がより必要であろうと思われる。

● 改善の方策

個々の学生のレベルに合った下調べの方法や参考になる曲の紹介等を図書館の利用も含めて綿密に伝えて、さらに良い曲を書くためには熟考するための十分に余裕のある時間が必要であること、そのためにはレッスンへ臨むのに何が必要か等を次年度も徹底して行きたい。また、学生のレッスンをするための最低のマナーなども普段から伝えて、お互いの意思の疎通を高めるようさらに心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

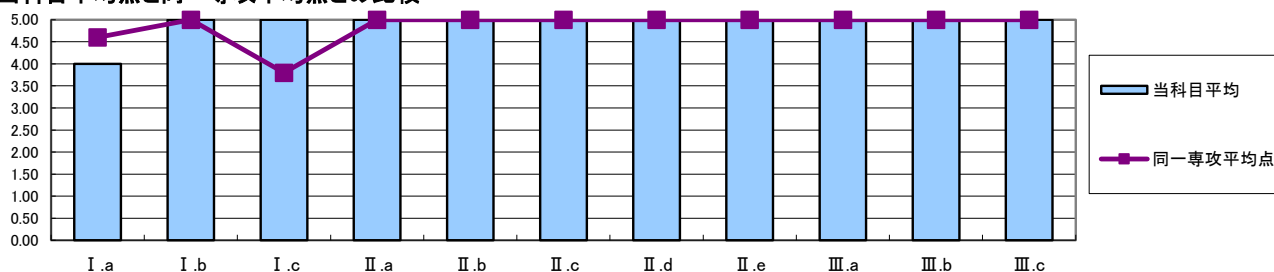
科目名	音楽創造
教員名	萩久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.60
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	5.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



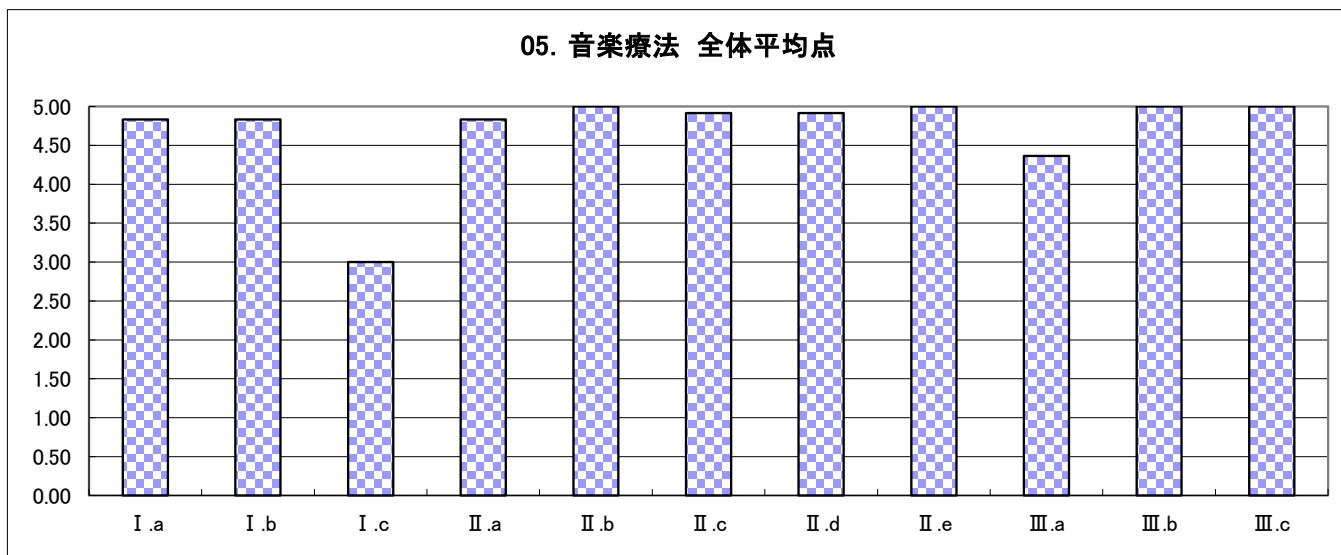
音樂療法

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	05. 音楽療法
科目数	2

履修者数	12
回答者数	12

設問	項目	平均点	回答数(人)/回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.83	10	2	0	0	0	12	0
			83.3	16.7	0.0	0.0	0.0		
	b	4.83	10	2	0	0	0	12	0
			83.3	16.7	0.0	0.0	0.0		
c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4	0	1	6	1	12	0
				33.3	0.0	8.3	50.0		
II	a	4.83	10	2	0	0	0	12	0
			83.3	16.7	0.0	0.0	0.0		
	b	5.00	12	0	0	0	0	12	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	4.92	11	1	0	0	0	12	0
	91.7		8.3	0.0	0.0	0.0			
d	4.92	11	1	0	0	0	12	0	
		91.7	8.3	0.0	0.0	0.0			
e	5.00	12	0	0	0	0	12	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
III	a	4.36	5	5	1	0	0	11	1
			45.5	45.5	9.1	0.0	0.0		
	b	5.00	12	0	0	0	0	12	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
c	5.00	12	0	0	0	0	12	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

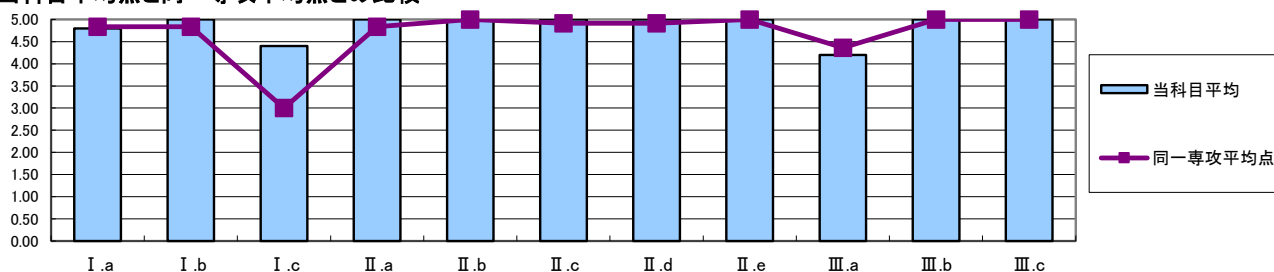


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	音楽療法6(実習を含む)	職名	04. 准教授	履修者数	5
教員名	木下 容子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.83
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.40	3.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.92
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20	4.36
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<当科目の目的>音楽療法の理論・技術を、音楽療法実習にどう生かすかについて学ぶ。また、学内実習発表に向けて、研究活動の意義を知り、データ収集・分析・客観的で説得力のある記述などの手法を身につける。

<内容>音楽療法実践での対象者の理解、伴奏の手法、音楽・非音楽的な対象者への即興的対応、対象者との関係性の構築などの実践の基礎技術を、授業と実習の双方から体得する。
また、学内実習発表の研究の指導を受け、研究の基礎技術も身につけていく。

<授業形態> 実習は、実践・ロールプレイ・ディスカッションで行った。授業は、ロールプレイ・ディスカッション・講義形式で行った。

<受講者数> 5名

<開講曜日・時限>火曜日 2限

<受講者の状況説明>

5名とも実習・授業ともに非常に熱心に取り組んでいた。授業では、学内実習発表の論文執筆のために自主的に研究を進め、教員の指導でさらに深めていく様子が年間を通して見られた。実習も、事前ミーティング・ロールプレイ・セッション・事後ミーティングの流れを現場ごとに実施し、臨床レポートも時間をかけて作成して提出していた。

<アンケート結果より>

- I-a, bより、学生が積極的に授業にも実習にも取り組んだことが分かった。I-c「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」についての結果は、平均よりかなり高い結果であった。
- IIについては、全項目において回答者全員が「5. 強くそう思う」と回答している。このことより学生は、この授業や実習の指導に対して満足しているものと思われる。
- IIIについても、どの項目も数値が高く、平均と大きな差はなかった。この結果から学生は、この授業や実習の目標を達成したと感じていて、なおかつ授業や実習から新しい知識や技術を獲得し、有意義に感じていることが明らかになった。

● 問題点

アンケート結果より、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業や実習において、学生一人一人に意見や感想、質問等を述べてもらい、学生同士や学生と教員が密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。また、コメントに「実習レポートに必ずフィードバックがあり、新たな気づきを得られて非常に勉強になった」と書かれていた。担当教員は、すべての実習レポートにコメントをつけてフィードバックしているが、これが更なる学生の学修に繋がったと気づくことが出来た。

● 改善の方策

2023年度については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションし、学生一人一人の状態に合わせて指導したため、学生が意欲的に授業・実習に取り組むことが出来た結果となった。次年度以降も、受講する学生の興味・関心・意欲・技術のレベル等に合わせた授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

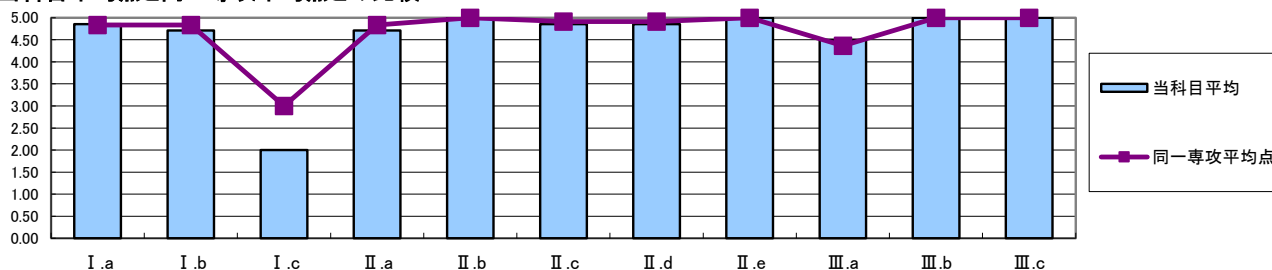
科目名	音楽療法4
教員名	二俣 泉

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.86	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.83
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.71	4.83
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.86	4.92
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.86	4.92
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.36
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



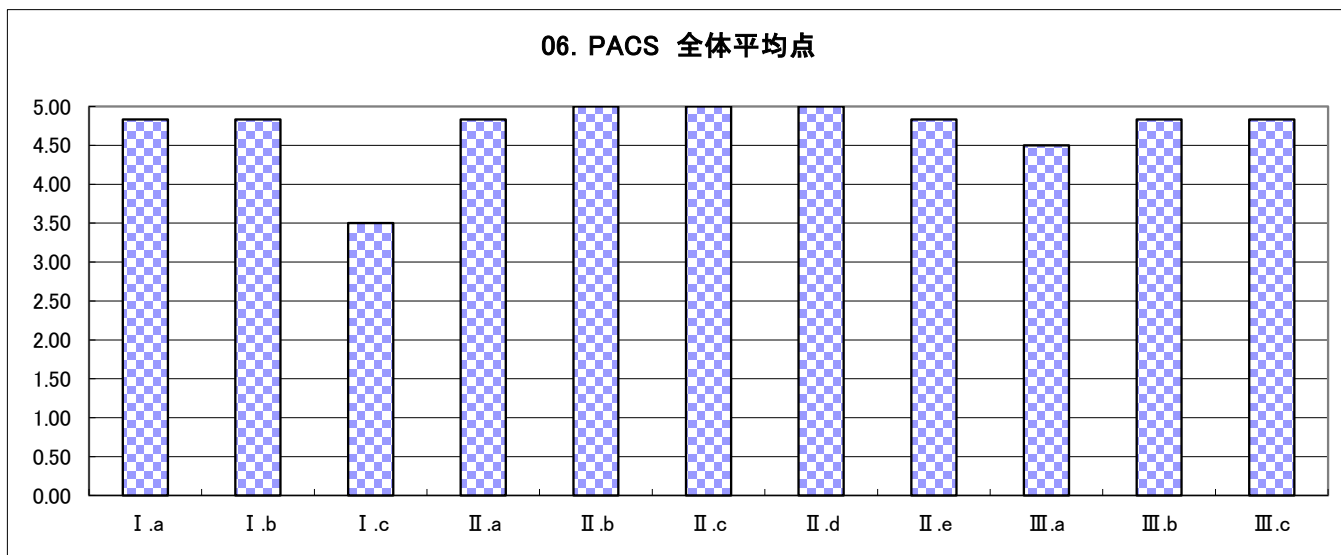
P A C S

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	06. PACS
科目数	3

履修者数	8
回答者数	6

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.83	5	1	0	0	0	6	0
	83.3		16.7	0.0	0.0	0.0			
	b	4.83	5	1	0	0	0	6	0
83.3	16.7		0.0	0.0	0.0				
c	3.50	1	1	4	0	0	6	0	
16.7		16.7	66.7	0.0	0.0				
II	a	4.83	5	1	0	0	0	6	0
	83.3		16.7	0.0	0.0	0.0			
	b	5.00	6	0	0	0	0	6	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
	c	5.00	6	0	0	0	0	6	0
100.0	0.0		0.0	0.0	0.0				
d	5.00	6	0	0	0	0	6	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
e	4.83	5	1	0	0	0	6	0	
83.3		16.7	0.0	0.0	0.0				
III	a	4.50	3	3	0	0	0	6	0
	50.0		50.0	0.0	0.0	0.0			
	b	4.83	5	1	0	0	0	6	0
83.3	16.7		0.0	0.0	0.0				
c	4.83	5	1	0	0	0	6	0	
83.3		16.7	0.0	0.0	0.0				

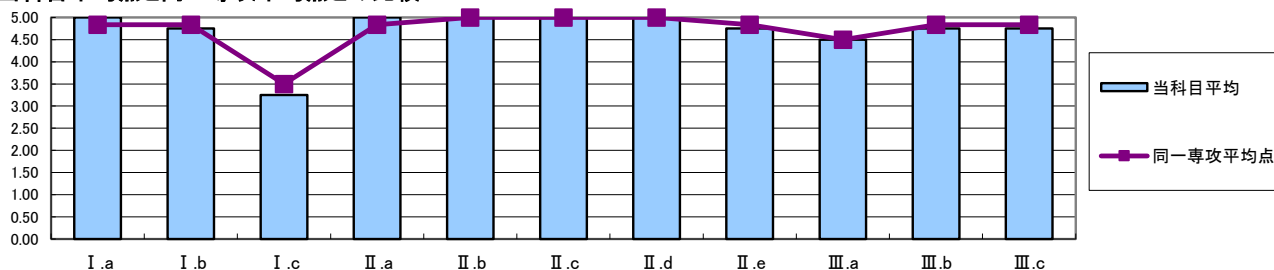


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	音楽実技	職名	01. 主任教授	履修者数	6
教員名	城之内 ミサ			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.83
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.25	3.50
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.83
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

PACSにも作曲志望、シンガーソングライター志望の学生がおり、またライブ実践やプロのアーティストと対バンでのライブ出演もあり、専門専攻に近い内容になっている。
PACSのレッスンを通し在学中から作曲編曲家として活躍している学生もいる。

● 問題点

レッスン時間が30分しかないので、より専門性を追求したい学生には、どうしても時間を延長することになり、後の学生にレッスン時間が遅れるため、学生もストレスではないかと思う。
また、DTMで誤った打ち込みをしたり、打ち込んだ譜面をまんまプリントアウトしてくるので（臨時記号の譜面となっていてG#がAbになっていて調号の整合性が取れず・・・）
打ち込み禁止令を出して、譜面を記譜することを学ばせているが、譜面が書けず、鼻歌をスマホに入れてくるので、なぜか私が聴音状態で、譜面に書き示している。（苦）
しかも、鼻歌なのでピッチやリズムが怪しく、辻褄を合わせるのに四苦八苦している。

● 改善の方策

スコアを作成してからパソコンで打ち込むよう指導した結果、譜面が書けるようになった。
本人が一番大嫌いなことを克服したので、これはこれでよかったですと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

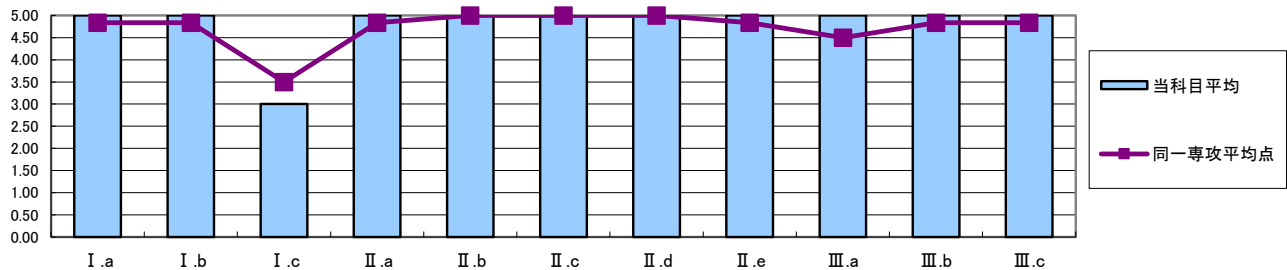
科目名	音楽実技
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.83
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.50
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

主専攻パフォーマンス総合芸術文化専攻の学生1名に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。

身体の使い方、発声法及び呼吸法を学ぶにつれ、曲の意味を音楽として表現しようとする意欲が出てきたと思料いたします。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、全ての設問回答からレッスンの進め方には問題はありませんでした。

● 改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、今まで以上に学生のレベルにあわせた指導を心がける所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

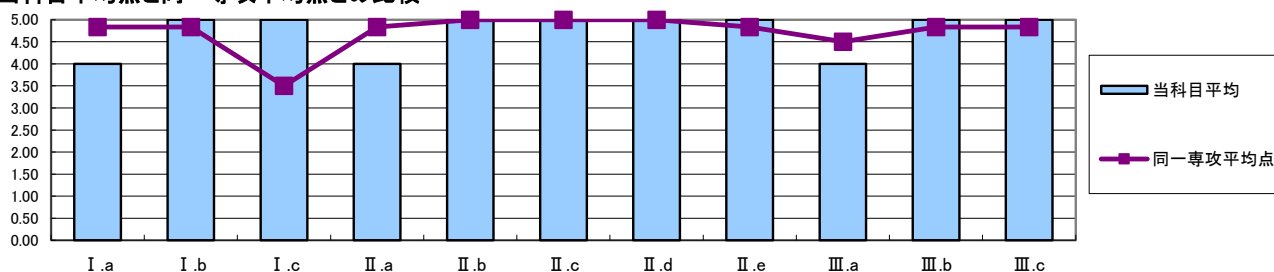
科目名	音楽実技
教員名	河野 玲子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.83
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.83
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.50
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.83
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.83
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂專門教育科目

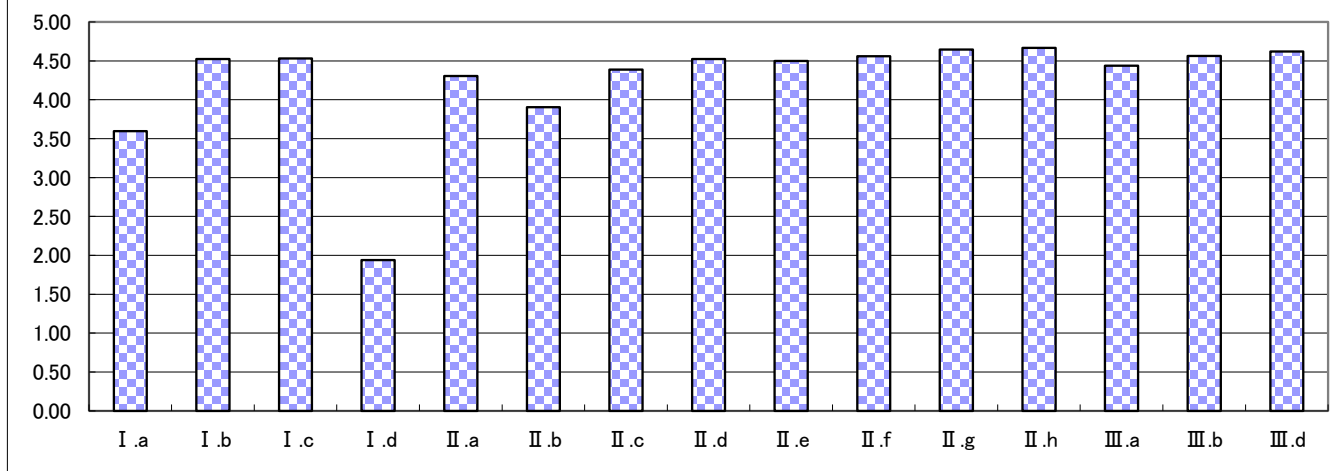
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	07. 音楽専門教育科目
科目数	102

履修者数	1,175
回答者数	925

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.59	311 33.7	259 28.1	150 16.3	74 8.0	129 14.0	923	2
	b	4.52	610 66.1	218 23.6	64 6.9	30 3.3	1 0.1	923	2
	c	4.53	595 64.7	241 26.2	66 7.2	13 1.4	5 0.5	920	5
	d	1.94	79 8.6	56 6.1	109 11.8	163 17.7	513 55.8	920	5
II	a	4.30	506 55.0	209 22.7	190 20.7	9 1.0	6 0.7	920	5
	b	3.90	108 11.7	188 20.4	560 60.7	32 3.5	35 3.8	923	2
	c	4.39	555 60.1	201 21.8	143 15.5	19 2.1	5 0.5	923	2
	d	4.52	622 67.3	188 20.3	93 10.1	17 1.8	4 0.4	924	1
	e	4.50	607 65.9	190 20.6	105 11.4	14 1.5	5 0.5	921	4
	f	4.56	644 69.8	170 18.4	93 10.1	10 1.1	5 0.5	922	3
	g	4.64	695 75.5	150 16.3	55 6.0	13 1.4	7 0.8	920	5
	h	4.67	697 75.6	156 16.9	61 6.6	4 0.4	4 0.4	922	3
III	a	4.44	534 58.0	274 29.8	100 10.9	8 0.9	5 0.5	921	4
	b	4.56	637 69.3	190 20.7	71 7.7	14 1.5	7 0.8	919	6
	c	-	697 77.0	374 41.3	358 39.6	216 23.9	139 15.4	905	20
	d	4.62	585 74.1	131 16.6	54 6.8	15 1.9	4 0.5	789	136

07. 音楽専門教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

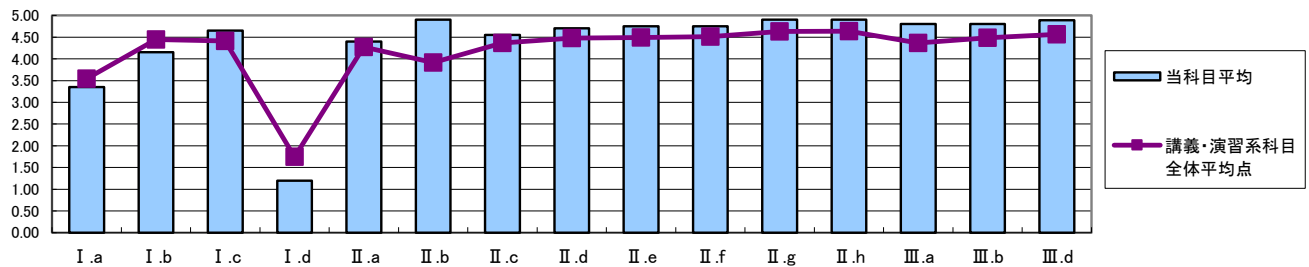
科目名	指揮法b
教員名	粕谷 宏美

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	23
回答者数	20

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.35	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.15	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.65	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.90	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.90	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.00</td> <td>50.00</td> <td>30.00</td> <td>15.00</td> <td>5.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	80.00	50.00	30.00	15.00	5.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
80.00	50.00	30.00	15.00	5.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

・科目の目的、内容
 教育現場における授業や部活動指導において、美しくわかりやすい指揮によって、音楽性豊かな演奏に導くために必要な技法を身につけることが目的である。
 そのために、コンコーネや共通教材などをテキストにして、①叩き ②平均運動 ③しゃくい の3つの技法を身につけていく。

・授業形態
 講義、演習、ペアワーク、個人レッスン、発表、相互評価

・授業者数
 23名

・開講曜日、時限
 木曜日 2限

・受講者の状況及び集計結果
 指揮法の授業としては大人数であるが、受講生ひとり一人が意欲的、主体的に取り組んでいた。学生アンケートの集計結果は概ね平均値以上であったが予習、復習は難しかったようで平均値を下回っている。次年度の課題として受けとめ、改善していく必要がある

● 問題点

学生の評価や自由記述からほとんどの学生が、授業目的を理解して楽しく授業に取り組めたようである。しかし、学生にとっては自学自習は難しかったようであり、この点については予習、復習をしなければならない授業のあり方について、工夫、改善をしていくこととする。

● 改善の方策

本科目は本来であれば十分な個人レッスンが必要な科目である。しかし、大人数であっても一人ひとりにきめ細かい指導をすることを心がけ、理解度や満足度を高めていきたい。
 そのために、各授業で修得すべき技法の到達目標をより明確にしていくとともに、グループでの発表や個人発表を多く取り入れていく。さらに、毎回の授業において、質問タイムや希望者に対する個人レッスンを設定し、学生の理解度や満足度を高めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

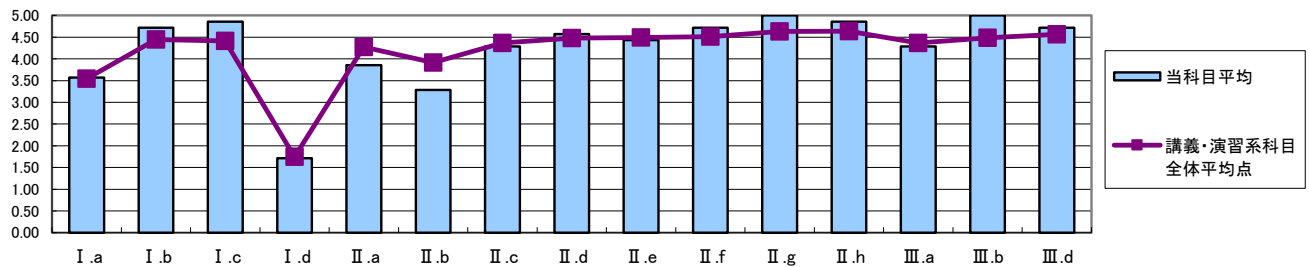
科目名	音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	9
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.57	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.71	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.71	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.29	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.29	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>42.86</td> <td>85.71</td> <td>28.57</td> <td>14.29</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	42.86	85.71	28.57	14.29
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	42.86	85.71	28.57	14.29														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

POPSにも必要な音楽の基礎理論を学ぶ授業。

● 問題点

最初に試験をし（この試験問題は短大の楽典の試験の案としてのもを採用）、八十点以上取った学生は、この授業は取らなくていいことは伝えたにも関わらず、対象学年1年生全員が履修。中には二校から来た学生もいて、知識の格差は否めない。
しかしながら生まれて初めて楽典の本を見た学生もいて、一から「音符とは」をやりつつ、あらかた理解している学生が不利にならないよう努めているつもりです。

● 改善の方策

よりPOPS仕立てのリズム（クラシックには出てこない『swing』等）やコードネーム（和声学のそれとは違うアプローチ・時にはジャズ理論も取り入れ）、実際にスタジオで著名アーティストのレコーディングで使用したアレンジ譜面・音源を使用することで学生の興味はマックスとなりクラシックに寄った知識とは異なるアプローチでの解説の意義を感じている。附属生も知らないことばかりのようで、この方法が現状ではベストではないかと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

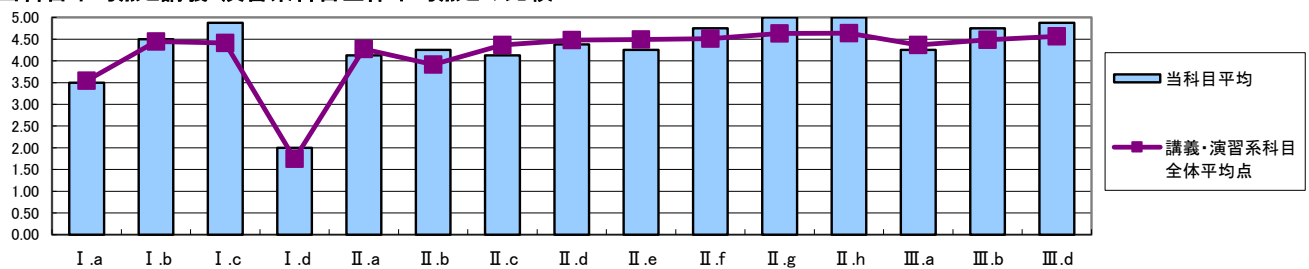
科目名	ライブパフォーマンス&スタッフワークB
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	12
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>75.00</td> <td>87.50</td> <td>62.50</td> <td>75.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	75.00	87.50	62.50	75.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	75.00	87.50	62.50	75.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

まさに、学生による学生のための「制作・演者として各々の立場で制作現場を全うすること、そのために必要な作業とは何か？」を実践・発表するの授業。後期でもチームワーク・制作意図～制作プロデュースの役割等、朗読劇完成～発表（本番）に至るまでのプロセスを学ぶ授業。

● 問題点

内容を共有するために使用するLINEによる確認作業の中で、既読（読んでいるのに返事をしない）・未読（そもそも呼んでもいない）が問題に。

● 改善の方策

SNSの使い方を徹底的に指導。

またエンタメ業界では、例えば映画やドラマ、舞台の場合、初めての顔合わせで初めて本読みをする。初対面がほとんどで、演じる側も照明・PAといったスタッフも初顔合わせ。

そんな中「あの人は嫌だ」「あの言葉で傷ついた」などの言葉はプロの現場では聞かれない。

昨今のコンプライアンスは重々承知するが、「親の死に目にも会えない」というのがプロの現場。これらも伝授し、演者とスタッフへの相互のリスペクト・感謝の心が無いと業界ではやっていけないということをコンプライアンスに抵触しないよう心がけながら伝えています。

エンタメ現場のリハーサルをPACSで実践！をテーマに学生にもこの糸を理解していただけるよう心がけている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

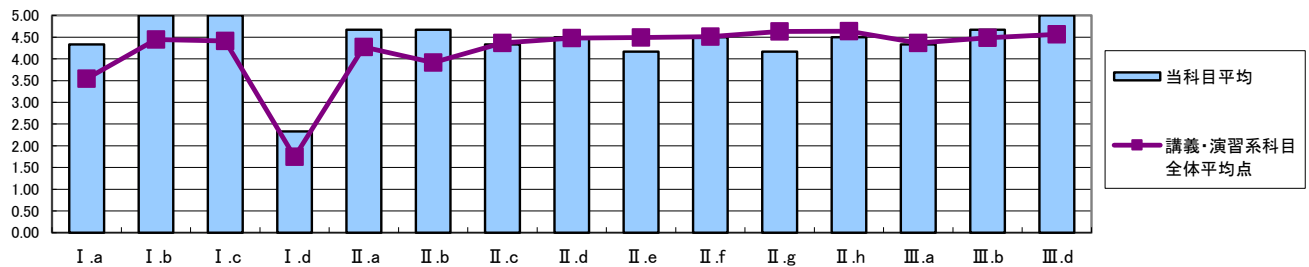
科目名	THE 業界人～仕事の流儀IB～
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.17	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>83.33</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>16.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	83.33	50.00	0.00	16.67
	回答率																	
5	4	3	2	1														
83.33	83.33	50.00	0.00	16.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1Bでは、俳優で声優・洗足学園大学アニメ声優コース名誉教授：森田順平先生による朗読劇の指導が主になっている。実践の朗読劇と同じように指導。発表は記念館。

● 問題点

スタッフ役の学生がドタキャンしたりもあって、森田先生から厳しく指導もあった。コンプライアンスに抵触しない範囲で、業界の厳しさを伝えている。入学前から「この大学はエンタメ業界のリハーサル場である」と話し、納豆した上で入学しているので、ある程度自覚はあるものの、言い訳（自己都合）をしり学生もいる。

● 改善の方策

体調管理も仕事のうち、と業界で当たり前のことを、あえて指導する。コンプライアンスに抵触しないよう、**ハラスメントと言われぬよう、きめ細やかな指導を講師にはお願いしている。そのため、むしろ「もっと厳しくダメ出ししてほしい」と物足りなさを感じている学生もいるので（しかし、これをやると、やれ厳しい、だの始まりかねない）、バランスよく指導することを心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

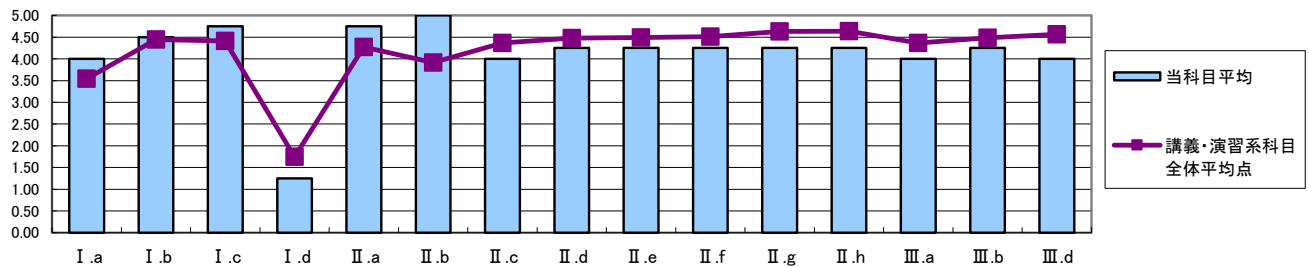
科目名	THE 業界人～仕事の流儀ⅡB～
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	66.67	0.00	33.33
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	100.00	66.67	0.00	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

エンタメ業界で今も第一線で活躍する講師陣によるオムニバス講義学生はどのジャンルでもよく学び、よく発言していると思います。

● 問題点

自身の興味によって、モチベーションの格差があるのは否めない。

● 改善の方策

どんな場合でも、社会に出ればいろんな方々と仕事をする。その免疫をつける授業でもあるのですが講師陣には「自身の自慢話は避けながら、エンタメ業界の未来にはどういう人材が必要か」という、未来に向けて若手がどう羽ばたけるかの講義をしていただくと同時に、AIとの仕事についても言及していただき、「人間だからできること、人間にしかない換気力・感動・達成感といった思考回路を通じ、『感動を分かち合える仕事』についての話をさせていただくようにしている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

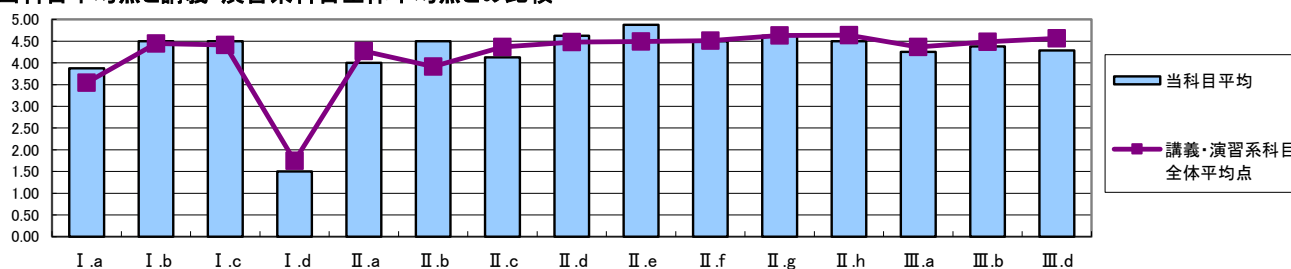
科目名	西洋音楽史
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	10
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.88	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>62.50</td> <td>62.50</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>25.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	62.50	62.50	50.00	0.00	25.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
62.50	62.50	50.00	0.00	25.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.29	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

POPS洋楽に特化した授業であるが、学生にとって興味の薄い年代やアーティストに触れることで、新たな好奇心につながることはできたと思う。
 アフリカのコラから始まった労働歌がブルースを産み、のちのジャズやミュージカルにも発展する様子を興味深く聞いていた。
 しかし全ての年代やアーティストを紹介しきれず、むしろ学生の方から「この年代のこのアーティストをみんなに紹介したい」という申し出もあって、一緒に授業を作る感覚があった。
 社会現象と商業音楽の一旦にも触れて、時には人種差別の中から生まれたヒット曲に感銘を受ける学生も多く、学生にも大いに発言・感想・発表に参加していただき、さらなる学生の好奇心をくすぐる授業を目指したい。

● 問題点

興味のない年代等、いかに学生が好奇心・探究心を持つか、をこちらも研究している。
 また、教室の変更には告知をしっかりとすべきと反省。

● 改善の方策

学生との対話を重視し、学生のリクエストにも迅速に応えられる授業を目指す。
 昨今は、YouTube等でいくらでも情報を得ることが出来るが、担当講師の「推し」が、なぜ、推しなのかをしっかりと説明し、「良い音楽とは何か」を心に響く言葉で伝えたい

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

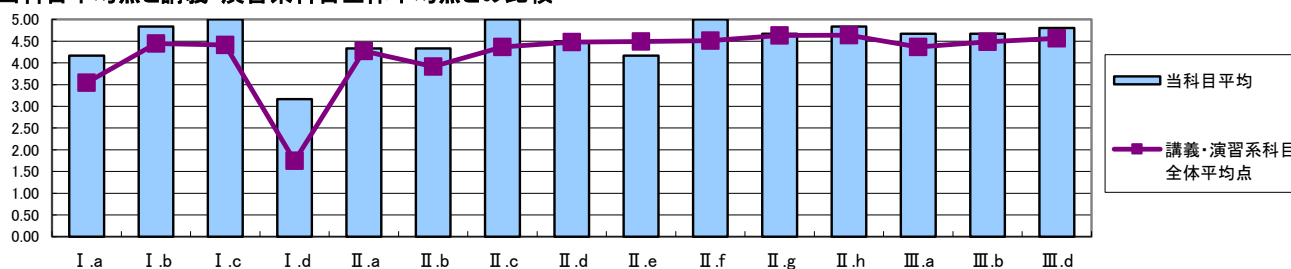
科目名	P.A.C.S.8
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	7
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.17	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.83	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.17	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	66.67	0.00	33.33	66.67	66.67
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
66.67	0.00	33.33	66.67	66.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

卒業制作のための授業。4年間の集大成。
 全て学生による構成・脚本・スタッフ（PA、照明、撮影以外）・衣装・振り付け・動画制作・
 動画編集・音源制作・作編曲・作詞・演者・演奏・歌唱。
 プロのスタッフ（PA、照明、撮影スタッフ）とのコミュニケーションにより、
 より深い実践の構築を学べる。

● 問題点

就活との兼ね合いでお稽古を休む学生もいて、事情を理解するも不満の声もでる

● 改善の方策

課題を与えて、積極的に出席している学生との格差や不満を軽減させるよう配慮。
 演目に無理がないかも、事前にチェックしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

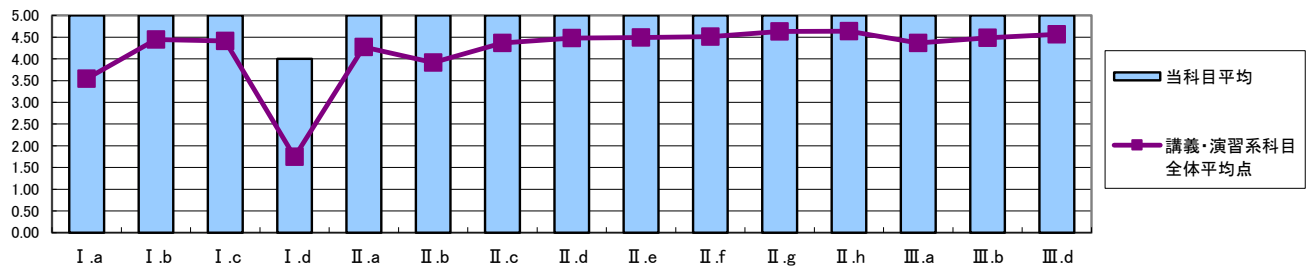
科目名	室内楽 I Bg
教員名	宮野 陽子

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	0.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

弦楽器の室内楽。
 色々な形態のアンサンブルを経験することによって、他の楽器と共演する時のノウハウを身に付けていく。音程はもちろん、音色や発音のタイミングを合わせることに留意しながら、自分の個性も発揮する。テンポ感やイメージの共有をするために、コミュニケーションも大事である。
 ソロでは身に付けることができないが、音楽をする上で大切なことを沢山学ぶことができる授業である。
 毎年、弦楽器の過半数の人が受講し、ピアノや木管楽器も履修、参加してくれて、様々な編成の室内楽を楽しんでいる。グループ数が6~8に及ぶので1コマでは足りなく、時間を延長して行っている。1グループ30分のレッスン形式で、各グループが凡そ各週でレッスンを受けている。
 チェロは研究員、ヴィオラはヴァイオリンの学生が持ち替えて弾いている。
 昨年は授業前に合わせる時間が取れない、と授業で初合わせになるグループもいたが、オケ授業の前後で時間を作って、合わせをしてから授業に臨むということも、定着してきた。
 確実にスキルは上がってきているが、年々選曲の難易度が上がっていて、名曲を取り上げるグループが増えている。が、まだ音楽性まで追求できるグループは少ない。
 集計結果から、シラバスが活用されていないことがわかるが、これはこの様な形態の授業では仕方ない事だと思う。

● 問題点

様々なスキルや知識を取得し、曲を完成させることで達成感も感じられているようである。しかし、室内楽は本来はもっと緻密に作り上げるもので、音程合わせ、バランスなどはあまり重要視されていないように感じる。楽譜の読み方も甘い。自分の好きな曲が弾けた、という満足感で終わらないようにしてもらいたい。

● 改善の方策

基本となる、弦楽四重奏を弾く時の練習の進め方を教えていきたいと思う。音程の合わせ方、動きが複雑な部分の合わせの仕方など。またスコアを見る意識は大分ついてきたので、それをどう読み解くかも、丁寧に教えて行こうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

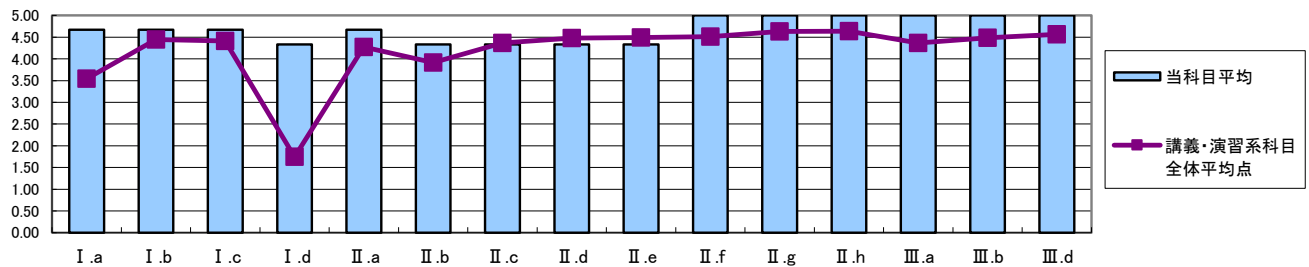
科目名	室内楽ⅡBg
教員名	宮野 陽子

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	66.67	0.00	33.33
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	100.00	66.67	0.00	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

弦楽器の室内楽。
 色々な形態のアンサンブルを経験することによって、他の楽器と共演する時のノウハウを身に付けていく。
 音程はもちろん、音色や発音のタイミングを合わせることに留意しながら、自分の個性も発揮する。テンポ感やイメージの共有をするために、コミュニケーションも大事である。
 ソロでは身に付けることができないが、音楽をする上で大切なことを沢山学ぶことができる授業である。
 毎年、弦楽器の過半数の人が受講し、ピアノや木管楽器も履修、参加してくれて、様々な編成の室内楽を楽しんでいる。グループ数が6~8に及ぶので1コマでは足りなく、時間を延長して行っている。1グループ30分のレッスン形式で、各グループが凡そ各週でレッスンを受けている。
 チェロは研究員、ヴィオラはヴァイオリンの学生が持ち替えて弾いている。
 昨年は授業前に合わせる時間が取れない、と授業で初合わせになるグループもいたが、オケ授業の前後で時間を作って、合わせをしてから授業に臨むということも、定着してきた。
 確実にスキルは上がってきているが、年々選曲の難易度が上がっていて、名曲を取り上げるグループが増えている。が、まだ音楽性まで追求できるグループは少ない。
 集計結果から、シラバスが活用されていないことがわかるが、これはこの様な形態の授業では仕方ない事だと思う。

● 問題点

様々なスキルや知識を取得し、曲を完成させることで達成感も感じられているようである。しかし、室内楽は本来はもっと緻密に作り上げるもので、音程合わせ、バランスなどはあまり重要視されていないように感じる。楽譜の読み方も甘い。自分の好きな曲が弾けた、という満足感で終わらないようにしてもらいたい。

● 改善の方策

基本となる、弦楽四重奏を弾く時の練習の進め方を教えていきたいと思う。音程の合わせ方、動きが複雑な部分の合わせの仕方など。またスコアを見る意識は大分ついてきたので、それをどう読み解くかも、丁寧に教えて行こうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

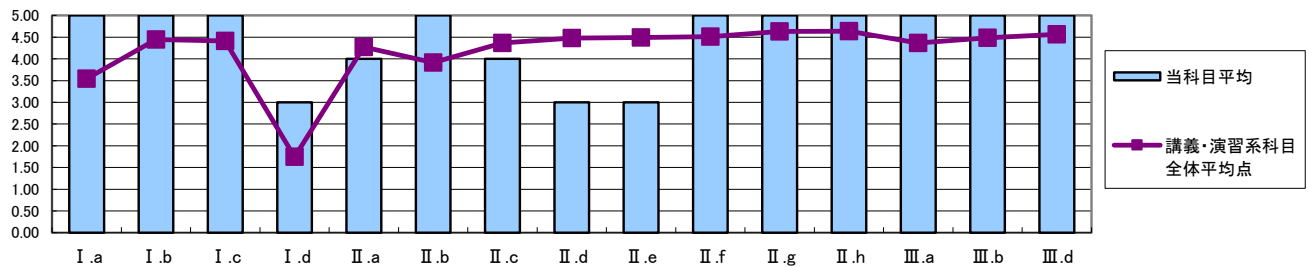
科目名	室内楽ⅢBg
教員名	宮野 陽子

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.00</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	0.00	100.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
0.00	100.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

弦楽器の室内楽。
 色々な形態のアンサンブルを経験することによって、他の楽器と共演する時のノウハウを身に付けていく。音程はもちろん、音色や発音のタイミングを合わせることに留意しながら、自分の個性も発揮する。テンパ感やイメージの共有をするために、コミュニケーションも大事である。
 ソロでは身に付けることができないが、音楽をする上で大切なことを沢山学ぶことができる授業である。
 毎年、弦楽器の過半数の人が受講し、ピアノや木管楽器も履修、参加してくれて、様々な編成の室内楽を楽しんでいる。グループ数が6~8に及ぶので1コマでは足りなく、時間を延長して行っている。1グループ30分のレッスン形式で、各グループが凡そ各週でレッスンを受けている。
 チェロは研究員、ヴィオラはヴァイオリンの学生が持ち替えて弾いている。
 昨年は授業前に合わせる時間が取れない、と授業で初合わせになるグループもいたが、オケ授業の前後で時間を作って、合わせをしてから授業に臨むということも、定着してきた。
 確実にスキルは上がってきているが、年々選曲の難易度が上がっていて、名曲を取り上げるグループが増えている。が、まだ音楽性まで追求できるグループは少ない。
 集計結果から、シラバスが活用されていないことがわかるが、これはこの様な形態の授業では仕方ない事だと思う。

● 問題点

様々なスキルや知識を取得し、曲を完成させることで達成感も感じられているようである。しかし、室内楽は本来はもっと緻密に作り上げるもので、音程合わせ、バランスなどはあまり重要視されていないように感じる。楽譜の読み方も甘い。自分の好きな曲が弾けた、という満足感で終わらないようにしてもらいたい。

● 改善の方策

基本となる、弦楽四重奏を弾く時の練習の進め方を教えていきたいと思う。音程の合わせ方、動きが複雑な部分の合わせの仕方など。またスコアを見る意識は大分ついてきたので、それをどう読み解くかも、丁寧に教えて行こうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

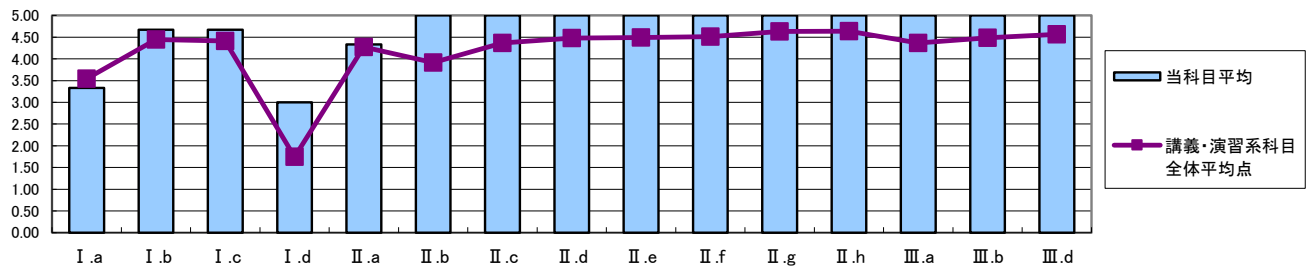
科目名	室内楽IVBg
教員名	宮野 陽子

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	66.67	66.67	66.67	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	66.67	66.67	66.67	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

弦楽器の室内楽。
 色々な形態のアンサンブルを経験することによって、他の楽器と共演する時のノウハウを身に付けていく。音程はもちろん、音色や発音のタイミングを合わせることに留意しながら、自分の個性も発揮する。テンポ感やイメージの共有をするために、コミュニケーションも大事である。
 ソロでは身に付けることができないが、音楽をする上で大切なことを沢山学ぶことができる授業である。
 毎年、弦楽器の過半数の人が受講し、ピアノや木管楽器も履修、参加してくれて、様々な編成の室内楽を楽しんでいる。グループ数が6~8に及ぶので1コマでは足りなく、時間を延長して行っている。1グループ30分のレッスン形式で、各グループが凡そ各週でレッスンを受けている。
 チェロは研究員、ヴィオラはヴァイオリンの学生が持ち替えて弾いている。
 昨年は授業前に合わせる時間が取れない、と授業で初合わせになるグループもいたが、オケ授業の前後で時間を作って、合わせをしてから授業に臨むということも、定着してきた。
 確実にスキルは上がってきているが、年々選曲の難易度が上がっていて、名曲を取り上げるグループが増えている。が、まだ音楽性まで追求できるグループは少ない。
 集計結果から、シラバスが活用されていないことがわかるが、これはこの様な形態の授業では仕方ない事だと思う。

● 問題点

様々なスキルや知識を取得し、曲を完成させることで達成感も感じられているようである。しかし、室内楽は本来はもっと緻密に作り上げるもので、音程合わせ、バランスなどはあまり重要視されていないように感じる。楽譜の読み方も甘い。自分の好きな曲が弾けた、という満足感で終わらないようにしてもらいたい。

● 改善の方策

基本となる、弦楽四重奏を弾く時の練習の進め方を教えていきたいと思う。音程の合わせ方、動きが複雑な部分の合わせの仕方など。またスコアを見る意識は大分ついてきたので、それをどう読み解くかも、丁寧に教えて行こうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

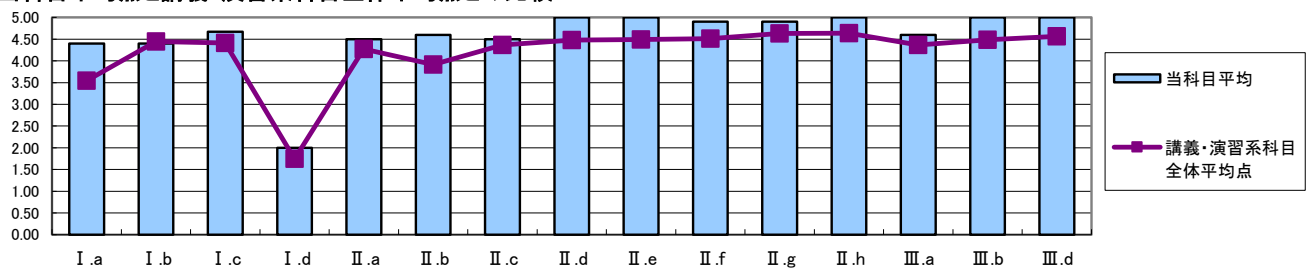
科目名	教育総合科目(教職実践)IB
教員名	大熊 信彦

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	10
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.90	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.90	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.00</td> <td>90.00</td> <td>70.00</td> <td>60.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	90.00	90.00	70.00	60.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
90.00	90.00	70.00	60.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、学校の教員として、また、音楽科の教員として求められる資質・能力を高めることです。履修者は教職実践専攻生です。そこで授業では、教員採用選考試験の受験も見据えて、専門教養に関連する実技（ギター、和楽器（箏））、専門教養（音楽）の理解、学習指導案の作成と模擬授業についての講義、グループ協議、演習、発表などを行いました。

金曜日の1時限に10人の学生が履修しましたが、授業に臨む学生の姿勢は積極的で、目的意識を持って真摯に取り組みました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、「授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすい」「資料は内容を理解する上で効果的」「教員の熱意や工夫が感じられた」「内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」「総合的に判断して、意義あるものだった」について、学生全員が「強くそう思う」と答えました。

また、「自分のためになったこと」の問いについて、当科目の回答率を講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、全ての問いにおいて当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回っていました。

このような結果の要因として、前述のとおり目的意識の高い学生が受講していること、当科目の内容が、受講する学生にとって必要な学びであることが考えられます。

● 問題点

「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して、「4時間」が1人、「3時間」が2人、「2時間」が3人、そして、「1時間未満」が4人の回答でした。また、「開講時に成績評価の基準が明確に示されていた」に「強くそう思う」と答えた学生は6人（60%）に留まりました。

● 改善の方策

教職実践専攻生が学ぶ本科目は、次の時代の音楽科教育の担い手を育むことに直接・間接につながっています。そこで、今後は、学生が予習、復習を効果的に行うことを促して、自らの能力を一層高めるとともに、学生同士で協働する活動を充実させていく必要があります。この視点で、成績評価の基準の一層の明確化も含めて、授業計画や内容の改善を図っていきたいと考えます。さらに、学生の入学から卒業までを見通して、「教職特講Ⅰ～Ⅳ」及び「教育総合科目Ⅰ～Ⅱ」の学修内容や系統性などを整理することで、学生にとって意義ある学びとなるように改善していきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

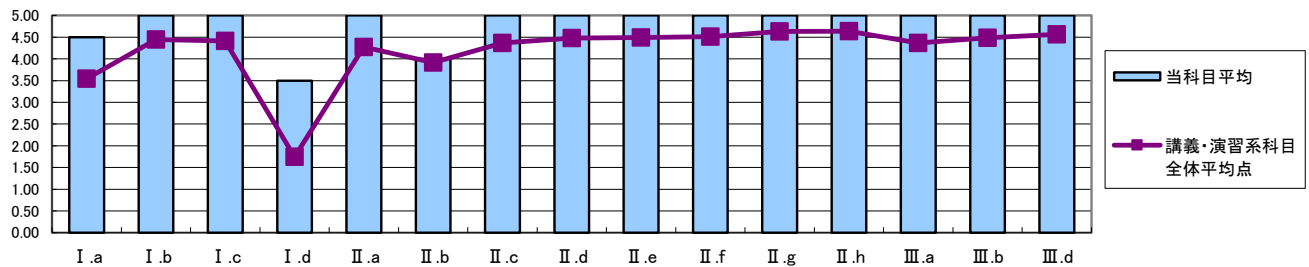
科目名	室内楽ⅡBc
教員名	佐々木 雄二

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	50.00	50.00	50.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	50.00	50.00	50.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

科目名 同族楽器アンサンブル1～4サクソフォン
 講義・演習科目系 室内楽Bcにおけるクラス、又は受講学生についてと学生アンケート集計結果の分析。
 この授業は、毎週木曜日の6時限におこなわれている。通年の授業で、前期は主にサクソフォン4重奏を、後期は主にサクソフォンラージアンサンブルの編成で行った。
 前期は、4重奏のチームを3～4団体編成して、それぞれのチームに異なった曲を指定して教材した。
 チームを組むに当たってもっとも難しい事は、それぞれの学生に演奏技量の差があり、技量差のバランスを考慮してチームを組み上げる事である。一人2チームに属することによって、学生に与える不公平感が少しでも軽減され、学生の力量バランスが保たれるのではないかと考えた。しかしこのチーム編成が学生にとって最も有利な方法であるかは、疑問点も残るが、今後この授業をより良い内容にして行くには、問題点を洗いだしつつ次に続けて行きたいと考える。
 また学生のコミュニケーション能力やグループの中で自分の考え方、あるいはの意見を発信できる積極性を学生それぞれが身に付けるという観点から、日頃の授業で学生の自主性を促す更なる工夫が教員側から発信される必要があると考える。
 後期に行っているサクソフォンラージアンサンブルにおいては、曲作りに時間がかかり又曲についての説明や、演奏上の注意、音程、音質、音色等に対する注意や説明に多くの時間を費やして、学生からの考え方や積極性を引き出すくふ時間を作るべきだと考える

● 問題点

学生個人個人の音楽的能力をより細かく把握する必要があると考える。アンサンブルの授業では同じ言葉を使っても学生によって、リアクションが異なる場合があり、言葉を選ばないといけないと感じる時がある。

● 改善の方策

学生のおおの個性と今現在の音楽的力量を理解し、現時点でそれぞれに最も適した指導方法を考えて行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

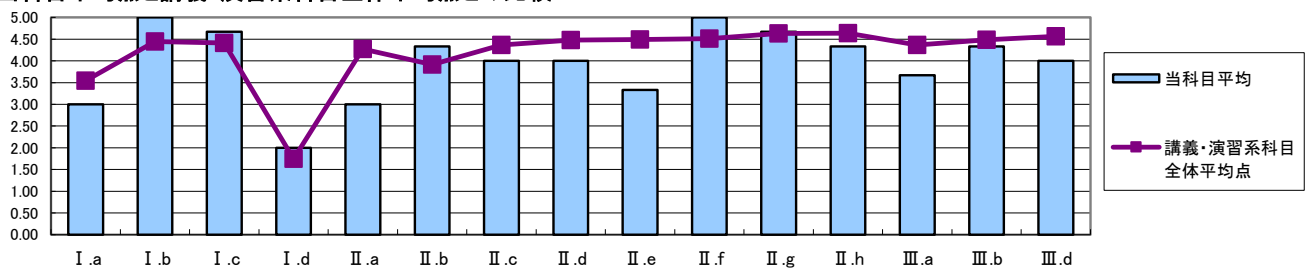
科目名	室内楽ⅢBc
教員名	佐々木 雄二

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	66.67	66.67	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	100.00	66.67	66.67	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

科目名 同族楽器アンサンブル1~4サクソフォン
 講義・演習科目系 室内楽Bcにおけるクラス、又は受講学生についてと学生アンケート集計結果の分析。
 この授業は、毎週木曜日の6時限におこなわれている。通年の授業で、前期は主にサクソフォン4重奏を、後期は主にサクソフォンラージアンサンブルの編成で行った。
 前期は、4重奏のチームを3~4団体編成して、それぞれのチームに異なった曲を指定して教材した。
 チームを組むに当たってもっとも難しい事は、それぞれの学生に演奏技量の差があり、技量差のバランスを考慮してチームを組み上げる事である。一人2チームに属することによって、学生に与える不公平感が少しでも軽減され、学生の力量バランスが保たれるのではないかと考えた。しかしこのチーム編成が学生にとって最も有利な方法であるかは、疑問点も残るが、今後この授業をより良い内容にして行くには、問題点を洗いだしつつ次に続けて行きたいと考える。
 また学生のコミュニケーション能力やグループの中で自分の考え方、あるいはの意見を発信できる積極性を学生それぞれが身に付けるという観点から、日頃の授業で学生の自主性を促す更なる工夫が教員側から発信される必要があると考える。
 後期に行っているサクソフォンラージアンサンブルにおいては、曲作りに時間がかかり又曲についての説明や、演奏上の注意、音程、音質、音色等に対する注意や説明に多くの時間を費やして、学生からの考え方や積極性を引き出すくふ時間を作るべきだと考える

● 問題点

学生個人個人の音楽的能力をより細かく把握する必要があると考える。アンサンブルの授業では同じ言葉を使っても学生によって、リアクションが異なる場合があり、言葉を選ばないといけないと感じる時がある。

● 改善の方策

学生のおおの個性と今現在の音楽的力量を理解し、現時点でそれぞれに最も適した指導方法を考えて行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

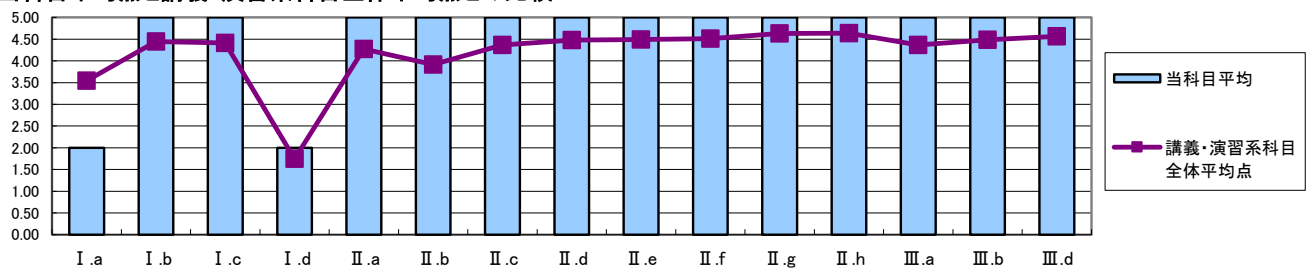
科目名	室内楽IVBc
教員名	佐々木 雄二

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

科目名 同族楽器アンサンブル1~4サクソフォン
 講義・演習科目系 室内楽Bcにおけるクラス、又は受講学生についてと学生アンケート集計結果の分析。
 この授業は、毎週木曜日の6時限におこなわれている。通年の授業で、前期は主にサクソフォン4重奏を、後期は主にサクソフォンラージアンサンブルの編成で行った。
 前期は、4重奏のチームを3~4団体編成して、それぞれのチームに異なった曲を指定して教材した。
 チームを組むに当たってもっとも難しい事は、それぞれの学生に演奏技量の差があり、技量差のバランスを考慮してチームを組み上げる事である。一人2チームに属することによって、学生に与える不公平感が少しでも軽減され、学生の力量バランスが保たれるのではないかと考えた。しかしこのチーム編成が学生にとって最も有利な方法であるかは、疑問点も残るが、今後この授業をより良い内容にして行くには、問題点を洗いだしつつ次に続けて行きたいと考える。
 また学生のコミュニケーション能力やグループの中で自分の考え方、あるいはの意見を発信できる積極性を学生それぞれが身に付けるという観点から、日頃の授業で学生の自主性を促す更なる工夫が教員側から発信される必要があると考える。
 後期に行っているサクソフォンラージアンサンブルにおいては、曲作りに時間がかかり又曲についての説明や、演奏上の注意、音程、音質、音色等に対するの注意や説明に多くの時間を費やして、学生からの考え方や積極性を引き出すくふ時間を作るべきだと考える

● 問題点

学生個人個人の音楽的能力をより細かく把握する必要があると考える。アンサンブルの授業では同じ言葉を使っても学生によって、リアクションが異なる場合があり、言葉を選ばないといけないと感じる時がある。

● 改善の方策

学生のおおの個性と今現在の音楽的力量を理解し、現時点でそれぞれに最も適した指導方法を考えて行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

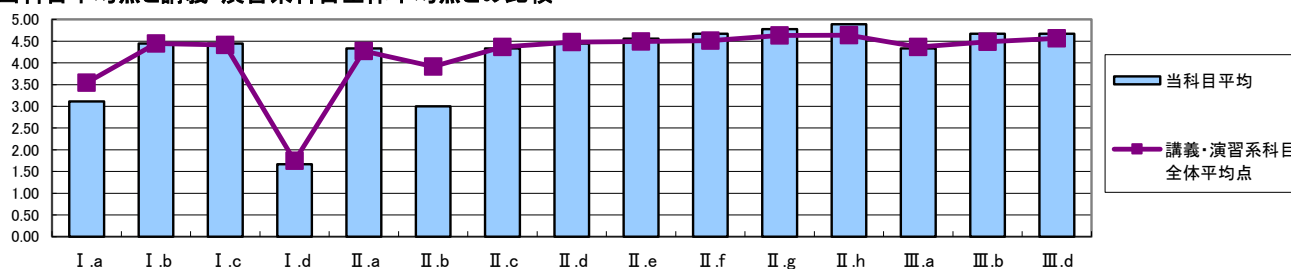
科目名	P.A.C.S.2
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	9
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.11	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.44	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.44	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.44	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.56	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.78</td> <td>100.00</td> <td>44.44</td> <td>33.33</td> <td>22.22</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	77.78	100.00	44.44	33.33	22.22
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
77.78	100.00	44.44	33.33	22.22														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

エンターテインメントを含む芸術作品が、どのような歴史や社会を背景として持っているのかを映像作品を通して読み解いて行く授業を展開した。ドイツ、アメリカ、フランス、イギリス、イタリア、ロシア各国の文学作品の紹介と解説を行い、その後文学作品を映画化したビデオをみながら、それぞれの国の芸術作品の特徴を社会的、歴史的視点を踏まえて説明、解釈した。

● 問題点

それぞれの国の社会や歴史の基本的な知識が学生に共有されていないので、作品の問題点を抽出し、それぞれの特徴を議論し理解することが出来なかった。その結果、それぞれの国の歴史や社会についての概論的な説明が必要になり、作品自体の問題性を議論するまでには行きつかなかった。

● 改善の方策

扱う国々の社会的背景や歴史のレジュメを作成し、学生がその知識を踏まえて論拠を持った作品解釈が出来るように工夫する。最終的には各国の作品を社会的、歴史的視点からクリティカルに解釈できるように方法論の意識を植え付け、精密な作品批評を表現出来るようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

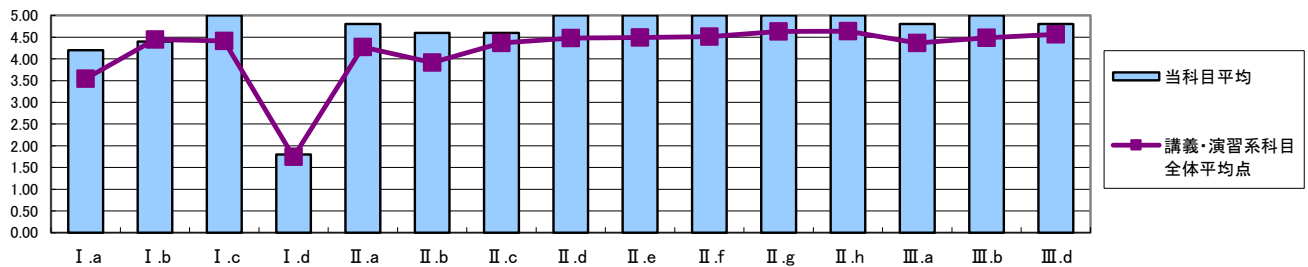
科目名	The Science of Sound(音の科学)B
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>60.00</td> <td>80.00</td> <td>0.00</td> <td>20.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	60.00	80.00	0.00	20.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	60.00	80.00	0.00	20.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、受講生に関心の高い「音」を題材に、音楽とは異なる視点から「音」を捉え、科学的な検証、考察を通して、学習者の考える力を養うことを目的とした。膨大なデータから傾向を導き出すことの意義を捉え、受講生自身で分析を進める過程で主体的に取り組む姿勢も求められる。受講生は3年生を中心とし、講義・演習の混合形式ではあるが、ゼミ形式の授業展開となった。全体として、意欲・関心の高い受講生が多く、毎回活発な議論が交わされた。

● 問題点

音声学・音韻論を中心に、特定の学問領域について専門的に学びを深めることがあるため、やや難しいと感じる受講生がいた。

● 改善の方策

本科目では、指定の教材はなく、毎週教員が用意したプレゼンテーションを聞きながら、受講生自身が大切なポイントを自身のノートにまとめていく形式を採用した。そのため、なるべく平易な言葉で解説し、用意する資料も視覚的にわかりやすいよう一層改善に努める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

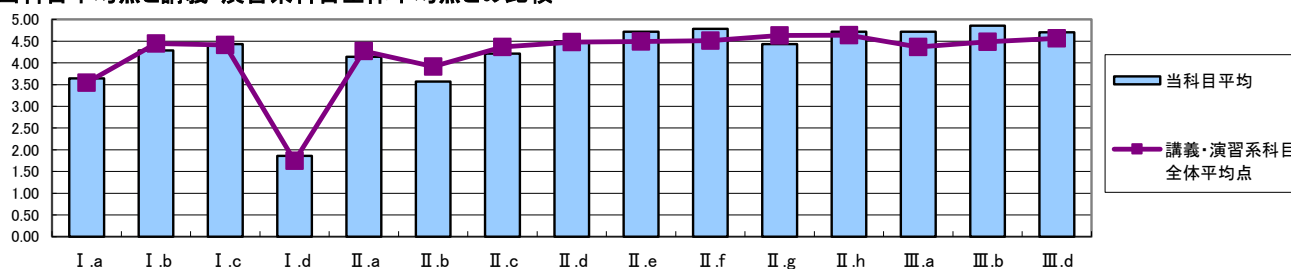
科目名	教材伴奏法 I Bb
教員名	平田 紀子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	17
回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.64	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.29	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.86	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.14	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.21	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.79	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.43	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71.43</td> <td>14.29</td> <td>50.00</td> <td>7.14</td> <td>7.14</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	71.43	14.29	50.00	7.14	7.14
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
71.43	14.29	50.00	7.14	7.14														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.70	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講姿勢は良好である。各自の課題に合わせて皆が積極的に歌唱、よくさらえた曲には自主的に拍手するスタイルが保たれている。

コードネームを見ながら自分で伴奏を付ける授業では、持てる技能を開示し皆から賞賛される、得意分野として新たな自己の気づきができるといった学生もみられる。

授業初回に、授業の進め方や試験の方法・採点方法・対策などを作成しプリントにて配布、毎回各自のレベルに合わせて課題を出し、個別の教材を用いて指導している。

アンケートの結果はおおむね全体平均点と同じであった。高かったのは「授業内外における質問や相談の対応は適切」

「学習意欲を刺激し興味深いものだった」など。低かった項目は「難易度」「出席良好」であった。

自由記述については「一人一人をちゃんとみてくれた」「個人のレベルに合わせてとても丁寧に指導された」など、個別の対応に反応があった。

● 問題点

履修者20名弱・混合専攻の授業で、各自の技術に合わせ課題を決めるため、シラバス通りには進めない。

入学時のピアノの基礎技術が足りなく、課題をこなすことが困難な受講生が毎年一定数いる。

試験では各自の課題曲に向けて努力がみられる。基礎技術に不安を持つ受講生には平素の取り組みと積み重ねが課題と思われる。

● 改善の方策

この授業は元々実技（弾き歌い）が主たる目的なので、クラスを増やすなど、できるだけ「小グループで指導できる環境」が必要ではないかと感じる。

個々への課題を工夫して明確に提示し、引き続き内容を充実していく。基礎技術に不安な受講生には引き続き個別に対応していく。

全員での斉唱・合唱の他、互いにコメントし合うなどの時間を設け教職に必要な「コミュニケーション能力」を向上させたい。

コードネームの知識を身につけ「自分で考えて伴奏する」内容をさらに深める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

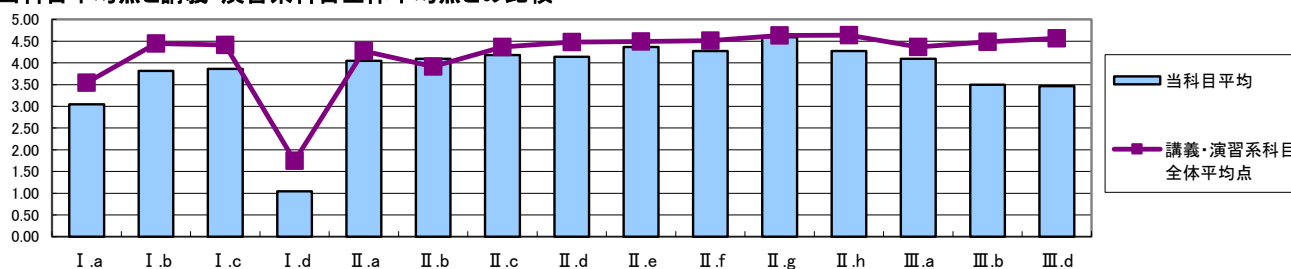
科目名	東邦スタンダードⅢBb
教員名	平田 紀子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	25
回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.05	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.82	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.86	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.05	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.05	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.09	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.18	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.36	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.27	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.59	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.27	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.09	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20.00</td> <td>40.00</td> <td>5.00</td> <td>10.00</td> <td>65.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	20.00	40.00	5.00	10.00	65.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
20.00	40.00	5.00	10.00	65.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.47	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

キャリアやインターン、就職や社会に出るための内容が主で、外部講師の高橋先生も熱意を持ち大変役に立つ講義をして下さり感謝している。

所見として「全体との比較」で比較的高かった項目は「難易度」「教科書や資料」であった。低かった項目は「予習復習」「出席」「熱意」であった。

設問Ⅲ-c『自分のためになったこと』に関しては「新しいものの見方」が40.0と高い回答率を示した。グループ討議や、授業各回で学生同士のディスカッションの場が持たれたためと思われる。

学期末のレポート試験は丁寧に書かれ、自身の課題など課題に真摯に取り組む姿勢がみられた。

アンケートの自由回答では「社会のことが学べて良かった」との記述がある反面「就活のことは就職したい人が選択して履修すれば」との意見があり、この傾向は数年変わらない。

授業内での小レポートや期末課題レポートでは「卒業生の講話」として音楽イベントスタッフの仕事の話が好評だった。またインターンシップの発表会は同級生の挑戦が刺激になったと見受けられた。

● 問題点

上記の自由記述や授業内の小レポートを散見すると、就職や進路など「社会人として自活すること」といったテーマに対して、学生による受け入れの温度差が大きいと感じられる。

「自立する・社会で生きていく」という「現実」を伝えようとする、夢や音楽をあきらめるといった誤解をされがちである。しかし演奏だけでなく音楽に関わることもできる、自分の資質を他の分野でも活かせる、といった多様な選択肢を伝えることが課題である。

選択は個々様々だがこの時期に「自立」を考えることは大切だと感じる。

● 改善の方策

この授業の意図を、初回にまた毎回明確にくり返し伝える。多様な進路・可能性・それに向かっていく方法がある。

また「社会人として自活する現実」が理解されるにはどのような働きかけが適切なのか模索する。

「身近な先輩の音楽の場・仕事の場での体験談」はより素直に受け入れられると思われる。

シラバスを活用するよう毎回の授業や掲示で告知を徹底する。

毎回の授業でまとめの記述と次回の授業に繋げるような課題を出すことで、予習・復習ができると感じる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

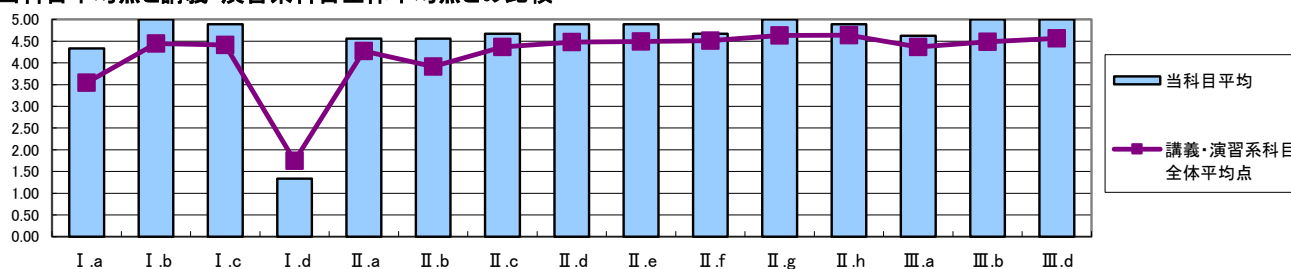
科目名	音楽療法的音楽論
教員名	平田 紀子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	9
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.89	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.56	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.56	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.89	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.63	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.78</td> <td>33.33</td> <td>77.78</td> <td>11.11</td> <td>11.11</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	77.78	33.33	77.78	11.11	11.11
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
77.78	33.33	77.78	11.11	11.11														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽療法専攻の必修科目(他専攻も受講可)、音楽療法専攻生の他に他専攻から一名受講があった。専攻・世代を越え共に学び相互交流でき、各専攻の演奏・創作や介護実習に活かせる内容なので、引き続き呼びかけたい。

所見として「全体との比較」では平均より高い数値がみられた。低かったのは一項目「予習・復習」であった。

「授業に対する教員の熱意や工夫」「学習意欲を刺激し興味深い」「総合的に判断して意義のあるもの」などで4.89~5.00点を得ることができた。

設問III-c「自分のためになったこと」については「新しい知識・技能」「関連分野の学習意欲」「新しいものの見方」についての回答率が高かった。自由記述にもそれが記されている。

受講者は熱心にメモを取りグループワークにも積極的で、取り組みの姿勢が良好であり、期末のレポート試験は各自の取り組みが十分になされていた。

● 問題点

内容はシラバスに沿っていたが、楽曲の数や長さ、解説により、進捗の前後が多少あった。また予習・復習に関して指示が徹底していなかった。

● 改善の方策

手作りの資料、私物の音源など駆使し、引き続き内容を充実していく。毎回の授業進行のアナウンス、予習・復習の仕方について説明を丁寧にする。他専攻にも実りのある授業を心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

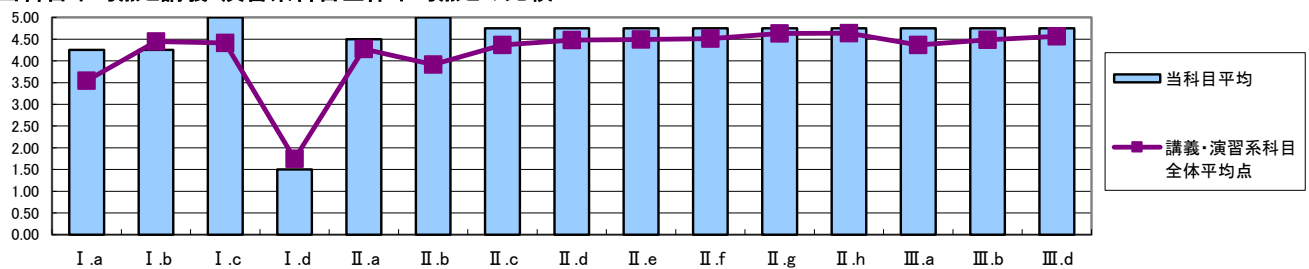
科目名	ショービズベシクソルフェージュB
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	50.00	50.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	50.00	50.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業では歌を通じてソルフェージュの基礎を学び、楽譜を正確に読み取る力を身に付けること、また、クラシックからポップスまで様々なジャンルの音楽上の基礎を学習し、正確な音程で歌唱することが可能となることを目的としています。水曜日2時限目に開講されており、4名の履修者が大変積極的に授業に臨んでおります。またアンケートの結果、設問II-b難易度については前年度に比べ難易度が高いとの回答はなく、全員が適切であると回答しております。予習復習においては1回の授業に対し3時間、2時間、1時間と解答が分散されていることが明らかになっております。

● 問題点

1回の授業に対し予習復習時間が1時間未満の履修者が半数おり、また、授業の難易度が高いという回答と低いという回答に別れていることが明確になっております。

● 改善の方策

次年度の授業においては意欲的に予習復習ができるよう、課題等工夫をする必要があると思料いたします。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

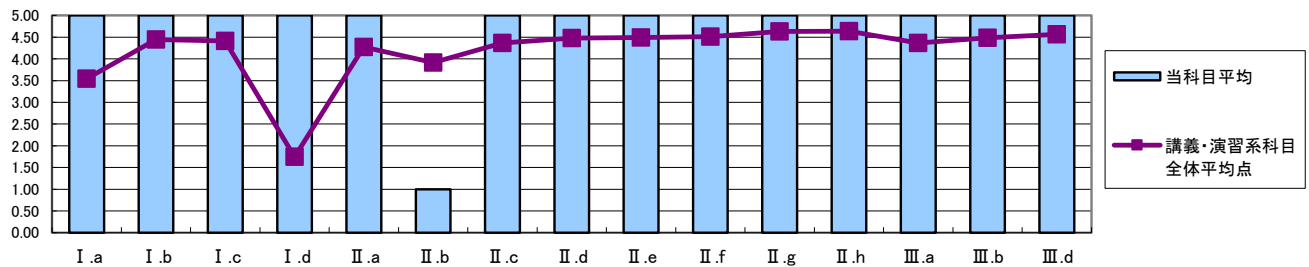
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力 I B
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	0.00	0.00	100.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	0.00	0.00	100.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

作曲家の肖像と作品の魅力 I Bにおいては1858年以降の年代の声楽曲を扱い授業を行っております。歌とは何か、歌の可能性とは何か、ロマン派後期から近現代の大きなうねりの中にいた作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとりながら、現在私たちが日常に楽しむ音楽のルーツを理解することを授業の目的としております。水曜日4時限目に開講しており、今回は1名の履修者がアンケートに回答しております。全ての設問回答が全体平均点より上回る結果となっております。この授業を通じ設問III-cから履修者の学習意欲の高さを感じることができます。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、全ての設問回答から授業の進め方には問題はありませんでした。

● 改善の方策

次年度もシラバスに沿った授業を基本としますが、学生のレベルにあわせた指導を心がける所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

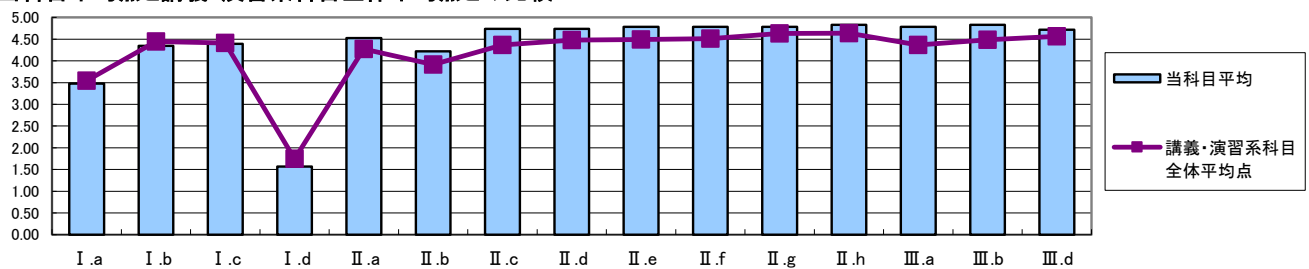
科目名	ソルフェージュ4a
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	28
回答者数	23

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.48	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.35	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.39	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.52	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.22	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.74	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.74	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.78	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>82.61</td> <td>17.39</td> <td>8.70</td> <td>21.74</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	82.61	17.39	8.70	21.74	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
82.61	17.39	8.70	21.74	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次のソルフェージュ2の成績に基づき、再編成してa、bの2クラスに分けた上位のクラスで、履修人数は28名である。授業時間は月曜日2限の週1コマ90分である。聴音、弾き歌い、新曲視唱(3a)、リズム打ち(4a)を中心に授業を進めた。試験は授業で扱った上記項目に準拠して行った。aクラスとはいえ他の学年と比較すると、同じ課題でもやや難度高いと感じたようで、こなすのに追いつかない者も多かった。そのため、今ある力やモチベーションを落とさなことを前提とした。

● 問題点

皆で声を出して歌う事はそれほど支障がないのだが、リズム打ちや特に聴音ではその差は大きく、問題に困っては集中力を欠いてしまう学生もいた。このクラスサイズで一つの課題を全ての学生に合うものとするのは作成も不可能である。課題が全員の能力に合うように十分配慮をして、出来る限り多様なレベルのことは行ったつもりではあるが、それでもやはり限界があった。ある課題が易しすぎてすぐ出てしまう学生は時間を持て余し、全体の足並みが揃いにくかった。この人数でも個々の能力や意識にかなりの差があり、各課題の体得を個人レベルで徹底させるには、不得手な部分を繰り返して練習し、生徒の反応を見ながらその学生に適合した積み重ねを行うことが一番有効であるが、それには28名では多すぎて、薄く広くの指導や結果になるのはやはりまぬがれず、思ったような成果が出なかった。徹底するためには出来るだけ少人数の方が良いが、現状ではそれは難しいのだろうか。さらに、一つの課題を広範囲のレベルに適應させることも無理があり、出来具合や理解にもそれが影響し、計画通りとはいかなかった。

● 改善の方策

時間のロスとならないためにも、現状に合わせるには、各人にあった適切なアドバイスが出来るように、表面的ではなくもっと踏み込んだコミュニケーションを普段から心がけ、さらに日々の積み重ねが必要であること、また授業以外でも訓練を継続するように指導を適切に行なわなければならないだろう。クラスを分ける意味を考えれば中途半端ではなく根拠に基づいて学生の利益を前提とするのが理想である。しかしながら現状を踏まえれば、時間的制約の中できめの細かい指導で対応するよう心がけて行くしかないのだろうが、その前提はやはりクラスサイズの見直しにあると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

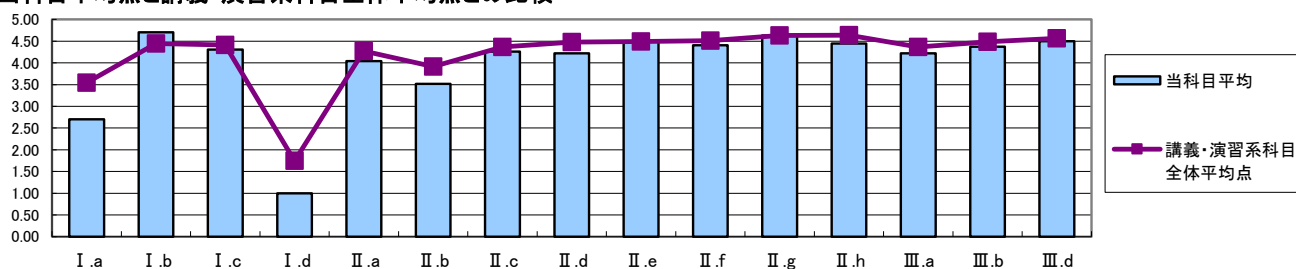
科目名	ソルフェージュ2a
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	30
回答者数	27

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.70	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.70	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.31	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.04	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.52	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.26	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.22	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.48	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.41	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.44	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.22	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.37	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		77.78	22.22	25.93	37.04	3.70
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年生を対象に1回目の授業でクラス分けの為の聴音による実力チェックを行い、2クラスに分けた、上のクラスである。履修者は30名であった。授業時間は月曜日3限の週1コマ90分である。聴音、弾き歌い、新曲視唱(1a)、リズム打ち(2a)を中心に授業を進めた。試験は授業で扱った上記項目に準拠して行った。課題に取り組む強い意欲は見られた。新曲視唱、弾き歌い等で旋律やハーモニーが音楽の流れの中でどのように結び付けられるかの理解や体感がまだ不十分で、上のクラスでありながら基礎的知識や訓練が足りていない学生も多い。例年aクラスに見られるのだが点数の高さと音楽的であるのとを混同してしまう傾向がある。アンケート項目のいくつかについては全体の平均点より低かった。

● 問題点

aクラスは毎年授業に積極的に取り組む学生が多く、活気に富み、雰囲気も良く授業をやりやすくしているが、それでも30名というクラスサイズは大き過ぎる。aクラスであってもクラス内での学生の能力の差があり過ぎて、このクラスサイズは学生個々の能力を高めるには不適切である。その差が一部の学生へのモチベーションの低下を与えている。クラスサイズは単なる人数割りやまたクラス数の制限によらず、各人の能力の均等さで行うべきであろう。アンケートの結果に表れている、シラバスの活用やあり方、授業のテーマに「そう思わない」「全くそう思わない」という評価が出ている一因はそこにもあると思われる。また、扱う課題の共通性がなくなってしまい指導目的が一様に等しく遂行出来ない。繰り返しや積み重ねがまだ必要な学生と、鍛えればもっと伸びる学生が混在しており、個々の能力を授業時間内だけで高めることが出来ないのが大きな問題点であった。

● 改善の方策

同一クラス内で学生の能力のバラツキが大きいと、同じ課題でも難し過ぎてついていけない者、簡単すぎて意欲が下がってしまう者と差が出てしまうため、授業内容はシラバスを正確に反映出来ず、授業の組み立て、教材の見直しの必要が生じる。その解消に効果があるのは、同じ能力の者を出来る限りOne to Oneに近いクラスサイズにすることである。そして、その上に音楽の習得のための日々の努力とその積み重ねを行う時間を、十分に取らなければならないが、限られた環境と時間の中での上達は困難を伴うため、指導やアドバイスを工夫し、授業がきっかけとなるよう個々に見合った方法などをオフィスアワー等を活用することを考えていきたい。また授業のあり方や指針を検討する教員同士の場を設けることも必要である。多くの意見を持ち寄りにより独りよがりにならないより良い授業を展開させることが肝心である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

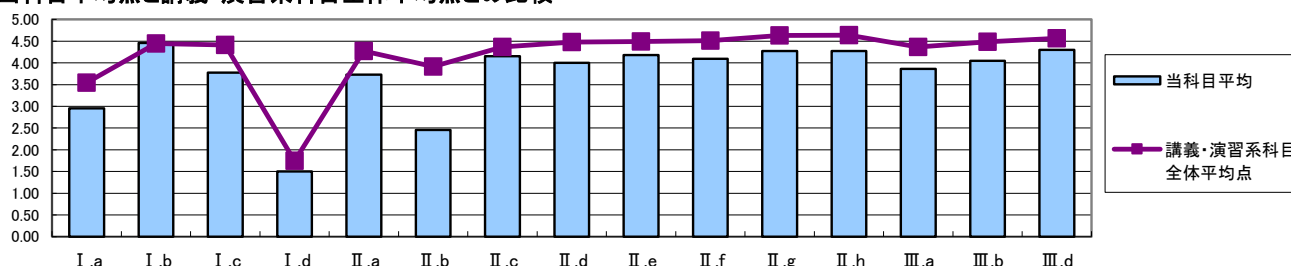
科目名	和声学2a
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	24
回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.95	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.45	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.77	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.73	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.45	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.15	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.18	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.09	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.27	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.27	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.86	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.05	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45.45</td> <td>31.82</td> <td>27.27</td> <td>45.45</td> <td>9.09</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	45.45	31.82	27.27	45.45	9.09
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
45.45	31.82	27.27	45.45	9.09														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.30	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

和声法の学習のうち、基礎となる和音の構成および連結の実習を習得する授業で、1年生を対象に和声法の体験の有無により、実習経験のある学生を対象としたクラスである。今年度のaクラスの履修者は24名であった。アンケート回答者数は22名である。和声法はやや複雑な規則が基になっており、理論の連続した組み立ての上に実習を重ねて行う演習授業である。復習および実習を怠ることや、内容が連続して関連しているため一回の欠席でも授業について行けなくなることがある。少しでも内容が分からなくなるとやる気が失せたり、最初はやる気があったが途中で意欲を失い、出された宿題をやらなかったり、何人かはそれが原因で欠席を重ねてしまったりして学習が続かなくなる者がいた。全体的には意欲的であった。回答者数の半数以上がどの項目も「強くそう思う」「ある程度そう思う」と答えているがアンケートの結果は多くの項目が全体平均点以下である。

● 問題点

和声法の規則は多岐に渡り解答は何通りもあるため、授業では毎回板書（毎授業時間の約1/3は板書に細かい規則を書き、それをノートに写させている）とその解説をした後に実習をさせて、時間が許す限り各個人の解答を見てアドバイスを行っている。丁寧に板書を写している者は多いが、それを見ずに実習してしまう者やただ写しただけで理解しようとしていない者がいる。今回の自由記述にプリントにして欲しいという意見があったが、過去にはそうしたこともあったがそうするともらったばかりで見もしない学生が続出したため、自ら書いて覚えさせることとした。和声法を演奏と密接になっていると実感していない学生もあり、特に今年度はただ難しいと放棄する多くの学生がいた。それは毎年のことだがやはりクラスサイズが大きすぎて個々への対応が追いつかないのも一因である。

● 改善の方策

和声の授業も出来得る限りのワンツーワンが必要であり、クラスサイズがもっと小さければこちらの手の行き届くことは一段と増えるし、学生の集中度も保てるだろうと思う。今年度は既習者でありながら、個々の習得する速度は違うため、良く理解して実習も優秀に出来た者がいる反面、やる気を失ってしまう者もいた。だが現状で理念に沿って継続的な実習をするように分かりやすい内容にするための工夫を行い、出来る限り個別の能力や理解力に沿い、実技との必要性の認識を高め、常にやる気が出るような授業の進め方を行かねばならないのは困難が伴う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

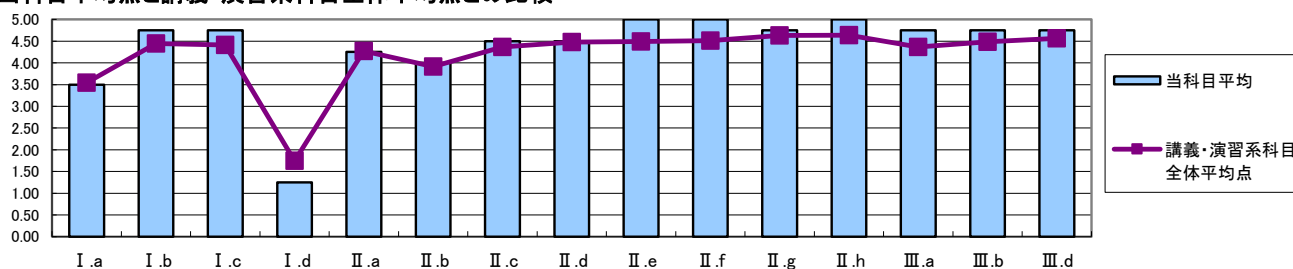
科目名	総合作曲演習ⅠB
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
Ⅰ	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.74															
Ⅱ	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
Ⅲ	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	66.67	33.33	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	100.00	66.67	33.33	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽創造専攻生対象の授業で、今期は1年次生5名が履修した。アンケート回答は4名であった。作曲専攻とはいえ技術や知識は乏しく作曲を行なう上での初歩からの専門知識のほかそれぞれが興味を持って志向していることに関連したものを出来得る限り題材として取り上げた。履修した中国からの留学生の日本語の読み書きの程度がおぼつかないので、日本語が理解出来ずに反応しないのか理解しているのか不明であった。そのため会話がスムーズではなく双方向や学生間の意見交換がほとんど行われなく、こちら側からの資料提供やまた見解を述べるのが中心で一方的になってしまっていたようにも思われた。

● 問題点

音楽創造専攻生対象の授業なので指導する側の価値観の押し付けにならないように題材を変更することでしたが、学生の予備知識があまりに乏しいため学生の反応が薄くなってしまったのが問題である。志向に適しているつもりで用意した題材も、その良さを伝えるための前提段階を理解することで終わってしまい、刺激を与えるまでにはいかなかったかもしれない。学生の中には作曲の上では必要不可欠であっても自分の興味以外のことには関心を示さないことが最近の傾向として見られる。

● 改善の方策

その時の学生の反応を見ながら授業を進めているので、シラバス通りに行かないことの方が多いのであるが、シラバス通りに無理にも進めると学生が混乱することがあり、その加減をうまく配分出来るように今後に向けて改善出来るように資料等の準備をしたい。出来得る限りの予測を立ててシラバスを作成することの必要性を心がけたい。そして学生にも作曲をするための広い範囲での予習および復習を行うことを喚起したいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

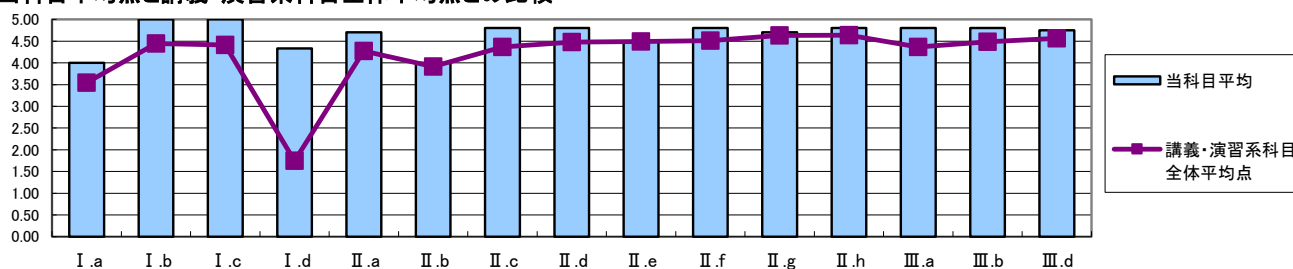
科目名	室内楽 I Bf
教員名	河野 玲子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	11
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.70	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.70	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>60.00</td> <td>70.00</td> <td>60.00</td> <td>40.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	60.00	70.00	60.00	40.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	60.00	70.00	60.00	40.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

概ね授業目標は達成できたと考える。個人的に能力差のある中で、学年ごと、また学年を超えた組み合わせでアンサンブルをすることで、お互いに切磋琢磨しながら、自分の技術や表現力を認識し、音楽的解釈や表現力、テンポ感、リズム感等を共有しながら、打楽器の奏法や音色、またその魅力を習得していると考えられる。またこの授業を通して、ソロ演奏、またオーケストラやウィンドオーケストラにおける打楽器の役割や音色感などにも繋がるものが多々あると認識していると思われる。また、学生間のコミュニケーション能力や、アドバイス方法などを学生自らの視点で意欲的に取り組んでおり、さらなる授業内容の充実をはかっていきたいと考える。

● 問題点

4年になると、室内楽における知識や方法、技術等が充実してくる中で、多少の物足りなさも感じている部分もあるかと感じる。

● 改善の方策

4年生には、さらに新しい目標を設定することで、より高いアンサンブル能力とともに、卒業後のことも考え、指導者としての視点を待つことを指南していき、授業の内容を高めた。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

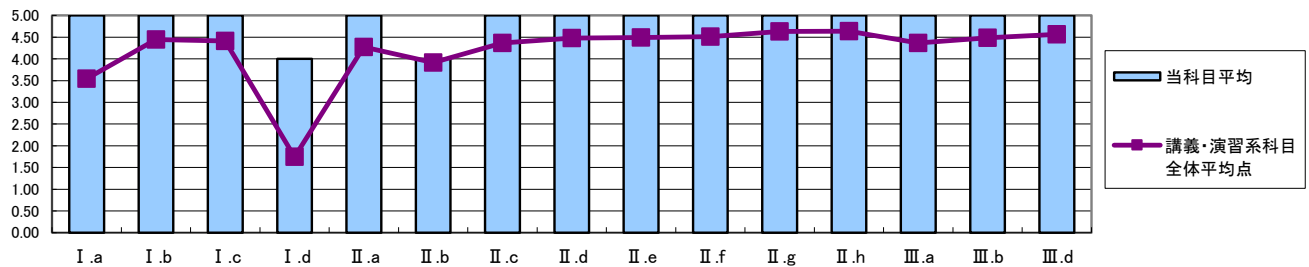
科目名	室内楽 I Bd
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点																
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54																
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45																
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41																
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.74																
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27																
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91																
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36																
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48																
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49																
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51																
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63																
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64																
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37																
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48																
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>			回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	50.00	0.00	50.00
	回答率																		
	5	4	3	2	1														
100.00	0.00	50.00	0.00	50.00															
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																	

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

現状として、個人レベルの差がとても大きい。
 編成上、レベル差を考慮して、東邦ミュージック フェス
 後期発表会の為、大学院生、アドヴァイス生、履修者以外の大学生にも、参加してもらった。
 結果的には、良い結果が出せたが、
 課題は多い。

● 問題点

技術的問題の他に、楽譜の理解、ソルフェージュ等に問題のある学生がいる。
 その為、室内楽をやる以前の問題を、解決しなければならないのが、大きな問題となっている。

● 改善の方策

チームを分けるなどして、必要と考える指導内容別に組み方を考える。
 また、大変難しいテーマであるが、履修生全員に、達成感、満足感が感じ取れる授業展開を考える。
 極端に言うならば、中学生と大学生の合同チームである事を、指導者である私個人が、よりしっかり認識して、授業を展開することを心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

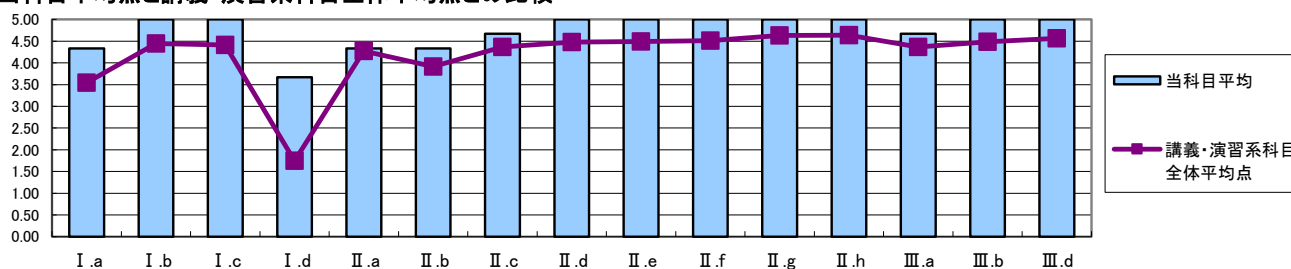
科目名	室内楽ⅡBd
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	66.67	100.00	100.00	100.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	66.67	100.00	100.00	100.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

現状として、個人レベルの差がとても大きい。
 編成上、レベル差を考慮して、東邦ミュージック フェス
 後期発表会の為、大学院生、アドヴァイス生、履修者以外の大学生にも、参加してもらった。
 結果的には、良い結果が出せたが、
 課題は多い。

● 問題点

技術的問題の他に、楽譜の理解、ソルフェージュ等に問題のある学生がいる。
 その為、室内楽をやる以前の問題を、解決しなければならないのが、大きな問題となっている。

● 改善の方策

チームを分けるなどして、必要と考える指導内容別に組み方を考える。
 また、大変難しいテーマであるが、履修生全員に、達成感、満足感が感じ取れる授業展開を考える。
 極端に言うならば、中学生と大学生の合同チームである事を、指導者である私個人が、よりしっかり認識して、授業を展開することを心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

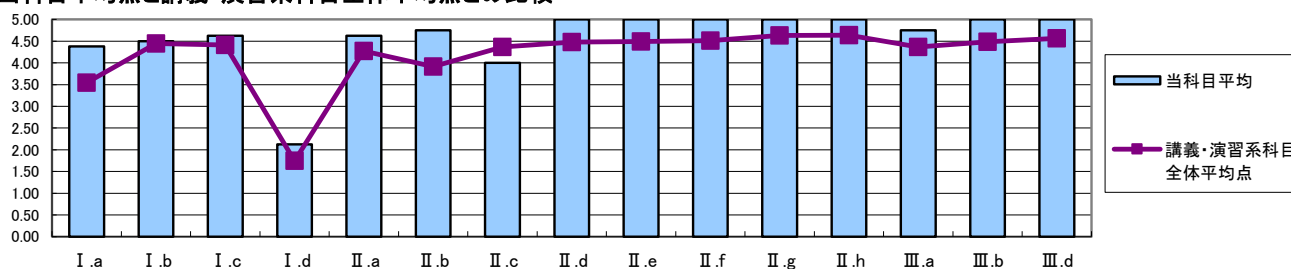
科目名	ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門B
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	8
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.38	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.13	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.63	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.75	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>62.50</td> <td>37.50</td> <td>37.50</td> <td>37.50</td> <td>12.50</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	62.50	37.50	37.50	37.50	12.50
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
62.50	37.50	37.50	37.50	12.50														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ピアノ指導者ならびに音楽指導者を目指す人が、音楽教育学的な視点や力を養うための授業である。講義と実践による授業形式で、さまざまなピアノ教材に触れ、ピアノ指導者として必要とされる知識と技能を養う。毎回の授業終わりにリアクションペーパー記入を行う。火曜日の3限に開講、履修者数は8名である（留学生を含む）。

● 問題点

シラバスの活用度が高く、出席率や学習への熱意が高い反面、予習や復習に時間が割かれていないという矛盾した結果である。成績評価の基準に対しては半数が高評価、残りの半数はどちらも言えないという評価で、二分した結果となった。授業の内容に対しては非常に高評価で、大多数の履修者にとって総合的に意義のある授業であったと言える。

● 改善の方策

予習や復習を促すような充実した教材を提示していく必要がある。成績評価の基準については毎年改善点が生まれるため、履修者の状況を鑑みながら、より明確な基準を示す努力を重ねていきたい。内容については新しい情報や教材も適宜取り入れながら、より深みのある講義内容を構築していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

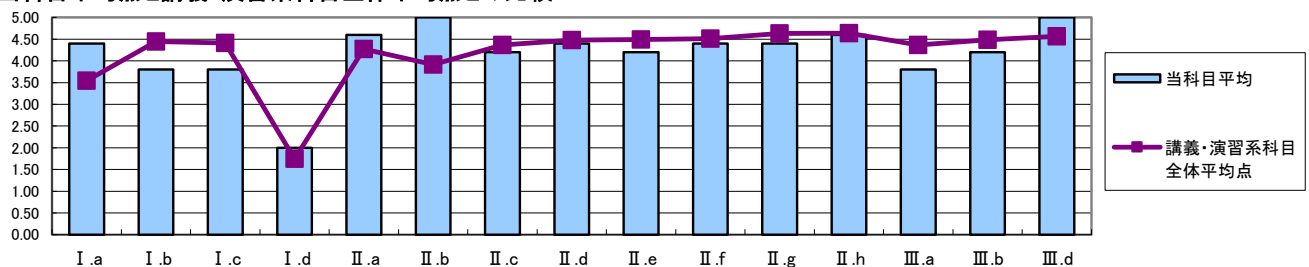
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.80	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.80	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.00</td> <td>60.00</td> <td>60.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	80.00	60.00	60.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
80.00	60.00	60.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度、パフォーマンス総合芸術文化専攻から6名の学生を担当することになりました。この授業はクラシック音楽に馴染みのない学生にクラシック音楽の魅力、時代背景、楽曲の紹介をピアノを使ったり、CDや映像を交えて丁寧に説明してきました。少人数なので1人1人が各回のテーマを予習し、授業内でプレゼンしてもらいより深く知識として高めてもらえたと思います。

● 問題点

僕がコンサートの本番で授業が3週出来なかったりすることもあり、(もちろん補講はしました)時間が空いてしまった事で、学生のモチベーションを下げてしまった事は申し訳なく思っています。I.dの予習、復習の時間が低い。

● 改善の方策

この授業に対してもっと予習、復習をしていけるよう工夫して授業を考えないといけないと思いました。

自由記述

- ・クラシック音楽をあまりきいてこなかったし、苦手意識もあったけど、先生の話しや授業が面白かったので、授業を楽しく受けました。
- ・実際にピアノで弾いてくださったのが良かったです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

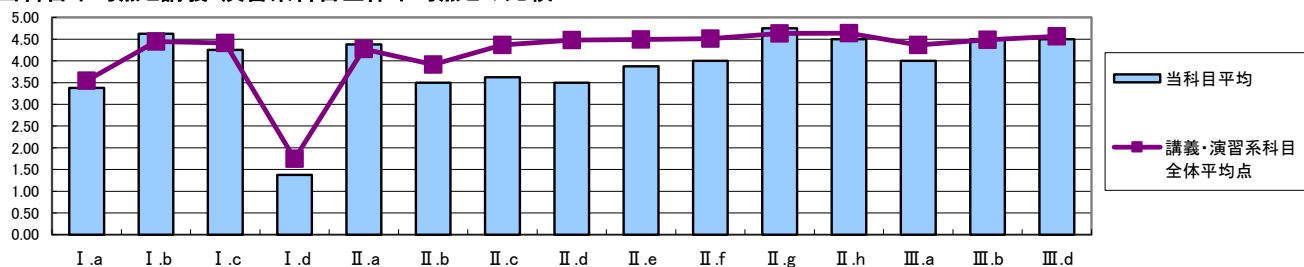
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ⅢB
教員名	益田 善太

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	10
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.38	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.63	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.63	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.88	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>25.00</td> <td>25.00</td> <td>0.00</td> <td>12.50</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	25.00	25.00	0.00	12.50
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	25.00	25.00	0.00	12.50														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は、音楽作品に対して、その時代背景や作曲傾向など様々な角度からアプローチし、実際に音を聞きながらその作品の魅力にせまるものである。
 対象はパフォーマンス総合芸術文化専攻生で、オーケストラを中心とした管弦楽に関わるクラシック音楽の作品について取り上げた。
 IIIAにおいてはバロック時代から現代まで音楽史の変遷を中心に、III Bにおいては管弦楽が用いられる様々な形態別(オペラ・ミュージカル・吹奏楽など)に扱った。
 クラスは少数で1年次8名、3年次1名で毎週金曜日の3限に行った。
 パフォーマンス総合芸術文化専攻生は様々なジャンルの学生で、クラシックやオーケストラと言う分野に明るくない学生も多く新鮮な感覚で望んでいたように思われる。
 音楽に対する好奇心の傾向や知識量、技量が全く違う学生のため、内容のバランスには気を遣うところである。
 アンケートは概ね好意的に受け入れられていると安堵している。
 少数の利点を生かし、対話しながら学生の関心に合わせて授業を変化させていけた事が良かったのではと考える。
 また、学生の興味外分野についても興味をもてるように選曲や視点、教材など工夫をする事を続けていく必要もある。

● 問題点

様々な方向性を持つ学生に、必要不可欠な基礎知識とそれぞれの方向性に関連付けた専門性のバランスを取りながら授業を進めることは工夫が必要である。
 単なる知識として終わらず、感性を広げたり、それぞれの方向性とリンクさせる所まで昇華させたい。

● 改善の方策

集中して曲を聞く時間の中に、学生の感覚を引き出す様にコミュニケーションする事を心掛けたい。
 得た感性をすぐに表現する事は自己認識を深め、興味を促進させるので、形にとらわれずその時の変化を活かせるように、様々な視点や対応出来る多くの引き出しを準備したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

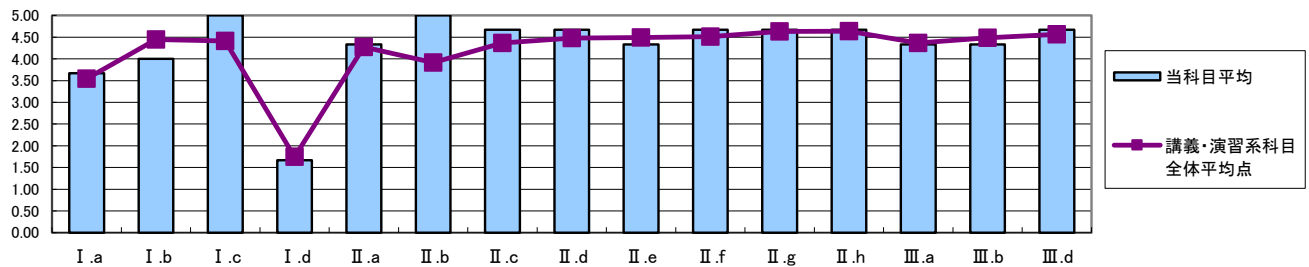
科目名	エンタメプロデュースB
教員名	伊寄 充則

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	66.67	66.67	66.67	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
66.67	66.67	66.67	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

プロの奏者の演奏による自作曲の発表（作編曲、作詞、歌唱または演奏）
作編曲のプロセスを学ぶ

● 問題点

締め切りに間に合わない学生もいるが、昨今なんでもDTMで適当に打ち込む学生に対し、スコア作成の記譜の必要性を伝えている。アナログとデジタルの両方を学ぶよう指導

● 改善の方策

プロ奏者からは概ね評判は良いのが救い。作曲してきたものに対し、直しを入れること（キーの勘違いやコードネームの誤り、拍の撮り間違え等は指摘）は邪道とされていて、より本人がやってみたい世界観、表現をいかに伸ばしてプロ奏者の演奏に耐えうる作品となるか、毎回スリリングだが、概ね、学生は満足していると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

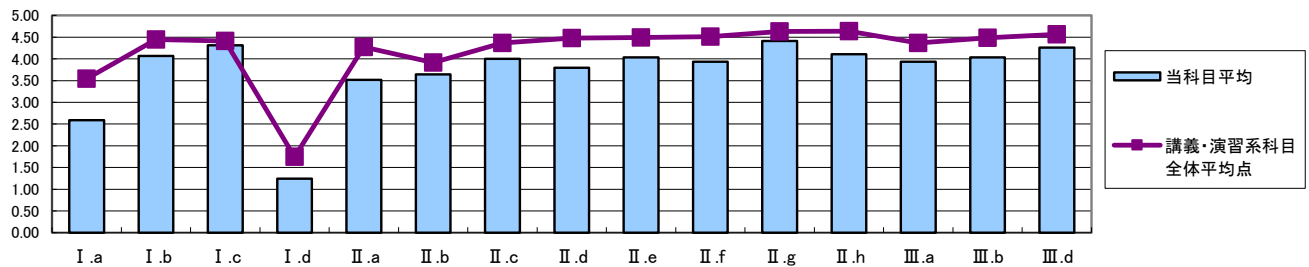
科目名	合奏B(和楽器を含む)
教員名	小野瀬 照夫

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	38
回答者数	29

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.59	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.07	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.31	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.24	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.52	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.64	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等が分かりやすかった。	3.79	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.03	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.93	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.41	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.10	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.93	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.03	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		75.00	35.71	28.57	0.00	10.71
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.26	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目的としては、中学校用の音楽教科書で扱われている器楽の楽曲を実際に演奏することで、楽曲に関する知識や技能を習得し、将来的に指導ができるようその活路を見出せるようにするものである。

授業形態としては、前期は学生個人個人がソプラノリコーダー・アルトリコーダーを持参して教科書に掲載されている独奏曲・アンサンブル曲を演奏することで、その楽曲を深く理解し、指導できるようになるよう実習する。また、教科書には独奏曲として掲載されている楽曲でもアンサンブル用に下のパートを付けるよう編曲もし、それも演奏できるようにしている。

後期ではクラシックギターとさまざまな打楽器について実習をしている。ギターでは殆どの学生が初心者である為、構え・撥弦・弦の取り付け方法・半音階演奏などの基礎から楽曲演奏まで丁寧に実習を行い、学生にはしっかりした基礎力が身につくようにした。また、後期の後半にはさまざまな打楽器についての知識や技能が身につくよう、受講学生のうち打楽器専攻の者にサポートしてもらいつつそれぞれの打楽器の名称・取り扱い上の注意点・管理方法・基本的な演奏方法などの知識や技能を学べるようにした。特に「ラテン楽器」と呼ばれている小物楽器も軽視はできず、しっかりと基礎が身につくよう丁寧に実習授業を行った。

受講者は40人弱おり、水曜第5限に行っていた。教室はSAを使用させて頂き、大型の打楽器の運搬にも対応できる状況であった。

評価はリコーダー・ギター・打楽器などの独奏、またはアンサンブルの実技とともに「ワークシート」として各セッションごとに課したレポート形式のものや実技試験時の相互の評価を付けたものも「提出物」として評価の対象として扱った。

● 問題点

前期に扱ったリコーダーは「誰にでもできる基礎的な楽器」という印象をもたれるものであるが、学生たちにとっては今までに十分に習っていない楽器であるように見受けられた。いずれ指導することになるということに鑑みると、この時期に基礎をきちんと取得し、将来児童生徒たちに丁寧に教えられるようになっておかなければならないと考える。

ギターは40人弱いる学生たちに13本の楽器数は決して十分とは言えない。授業中は3人で1本という状態で同じ内容の実習を3回ずつ行ない、学生たちにとっては3回中2回分待っていない状態であった。

● 改善の方策

リコーダーに関しては引き続き基礎から丁寧に扱っていくべきであると考え。また、ギターは昨年度より若干数が増えたが、やはり受講生数に対しての数は不足している。この状況の中でできるだけ効率の良いギター実習の方法を考えたい。

打楽器は今年度も打楽器専攻の学生にサポートしてもらいながら、殆どの学生が初心者であるこの種の楽器に触れ、学べるようにしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

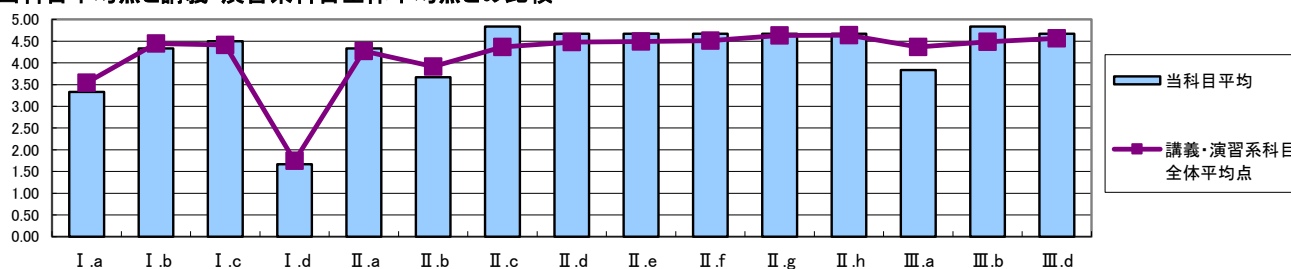
科目名	チェンバロ研究 I B
教員名	梶山 希代

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	9
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.83	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.83	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>33.33</td> <td>50.00</td> <td>16.67</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	33.33	50.00	16.67	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
83.33	33.33	50.00	16.67	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度後期の受講者数は9名で、演習系科目のクラスサイズとしては適当。一年目の授業ではチェンバロ実技のみの習得を目的にしておらず、楽器の構造と様式、構造からくる音楽語法、そしてバロック音楽全体の美学とペリオド楽器復興の流れを理解することに重点を置いている。したがって実技演習では、あくまでチェンバロという楽器への導入の手ほどきを目指しているが、「チェンバロにたくさん触れることができて楽しかった」という記述もあり、受講者の興味や探求心に答えることができたと思う。授業の到達目標は毎年やや高めに設定してはいるが、「到達目標を十分に達成できたか」の設問に対して、「ある程度そう思う」という回答が多かったことは良い傾向。

● 問題点

反応が良く授業への参加度に関しても意欲的な受講者が多かったため、授業の進行もスムーズだったと思う。したがって教員と学生間の意識のズレは少ないといえる。三年次生はウィーン研修があるため、日程によっては公欠3回になる場合もあり、その都度復習しながら授業を進めなければならず、シラバスに記載した授業計画の積み残しが生じたことは反省点の一つである。

● 改善の方策

次年度は授業計画の積み残しが生じないように、より計画的かつ綿密な時間配分に留意したい。とはいえ少人数クラスならではの親密な雰囲気は大切にしたいので、ある程度の臨機応変な対応も必要と考えている。何より受講者の任意性を尊重したいので、詰め込み過ぎの授業内容にはしたくないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

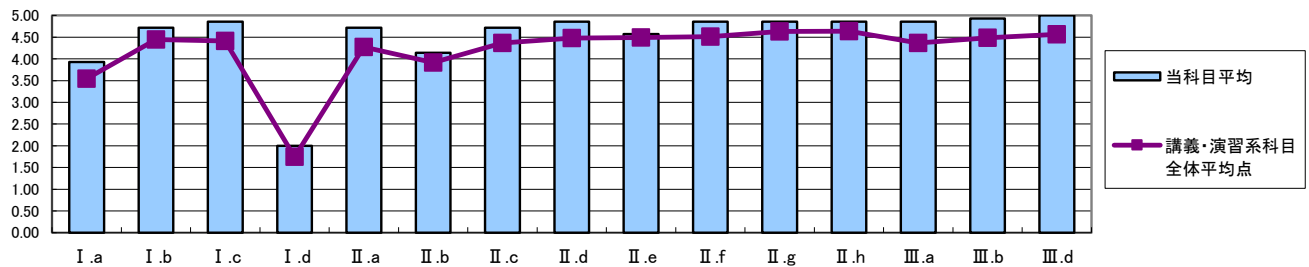
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	21
回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.93	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.71	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.71	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.86	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.93	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57.14</td> <td>35.71</td> <td>42.86</td> <td>42.86</td> <td>21.43</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	57.14	35.71	42.86	42.86	21.43
	回答率																	
5	4	3	2	1														
57.14	35.71	42.86	42.86	21.43														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：前年度のソルフェージュ2bクラスの受講生と2cクラス（留学生）を合わせたクラス。基礎的な内容の確認に重点を置いて授業を進めた。
集計結果の分析：設問Iに関して、特に留学生の受講態度が良かったと思う。留学生の多くは前年度に和声学3・4で担当した学生であった点も関係していたと思うが、出席状況も良く、授業内容を理解しようとする熱意も感じられた。

● 問題点

授業の難易度を難しいと感じた受講生が多かった点。

● 改善の方策

自分のためになったこととして、新しい知識以外（コミュニケーション能力・問題解決力・関連分野への学習意欲）の割合が高い点に、この科目に受講生達が期待していたものが現れているように思う。単にソルフェージュ1・2の蒸し返しではなく、音楽を学ぶ楽しさを伝えられるような授業の進め方を考えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

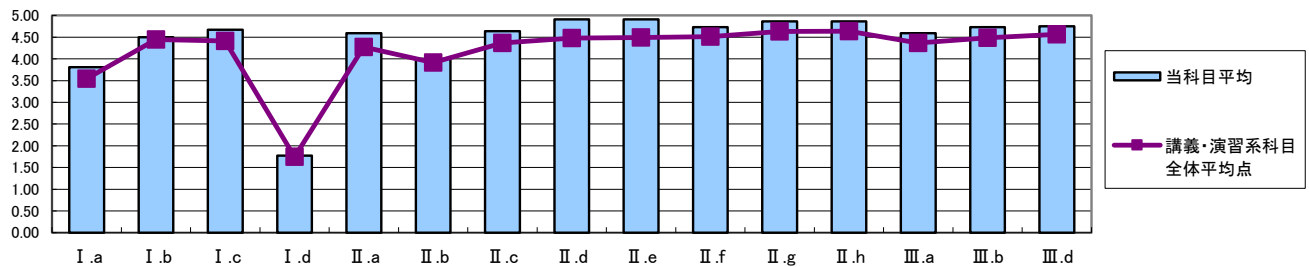
科目名	ソルフェージュ2b
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	24
回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.81	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.77	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.59	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.64	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.91	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.91	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.73	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.59	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.73	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>81.82</td> <td>18.18</td> <td>13.64</td> <td>22.73</td> <td>9.09</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	81.82	18.18	13.64	22.73	9.09
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
81.82	18.18	13.64	22.73	9.09														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講生の状況：ソルフェージュの初心者を中心としたクラス。音楽を学ぶことを嫌いにならないように、基礎から丁寧に授業を進めることを心掛けた。
集計結果の分析：授業の進め方を理解し、有意義な授業であったと感じてくれたことに感謝したい。

● 問題点

授業の難易度を難しいと感じた受講生が多かった点。

● 改善の方策

この科目のこのグレードでは宿命的な問題だと思う。個々の受講生の様子をできるだけ把握して対応していくしかないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

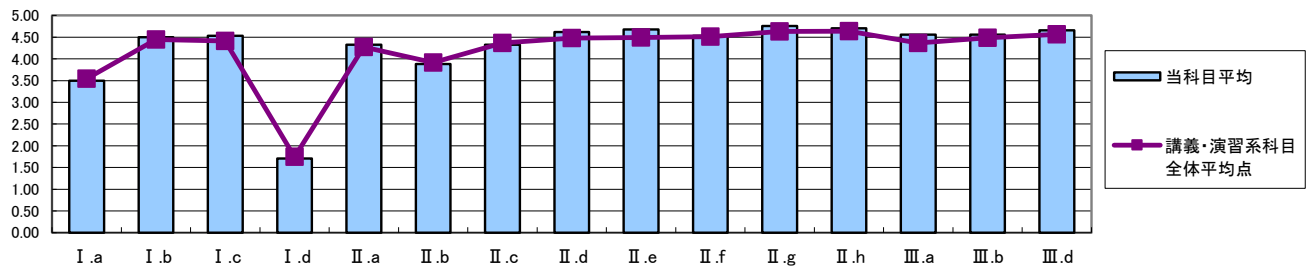
科目名	音楽の基礎理論Bb
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	40
回答者数	34

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.53	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.71	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.32	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.88	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.32	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.62	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.68	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.53	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.76	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.56	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.56	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.00</td> <td>28.13</td> <td>31.25</td> <td>21.88</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	75.00	28.13	31.25	21.88	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
75.00	28.13	31.25	21.88	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.65	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：日本人学生に数名の留学生を加えた40名のクラス。事前にどのようにクラス編成が成されたかは不明。筆者が第二高等学校で和声を教えた学生や、今年度の他の授業科目で担当していた学生が多く、授業が進め易いクラスであった。

集計結果の分析：授業中の反応が薄い点気がなっていたが、他の科目の回答に比べて自由記述が多く、授業を通して色々と考えていてくれたことに感謝したい。

● 問題点

授業の難易度に対する回答にバラつきがみられる点。

● 改善の方策

このサイズのクラスでは当然のことであり、様々な受講生のレベルにフォーカスして授業を進めることを考えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

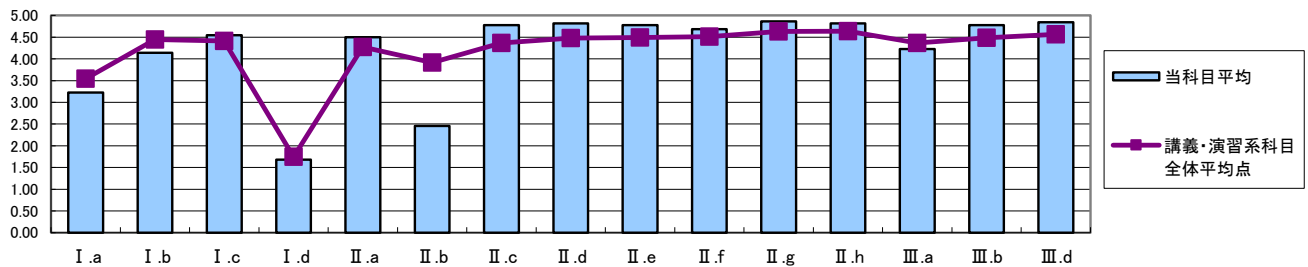
科目名	和声学4a
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	25
回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.23	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.14	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.68	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.45	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.77	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.82	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.77	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.68	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.23	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.77	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.24</td> <td>38.10</td> <td>33.33</td> <td>38.10</td> <td>4.76</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	95.24	38.10	33.33	38.10	4.76
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
95.24	38.10	33.33	38.10	4.76														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.84	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：前年度に筆者が担当した和声学2aクラスの受講生を引き続き担当したクラス。理解力の高い受講生も多く、授業が進め易いクラスであった。

集計結果の分析：自分のためになったこととして新しい知識と共に問題解決能力を上げてくれた受講生が多く、この科目の意義は伝わっていたように思う。

● 問題点

授業の難易度を難しく感じ、到達目標に充分到達できなかったと感じた受講生も数名いた点。

● 改善の方策

扱っている内容が難しい科目であり、理解力の高い受講生でも行き詰まる点を洗い出して授業の進め方を見直したいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

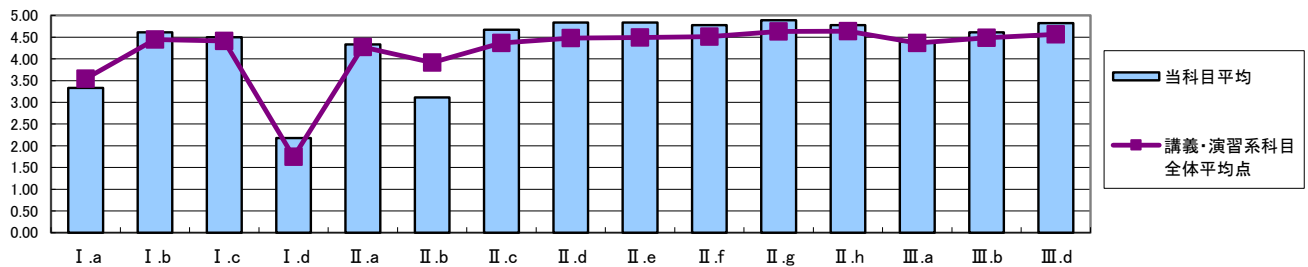
科目名	和声学2b
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	20
回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.61	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.18	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.11	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.39	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.61	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.89</td> <td>27.78</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	88.89	27.78	33.33	33.33	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
88.89	27.78	33.33	33.33	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：入学前に和声を学んだことのない受講生のクラス。基礎から丁寧に解説することを心掛けて授業を進めた。
集計結果の分析：自分のためになったこととして新しい知識と共に問題解決能力を上げてくれた受講生が多く、ほとんどの受講生がこの科目に意義を感じてくれていたことに感謝したい。

● 問題点

授業の難易度を難しいと感じた受講生の多かった点。

● 改善の方策

ほとんどの受講生は到達目標には到達できたと感じていたようなので、個々の受講生の状況を把握しながら授業を進めることを続けていきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

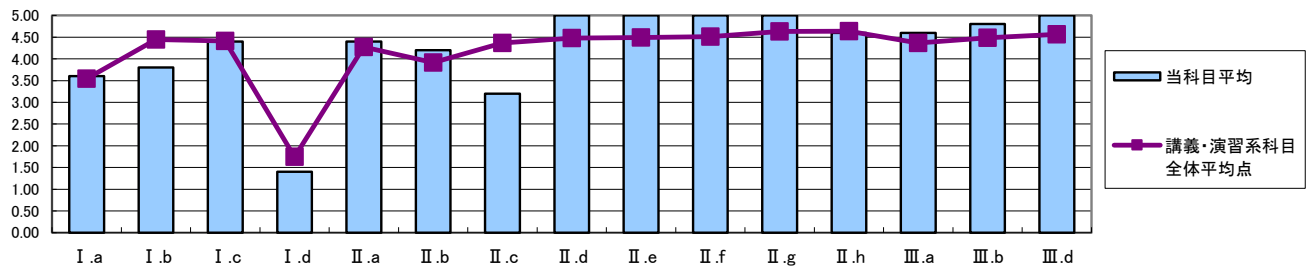
科目名	日本の伝統音楽概説B
教員名	黒川 真理恵

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.80	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.20	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	100.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	40.00	100.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業の目的は、和楽器の基本的な奏法と、実践的な指導法を身に付けることである。後期では、祭囃子、長唄三味線、箏の基本的な奏法を学んだ。授業形態は演習である。受講者数は6名で、このうち3名は前期から継続して履修していた。前期から履修していた学生と、後期から履修した学生では、箏の習熟度に差があったため、様子を見ながら進めるようにした。開講曜日は火曜日の1限だったため、電車の遅延等で遅刻する学生もときどき見られた。

集計結果のうち、II.d、II.e、II.f、II.g、III.dの設問は、全員が「強くそう思う」と評価していた。自由記述欄にも「さまざまな和楽器に触れることができ、理解を深めることができた」と書いてあり、受講生からも高い満足度を得ることができたと思われる。

I.dの「どのくらい予習、復習をしたか」という設問には、「2時間」が2名、「1時間未満」が3名だった。箏は大学で練習する必要があるため、なかなか練習時間を確保することが難しいが、熱心な学生は練習してきていた。

● 問題点

自由記述欄のなかに「1度ミスただけで、評価がSからAになるのは厳しいと感じた」という意見があった。これは前期授業で、箏の実技試験を行ったときの評価基準である。前年度の授業でまったくミスをせずに試験をクリアした学生が複数いたため、今年度も同様の評価基準にしたのだが、今年度は難しいと感じた学生もいたようである。

● 改善の方策

学生の習熟度やレベルに応じて、柔軟に対応していきたいと思う。後期授業では、実技試験の代わりに、成果発表演奏会を行った。目標に向かって練習を重ね、聴衆の前で発表することで、達成感が得られたように思われる。次年度も継続して行っていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

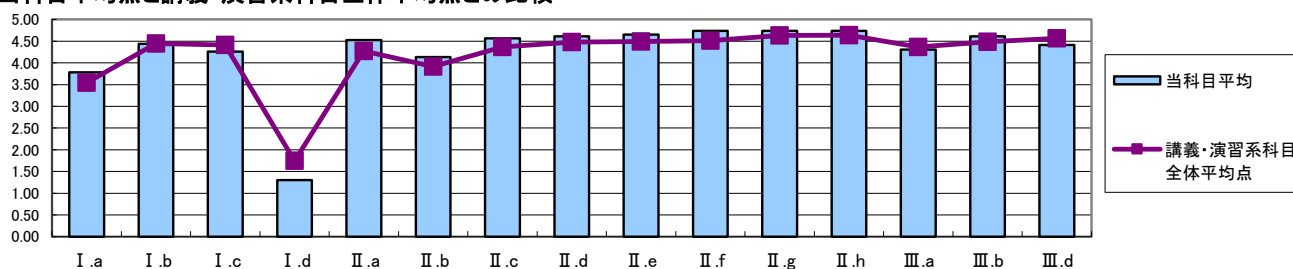
科目名	日本音楽史概説B
教員名	黒川 真理恵

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	29
回答者数	23

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.78	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.43	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.26	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.52	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.13	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.61	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.65	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.74	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.74	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.74	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.30	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.61	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78.26</td> <td>26.09</td> <td>39.13</td> <td>8.70</td> <td>4.35</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	78.26	26.09	39.13	8.70	4.35
	回答率																	
5	4	3	2	1														
78.26	26.09	39.13	8.70	4.35														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.41	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業の目的は、日本の伝統音楽の種目ごとに、歴史と理論を学習し、基本的な知識を身に付けることである。前期は古代から中世、後期は近世から近代にかけて成立した種目を扱った。授業形態は講義である。受講者数は29名で、そのうち4名は前期から継続して履修していた。開講日は火曜日の2限である。

集計結果は、I dを除き、おおむね全体平均と同じかそれよりも上回っていた。自由記述欄には、資料や映像・音源がわかりやすかったという意見があり、高評価だったようである。

● 問題点

設問 I d 「どのくらい予習、復習をしたか」の回答は、1時間未満が19名で、大半だった。单元ごとにとまとめ課題を出したり、レポート課題を出したりしていたが、教員が想定していたほど時間をかけていないことがわかった。

● 改善の方策

これまでは单元ごとにとまとめ課題を提示していたが、できるだけ毎回予習・復習の課題を提示して、時間をかけて取り組めるよう工夫したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

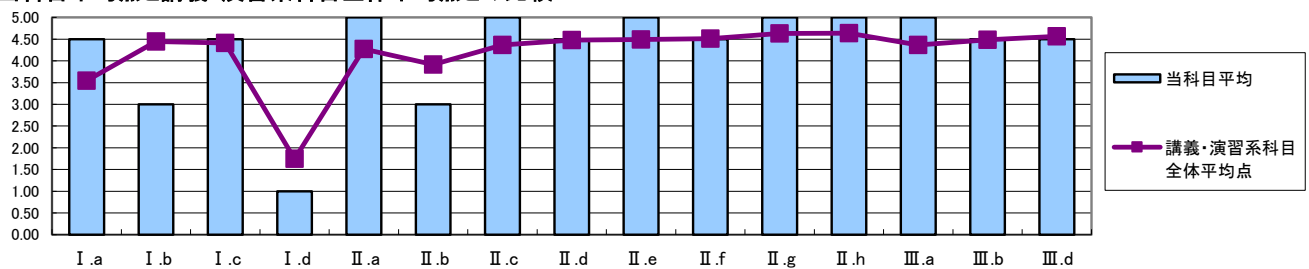
科目名	キャリア・クリエイティブ・メソッドB
教員名	黒澤 慶子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.00</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	50.00	100.00	0.00	50.00	100.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
50.00	100.00	0.00	50.00	100.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

科目の目的：将来の自己を描き、目的に向かい必要なキャリアを効果的に積み上げていく理論と実践を学ぶ。授業の内容：キャリア理論、自己分析、コミュニケーション力、自己表現を実践で学ぶ。受講者数：1年生 2名、授業形態：理論編、実践編、ニューヨークのエンタメ事情のzoom授業。受講者の状況：自己分析をして、将来に向かい何が必要かを具体的に、系統立てて考えることについて、1年生の自分には、難しいと考えたと分析します。社会人としての自覚を持つ事について、まだまだ持てないと感じたと推測します。予習：授業内にて考え、発言することに重点を置いた授業を行いました。復習：授業で学んだ事を学生生活で実践し、日頃から、自己の人間力を高めることを意識するよう指導しました。

● 問題点

受講者は1年生、2名であり、大学生活をこれからどう過ごすかを考えている段階において、社会で求められる自分について考えるのは、まだまだ先の事と捉えて、授業内容が、今現在の自分にとり、難しい内容であったと捉えていたと考えられます。また、実践授業において、自分は、発言したり、自分の意見を述べる、相手を思う気持ちを持つ、コミュニケーションをとる等が、苦手であるとの思いがあり、授業内で求める内容が、自己意識の中で、難しく感じていたと認識します。

● 改善の方策

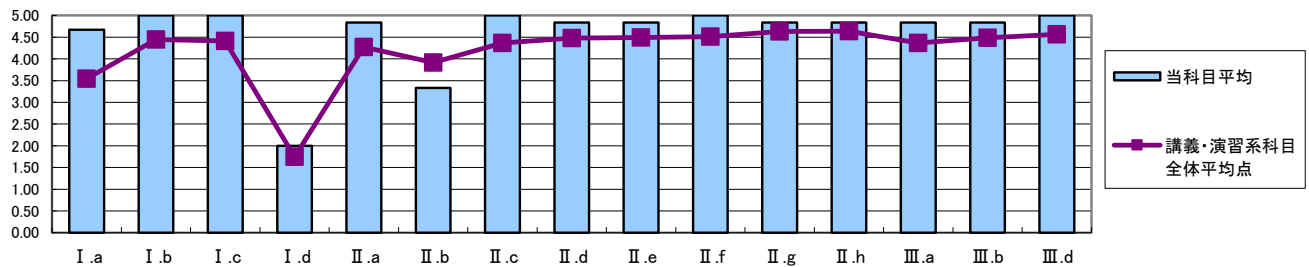
①第1回、第2回の授業で、授業の目的、到達点を受講者へ伝え、授業内容は、将来の自分に必要なことを学んでいることを十分、理解、認識して頂けるように構成します。②毎回の授業で、気がついたこと、学んだ事、やりたい事、将来に向かい準備することをノートに書き残して、復習・次回の授業の準備をして頂くことにします。③授業の終りに、質問時間、授業の理解状況を確認して、次回の授業内容に反映します。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学(Konzertfach)2	職名	08. 講師	履修者数	6
教員名	白石 茂浩			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.83	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.83	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	50.00	33.33	33.33	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	50.00	33.33	33.33	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は木曜日3時限に開講された1・2年生合同授業の形態をとっている授業であり、Konzertfachの学生は同じ内容の授業を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある一年生にとって初めてのウィーン研修までに、ある程度のところまで授業を進めておかななくてはならない」という事情があり、結果、この授業の進捗は必然的に速くなる。進度の速い授業には学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性の理解をたやすくするという利点がある一方、深く学ぶことに関しては弱くなるという欠点がある。これを補うために、本科目については同じ内容の授業を二度受講する措置がとられており、通年を通して後期では実作品の和声分析を行う形で前期で学んだ内容の復習をし理解を深めるという形をとっている。

この科目では、学生にとっての最終目標である「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになること」に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の基礎知識を得ることを目的として掲げており、このため授業は講義形式が主体となっているが、先に述べたような事情から、前期に比べ後期の和声学（Konzertfach）2・4では課題実習の比率が高くなっている。和声学1から4まで、それぞれの到達目標は〈和声学1：機能的和声法の概要を知ることができる〉〈和声学2：機能的和声法の概要を知るとともに、学んだ知識の応用について知ることができる〉〈和声学3：機能的和声法への理解をより深めることができる〉〈和声学4：楽曲分析・解釈を行うにあたって必要不可欠な“自分で考える力”を身につけることができる〉である。

今年度の和声学2・4の受講生は、和声学2（1年生）が6名（声楽1名・フルート1名・クラリネット1名・打楽器2名・ヴァイオリン1名）、和声学4（2年生・4年生）が中国人留学生1名を含む10名（ピアノ4名・声楽1名・ヴァイオリン1名・サクソフォーン1名・打楽器3名）、合計16名であった。

今年度においてはアンケート項目IIb（授業難易度に関する質問）の回答分布に開きが見られたが、2年生について見た場合《適切》への回答が前年度より増えているところから、速い授業進度のデメリットは、来年度の授業で解消される可能性が高いと思われる。

● 問題点

今回のアンケート結果は、アンケート項目IIIcの回答において一年生の《関連分野への学習意欲》が平均以下になっている事が気になった。

Konzertfachの『和声学』が「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになること」を目的としているところから和声法以外の知識についても簡単に触れる授業内容としているが、これが十分に関連分野の知識の必要性の認識、学習意欲を持たせることにつながっていないと考えられる。

● 改善の方策

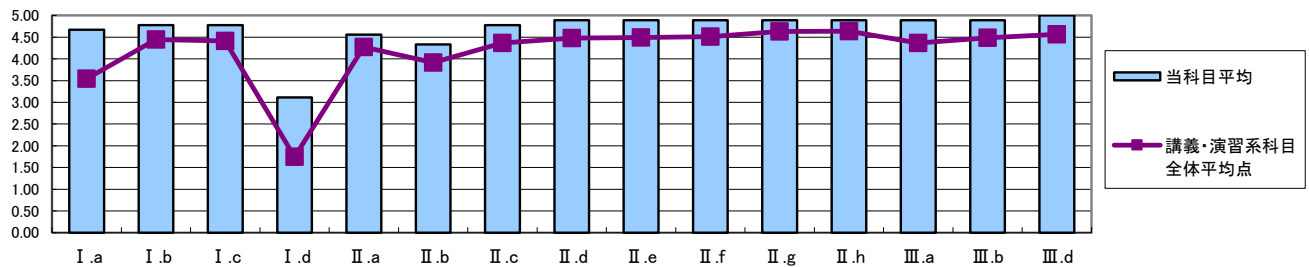
《関連分野への学習意欲》に関しては、和声法以外の知識について触れるにあたって今後は関連分野の学習の必要性をはっきりと示しながらこれを行う事が必要であると考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学(Konzertfach)4	職名	08. 講師	履修者数	10
教員名	白石 茂浩			回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.78	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.78	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.11	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.56	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.78	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.89	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.89	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.89	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		77.78	22.22	55.56	11.11	22.22
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は木曜日3時限に開講された1・2年生合同授業の形態をとっている授業であり、Konzertfachの学生は同じ内容の授業を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある一年生にとって初めてのウィーン研修までに、ある程度のところまで授業を進めておかななくてはならない」という事情があり、結果、この授業の進捗は必然的に速くなる。進度の速い授業には学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性の理解をたやすくするという利点がある一方、深く学ぶことに関しては弱くなるという欠点がある。これを補うために、本科目については同じ内容の授業を二度受講する措置がとられており、通年を通して後期では実作品の和声分析を行う形で前期で学んだ内容の復習をし理解を深めるという形をとっている。

この科目では、学生にとっての最終目標である「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになること」に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の基礎知識を得ることを目的として掲げており、このため授業は講義形式が主体となっているが、先に述べたような事情から、前期に比べ後期の和声学（Konzertfach）2・4では課題実習の比率が高くなっている。和声学1から4まで、それぞれの到達目標は〈和声学1：機能的和声法の概要を知ることができる〉〈和声学2：機能的和声法の概要を知るとともに、学んだ知識の応用について知ることができる〉〈和声学3：機能的和声法への理解をより深めることができる〉〈和声学4：楽曲分析・解釈を行うにあたって必要不可欠な“自分で考える力”を身につけることができる〉である。

今年度の和声学2・4の受講生は、和声学2（1年生）が6名（声楽1名・フルート1名・クラリネット1名・打楽器2名・ヴァイオリン1名）、和声学4（2年生・4年生）が中国人留学生1名を含む10名（ピアノ4名・声楽1名・ヴァイオリン1名・サクソフォーン1名・打楽器3名）、合計16名であった。

今年度においてはアンケート項目IIb（授業難易度に関する質問）の回答分布に開きが見られたが、2年生について見た場合《適切》への回答が前年度より増えているところから、速い授業進度のデメリットは、来年度の授業で解消される可能性が高いと思われる。

● 問題点

今回のアンケート結果は、アンケート項目IIIcの回答において一年生の《関連分野への学習意欲》が平均以下になっている事が気になった。

Konzertfachの『和声学』が「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになること」を目的としているところから和声法以外の知識についても簡単に触れる授業内容としているが、これが十分に関連分野の知識の必要性の認識、学習意欲を持たせることにつながっていないと考えられる。

● 改善の方策

《関連分野への学習意欲》に関しては、和声法以外の知識について触れるにあたって今後は関連分野の学習の必要性をはっきりと示しながらこれを行う事が必要であると考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

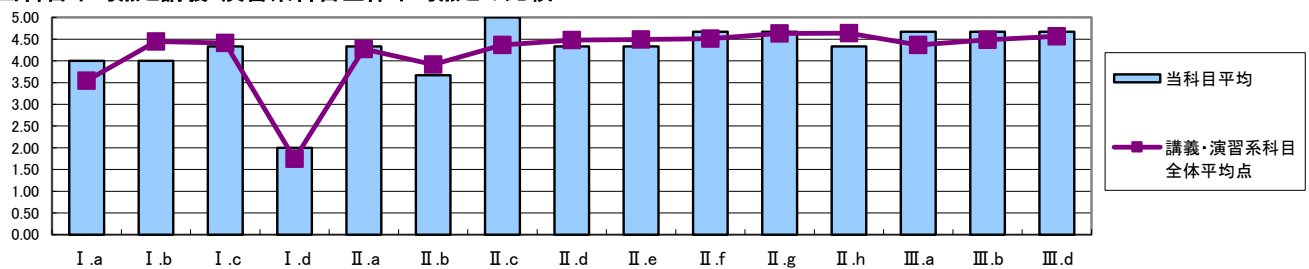
科目名	対位法(Konzertfach)B
教員名	白石 茂浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	66.67	33.33	66.67	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	66.67	33.33	66.67	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

3年生で学ぶ対位法の学習目的は、和声学同様、自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようにすることであるが、対位法Bでは、〈対位法Aで学んだ知識を確かなものにする〉とともに、1・2年時に学んだ〈和声学の知識との統合ができる〉をその目的として掲げている。

今年度の受講生は3名（ピアノ専攻1名・サクソフーン専攻1名・打楽器専攻1名）であった。

今回のアンケート結果においては項目III.cの回答では《関連分野への学習意欲》が平均以下になっている点が気になった。

● 問題点

2023年度のアンケートでは私が担当しているKonzertfachの和声学2でも《関連分野への学習意欲》が平均以下になっていたのだが、こちらの授業では学生が「すでに多くを学んできた」という意識を持つようになってきている事、対位法授業では課題に取り組む事が多くなっているために関連分野へ目を向ける余裕がなくなっている事が原因となっているように思われる。

● 改善の方策

クラス授業では一般的な内容の提示が中心になるが、学年が進むにつれ必要となる関連分野の学習は専攻によって、また自分が実現を目指す音楽によって異なってくる。従って学生に「自分自身に必要なものを自分自身で見出し、学ぶ」という自覚を持たせる事を心がける必要があると考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

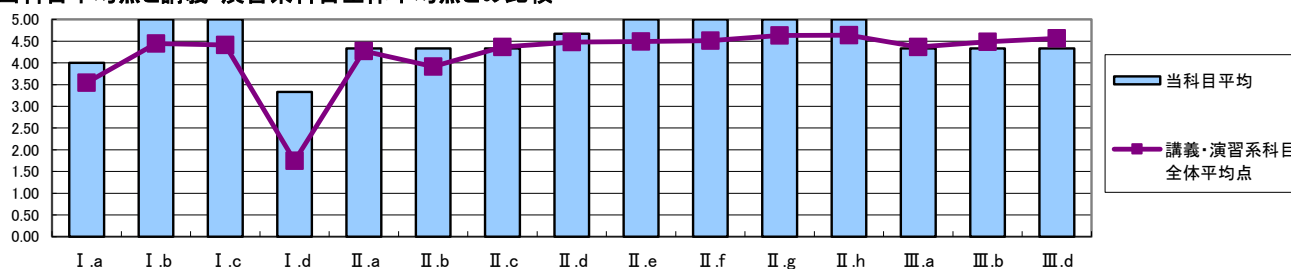
科目名	ピアノアンサンブルB
教員名	田中 梢

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	66.67	66.67	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
66.67	66.67	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ピアノアンサンブルBは前期のAがドイツ物中心だったのを引き継ぎ、フランス物を教材として取り入れた。サンサーンス・ドビュッシー・ラヴェル・フォーレ。そして自由課題。
 受講者3人なので2組を作り授業した。受講者はレベルの差はあるけれど、いずれも譜読みに時間のかかる事と技術的に大変な受講者たちだった。

● 問題点

予習復習の時間を取らなかったとシラバスにはあるけれど、個人個人に差があり、能力以上の課題に取り組むために凄く努力していた生徒もいれば、休みがちで準備ができてなかった生徒、予習復習をできない能力の生徒もいた。

● 改善の方策

シラバス課題の曲は能力以上だったこともあり、生徒の能力に合わせて課題を決める必要あるのかもしれない。でも授業始まるまで生徒の能力はわからないのと、最低限弾いて欲しい曲は譲れない。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

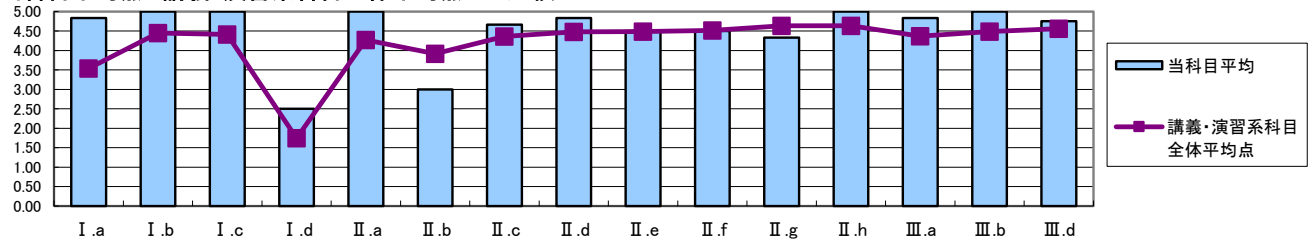
科目名	オペラ研究 I B
教員名	十川 稔

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.83	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.83	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>50.00</td> <td>83.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	66.67	66.67	50.00	83.33
	回答率																	
5	4	3	2	1														
83.33	66.67	66.67	50.00	83.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



アンケートの結果

● 現状の説明

(シラバスに提示されている科目の目的、内容、授業形態、開講曜日、時限等を踏まえたクラス、又は受講者の状況説明と集計結果の分析)
 大学生・大学院生合同の授業なので、授業の種類は「大学・大学院」、授業名も一つのクラスとして回答させていただきます。
 科目の目的、内容はオペラアンサンブルの舞台表現の実技研究、
 授業形態は、大学のオペラ研究 I B・オペラ研究 II B、大学院のオペラアンサンブル表現研究を一つのクラスで、木曜日 2 限・3 限に開講。
 7 月までは、音楽稽古、舞台演技の基礎身体トレーニング、演出を付けたオペラ重唱場面のアンサンブル表現を演習。7 月に音楽中心の試演会を行う。
 9 月からは、音楽稽古、演出を付けたオペラ重唱場面のアンサンブル表現を継続して演習。12 月に公開の試演会を行う。
 学生アンケートの集計結果については、他の科目全体平均と比較して、当科目に大きな問題があるようには感じませんが、設問 I d の予習、復習の時間が少ないことには問題があります。実技演習の授業なので他の講義系科目よりは予習、復習時間が多いですが、オペラのような舞台芸術は、授業外での日々の努力が要求されます。予習、復習にもっと時間をかける必要があります。授業時間内にとどまらず、日々、演出を理解し、演唱を自分で研究した上で、授業において他の人と演唱することによって、表現を深めなければなりません。
 特に留学生に関しては、授業における日本語の理解に、大きな問題があると感じています。
 現状、授業中も、おそらく授業以外の時間でも、留学生は彼らだけで集まりがちのように見え、演出や舞台表現のより深い理解、演唱実技のより一層の向上のためには、日本語の速やかな上達が必要であり、そのためには、教員や日本人学生と積極的に交流し、日本語理解へのより一層の努力が望まれるのではないのでしょうか。
 私は6月から12月の限定的な期間、週に1日2限の授業で学生と接しているだけなので、上記の留学生の日本語理解の問題に誤解があるかもしれませんが、彼らと接する機会がより多い声楽指導の先生方には、違ったご意見がおりかもしれません。
 (シラバスに提示されている科目の目的、内容、授業形態、開講曜日、時限等を踏まえたクラス、又は受講者の状況説明と集計結果の分析)
 大学生・大学院生合同の授業なので、授業の種類は「大学・大学院」、授業名も一つのクラスとして回答させていただきます。
 科目の目的、内容はオペラアンサンブルの舞台表現の実技研究、
 授業形態は、大学のオペラ研究 I B・オペラ研究 II B、大学院のオペラアンサンブル表現研究を一つのクラスで、木曜日 2 限・3 限に開講。
 7 月までは、音楽稽古、舞台演技の基礎身体トレーニング、演出を付けたオペラ重唱場面のアンサンブル表現を演習。7 月に音楽中心の試演会を行う。
 9 月からは、音楽稽古、演出を付けたオペラ重唱場面のアンサンブル表現を継続して演習。12 月に公開の試演会を行う。
 学生アンケートの集計結果については、他の科目全体平均と比較して、当科目に大きな問題があるようには感じませんが、設問 I d の予習、復習の時間が少ないことには問題があります。実技演習の授業なので他の講義系科目よりは予習、復習時間が多いですが、オペラのような舞台芸術は、授業外での日々の努力が要求されます。予習、復習にもっと時間をかける必要があります。授業時間内にとどまらず、日々、演出を理解し、演唱を自分で研究した上で、授業において他の人と演唱することによって、表現を深めなければなりません。
 特に留学生に関しては、授業における日本語の理解に、大きな問題があると感じています。
 現状、授業中も、おそらく授業以外の時間でも、留学生は彼らだけで集まりがちのように見え、演出や舞台表現のより深い理解、演唱実技のより一層の向上のためには、日本語の速やかな上達が必要であり、そのためには、教員や日本人学生と積極的に交流し、日本語理解へのより一層の努力が望まれるのではないのでしょうか。
 私は6月から12月の限定的な期間、週に1日2限の授業で学生と接しているだけなので、上記の留学生の日本語理解の問題に誤解があるかもしれませんが、彼らと接する機会がより多い声楽指導の先生方には、違ったご意見がおりかもしれません。

● 問題点

(集計結果の分析を行った上で、教員と学生間に存在する意識のズレを抽出する)
 自由記述で「授業時間外での活動が多すぎる」という意見があり、実技授業という性質上、衣服の着替えや道具などの準備の時間は、指導に十分な授業時間を確保するためには時間内におさまられず、学生との間に意識のズレがあると思われまます。
 「金銭が発生する」「学生負担は少ない方がありがたい」という点は、学校には大道具、小道具、衣裳などが常備されておらず、演出上必要最小限にとどめても金銭が発生せざるを得ないこともあり、学生との間に意識のズレを感じます。

● 改善の方策

(明らかになった問題点を今後どうすれば良いのか、又はその方法をどのように考えているのか、次年度の授業にどの様に生かすのかを考察する)
 まず学生に対しては、小道具や衣裳の調達に関して、金銭が発生する以前に、探す努力、他の学生や知人に問い合わせるなどの努力を、どの程度までしているか、問い直したいと思えます。しかし、探す努力をしても見つけれられないもの、借りられないものもあるでしょうから、衣裳などは自前でやってもらうしかないでしょうが、小道具などに関しては大学側でも必要最小限の予算を確保し、学生の負担を少しでも軽減できるようにすることが必要ではないでしょうか。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

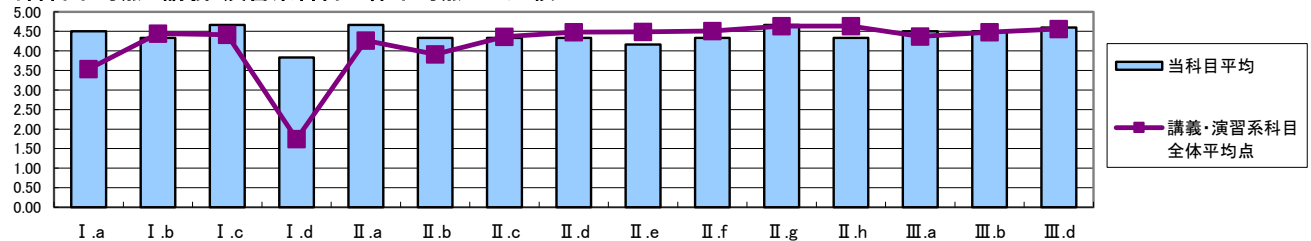
科目名	オペラ研究ⅡB
教員名	十川 稔

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.83	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>66.67</td> <td>50.00</td> <td>66.67</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	66.67	50.00	66.67	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
83.33	66.67	50.00	66.67	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

(シラバスに提示されている科目の目的、内容、授業形態、開講曜日、時限等を踏まえたクラス、又は受講者の状況説明と集計結果の分析)
 大学生・大学院生合同の授業なので、授業の種類は「大学・大学院」、授業名も一つのクラスとして回答させていただきます。
 科目の目的、内容はオペラアンサンブルの舞台表現の実技研究、
 授業形態は、大学のオペラ研究ⅠB・オペラ研究ⅡB、大学院のオペラアンサンブル表現研究を一つのクラスで、木曜日2限・3限に開講。
 7月までは、音楽稽古、舞台演技の基礎身体トレーニング、演出を付けたオペラ重唱場面のアンサンブル表現を演習。7月に音楽中心の試演会を行う。
 9月からは、音楽稽古、演出を付けたオペラ重唱場面のアンサンブル表現を継続して演習。12月に公開の試演会を行う。
 学生アンケートの集計結果については、他の科目全体平均と比較して、当科目に大きな問題があるようには感じませんが、設問Ⅰdの予習、復習の時間が少ないことには問題があります。実技演習の授業なので他の講義系科目よりは予習、復習時間が多いですが、オペラのような舞台芸術は、授業外での日々の努力が要求されます。予習、復習にもっと時間をかける必要があります。
 授業時間内にとどまらず、日々、演出を理解し、演唱を自分で研究した上で、授業において他の人と演唱することによって、表現を深めなければなりません。
 特に留学生に関しては、授業における日本語の理解に、大きな問題があると感じています。
 現状、授業中も、おそらく授業以外の時間でも、留学生は彼らだけで集まりがちのように見え、演出や舞台表現のより深い理解、演唱実技のより一層の向上のためには、日本語の速やかな上達が必要であり、そのためには、教員や日本人学生と積極的に交流し、日本語理解へのより一層の努力が望まれるのではないのでしょうか。
 私は6月から12月の限定的な期間、週に1日2限の授業で学生と接しているだけなので、上記の留学生の日本語理解の問題に誤解があるかもしれませんが、彼らと接する機会がより多い声楽指導の先生方には、違ったご意見がおりかもしれません。
 (シラバスに提示されている科目の目的、内容、授業形態、開講曜日、時限等を踏まえたクラス、又は受講者の状況説明と集計結果の分析)
 大学生・大学院生合同の授業なので、授業の種類は「大学・大学院」、授業名も一つのクラスとして回答させていただきます。
 科目の目的、内容はオペラアンサンブルの舞台表現の実技研究、
 授業形態は、大学のオペラ研究ⅠB・オペラ研究ⅡB、大学院のオペラアンサンブル表現研究を一つのクラスで、木曜日2限・3限に開講。
 7月までは、音楽稽古、舞台演技の基礎身体トレーニング、演出を付けたオペラ重唱場面のアンサンブル表現を演習。7月に音楽中心の試演会を行う。
 9月からは、音楽稽古、演出を付けたオペラ重唱場面のアンサンブル表現を継続して演習。12月に公開の試演会を行う。
 学生アンケートの集計結果については、他の科目全体平均と比較して、当科目に大きな問題があるようには感じませんが、設問Ⅰdの予習、復習の時間が少ないことには問題があります。実技演習の授業なので他の講義系科目よりは予習、復習時間が多いですが、オペラのような舞台芸術は、授業外での日々の努力が要求されます。予習、復習にもっと時間をかける必要があります。
 授業時間内にとどまらず、日々、演出を理解し、演唱を自分で研究した上で、授業において他の人と演唱することによって、表現を深めなければなりません。
 特に留学生に関しては、授業における日本語の理解に、大きな問題があると感じています。
 現状、授業中も、おそらく授業以外の時間でも、留学生は彼らだけで集まりがちのように見え、演出や舞台表現のより深い理解、演唱実技のより一層の向上のためには、日本語の速やかな上達が必要であり、そのためには、教員や日本人学生と積極的に交流し、日本語理解へのより一層の努力が望まれるのではないのでしょうか。
 私は6月から12月の限定的な期間、週に1日2限の授業で学生と接しているだけなので、上記の留学生の日本語理解の問題に誤解があるかもしれませんが、彼らと接する機会がより多い声楽指導の先生方には、違ったご意見がおりかもしれません。

● 問題点

(集計結果の分析を行った上で、教員と学生間に存在する意識のズレを抽出する)
 自由記述で「授業時間外での活動が多すぎる」という意見があり、実技授業という性質上、衣服の着替えや道具などの準備の時間は、指導に十分な授業時間を確保するためには時間内におさまられず、学生との間に意識のズレがあると思われる。
 「金銭が発生する」「学生負担は少ない方がありがたい」という点は、学校には大道具、小道具、衣裳などが常備されておらず、演出上必要最小限にとどめても金銭が発生せざるを得ないこともあり、学生との間に意識のズレを感じます。

● 改善の方策

(明らかになった問題点を今後どうすれば良いのか、又はその方法をどのように考えているのか、次年度の授業にどの様に生かすのかを考察する)
 まず学生に対しては、小道具や衣裳の調達に関して、金銭が発生する以前に、探す努力、他の学生や知人に問い合わせるなどの努力を、どの程度までしているか、問い直したいと思います。しかし、探す努力をしても見つけれられないもの、借りられないものもあるでしょうから、衣裳などは自前でやってもらうしかないでしょうが、小道具などに関しては大学側でも必要最小限の予算を確保し、学生の負担を少しでも軽減できるようにすることが必要ではないでしょうか。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

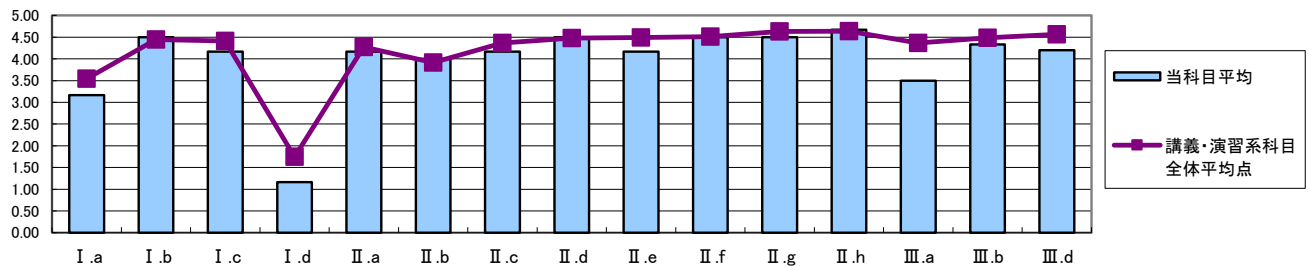
科目名	ポップスボーカルアプローチB
教員名	仁科 薫理

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.17	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>16.67</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	66.67	66.67	16.67	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	66.67	66.67	16.67	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.20	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目的内容
時代によって移り変わるポップスについての考察。

- ・ 授業形態
- 講義、実践
- ・ 受講者数

6名

- ・ 開講曜日、時限など

水曜日14:20～

- ・ 受講者の状況説明と集計結果の分析

非常に真面目に受講してくださっているとします。集計結果もこちらの意向を理解してくれていて嬉しいです。

● 問題点

とても素直に課題に取り組んでくれて、こちらからは意識のズレは感じませんでした。

● 改善の方策

授業開始時間がわかりにくかったと指摘がありました。前年度からの流れ(食事時間の確保)で曖昧になってしまっていたので申し訳なかったなと思います。本年度は14:20～対応出来ますので、明確に学生さんに提示してください。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

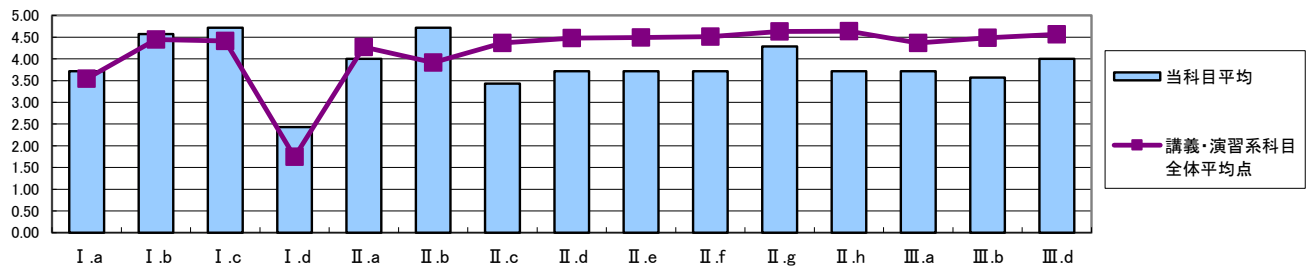
科目名	セルフプロデュースパフォーマンスB
教員名	HIRO

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.57	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.43	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.43	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.71	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.71	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.71	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.29	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.71	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.71	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.57	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
		5	4	3	2	1
		57.14	85.71	42.86	14.29	0.00
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今までの中で1番出席率も良くやる気と意気込みは感じられた学年でした。離脱者が出ないようにルール等を決め、この授業の目的についてしっかり説明し、前半は意気込んでいたものの、やはり個々の能力や向上心の差も明確に出てきたのと、自分のことを出来ると驕ってきてしまい、揚げ足取りのようになっていたり、前のめりすぎてお願いしていないことを勝手に決めたりやってきました、などの行動が見られる子もいました。

● 問題点

素直に物事を受け止めて行動出来る子と、とにかく自分の思い、私の強さを押し通したい子とで受け止め方も違うので性格によって私からの伝え方もとても難しく感じています。やる気があることは良いことですが周りが見えなくなって空回りしがちだったりします。ただそこをうまく引っ張って誘導していかなければならないなと感じました。

● 改善の方策

楽譜は前回音源のみを変更してもらった際に楽譜も変更をお願いすればよかったのですが、練習用音源は変更してもらっていたので練習には問題ないかと思いましたが、次回は楽譜の変更をお願いして提出しようと思います。歌や演技の指導は個々のシーンを重視するより全体のバランス（全体の流れを見てや）セリフの弱いところを重複練習したり、ということ優先的にやらなければならない為、演出側から見た練習すべき部分と演者側が細かくやりたい部分との違いは出てくるかと思えます。これに関しても最初とにかく時間がなく、どのような流れで進めていくか、ということの説明はしていますが、やっていくうちに忘れてしまったり自分はこうやりたい！という気持ちも出てくるかと思えますので、コミュニケーションをとりつつ行えていければ良いかと思いました。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

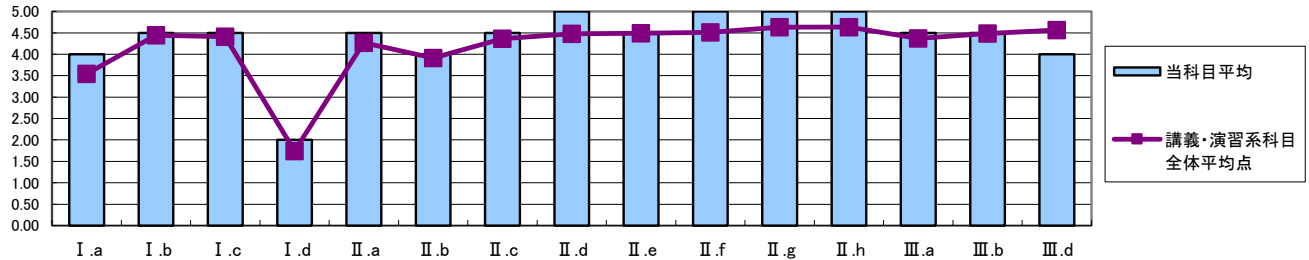
科目名	エンタメビジネスB
教員名	miiya

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	50.00	0.00	50.00	50.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
50.00	0.00	50.00	50.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

アンケート結果を踏まえ、改めて授業内容の確認と今後の課題を考察させていただきます。

大前提として、東邦音楽大学・東邦音楽短期大学の「建学の精神」である「音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格形成を目途とする」とあり、また使命・目的に「文化国家の形成者にふさわしい音楽を身に付けた文化人として、有能なる音楽家及び音楽人を育成するとともに、幅広い教育を通して、バランスのとれた心豊かな人間を育て、社会のニーズに応え活躍できる優れた人材を送り出す」とあることを絶えず大切に考えながら、シラバスの達成に努めて参りました。

以下、行ってきた授業内容とシラバスの内容に対応させて記します。

「エンタメビジネス」は非常に幅の広い内容となるため、自ら「自問自答し、調べ、深掘りする力」を養うことがいかに大切であるかを一貫して強調し伝えました。(※専攻分野中心の知識と技能。問題を探求する姿勢。課題の発見、分析、解決力。生涯学習力。)

単なる経営的な話に留まらず、「建学の精神」である「音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格形成を目途とする」ことを意識し、エンタメビジネスの使命が「娯楽を通して人々を幸福にすること」であることも一貫して伝えました。(※社会的責任・リーダーシップ。汎用的な能力)

エンタメの世界を生きていく上で特にメンタル面の安定がとても大切になるので、心身共に健康であるために普段から何を心がけていけば良いかといったことも伝えてきました。(※自己管理能力・チームワーク。)

ライブハウスを経営している関係で、その現場から伝えられる様々なビジネスモデルや専門知識(アーティストのビジネスモデル、SNSの利用、PA等)も伝えて参りました。(※専攻分野中心の知識と技能)

昨年度は結果としてほぼ日本人一人と中国人一人の授業になったため、それぞれの国の文化的な話を語ってもらいました。(※国際感覚。広範な文化の理解。)

極力、文章に書いて提出してもらったり、発表、意見交換したり、それぞれの生徒の考え方から学ぶことも大切に授業を行いました。(※コミュニケーション能力。自己管理能力・チームワーク。社会的責任・リーダーシップ。)

全体を通しての反省点として、復習時間をあまり取って貰えてなかったようなので、別途下記回答欄にて考察致します。

● 問題点

アンケート結果を分析したところ、特に予習・復習時間が余り取れていないことと、総合的に意義があるかといった点で、それぞれに課題があることが判明した。

● 改善の方策

具体的には、毎回の授業で前回の授業内容の復習時間を持つようにすること、また自宅で当日のうちに復習することを徹底させたい。

また、総合的に意義のある内容とするためにも、話が幅広くなり過ぎたり、抽象論になり過ぎないように、エンタメビジネス界の具体的な内容をもっと深掘りし盛り込んだ内容の授業を心がけていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

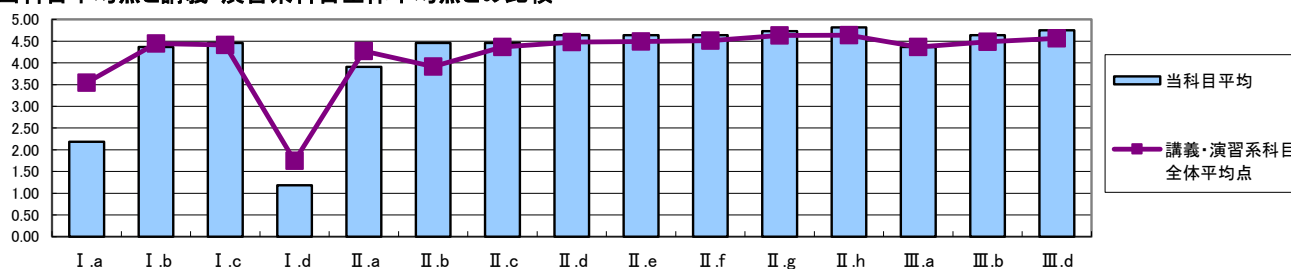
科目名	合唱ⅢBa(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)
教員名	山崎 正彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	31
回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.18	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.36	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.45	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.18	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.91	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.45	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.64	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.64	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.64	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.36	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.64	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		90.91	45.45	18.18	27.27	9.09
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ⅢBb Ⅳb、共に回答者が1名であり、5肢選択は、ほぼ4を選んでいることから、これらへのコメントは行わず、ⅢBbのみとさせていただきます。

次年度に行われる教育実習において必須となる合唱指導について取り上げ、具体的には指揮をしながら(創意工夫)の段階での指導を行うことと、その合唱の伴奏を行うことの2点を全受講生に課している。なおかつ、事前に準備を行い、指導における(発問)を吟味して指導に臨むこととしており、教育現場での指導経験のない学生にとり、かなりハードルの高い、また実践的な内容になっている。

前期に楽曲の読譜を済ませて指揮の仕方を習得してから本科目で演習に取り組んだ結果、受講生は概ね期待通りの取り組みを示していた。教育実習では、このような(指導)についての(教官からの指導)が行われるとは限らず(それは個人が身に着けるべきものという理解)、準備が無いまま、授業での合唱指導、部活動での合唱指導を学生が行うことは、実は無謀なことである。それを思うと、限られた時間ではあるが、一人一回は指導を経験できたことには意味があると考えられる。

加えて、後期の後半に合唱のみならず、器楽アンサンブル(クラス内の有志)に対しての指揮の演習も限られた学生ではあったが実現でき、教員の解説を受けながら、その様子を参観するだけでも、やはり意味があったと考えている。

● 問題点

集計結果から意識にズレを抽出することは難しい。概ね、平均以上の評価となり、Ⅲcに関しては、特に新しい知識・技能に90%の回答があり、これが当方の意図と、あまりズレなく学生の学修に結びついているとすれば有難い。

● 改善の方策

昨年度、ウィーン留学が再開されたことで授業の予定が二転三転し、一時はプログラムが完遂しないのではないかと危ぶまれる事態にも及んだ。2024年度、このウィーン留学と本科目のように学生が個別に動くプログラムとを折り合わせてゆくことが技術的な課題であると考えている。あわせて、学生への学力の定着という点においては、より現実的に即した指導も考えるべきであり、新型コロナウイルス感染症の対応の必要のない現実が確認され次第、合唱指揮に際して指揮棒をもった指導を取り入れたいと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

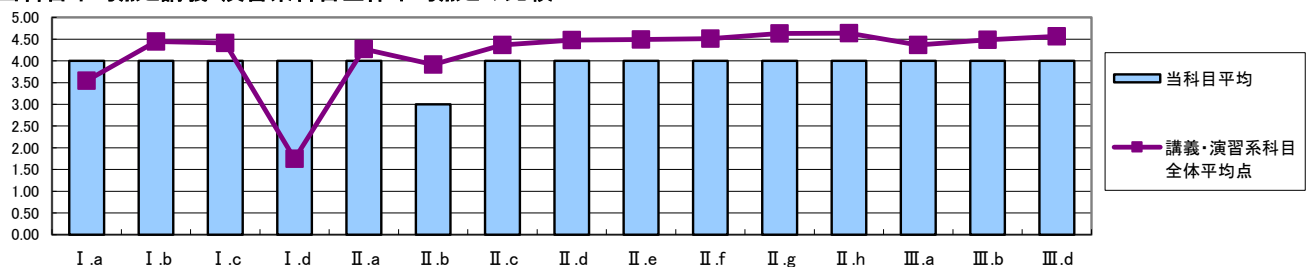
科目名	合唱ⅢBb(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)
教員名	山崎 正彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.00</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	0.00	100.00	100.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
0.00	100.00	100.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ⅢBb Ⅳb、共に回答者が1名であり、5肢選択は、ほぼ4を選んでいることから、これらへのコメントは行わず、ⅢBbのみとさせていただきます。

次年度に行われる教育実習において必須となる合唱指導について取り上げ、具体的には指揮をしながら(創意工夫)の段階での指導を行うことと、その合唱の伴奏を行うことの2点を全受講生に課している。なおかつ、事前に準備を行い、指導における(発問)を吟味して指導に臨むこととしており、教育現場での指導経験のない学生にとり、かなりハードルの高い、また実践的な内容になっている。

前期に楽曲の読譜を済ませて指揮の仕方を習得してから本科目で演習に取り組んだ結果、受講生は概ね期待通りの取り組みを示していた。教育実習では、このような(指導)についての(教官からの指導)が行われるとは限らず(それは個人が身に付けるべきものという理解)、準備が無いまま、授業での合唱指導、部活動での合唱指導を学生が行うことは、実は無謀なことである。それを思うと、限られた時間ではあるが、一人一回は指導を経験できたことには意味があると考えられる。

加えて、後期の後半に合唱のみならず、器楽アンサンブル(クラス内の有志)に対しての指揮の演習も限られた学生ではあったが実現でき、教員の解説を受けながら、その様子を参観するだけでも、やはり意味があったと考えている。

● 問題点

集計結果から意識にズレを抽出することは難しい。概ね、平均以上の評価となり、Ⅲcに関しては、特に新しい知識・技能に90%の回答があり、これが当方の意図と、あまりズレなく学生の学修に結びついているとすれば有難い。

● 改善の方策

昨年度、ウィーン留学が再開されたことで授業の予定が二転三転し、一時はプログラムが完遂しないのではないかと危ぶまれる事態にも及んだ。2024年度、このウィーン留学と本科目のように学生が個別に動くプログラムとを折り合わせてゆくことが技術的な課題であると考えている。あわせて、学生への学力の定着という点においては、より現実に即した指導も考えるべきであり、新型コロナウイルス感染症の対応の必要のない現実が確認され次第、合唱指揮に際して指揮棒をもった指導を取り入れたいと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

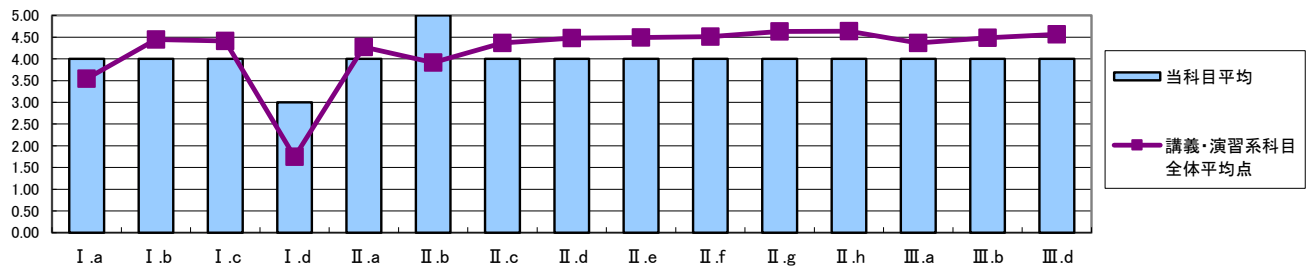
科目名	合唱ⅣBa
教員名	山崎 正彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点				
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54				
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45				
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41				
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74				
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27				
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91				
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36				
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48				
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49				
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51				
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63				
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.64				
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37				
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48				
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率					
		5	4	3	2	1	
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56	0.00	100.00	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

IIIb、IVb、共に回答者が1名であり、5肢選択は、ほぼ4を選んでいることから、これらへのコメントは行わず、IIIbのみとさせていただきます。

次年度に行われる教育実習において必須となる合唱指導について取り上げ、具体的には指揮をしながら〈創意工夫〉の段階での指導を行うことと、その合唱の伴奏を行うことの2点を全受講生に課している。なおかつ、事前に準備を行い、指導における〈発問〉を吟味して指導に臨むこととしており、教育現場での指導経験のない学生にとり、かなりハードルの高い、また実践的な内容になっている。

前期に楽曲の読譜を済ませて指揮の仕方を習得してから本科目で演習に取り組んだ結果、受講生は概ね期待通りの取り組みを示していた。教育実習では、このような〈指導〉についての〈教官からの指導〉が行われるとは限らず（それは個人が身に付けるべきものという理解）、準備が無いまま、授業での合唱指導、部活動での合唱指導を学生が行うことは、実は無謀なことである。それを思うと、限られた時間ではあるが、一人一回は指導を経験できたことには意味があると考えられる。

加えて、後期の後半に合唱のみならず、器楽アンサンブル（クラス内の有志）に対しての指揮の演習も限られた学生ではあったが実現でき、教員の解説を受けながら、その様子を参観するだけでも、やはり意味があったと考えている。

● 問題点

集計結果から意識にズレを抽出することは難しい。概ね、平均以上の評価となり、IIIcに関しては、特に新しい知識・技能に90%の回答があり、これが当方の意図と、あまりズレなく学生の学修に結びついているとすれば有難い。

● 改善の方策

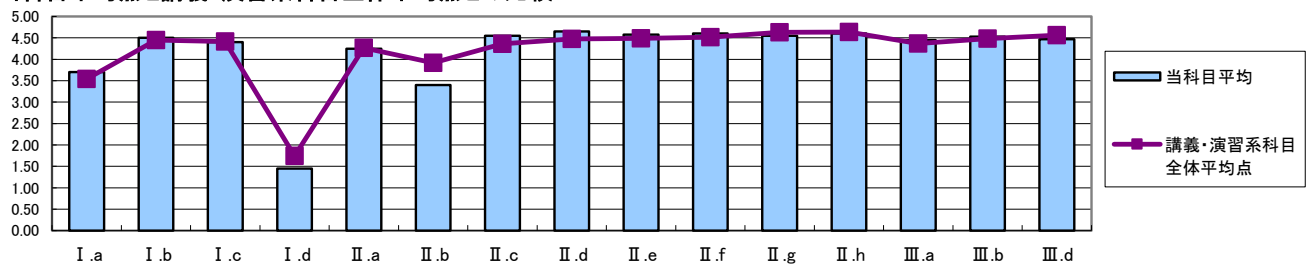
昨年度、ウィーン留学が再開されたことで授業の予定が二転三転し、一時はプログラムが完遂しないのではないかと危ぶまれる事態にも及んだ。2024年度、このウィーン留学と本科目のように学生が個別に動くプログラムとを折り合わせてゆくことが技術的な課題であると考えている。あわせて、学生への学力の定着という点においては、より現実に即した指導も考えるべきであり、新型コロナウイルス感染症の対応の必要のない現実が確認され次第、合唱指揮に際して指揮棒をもった指導を取り入れたいと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	コンピューター演習Bc	職名	08. 講師	履修者数	20
教員名	湯浅 恭子			回答者数	20

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.70	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.45	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.65	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.58	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.55	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.45	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.53	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.00</td> <td>45.00</td> <td>35.00</td> <td>15.00</td> <td>10.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	75.00	45.00	35.00	15.00	10.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
75.00	45.00	35.00	15.00	10.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.47	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

＜科目の目的＞

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアの実習を通して、データファイルの取り扱いや情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術について基本的な知識を習得する。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法について考察する。音楽の発信者として情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。

＜内容＞

コンピュータの基本的な構造、ハードウェア・ソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンを使ったコンピュータリテラシーの向上。また、小学校から必修化となったプログラミング教育についてその意義を確認し、教育現場で多く利用されているプログラミングソフトウェアを用いて実践を行い、音楽の授業などでの活用方法について考察する。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。

また、PC教室備え付けのWindowsでの作業に加え、初等中等教育現場で近年取り入れられているGoogle Workspace for Educationを利用した。予習復習を促進するためにも、ネットワーク上でのデータの共有・協働編集など、個人のスマートフォン等でも作業ができる環境も用いた。

＜状況説明と集計結果の分析＞

金曜日3時限、履修者数20名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは1、2、4年生の混合クラスであった。教職実践専攻生が多く、全体の約半数を占めた。意欲的に取り組む姿勢が多く見られ、扱ったことのあるソフトウェアの中にも新しい操作内容を知って、他教科のデータ作成や日常のPC操作に活かそうとしている様子であった。

● 問題点

「予習・復習の時間」

「授業の難易度」難易度について「易しい」の回答はなく、概ね「適切」～「難しい」の範囲の回答となった。当クラスでは、コンピュータ操作が不得手な学生と操作がスムーズな学生の差が大きく見られ、特に表計算ソフトウェアでは基本操作の部分から進度の差が生じて、全体で一斉に演習を進めることが困難な場面が多々あった。

● 改善の方策

表計算ソフトウェア、音楽制作ソフトウェアは、学生によって得手不得手が分かれるものであると思う。特に表計算ソフトウェアについては、不得手と思われる学生には基礎を固められる演習を多く行えるよう課題を準備する。状況によって課題の内容を個別に変えて対応し、予習・復習の時間をきちんと取るにつなげていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

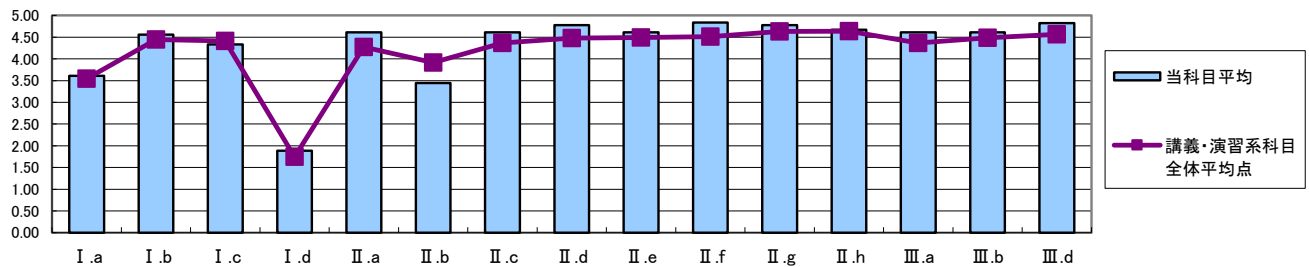
科目名	和声学4b
教員名	横山 裕美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	22
回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.61	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.56	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.89	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.61	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.44	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.61	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.78	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.61	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.61	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.61	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.78</td> <td>38.89</td> <td>33.33</td> <td>22.22</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	77.78	38.89	33.33	22.22	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
77.78	38.89	33.33	22.22	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

和声学1年次のbクラスと留学生クラスとが合併した、2年次の和声学のクラスである。(必修)
 ①学生に毎授業ごとに順番に板書課題を解いてもらい、指導・アドバイスをする。
 ②小テストを実施し、添削し、アドバイスを書いて返却する。
 ーーーを徹底して続けた。和声学は理論の積み重ねなので、丁寧に根気よく、指導・アドバイスをすることに専念した。
 クラスの雰囲気は良好で、授業中は質問も多く、努力する学生がとても多かった。

● 問題点

アンケートの自由記述に「黒板に書きに行くチャンスがもっと欲しい」という意見があったが、これは「板書課題を解く」という作業が、和声の理論習得に重要な手段となることを、学生が理解してくれた上での意見だと思う。板書課題をさらに充実させていきたいと思う。

● 改善の方策

引き続き、授業・プリント・アドバイスの方法など工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

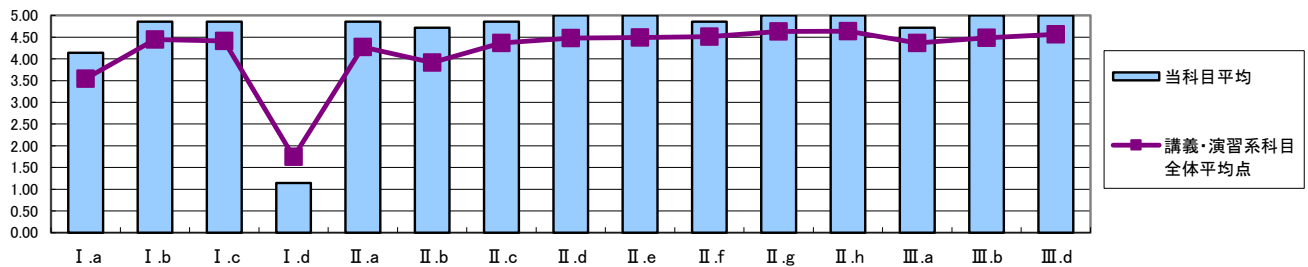
科目名	音楽の基礎理論(Konzertfach)B
教員名	横山 裕美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.14	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.86	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.86	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>28.57</td> <td>42.86</td> <td>28.57</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	28.57	42.86	28.57	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	28.57	42.86	28.57	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

Konzertfachに在籍する1年生の必修授業である。今年を受講生は7人である。Konzertfachにピアノ科の学生が含まれていないのは大変珍しいが、専攻の多様性が授業の活気につながり、様々な意見や解釈を話し合うことができた。前期は理論を中心に、後期は楽曲を分析する力を養えるよう授業を組み立てている。またウィーン留学に向けて、イタリア語とドイツ語の音楽用語テストを毎回行っている。

● 問題点

問題は特にないと考える。授業時間が50分と短い、専攻の多様性を生かし、さらに充実した内容になるよう努力したい。

● 改善の方策

引き続き授業教材を工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

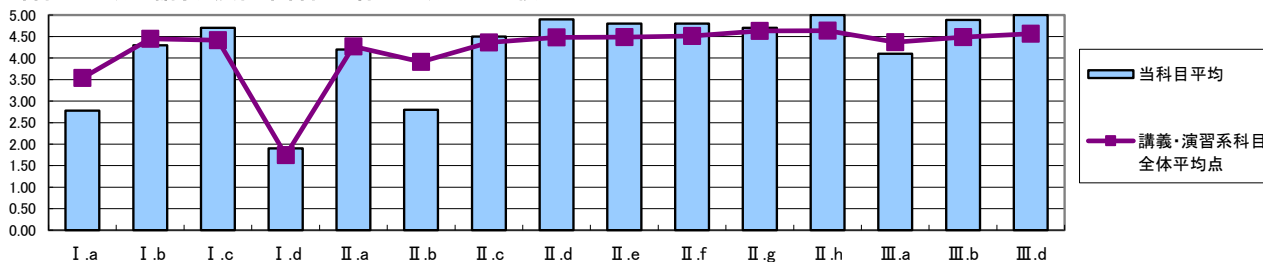
科目名	ソルフェージュ4c
教員名	大場 文恵

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	12
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.78	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	4.30	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.90	1.74																		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.80	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.90	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.70	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64																		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.10	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.89	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>100.00</td> <td>60.00</td> <td>60.00</td> <td>40.00</td> <td>40.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	100.00	60.00	60.00	40.00	40.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
100.00	60.00	60.00	40.00	40.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



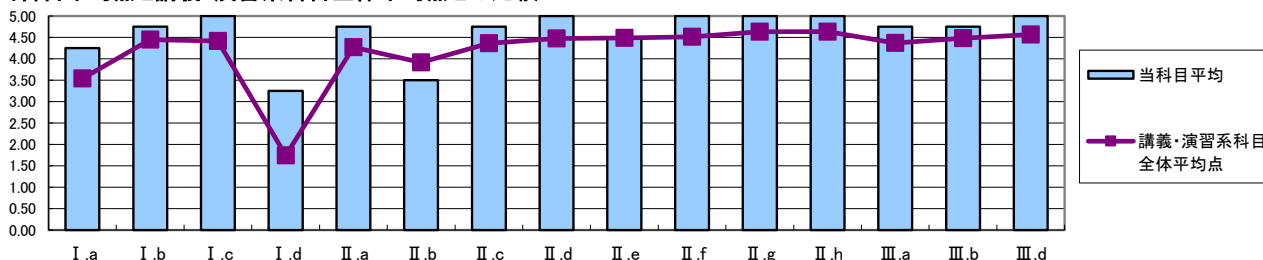
科目名	ピアノ伴奏法 I B
教員名	大場 文恵

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.25	1.74																		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64																		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	33.33	33.33	0.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
100.00	100.00	33.33	33.33	0.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

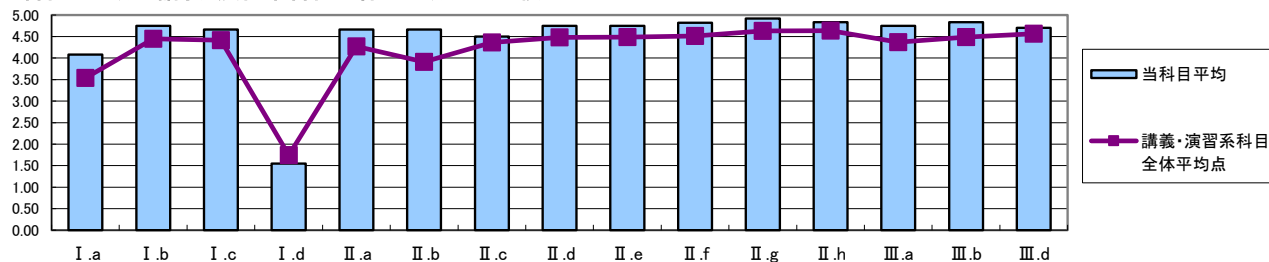


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽史B	職名	01. 主任教授	履修者数	15
教員名	遠山 菜穂美			回答者数	12

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.08	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.55	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.92	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.00</td> <td>66.67</td> <td>50.00</td> <td>16.67</td> <td>8.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	75.00	66.67	50.00	16.67	8.33
	回答率																	
5	4	3	2	1														
75.00	66.67	50.00	16.67	8.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.70	4.56																

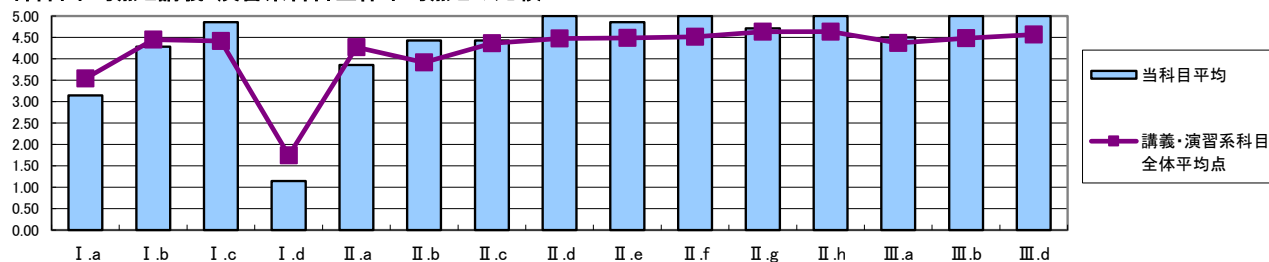
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	作品研究[管弦楽]B	職名	01. 主任教授	履修者数	8
教員名	遠山 菜穂美			回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.14	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.29	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71.43</td> <td>71.43</td> <td>100.00</td> <td>14.29</td> <td>14.29</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	71.43	71.43	100.00	14.29	14.29
	回答率																	
5	4	3	2	1														
71.43	71.43	100.00	14.29	14.29														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

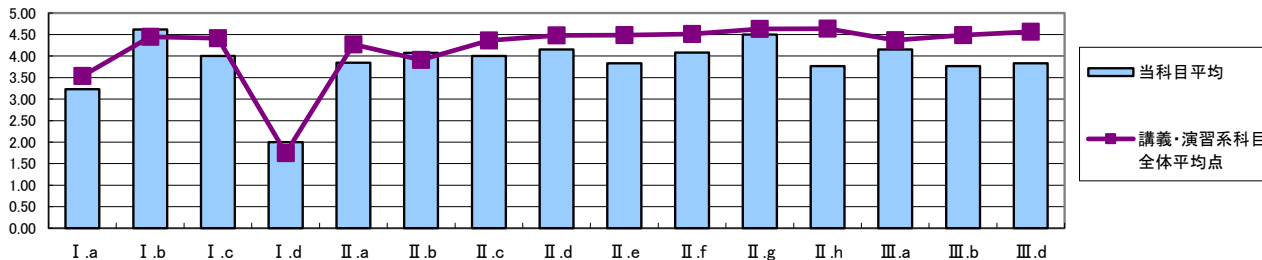
科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ペーシクⅡB
教員名	浅野 高瑛

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	21
回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.23	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.62	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.85	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.08	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.15	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.83	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.08	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.77	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.15	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.77	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70.00</td> <td>40.00</td> <td>20.00</td> <td>20.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	70.00	40.00	20.00	20.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
70.00	40.00	20.00	20.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.83	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



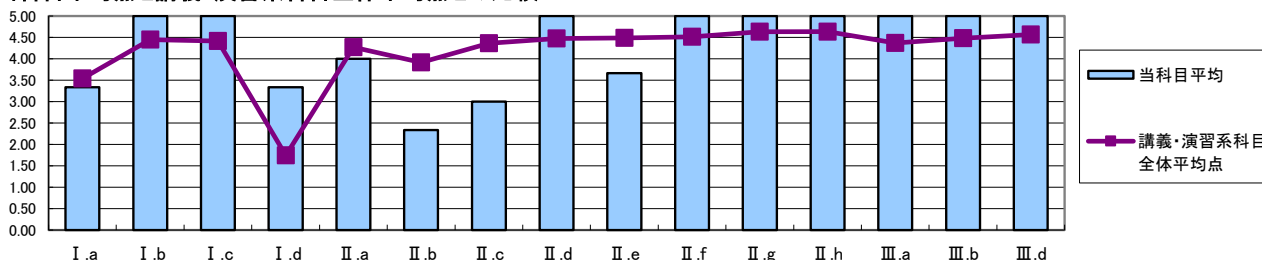
科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ペーシクⅡB
教員名	浅野 高瑛

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	33.33	33.33	66.67	66.67
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	33.33	33.33	66.67	66.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

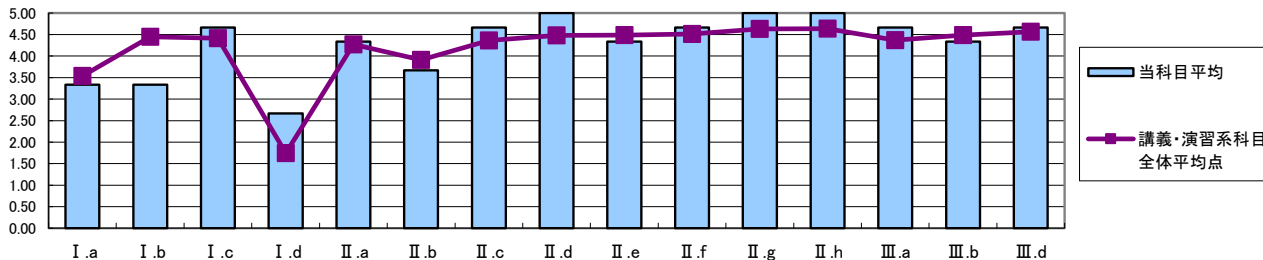
科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ペーシクⅢB
教員名	浅野 高瑛

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	19
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.33	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	0.00	33.33	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	0.00	33.33	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



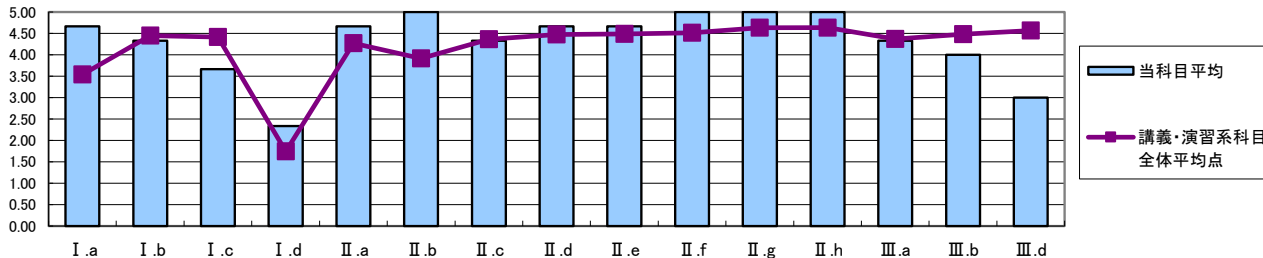
科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ペーシクⅣB
教員名	浅野 高瑛

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	16
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	66.67	33.33	66.67	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	66.67	33.33	66.67	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

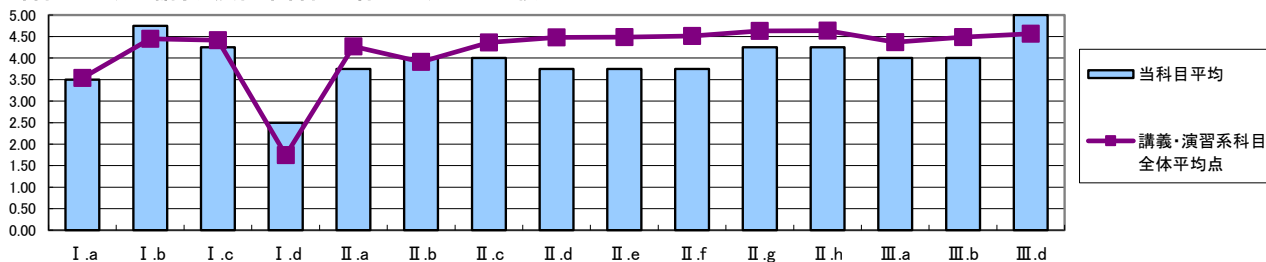
科目名	オーケストラⅠB
教員名	大友 直人

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.75	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.75	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.75	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>25.00</td> <td>25.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	25.00	25.00	50.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	25.00	25.00	50.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



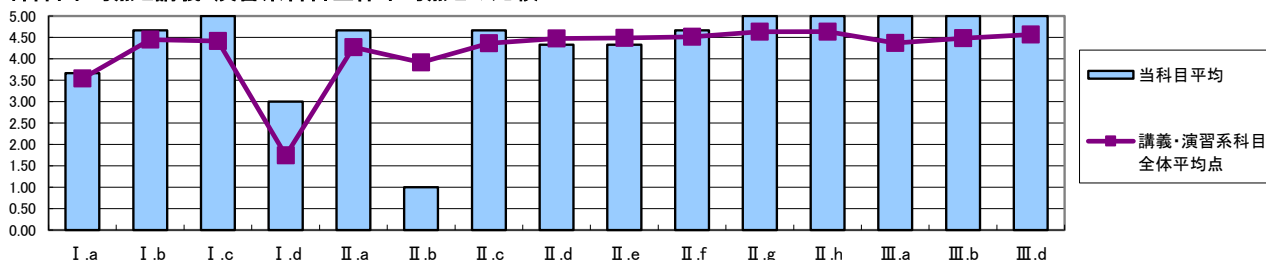
科目名	オーケストラⅡB
教員名	大友 直人

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	5
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	66.67	66.67	66.67
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	100.00	66.67	66.67	66.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

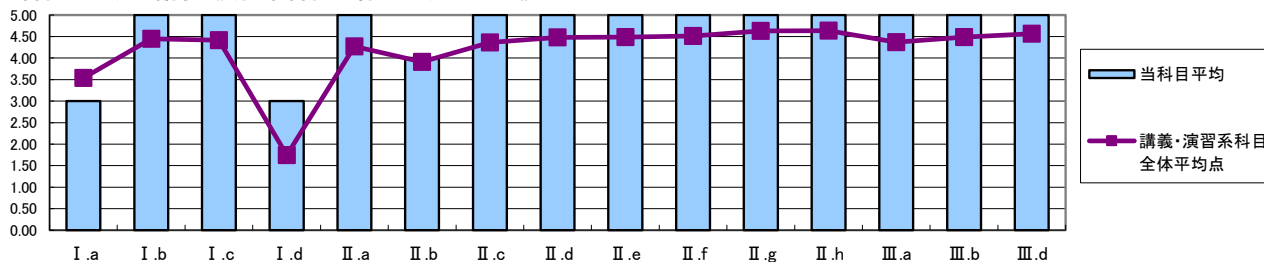
科目名	オーケストラⅢB
教員名	大友 直人

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	0.00	50.00	0.00	0.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
0.00	50.00	0.00	0.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



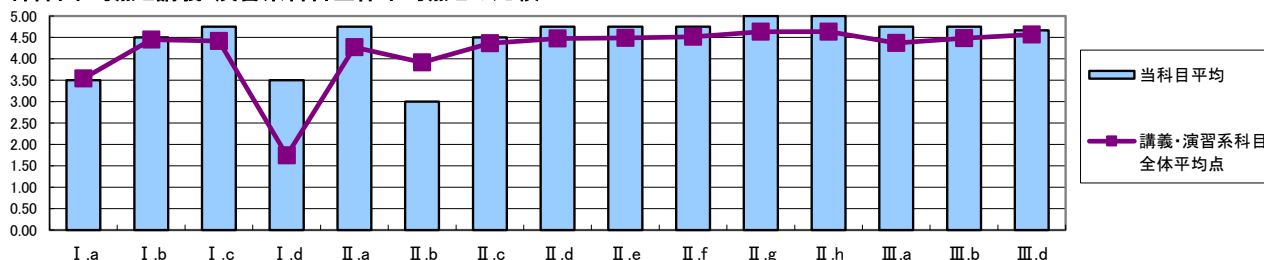
科目名	オーケストラⅣB
教員名	大友 直人

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>75.00</td> <td>50.00</td> <td>25.00</td> <td>25.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	75.00	50.00	25.00	25.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	75.00	50.00	25.00	25.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

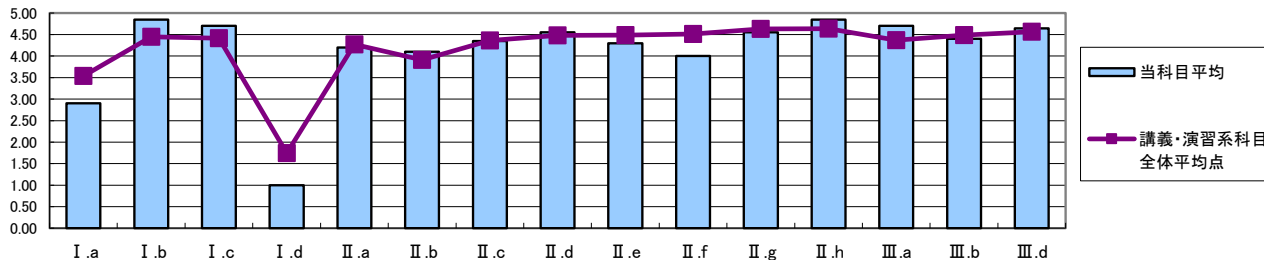
科目名	合唱 I Ba
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	37
回答者数	20

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.90	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.85	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.10	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.35	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.55	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.30	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.55	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.85	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.70	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60.00</td> <td>25.00</td> <td>20.00</td> <td>10.00</td> <td>5.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	60.00	25.00	20.00	10.00	5.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
60.00	25.00	20.00	10.00	5.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.65	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



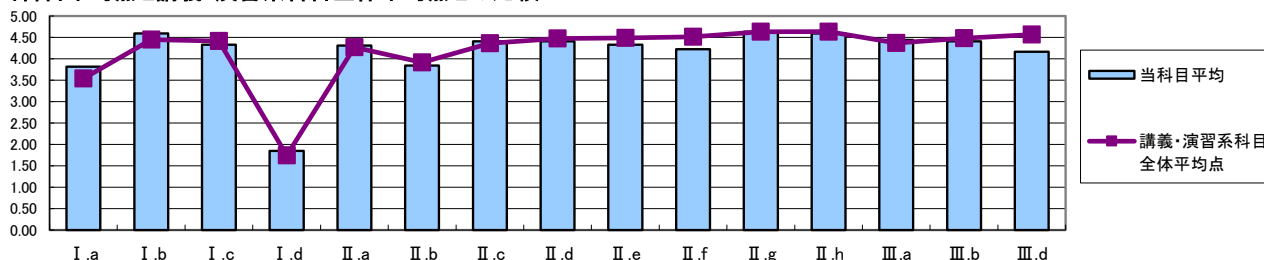
科目名	合唱 I Bb
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	27
回答者数	27

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.81	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.59	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.85	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.31	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.85	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.41	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.41	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.22	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.44	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.41	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>62.50</td> <td>12.50</td> <td>20.83</td> <td>16.67</td> <td>4.17</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	62.50	12.50	20.83	16.67	4.17
	回答率																	
5	4	3	2	1														
62.50	12.50	20.83	16.67	4.17														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.17	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

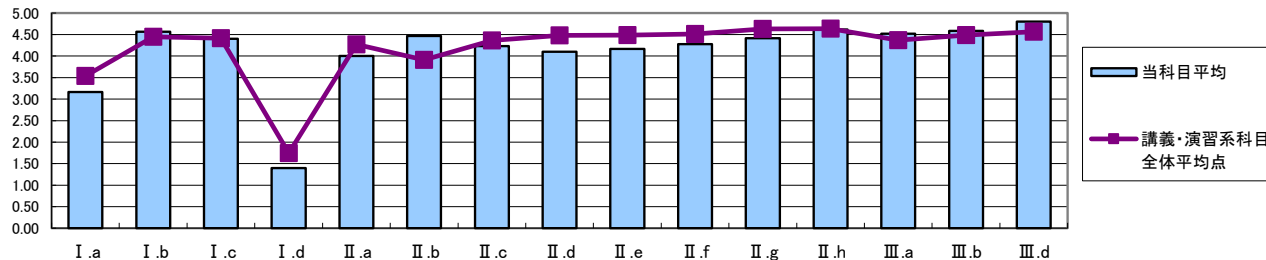
科目名	合唱ⅡBa
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	40
回答者数	30

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.57	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.47	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.23	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.10	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.28	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.41	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.62	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.52	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.59	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>82.76</td> <td>27.59</td> <td>24.14</td> <td>10.34</td> <td>10.34</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	82.76	27.59	24.14	10.34	10.34
	回答率																	
5	4	3	2	1														
82.76	27.59	24.14	10.34	10.34														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



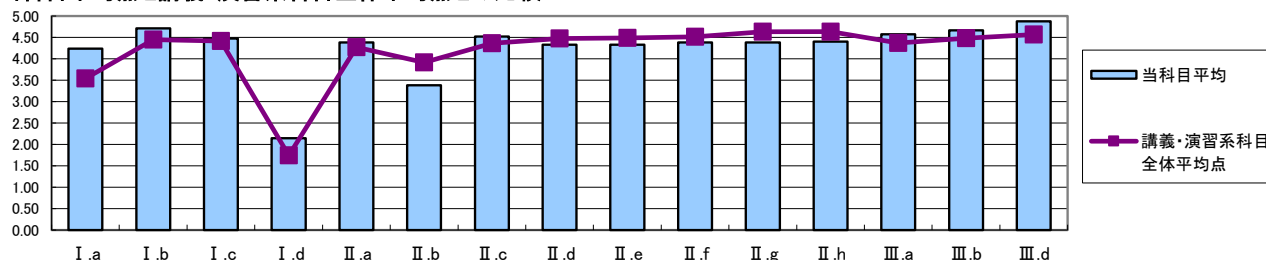
科目名	合唱ⅡBb
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	23
回答者数	21

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.24	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.71	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.48	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.14	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.38	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.52	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.38	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.57	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>76.19</td> <td>33.33</td> <td>42.86</td> <td>9.52</td> <td>19.05</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	76.19	33.33	42.86	9.52	19.05
	回答率																	
5	4	3	2	1														
76.19	33.33	42.86	9.52	19.05														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

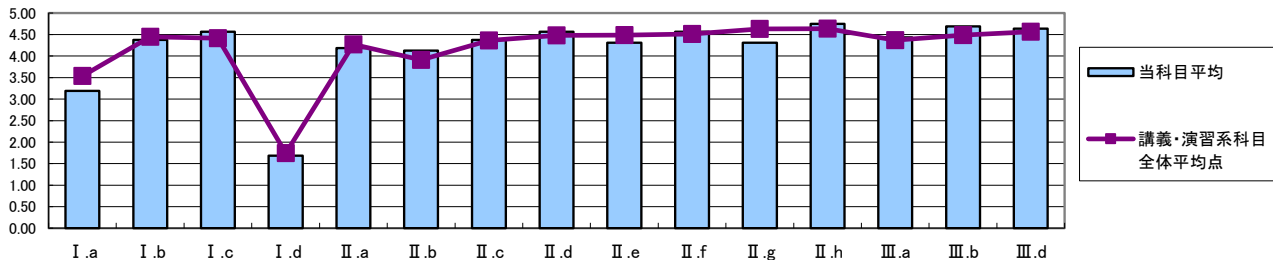
科目名	ホビュラミュージックB〔作曲法・編曲法を含む〕
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	19
回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.19	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.38	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.56	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.69	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.19	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.13	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.31	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.31	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.44	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.69	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87.50</td> <td>31.25</td> <td>56.25</td> <td>25.00</td> <td>6.25</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	87.50	31.25	56.25	25.00	6.25
	回答率																	
5	4	3	2	1														
87.50	31.25	56.25	25.00	6.25														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.64	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



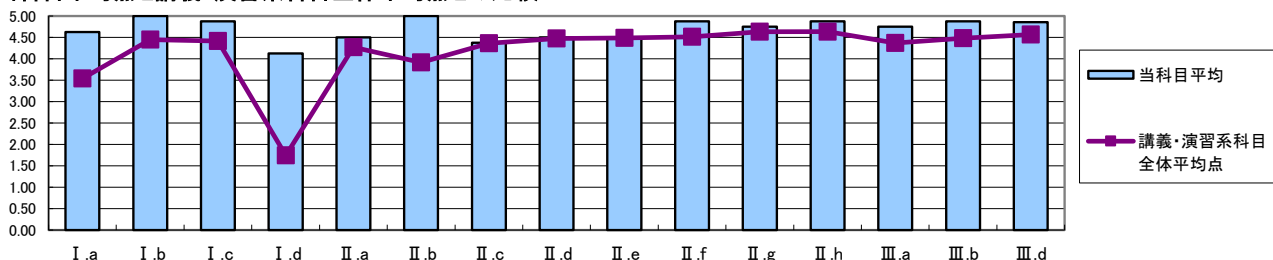
科目名	室内楽ⅡBf
教員名	河野 玲子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	8
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.63	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.13	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.88	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87.50</td> <td>87.50</td> <td>87.50</td> <td>62.50</td> <td>75.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	87.50	87.50	87.50	62.50	75.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
87.50	87.50	87.50	62.50	75.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

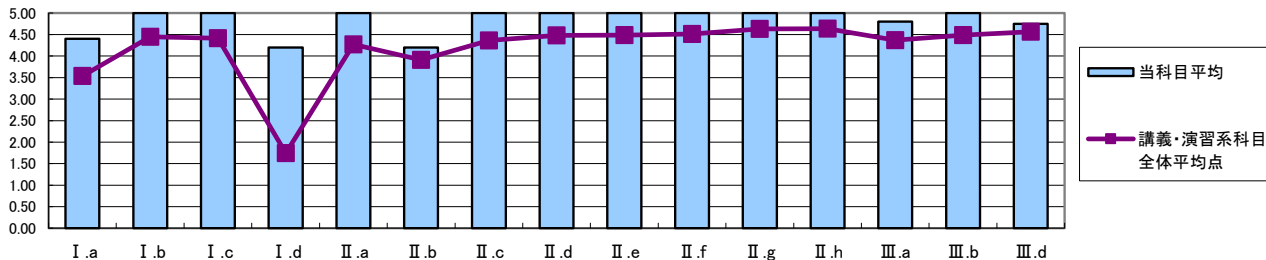
科目名	室内楽ⅢBf
教員名	河野 玲子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.20	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60.00</td> <td>80.00</td> <td>60.00</td> <td>40.00</td> <td>20.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	60.00	80.00	60.00	40.00	20.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
60.00	80.00	60.00	40.00	20.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



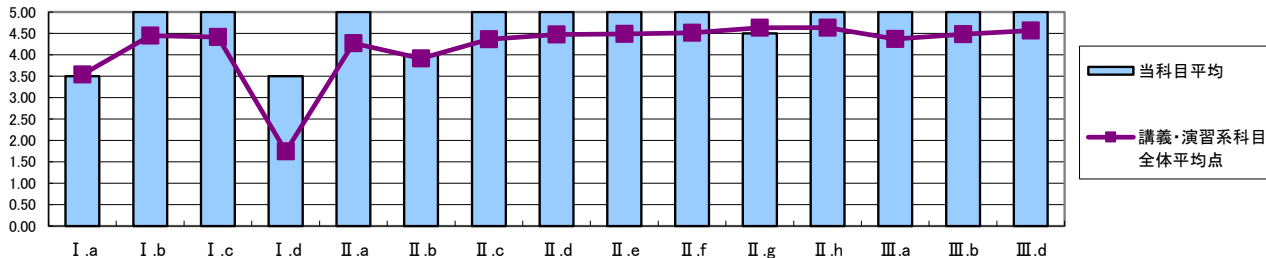
科目名	室内楽ⅣBf
教員名	河野 玲子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	50.00	50.00	50.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	50.00	50.00	50.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

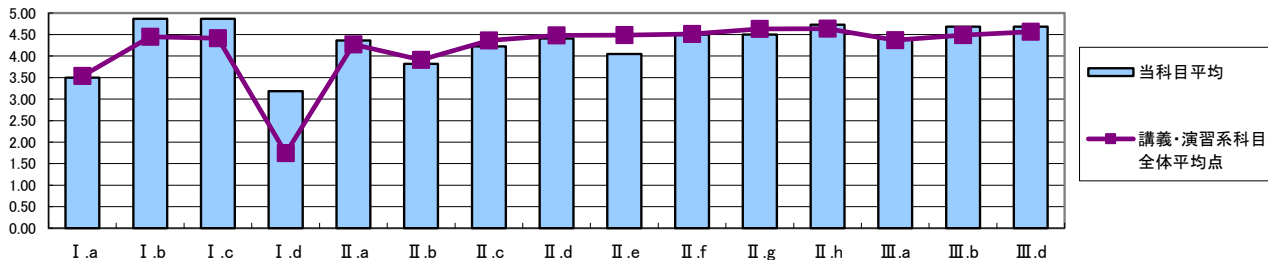
科目名	ウインドオーケストラIB
教員名	小林 恵子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	24
回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.86	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.18	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.36	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.82	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.23	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.41	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.05	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.41	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.68	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.27</td> <td>59.09</td> <td>31.82</td> <td>13.64</td> <td>22.73</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	77.27	59.09	31.82	13.64	22.73
	回答率																	
5	4	3	2	1														
77.27	59.09	31.82	13.64	22.73														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.68	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



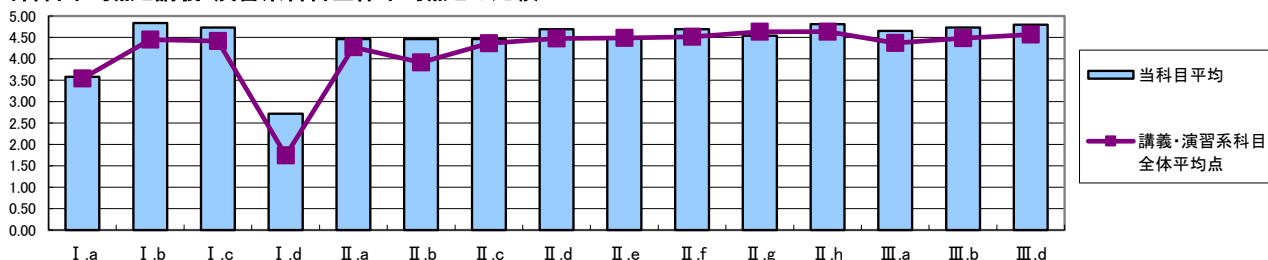
科目名	ウインドオーケストラIIB
教員名	小林 恵子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	28
回答者数	26

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.58	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.84	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.73	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.72	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.46	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.46	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.46	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.69	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.69	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.54	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.81	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.65	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.73	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.77</td> <td>26.92</td> <td>46.15</td> <td>30.77</td> <td>15.38</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	80.77	26.92	46.15	30.77	15.38
	回答率																	
5	4	3	2	1														
80.77	26.92	46.15	30.77	15.38														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

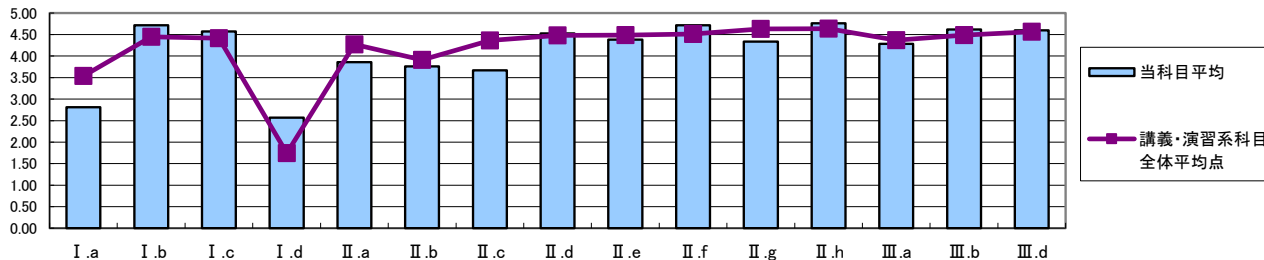
科目名	ウインドオーケストラⅢB
教員名	小林 恵子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	24
回答者数	21

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.81	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.71	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.57	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.76	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.52	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.76	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.29	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.62	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61.90</td> <td>28.57</td> <td>28.57</td> <td>28.57</td> <td>19.05</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	61.90	28.57	28.57	28.57	19.05
	回答率																	
5	4	3	2	1														
61.90	28.57	28.57	28.57	19.05														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



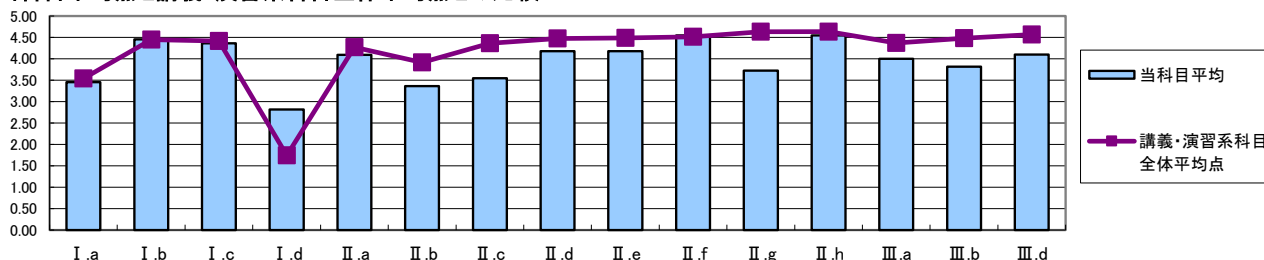
科目名	ウインドオーケストラⅣB
教員名	小林 恵子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	16
回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.45	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.45	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.36	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.82	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.09	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.36	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.55	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.18	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.18	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.55	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	3.73	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.55	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.82	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>63.64</td> <td>63.64</td> <td>36.36</td> <td>27.27</td> <td>9.09</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	63.64	63.64	36.36	27.27	9.09
	回答率																	
5	4	3	2	1														
63.64	63.64	36.36	27.27	9.09														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.10	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

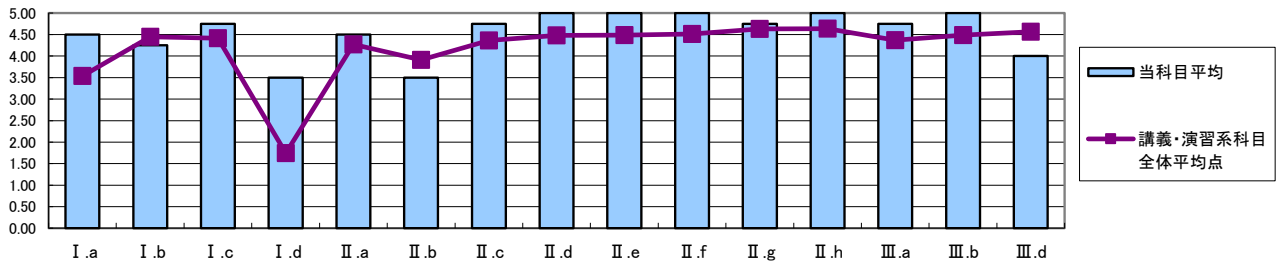
科目名	ソルフェージュ2c
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



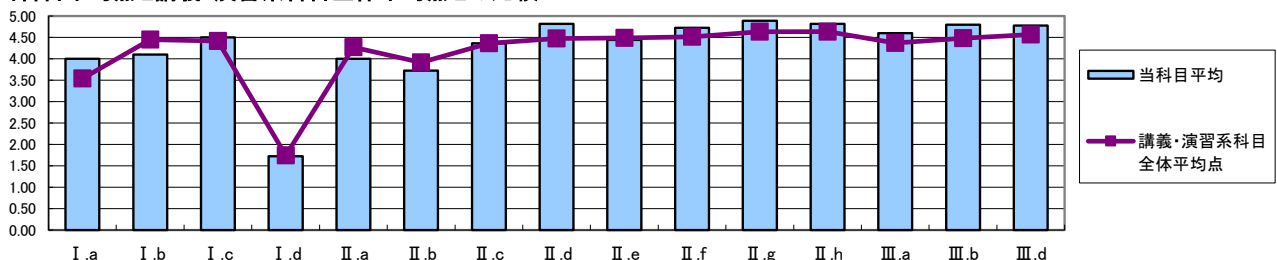
科目名	対位法B
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	14
回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.10	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.73	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.73	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.82	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.44	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.73	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.91</td> <td>36.36</td> <td>36.36</td> <td>18.18</td> <td>18.18</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	90.91	36.36	36.36	18.18	18.18
	回答率																	
5	4	3	2	1														
90.91	36.36	36.36	18.18	18.18														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

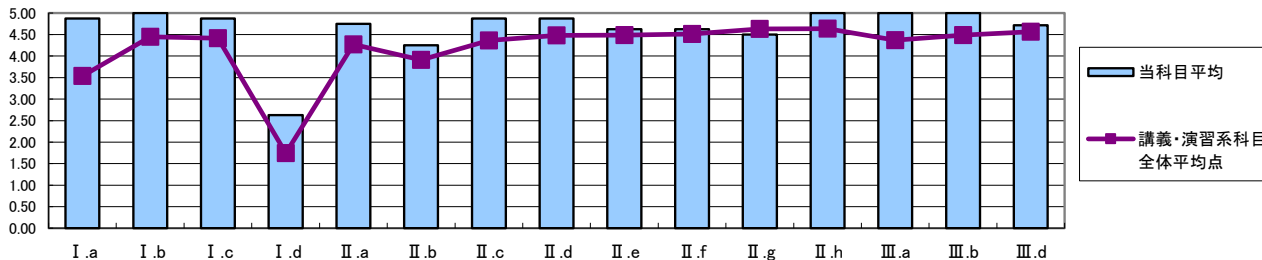
科目名	キーボードハーモニーB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.88	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.63	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.88	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.63	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>16.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	66.67	66.67	33.33	16.67
	回答率																	
5	4	3	2	1														
83.33	66.67	66.67	33.33	16.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



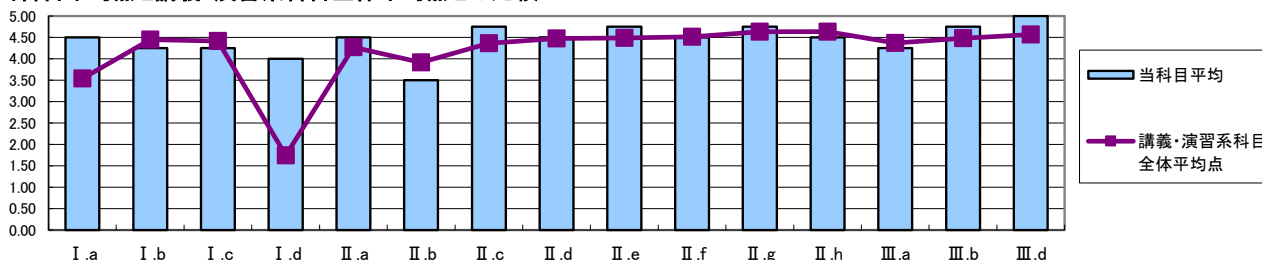
科目名	和声学2c
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>25.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	75.00	0.00	0.00	25.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
75.00	0.00	0.00	25.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

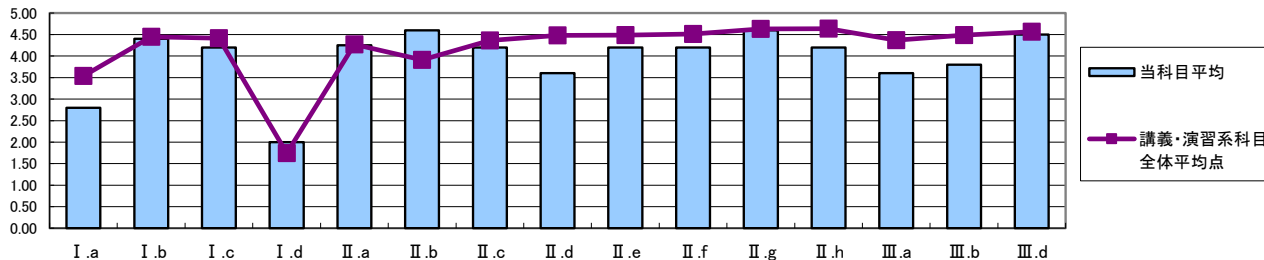
科目名	作品研究〔歌曲〕B
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.80	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.60	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.20	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.60	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.80	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.00</td> <td>60.00</td> <td>40.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	80.00	60.00	40.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
80.00	60.00	40.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



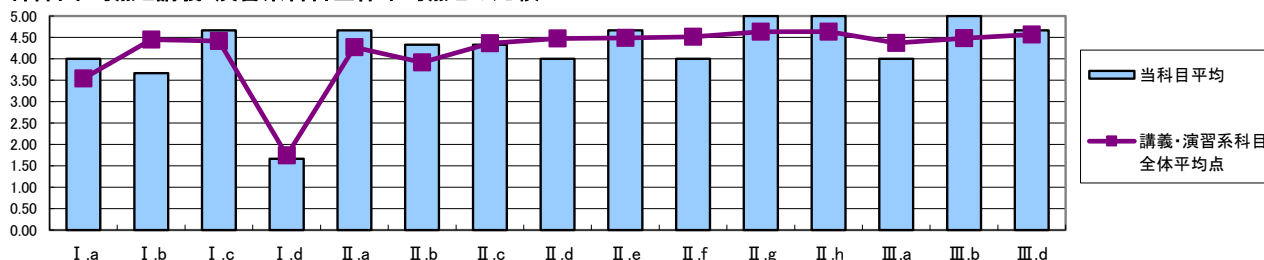
科目名	作品研究〔オペラ〕B
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	66.67	33.33	66.67	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
66.67	33.33	66.67	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

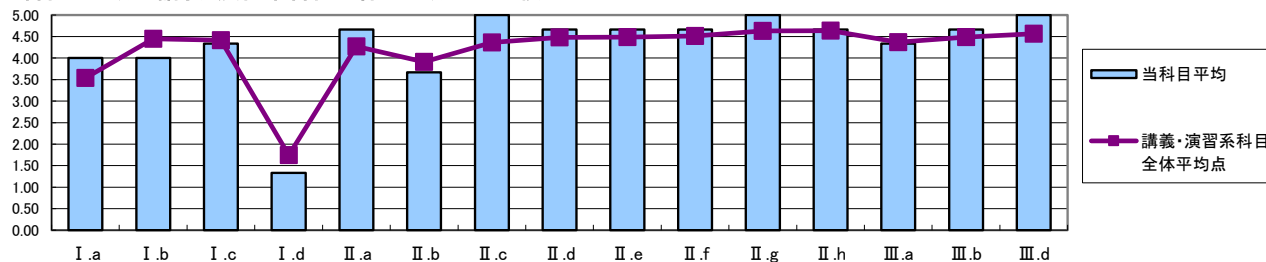
科目名	楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕b
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74																		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64																		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	66.67	0.00	0.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
100.00	0.00	66.67	0.00	0.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



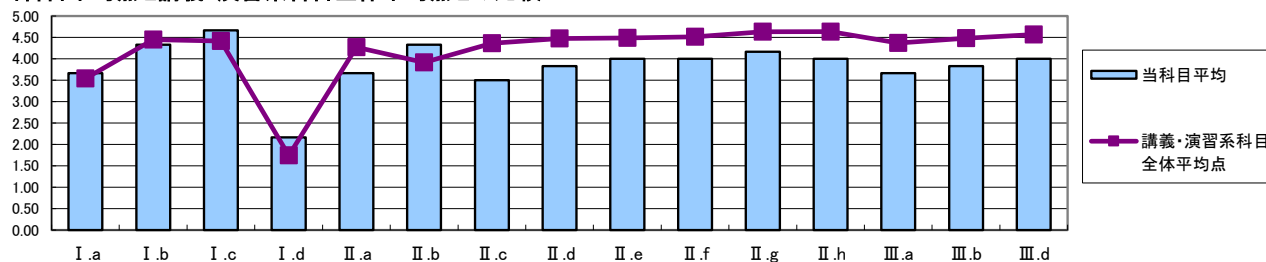
科目名	P.A.C.S.6
教員名	川羽田 晶

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.17	1.74																		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.83	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.17	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.64																		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.83	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	66.67	33.33	66.67	33.33	0.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
66.67	33.33	66.67	33.33	0.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

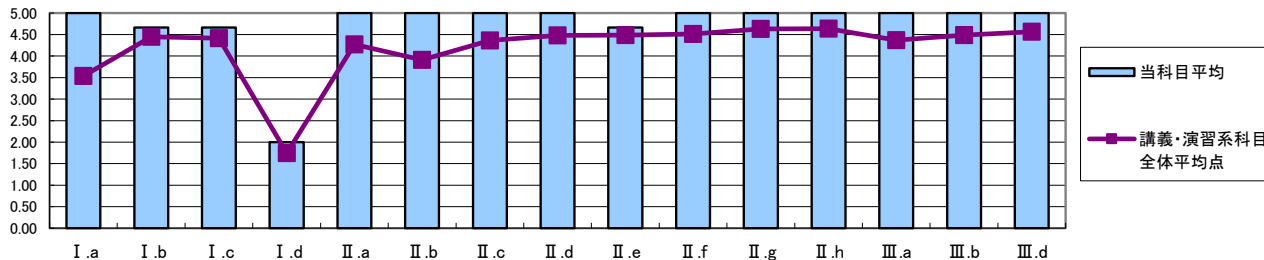
科目名	アジア音楽文化論
教員名	櫻田 素子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	100.00	33.33	66.67
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	100.00	100.00	33.33	66.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



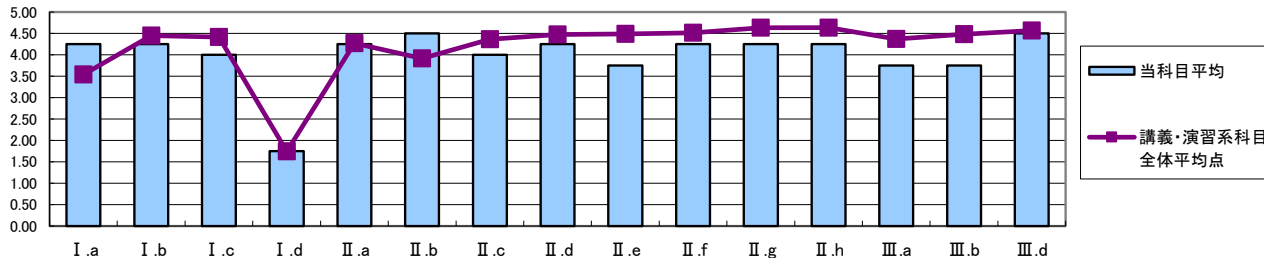
科目名	ビジネスチャレンジャーB
教員名	篠原 竜一

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.75	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.75	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>75.00</td> <td>25.00</td> <td>25.00</td> <td>25.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	75.00	25.00	25.00	25.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	75.00	25.00	25.00	25.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

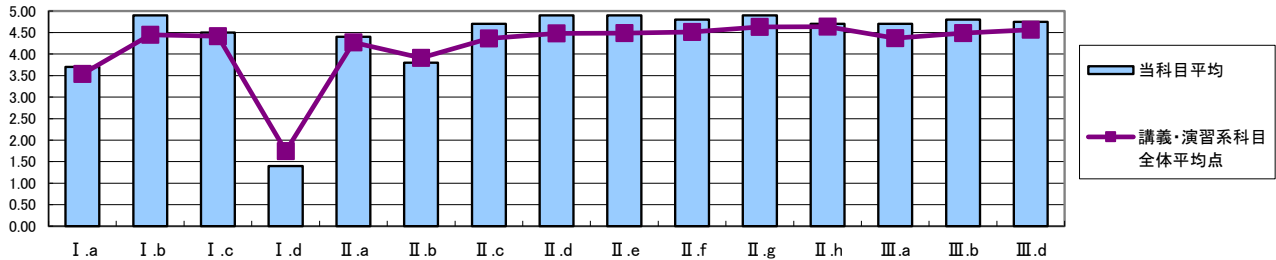
科目名	民族音楽学B
教員名	鈴木 良枝

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	14
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.70	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	4.90	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.74																		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.70	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.90	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.90	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.90	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.64																		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.70	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>80.00</td> <td>40.00</td> <td>60.00</td> <td>10.00</td> <td>10.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	80.00	40.00	60.00	10.00	10.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
80.00	40.00	60.00	10.00	10.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



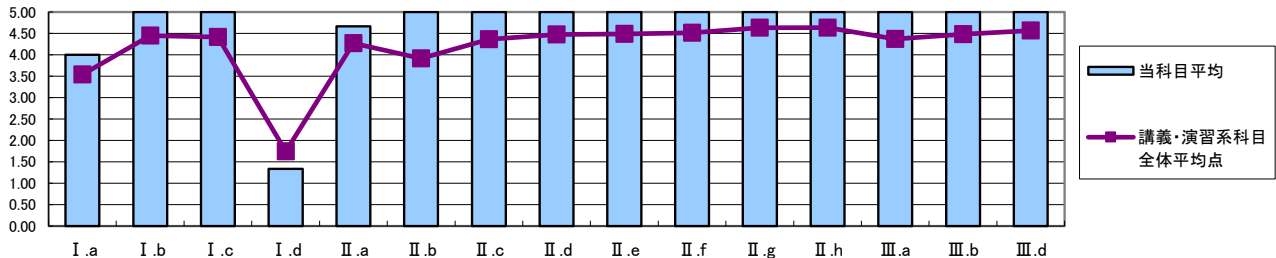
科目名	障害学B
教員名	高畑 敦子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74																		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64																		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	100.00	66.67	100.00	33.33	0.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
100.00	66.67	100.00	33.33	0.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

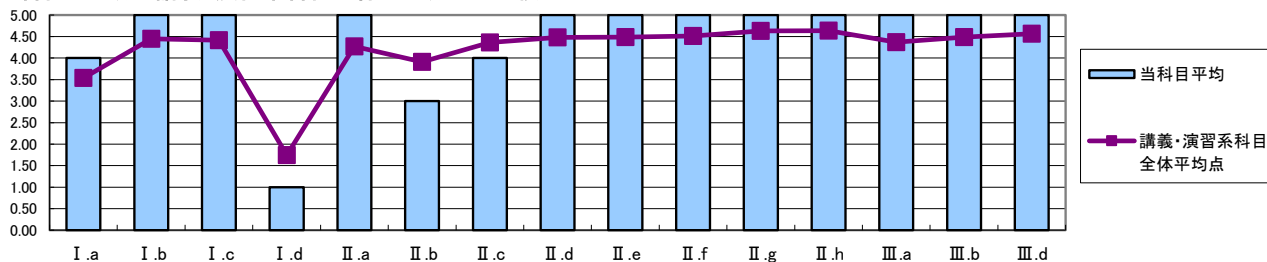
科目名	ピアノ伴奏法ⅡB
教員名	田中 梢

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	100.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	100.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



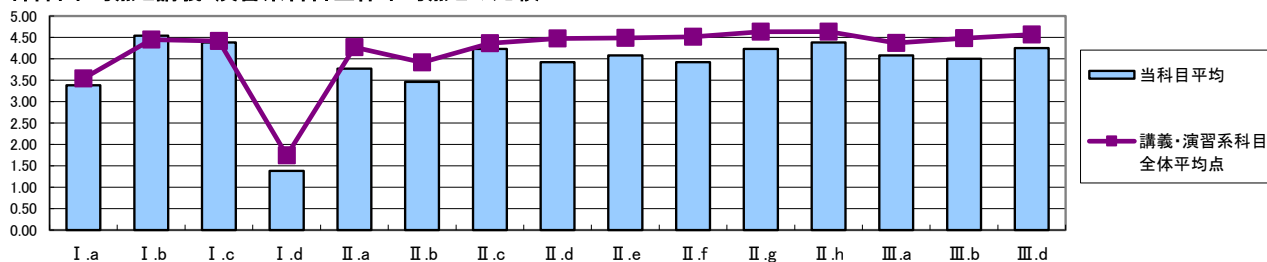
科目名	音楽の基礎理論Ba
教員名	田村 治美

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	14
回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.38	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.54	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.77	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.46	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.23	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.92	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.08	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.92	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.23	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.08	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>69.23</td> <td>30.77</td> <td>61.54</td> <td>15.38</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	69.23	30.77	61.54	15.38	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
69.23	30.77	61.54	15.38	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

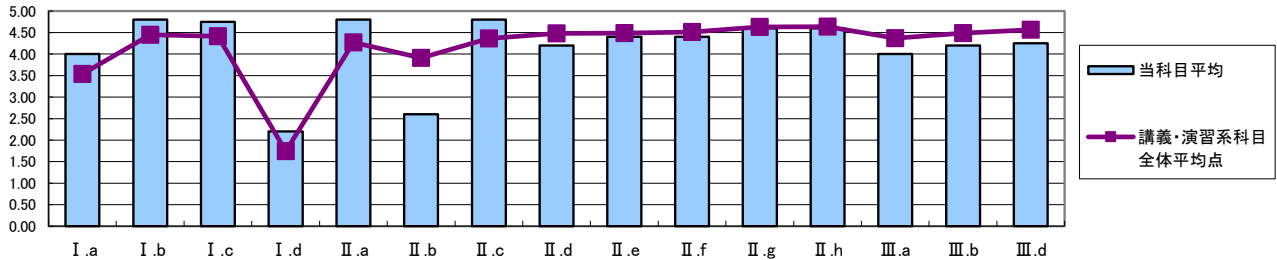
科目名	楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕a
教員名	田村 治美

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.80	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.20	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.60	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40.00</td> <td>60.00</td> <td>0.00</td> <td>20.00</td> <td>20.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	40.00	60.00	0.00	20.00	20.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
40.00	60.00	0.00	20.00	20.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



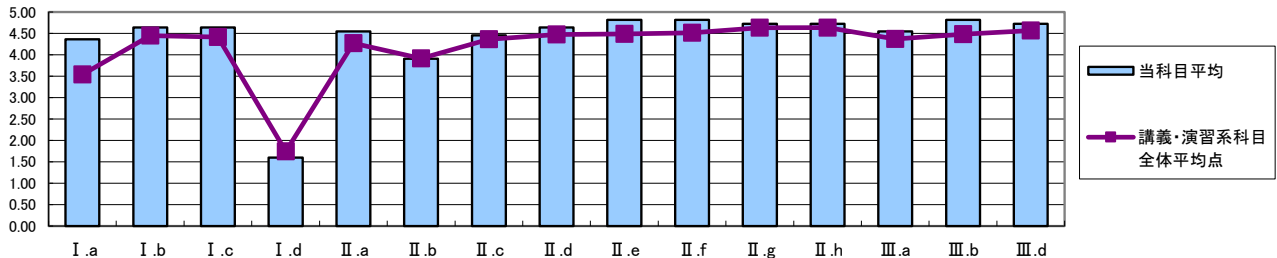
科目名	音楽心理学B
教員名	徳富 政樹

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	16
回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.36	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.64	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.64	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.55	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.91	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.64	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.82	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.55	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.82	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36.36</td> <td>54.55</td> <td>45.45</td> <td>18.18</td> <td>9.09</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	36.36	54.55	45.45	18.18	9.09
	回答率																	
5	4	3	2	1														
36.36	54.55	45.45	18.18	9.09														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.73	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

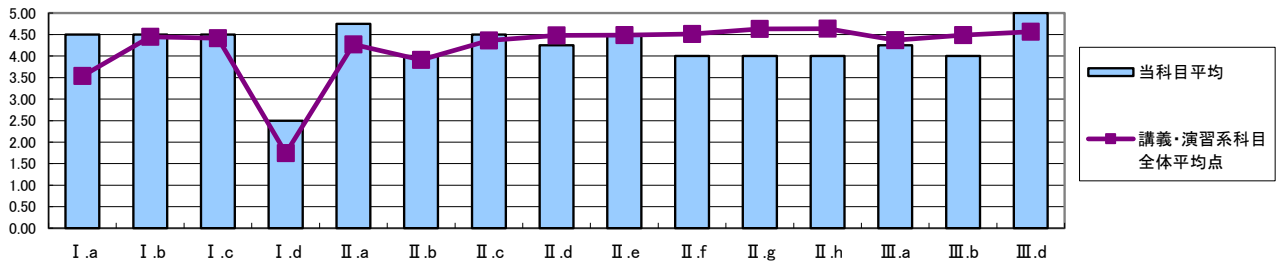
科目名	ソフトウェア演習ⅠB
教員名	難波 研

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
Ⅰ	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.74															
Ⅱ	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.64															
Ⅲ	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	66.67	33.33	33.33
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	100.00	66.67	33.33	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



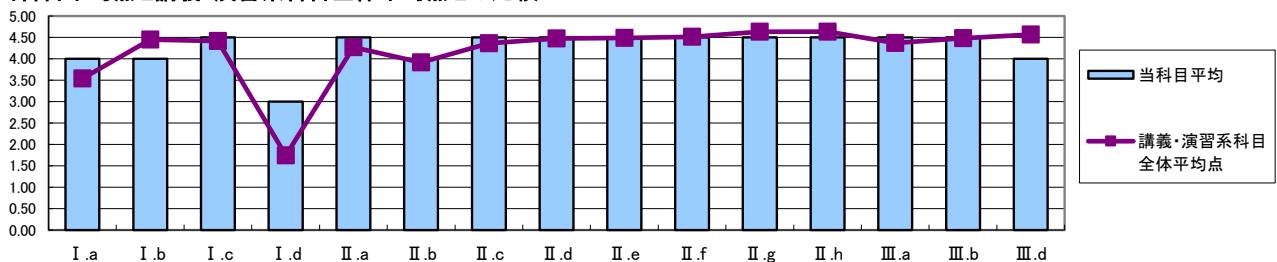
科目名	ソフトウェア演習ⅢB
教員名	難波 研

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
Ⅰ	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74															
Ⅱ	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64															
Ⅲ	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	50.00	0.00	50.00	50.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
50.00	0.00	50.00	50.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

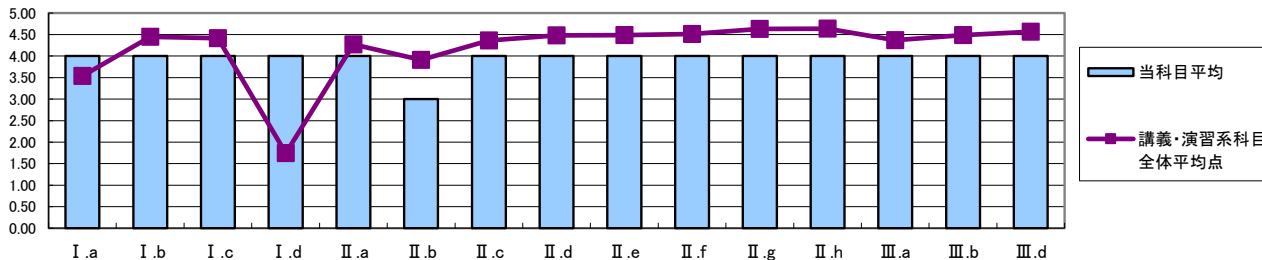
科目名	音楽音響メディア論B
教員名	難波 研

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
0.00	0.00	0.00	100.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



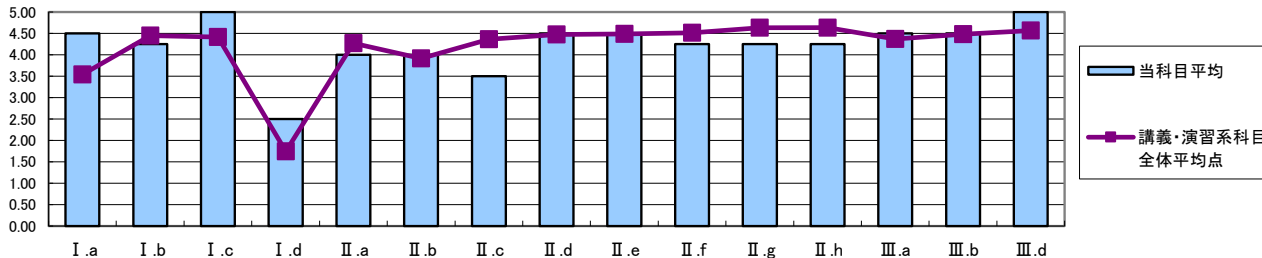
科目名	演技とパフォーマンス
教員名	ひかる 一平

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>25.00</td> <td>25.00</td> <td>25.00</td> <td>75.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	25.00	25.00	25.00	75.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	25.00	25.00	25.00	75.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



基礎教育科目

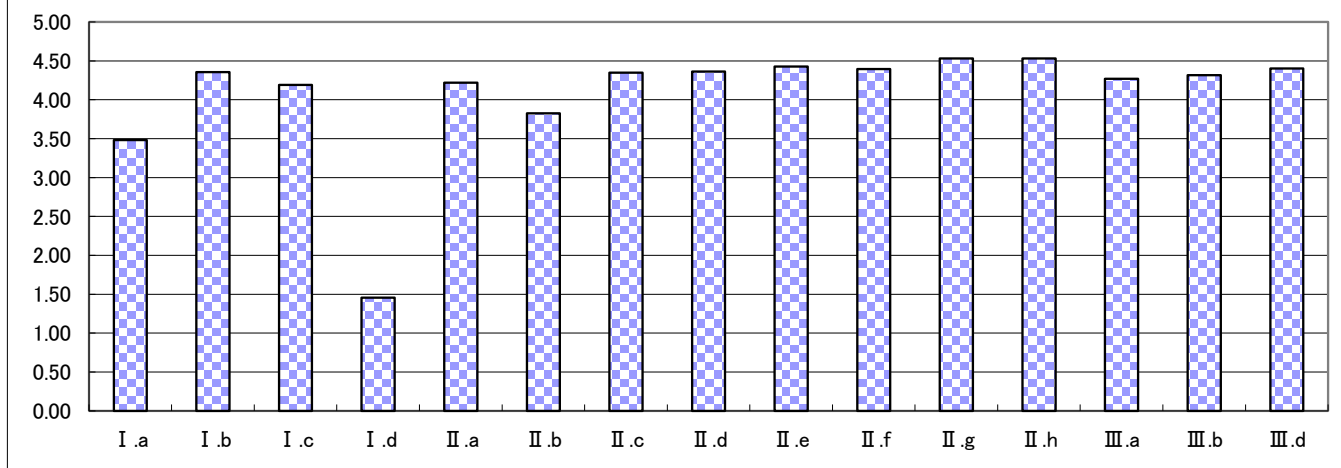
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	08. 基礎教育科目
科目数	46

履修者数	755
回答者数	587

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.48	167	164	120	52	82	585	2
			28.5	28.0	20.5	8.9	14.0		
	b	4.35	333	163	60	25	5	586	1
			56.8	27.8	10.2	4.3	0.9		
c	4.19	271	199	81	21	12	584	3	
		46.4	34.1	13.9	3.6	2.1			
d	1.46	18	16	35	78	439	586	1	
		3.1	2.7	6.0	13.3	74.9			
II	a	4.22	291	153	126	6	8	584	3
			49.8	26.2	21.6	1.0	1.4		
	b	3.83	78	129	339	21	19	586	1
			13.3	22.0	57.8	3.6	3.2		
	c	4.35	322	162	87	14	1	586	1
			54.9	27.6	14.8	2.4	0.2		
	d	4.36	334	158	72	16	6	586	1
			57.0	27.0	12.3	2.7	1.0		
e	4.43	365	133	66	14	7	585	2	
		62.4	22.7	11.3	2.4	1.2			
f	4.39	348	137	89	11	2	587	0	
		59.3	23.3	15.2	1.9	0.3			
g	4.53	403	113	50	14	5	585	2	
		68.9	19.3	8.5	2.4	0.9			
h	4.53	382	138	57	5	2	584	3	
		65.4	23.6	9.8	0.9	0.3			
III	a	4.27	277	211	81	10	6	585	2
			47.4	36.1	13.8	1.7	1.0		
	b	4.32	314	172	74	14	9	583	4
			53.9	29.5	12.7	2.4	1.5		
c	-	388	223	178	98	152	573	14	
d	4.40	311	133	52	18	5	519	68	
		59.9	25.6	10.0	3.5	1.0			

08. 基礎教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

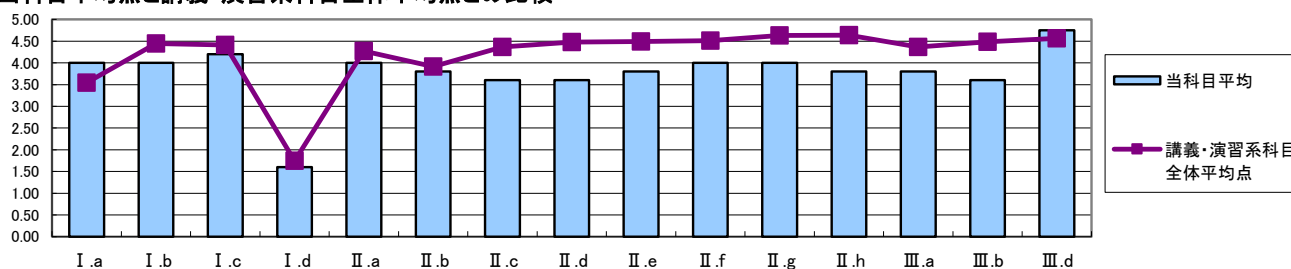
科目名	芸術文化とユネスコB
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	7
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.60	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.60	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.80	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.80	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.80	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.60	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60.00</td> <td>40.00</td> <td>20.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	60.00	40.00	20.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
60.00	40.00	20.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

昨今のSDG'sを踏まえ国連機関の中で唯一、文化（この『文化』の中に『音楽』があるという謙虚な姿勢）を担うユネスコの取り組みを伝え、世界遺産保護の重要性を伝える授業ですが、第8代ユネスコ事務局長・松浦晃一郎氏の授業では「世界遺産条約」をも扱うため、内容は多岐にわたる。「旅」もエンタメの一環であると考えているので、観光としての世界遺産や、旅のホスピタルにも焦点をあて、幅広い文化の『無形文化遺産のあり方』を問う。学生と一緒に問題解決（負の世界遺産、環境問題）の糸口を見つけディスカッションする授業ですが、学生からは「知らないことを経験できて有意義だ」との声も多数聞く。世界平和についても考えていく場面も多いので、グローバルな視点での授業展開となっている。

● 問題点

世界遺産条約についての授業は、やや難しいのではないかと考える。

● 改善の方策

これらをわかりやすく、飽きさせないように学生に伝える方法を模索中。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

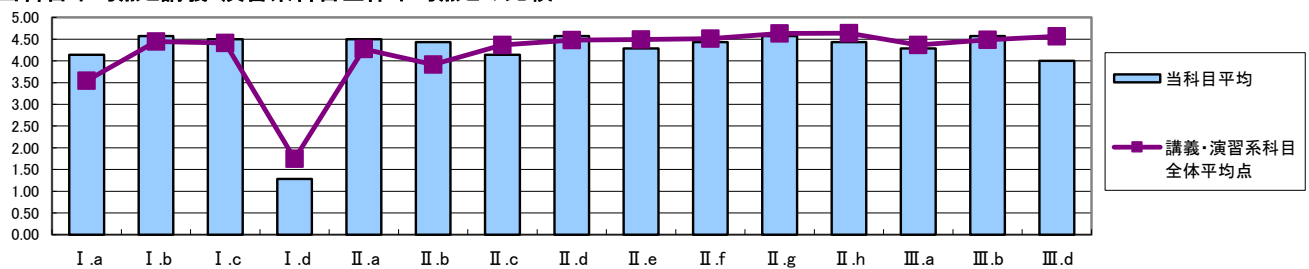
科目名	グローバルミュージックB
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.14	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.57	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.57	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.29	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.71</td> <td>71.43</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	85.71	71.43	100.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
85.71	71.43	100.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ユネスコ無形文化遺産の考えをもとに、各学期の歴史と音色（民族楽器含む）を学び、いかに現代に使用し有意義な効果を得られるかを学ぶ

● 問題点

商業音楽業界で活躍する奏者をゲストに展開。
学生には概ね好評であると思いますが、実際に楽器に触れて演奏のノウハウをも学ぶので、そういう時は大いに盛り上がるが、楽器演奏がない座学の場合は、若干、盛り上がりには欠ける

● 改善の方策

座学での見せ方、魅せ方を各講師と議論している。
より良い伝え方のために、喋り、滑舌、喋りの間の取り方も研究会を開きディスカッションしている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

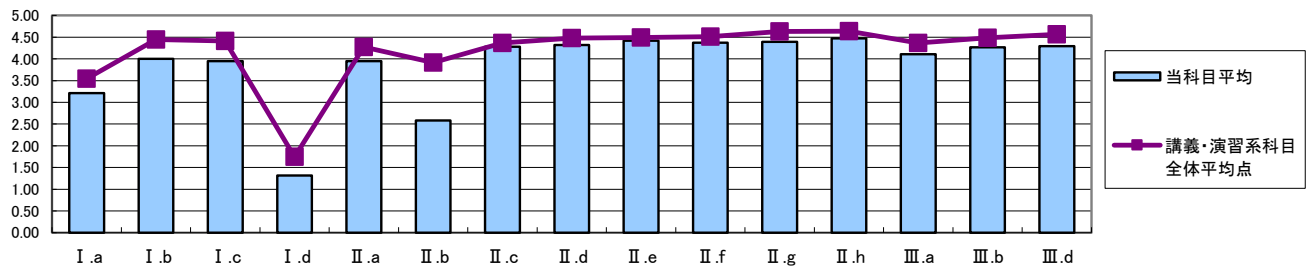
科目名	ドイツ語2a
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	22
回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.21	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.95	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.32	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.95	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.58	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.28	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.32	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.42	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.37	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.39	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.47	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.11	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.26	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>72.22</td> <td>22.22</td> <td>55.56</td> <td>11.11</td> <td>5.56</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	72.22	22.22	55.56	11.11	5.56
	回答率																	
5	4	3	2	1														
72.22	22.22	55.56	11.11	5.56														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.29	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

前期で学んだドイツ語の骨格になる文法を確実に習得することを主眼に置いて、副教材を用いて演習中心の授業を進めた。また現代ドイツの時事映像を用いて、ドイツ語の背景にある文化、歴史、社会を理解できるよう視覚化の要素を付け加えながら授業を進めた。授業の後半ではエーリッヒ ケストナーの映画作品を鑑賞しながら、現代のドイツが抱えている問題を日本と比較しながら考えた。

● 問題点

シラバスに従って授業を進めたが動詞、冠詞の項目での理解が充分ではなかった。様々なプリントを配布して練習問題を多くこなしたが消化不良がみられた。プリント素材の厳選が必要であり、難易度に関してもそれぞれの状況に応じた調整が必要であった。

● 改善の方策

ドイツ語は語形変化の修得が必須条件であるが、教科書以外に確認と定着の為の練習問題を作成することにする。また、授業内で理解、定着させる為の時間を毎回設けることにする。負担感のない課題も作成し、自己チェックとフィードバックの仕組みを確立する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

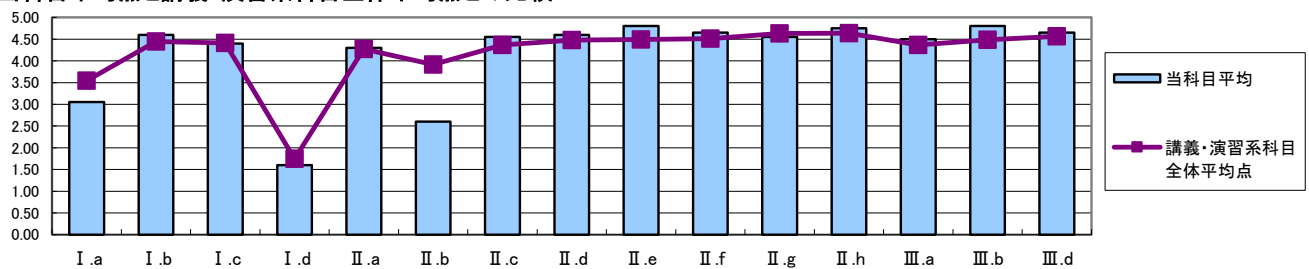
科目名	ドイツ語4
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	25
回答者数	20

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.05	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.30	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.60	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.65	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.55	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.00</td> <td>20.00</td> <td>25.00</td> <td>15.00</td> <td>10.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	80.00	20.00	25.00	15.00	10.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
80.00	20.00	25.00	15.00	10.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.65	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

一年で学習した文法項目の復習を、新たに作成した練習プリントで確認し未習の文法項目を習得する為の授業を演習形式で進めた。音楽家や文学者の伝記のリライト原文を読み、読解力の向上を目指した。また、現代のドイツ文化を更に深く理解する為に、映画作品を鑑賞し、その内容を素材にした議論を重ねアクティブラーニングを実践した。

● 問題点

素材の難易度が徐々に高くなって来るので、個々の学生達の理解度に合わせるのが難しかった。副教材や個別対応だけでは差を埋めるのが難しく、授業が進むごとに理解の程度に差が出た。

● 改善の方策

復習が短時間でできるドリルを作成し、定期的にチェックとフィードバックを行い、個々の学生の弱点克服の方法を見出すことにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

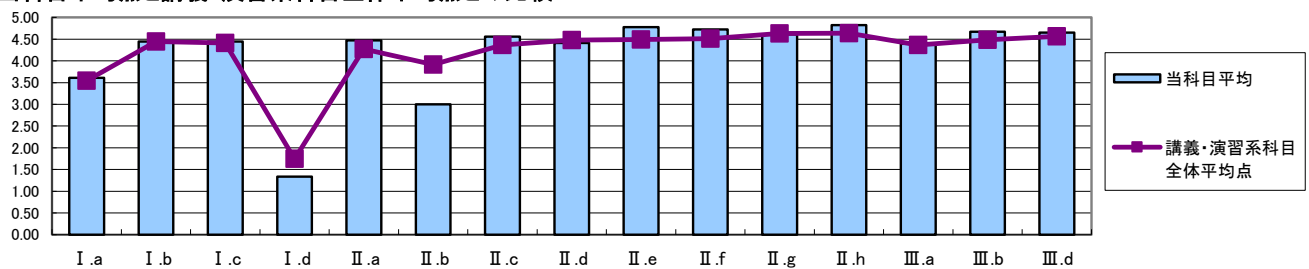
科目名	ドイツ語2b
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	23
回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.61	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.44	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.44	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.47	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.41	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.72	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.61	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.39	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.44</td> <td>22.22</td> <td>22.22</td> <td>22.22</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	94.44	22.22	22.22	22.22	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
94.44	22.22	22.22	22.22	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.65	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

前期で学んだドイツ語の骨格になる文法を確実に習得することを主眼に置いて、副教材を用いて演習中心の授業を進めた。また現代ドイツの時事映像を用いて、ドイツ語の背景にある文化、歴史、社会を理解できるよう視覚化の要素を付け加えながら授業を進めた。授業の後半ではエーリッヒ ケストナーの映画作品を鑑賞しながら、現代のドイツが抱えている問題を日本と比較しながら考えた。

● 問題点

シラバスに従って授業を進めたが動詞、冠詞の項目での理解が充分ではなかった。様々なプリントを配布して練習問題を多くこなしたが消化不良がみられた。プリント素材の厳選が必要であり、難易度に関してもそれぞれの状況に応じた調整が必要であった。

● 改善の方策

ドイツ語は語形変化の修得が必須条件であるが、教科書以外に確認と定着の為の練習問題を作成することにする。また、授業内で理解、定着させる為の時間を毎回設けることにする。負担感のない課題も作成し、自己チェックとフィードバックの仕組みを確立する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

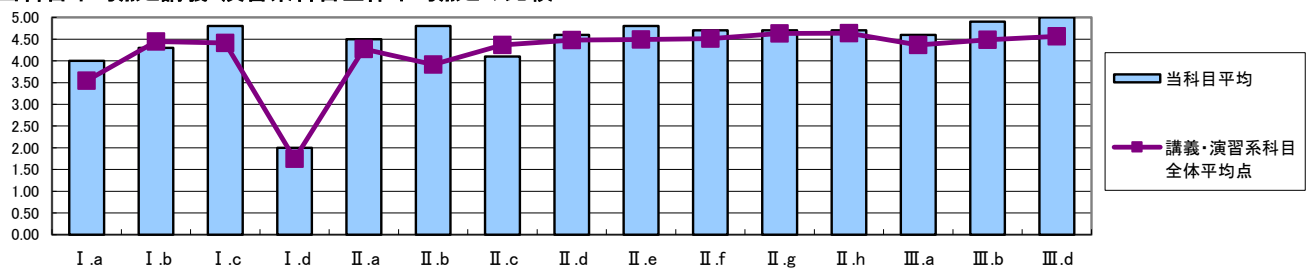
科目名	konzertfach 朗読法B(イタリア語)
教員名	伊藤 和広

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	10
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.30	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.80	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.10	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.70	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.90	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70.00</td> <td>50.00</td> <td>70.00</td> <td>40.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	70.00	50.00	70.00	40.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
70.00	50.00	70.00	40.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、例年通り火曜の2限に行なわれ、10名の履修者で講義がスタートしました。アンケートには10名全員が回答しています。声楽専攻生の必修科目である当講義には、今年度も総じて皆意欲的に取り組んでいたように感じています。1名の留学生を除き、短大からの編入生はいるものの、現役学生を中心とした同世代で構成されていたこともあり、また、良きライバルとしての仲の良さなども垣間見られ、お互いを刺激し合うことでも多くのことを学修したかと思われまます。優秀な学生が多いゆえ、外部出演やウィーン研修、パリ公演参加に備えるためにやむを得ず欠席になってしまう学生も数名おりましたが、その点については予習と復習の課題、個別指導とも加え、遅れを取ることをないように配慮しました。

● 問題点

集計結果から、総じて良好であったと分析できます。意識のズレについては、声楽専攻の学生が大学2年次において声を作っている段階であること、発声や音楽づくりに興味集中していることから、イタリア語の朗読や発音練習をする予習と復習の時間が十分に取れていなかったように思います。

● 改善の方策

実技、特に歌うことに喜びを感じている学生達に少しでも座学としての価値、辞書を引いて学び、朗読を録音して聴き返す等、興味を持って学習できるよう工夫し、次年度に生かします。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

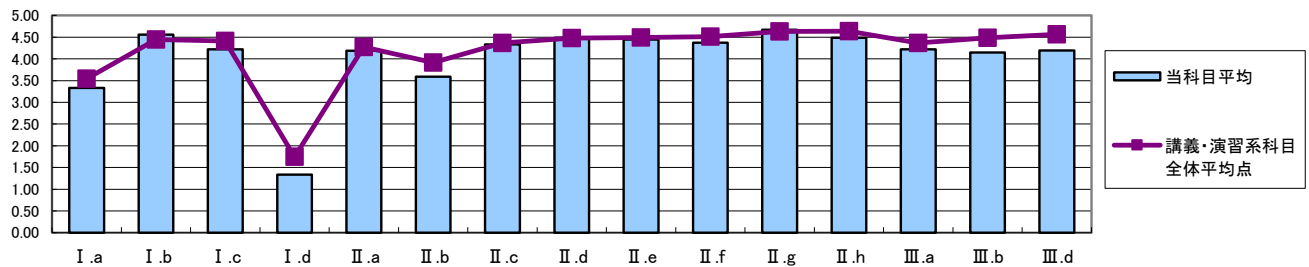
科目名	東邦スタンダード I Ba
教員名	伊藤 和広

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	29
回答者数	27

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.56	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.19	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.59	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.48	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.44	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.37	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.48	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.22	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.15	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		53.85	53.85	11.54	19.23	46.15
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.19	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度も、例年通り水曜の1限に開講しました。シラバスに提示されている科目の目的にもあるよう、当科目は主に社会人としての生き方に必要なスキルを身につけることを重要視しているため、大学初年次教育という観点からも皆総じて積極的に取り組んでいたように感じています。例年に比べ、遅刻者数がかかなり少なく、クラス全体の学習意欲も高く、講義を進める上では学生達の協力も多く感じました。また、音楽人としての社会性など、アクティブラーニングとしての授業形態も今年度は大変有効であり、2年次に向け、良い位置付けの講義になったものと実感しています。

● 問題点

アンケートの集計結果を見ていきますと、昨年度までの改善点を踏まえて進めたため、総じて学生達の満足度が向上しているように思います。難易度が高く感じる学生が増えていることは、個々に考えさせる時間を多く取り、グループワークで新たな経験をしたことが起因しており、良い手応えを感じています。他の科目に比べると平均点は低いものの、当講義としては十分な結果であったと分析します。

● 改善の方策

予習と復習にかかる時間が少ないことが問題点です。課題を増やします。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

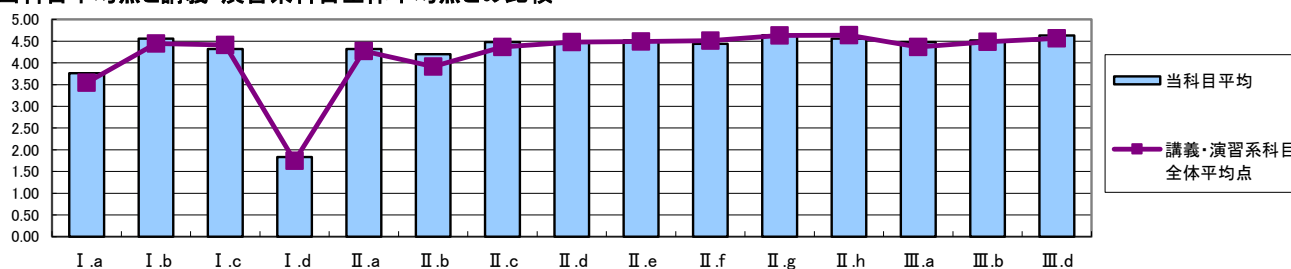
科目名	東邦スタンダードⅡBa
教員名	岩間 丈正

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	33
回答者数	25

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.76	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.56	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.32	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.83	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.32	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.48	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.48	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.52	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.64	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.48	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.52	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>52.00</td> <td>36.00</td> <td>12.00</td> <td>8.00</td> <td>44.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	52.00	36.00	12.00	8.00	44.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
52.00	36.00	12.00	8.00	44.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度からインターンシップのルールが改定され、外部講師ともども対応した。キャリア関連の授業は外部講師が担当した。東邦の教員が担当する授業については、こちらで音楽科に特化した授業内容を準備した。演奏や音源を聞きながらのじゅぎょを実施したので、学生は興味深く授業に参加していた。設問Ⅲは回答が5～3に集中しているため、学生の教員と外部講師に対する印象は悪くないと思われる。ほぼシラバス通りに授業を進められた。

● 問題点

大学2年生なのでまだキャリアについての認識が薄い学生もいる。授業はキャリア支援職員による授業を実施。今年度はキャリア支援センターと連携して授業を進めた。学生はキャリアに直結した内容には興味を示すが、かかわりが薄いと、あまり興味を持たない。朝1限の授業なので起きられず欠席、遅刻する学生もいる。留学生の言葉の理解度への対応が難しい。

● 改善の方策

キャリア支援センターとの連携を密にして、学生の就職に寄り添った授業にしたいと思う。留学生の言葉の問題は今後の課題である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

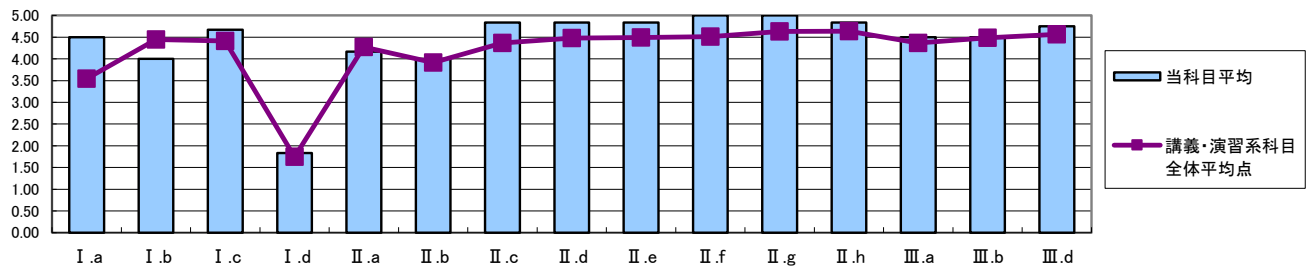
科目名	Basic English 2
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	10
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.83	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.83	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> <td>16.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	33.33	0.00	16.67
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	0.00	33.33	0.00	16.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、語学習得における4つの柱「読む・書く・聞く・話す」ための力をバランスよく学び、学習者の基礎英語力を定着させることを目的とした。受講生は1年生を中心とし、講義・演習の混合形式で授業を行った。検討すべき点として、①「この授業の出席は良好であった。（設問 I b）」が全体平均をやや下回ったこと、②「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。（設問 I d）」を挙げる。以降、①②と記述する。

● 問題点

①②の結果を招いた要因として、教材選定も一因となったと考える。本専攻の特色柄、音楽への興味・関心が高い学生が多い中、TOEIC対策を兼ねた教科書を採用した。一昨年までのアンケートで、就職後も生きる実践的な英語力を養うことに関心の高さがみられたからだ。しかし、やや難易度も高く、受講生の予習・復習時間にも大きなばらつきがあることから、全員の意欲を十分に引き出すには内容に偏りがあったと考える。

● 改善の方策

音楽への関心が高い学生が、英語への関心を相乗的に高められるよう教材選びを慎重にする。教材がTOEIC対策を兼ねていたこともあり、講義にやや偏ってしまったところがあるため、演習時間を増やし、受講生が主体的に学びを深めていけるよう改善に努める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

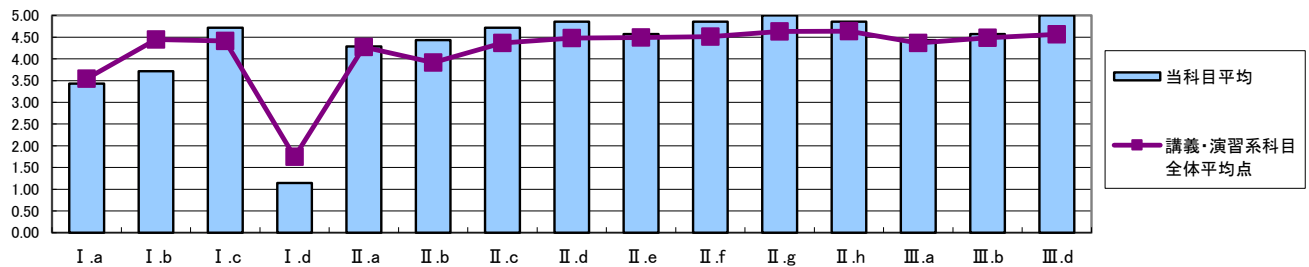
科目名	Communication Skills I B
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.43	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.71	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.43	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>14.29</td> <td>14.29</td> <td>0.00</td> <td>57.14</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	14.29	14.29	0.00	57.14
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	14.29	14.29	0.00	57.14														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、日常コミュニケーションにおける英語を実践的に学学習、学習者の基礎英語コミュニケーション能力を養うことを目的とした。受講生は1年生を中心とし、講義・演習の混合形式で授業を行った。検討すべき点として、①「この授業の出席は良好であった。(設問 I b)」、②「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。(設問 I d)」を挙げる。以降、①②と記述する。

● 問題点

①②の結果を招いた要因として、教材選定も一因となったと考える。英語のみで記載された教材は、日常に基づいたテーマがたくさんあるが、難易度がやや高く、受講生の関心に大きく影響したものと考えられる。そのため、予習・復習時間のばらつきや、全員の意欲を十分に引き出すには偏りがあったと考える。

● 改善の方策

英語への関心を高め、英語力を高められるよう教材選定を慎重にする。演習において、発表を含め個人の発言の機会は多かったものの、受講生間で取り組むアクティビティなどを導入し、受講生一人ひとりがより主体的に学びを深めていくよう改善に努める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

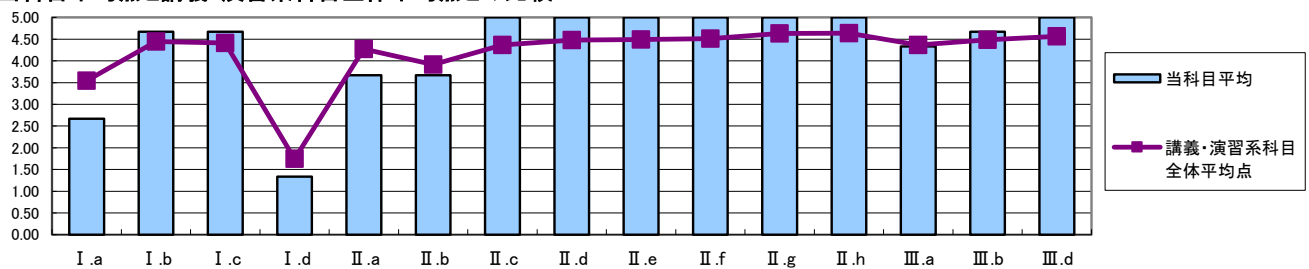
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーションB
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	5
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	33.33	66.67	66.67	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	33.33	66.67	66.67	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目では、ドイツ語の基礎を定着し、コミュニケーションのためのドイツ語運用能力を高めることを目的とした。同時に、ドイツ語圏の地域研究を行った。受講生は全学年にわたり、授業形態は講義・演習の混合形式であった。検討すべき点として、①「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。（設問 I d）」、②「この授業はシラバスに沿って行われていた（設問 II a）」、③「この授業の難易度はどうでしたか（設問 II b）」を挙げる。以降①、②、③とする。

● 問題点

まず、③において授業の難易度がやや高いと感じている受講生がいるにもかかわらず、①の予習・復習に取り組む時間が少ないことである。ドイツ語では、名詞がもつ性により定冠詞が変化する。こうした知識によるところに、苦手意識を持つ受講生が多く、覚えないとドイツ語が使えないことに負担感を感じたものとする。結果的に、一度実施したところを反復して学習する機会も増え、②の結果にみられるようにシラバスに準拠していないと感じることもあったと考える。

● 改善の方策

ドイツ語は、初級者ほど文法に負担を感じる人が多いように感じる。覚えなければならないことが多いように感じるからである。そのため、教材については、より視覚的に取り組みやすいものを採用する。また、文法や覚え事に時間をかけるよりも、受講生が主体的にアクティブに取り組める時間を増やし、改善に努める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

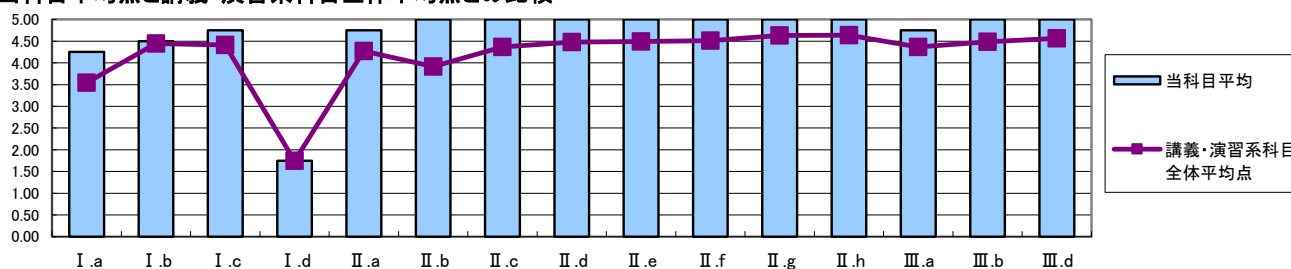
科目名	English PresentationB
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>75.00</td> <td>75.00</td> <td>50.00</td> <td>75.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	75.00	75.00	50.00	75.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	75.00	75.00	50.00	75.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、英語で「表現」のできる人材の育成を目的とし、英語力とプレゼンテーション力の双方を向上させるための授業であった。受講生は、3年生を中心とし、講義と演習の混合形式であった。受講生全体の英語やプレゼンテーションへの意欲・関心が非常に高く、担当者としてもやりがいを感じる緊張感のある授業であった。すべてのアンケート項目において十分な結果をいただき、次の年にも生かしていただけるよう努力する。

● 問題点

意欲の高い受講生に参加していただき、全体でのプレゼンテーションの頻度も例年より多く実施した。今後、同じ頻度や内容で実施すると負荷が大きいと感じる受講生がでてくる可能性もあることから、内容は都度検討する。

● 改善の方策

本科目は、一分間スピーチから、ショートプレゼンテーションをはじめ、毎回の授業で学生自身が発信する機会が多い。ただ話すだけではなく、原稿の内容、構成、英語、発表のマナーなど注意すべき点は多岐にわたる。講義をきいているだけでは自身の英語力やプレゼンテーション能力の改善は難しいことから、発表の機会は今後も充実させる。同時に、発表における注意すべきポイントについて、講師だけでなく、受講生間でも共有し、その学びを互いに生かせるよう、より明確なチェックポイントを提示し全体で鍛錬できるよう努める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

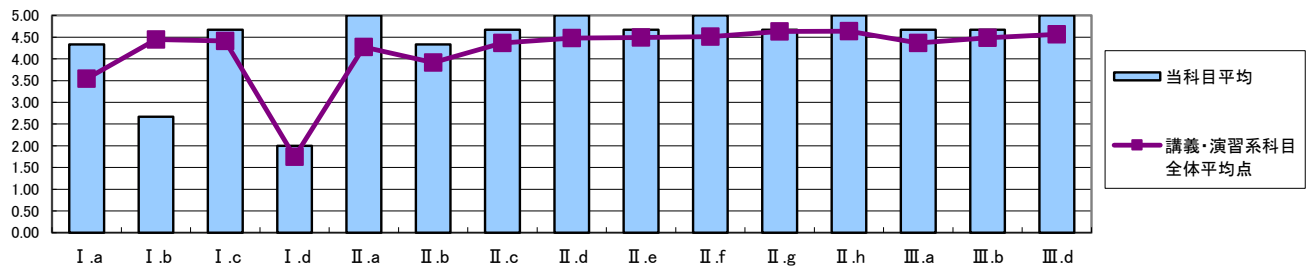
科目名	Communication Skills II B
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	2.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	33.33	0.00	33.33
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	33.33	0.00	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、Communication Skills IA, IB, II Aの履修者が、その発展として英語を継続的に学ぶことができるよう教材選びから工夫をした。日常コミュニケーションの中で使われる実践英語の習得を目的とし、授業形態は講義と演習の混合形式であった。受講生は2年生を中心であった。検討すべき点として、「この授業の出席は良好であった。(設問 I b)」が全体平均を下回ったことであるが、全体的に受講生が意義を十分に感じながら英語に親しみを持って学習していた様子がうかがえる結果であった。

● 問題点

この結果を招いた要因として、教材選定も一因となったと考える。日常の英語を学ぶためのエッセンスは充実した教材であったが、すべて英語で記載されていたことや、難易度もやや高いことから、受講生全体の意欲を十分に引き出すには偏りがあったと考える。

● 改善の方策

教材を再検討する。冒頭でも記載した通り、本科目は講義と演習の混合科目ではあるが、より演習に重きをおいて授業進行に努めた。しかし、講師と学生間でのやり取りが多かったため、受講生同士で活動できるアクティビティを増やすなど、主体性を引き延ばすことができるよう内容を検討する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

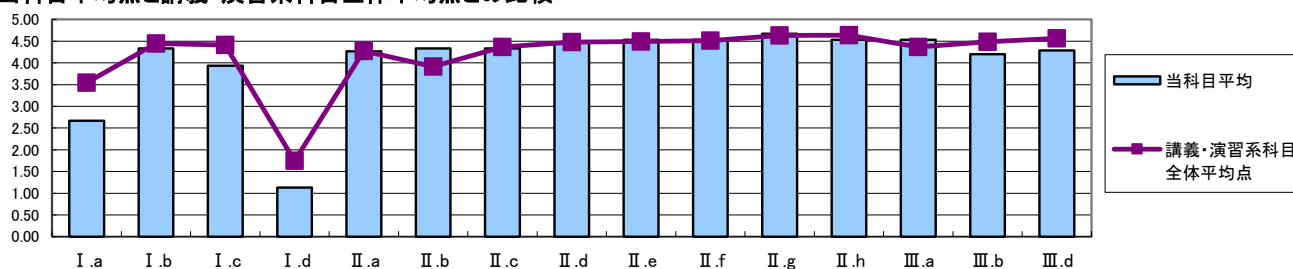
科目名	東邦スタンダードIVBb
教員名	木下 容子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	19
回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.93	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.27	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.53	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.53	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.53	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.53	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35.71</td> <td>71.43</td> <td>21.43</td> <td>14.29</td> <td>35.71</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	35.71	71.43	21.43	14.29	35.71
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
35.71	71.43	21.43	14.29	35.71														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.29	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的> 大学での学びを総括し、それを自らの言葉で表現し、プレゼンテーションが出来る。具体的な活用の場、方法論を豊かに発想し、情報を収集し、社会での活用を念頭に実践への考察が出来るようになる。

<内容>

社会に向かっていく心構えを多角的に学修するとともに、ストレス対処についても具体的に学ぶ。各自のプレゼンテーションでは、4年間の学びを踏まえて、テーマの設定・プレゼンテーション資料作成・実践の体験を通して、自ら発信する能力を高める。そして、卒業後に社会の中で活かす方法を具体的に考える。

<授業形態> 講義・演習形式。個人およびグループでのワークや討議を行う。また、全体に対してプレゼンテーション発表を行う。

<受講者数> 19名

<開講曜日、時限> 水曜日 1限

<受講者の状況説明> グループワーク等に意欲的に取り組んでいる学生が多かった。プレゼンテーションでは、自身の興味のあるテーマを設定して、ICT等を活用など様々に工夫しながら発表に取り組んでいた。また、他受講者のプレゼンテーションの際にも、積極的に反応したり賞讃したりする様子が観察され、学年全体で協力し合いながらより良い雰囲気を醸成しているようにみられた。

◎アンケート設問Iについて

多くの学生が、出席が概ね良好で一定の熱意をもって授業に取り組んだと回答していた。シラバスについては、全体平均値と比べて低く、中でも受講者によって回答にバラつきがある結果となった。予習・復習については、全員が「2時間」か「1時間未満」であった。

◎アンケート設問IIについて

多くの学生が、この授業の内容・難易度について適切であったと回答していた。すべての項目において、全体平均値と同程度であった。

◎アンケート設問IIIについて

この授業では「新しい知識・技能」「新しいものの見方」「関連分野の学習意欲」「問題発見・解決能力」「コミュニケーション能力が向上」の全ての内容について「自分のためになった」と回答があった。

まず、最も回答数の多かった「新しいものの見方」については、担当教員たちが具体的に仕事の獲得方法や、社会の中で音楽人として生きていくことを実体験をもとに詳細に伝えたため、音楽大学での学びを社会に活かしていくことを具体的にイメージすることが出来たためと考えられる。

また、ICTを活用してプレゼンテーション発表するように課題を設定したため、今までICTを活用したことがない学生もデータ作成し、それをういて発表できたことが、この回答に繋がったものと考えられる。

● 問題点

アンケート結果より、教員と学生間に大きな意識のずれはなかったように感じている。ただ、「シラバスの活用」の低さと「予習復習の時間」の短さが、本アンケート結果によって露呈された。

● 改善の方策

「シラバスの活用」を促すために、今後は授業ごとにシラバス説明を行い、学びの内容を学生と教員の間で確認する時間を設けていきたい。また、「予習復習の時間」については、プレゼンテーション以外の準備や復習についても、より具体的に学生に伝えていく必要があるだろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

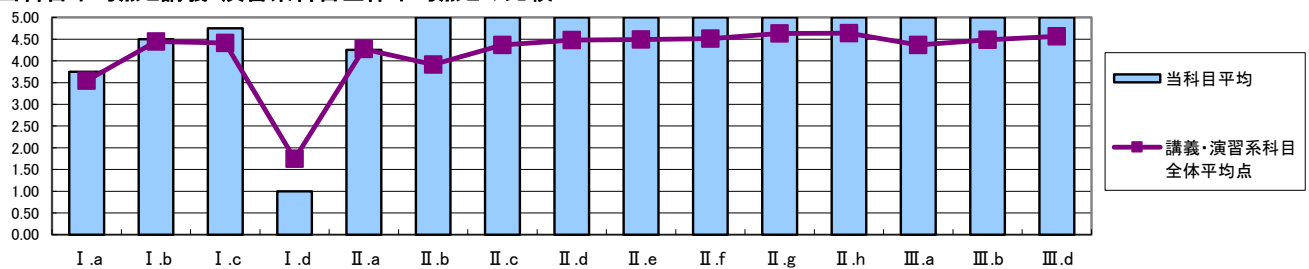
科目名	東邦スタンダードB
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	9
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	75.00	50.00	0.00	50.00	100.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
75.00	50.00	0.00	50.00	100.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

東邦スタンダードは水曜日1時限目に開講しており今回は9名の履修者の内4名がアンケートに回答してくれました。設問I-aに対する回答で1名が「1」と履修にあたりシラバスを利用していないことがわかりました。設問II-bの授業の難易度に対しては全員が適切であるという「3」の回答でありました。またほぼ全体平均を上回る回答でありましたが、設問I-dの授業のための予習復習に対する回答は全員が「1」の1時間未満と全体平均下回る結果となりました。

● 問題点

授業の履修にあたり、シラバスを全く活用していない学生が1名、また予習や復習に関しては全員が1時間未満と回答する結果でありました。

● 改善の方策

すべての履修者が積極的に、興味や関心を持って授業に臨んでくれるよう、創意工夫しながら、新たな発想法をもって取り組んでいきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

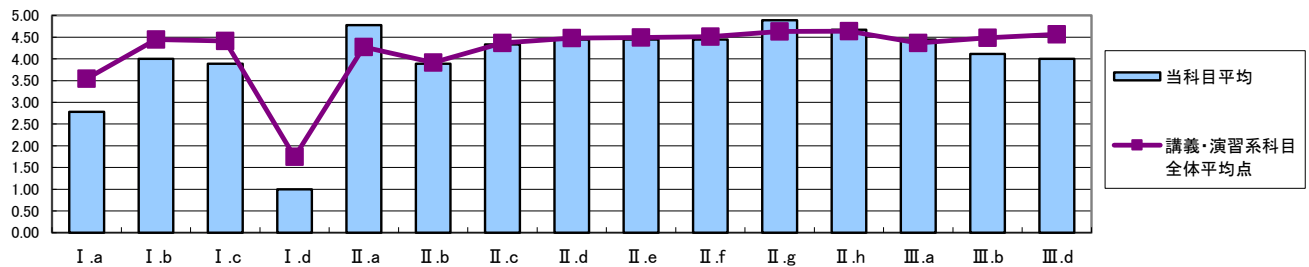
科目名	東邦スタンダードIVBa
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	18
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.78	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.89	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.78	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.44	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.44	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.44	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.11	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>44.44</td> <td>66.67</td> <td>11.11</td> <td>33.33</td> <td>44.44</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	44.44	66.67	11.11	33.33	44.44
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
44.44	66.67	11.11	33.33	44.44														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は、「プレゼンテーション」をメインに展開した。
 A B両クラスを合同にし、私と木下先生の2人で、取り上げるテーマを、それぞれの観点から説明した。
 学生達は、熱心に各テーマ課題に取り組んでくれた。
 しかし4年生のスタンダードは、回数が少ない上、前半4回と5回目の間が一月程度空いてしまう為、この授業に対するテンションのキープがとても難しい。
 その為、授業を盛り上げていく過程が作りやすく、苦労した。

● 問題点

4年生の場合、授業の継続性が日期的に作りにくい。
 また回数自体も少ない為、実施する日数不足をととても感じた。取り上げたいテーマがまだまだある。

● 改善の方策

4年生は、高校時代よりコロナ禍となった為、コミュニケーションの取り方が、あまり上手くない。
 これを受けて、この下の学年も同様な環境下で過ごしてきた為、ここに力を入れる必要がある。

※出席回数の事です。

学生間では、たとえ欠席数が三分の一以上になっても、補講を受ければ単位を落とすことはない。だから休んでも大丈夫！との共通認識が浸透している様です。

これはやはり、何か策を練らないと

ならないと考えます。

(この様な認識な学生は、一部だとは思いますが。)

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

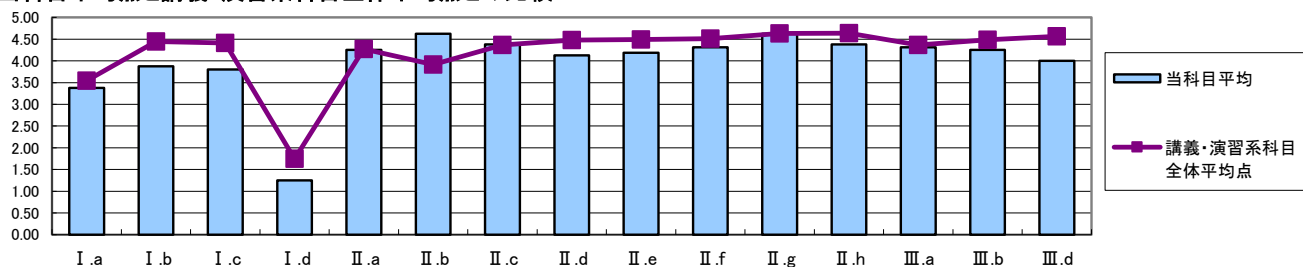
科目名	東邦スタンダードⅢBa
教員名	岩見 真佐子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	28
回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.38	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.88	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.63	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.13	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.19	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.31	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.31	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>53.33</td> <td>46.67</td> <td>6.67</td> <td>20.00</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	53.33	46.67	6.67	20.00	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
53.33	46.67	6.67	20.00	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度の授業は後期登録履修者28名、年間授業日程、当該科目全体日程に準じⅢ a Ⅲ b クラス合同の授業形態で年間30回開講。外部講師による講義（15回）、東邦スタンダード全体授業（3回）を含め、両クラス担任2名体制で学生全体の学修状況をみながら授業を実施。

本年度の「東邦スタンダード授業シラバス」に基づき、内容については大学3年生必修科目「ウィーンアカデミー研修」の履修期間と状況に応じて授業の展開と内容を入れ替えながら、本年度の学修目標の達成に向け授業内容を確保することができた。

東邦スタンダードⅢの具体的な授業内容は、「学生生活関連授業」「キャリア教育関連授業」以外に、クラス全体での「グループ討議の実践と発表」の学び、「ウィーンアカデミー研修」準備、主体的な学び・学びの視点と展開、が授業の軸になっている。

本年度の特徴としては、期初にポートフォリオに各自が設定している「目標と振り返り」、シラバス記載内容「東邦スタンダードにおける3年生の授業目的と学びの位置付け」を確認しながら、クラス全体で双方向の対話を細かく重ねた点が挙げられる。

また、留学生のグループ討議の実践については、日本語テキストを翻訳し「中国語版テキスト」を作成。積極的な意見交換は母国語、発表は日本語で全体共有し、クラス全体で同じテーマに取り組むことで、学生間のコミュニケーションにも大きな成長が認められた。本年度の特徴でもあるウィーンアカデミー研修に求められる「留学生との学びの協働」「上級学年との学びの協調」に向けても、東邦スタンダード授業で実践的に取り組む学修成果がみられた。

● 問題点

①授業への参加意識の個人差、授業での積極的な取り組みが学修意識に結びつくための個人差、があると思われる。②予習・復習の時間が取れない点について、大学3年生は専攻実技でも発展段階にあり、多くの場面で中心的な役割を果たしながらこの授業での学びを確保していると思われる。③出欠席で悩みを抱える学生の「意義や興味」に働きかける発信については、学生の身近な問題に留意すると同時に、問題解決のための発想力、目標に向かう原動力となる双方向のコミュニケーションも継続することが重要と思われる。

● 改善の方策

①本授業での学びを自ら学生生活で実践できるように、「領域を渡る学び」「領域を結ぶ学び」への対話を継続し重ねてゆくことが有効と思われる。

②キャリアへの視野を身につけると同時に専攻力の拡大期にあるので、この授業で新たな知見を得る「学ぶ楽しさ」への働きかけを工夫してゆく。

③大学3年生は「過程」にあることから、学びの習熟に個人差があることを鑑み授業設定してゆくことが重要と思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

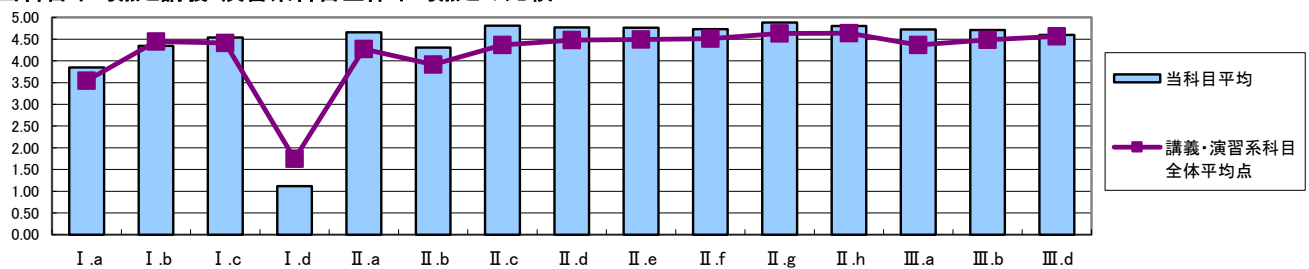
科目名	東邦スタンダードⅡBb
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	29
回答者数	26

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.85	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.35	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.54	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.12	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.65	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.31	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.81	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.77	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.76	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.73	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.72	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.00</td> <td>42.31</td> <td>23.08</td> <td>19.23</td> <td>30.77</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	50.00	42.31	23.08	19.23	30.77
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
50.00	42.31	23.08	19.23	30.77														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

毎週水曜日1限に開催している。今期履修者数は29名。前期の東邦スタンダードⅡAに引き続き、8回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含む科目である。多角的な講義やワークを取り入れ、音楽大学での学修をめぐって真剣に考えながら学生生活を充実させるための基礎を作り発展させることを目指している。

● 問題点

出席率は概ね良いと言えるが、熱意や積極性には欠けるところがある。評価基準については明確に提示されているとの受け止めが多く、授業内容の分かりやすさや効果工夫についても概ね高評価である。新しい知識・技能のほか、コミュニケーション能力向上や新しいものの見方の習得が自分のためになったとの評価が非常に高い。

● 改善の方策

履修者ひとりひとりが自分の将来や仕事について深く考えたり、さまざまな能力を身につけるためのベースを獲得できるように、授業内容を常に確認して見直ししながら、より良いものを作り上げていく必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

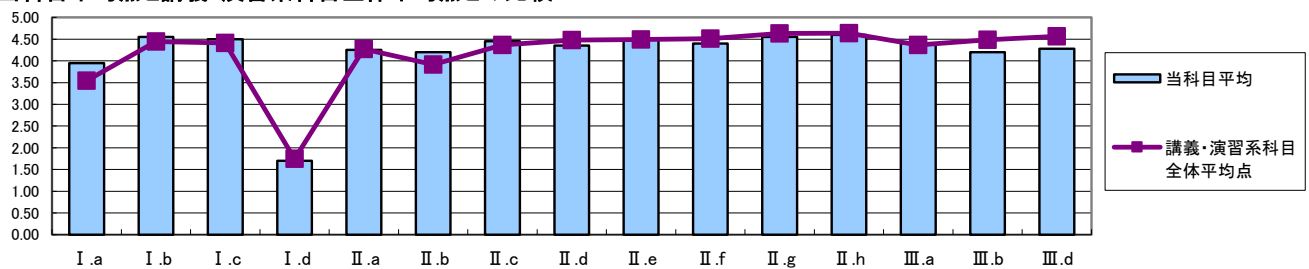
科目名	東邦スタンダード I Bb
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	30
回答者数	20

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.95	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.55	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.70	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.35	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.55	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55.00</td> <td>35.00</td> <td>20.00</td> <td>15.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	55.00	35.00	20.00	15.00	50.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
55.00	35.00	20.00	15.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.28	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度、東邦スタンダード1年生のbを初めて担当することになりました。今年度、履修登録者数30人いました。人数がとても多いので毎回の換気、扇風機等使用し、細心の注意を払いながらの授業を行いました。積極的に主体性を持って熱心に参加し、個人、特にグループワークも交えながらテキストに沿って進めてまいりました。

● 問題点

集計結果から読み取ると1.dの予習、復習が平均値より低いので、今後改善の余地があると思いました。また1.aの出欠席が低かったです

● 改善の方策

東邦スタンダードという授業の魅力をもっと伝えていきたいと思います。音楽だけではなく、社会に出て恥ずかしくない人材をこの授業を通して進めていきたいと思っています。

自由記述から

- ・社会としての勉強となり、大人としての自覚が見えて来たのと、コミュニケーション能力も少しずつ、上がりました。そのほかには、火曜日の夜は早く寝ます。

- ・話したことない人と話したり、面白い議論のゲームをして楽しかった。

- ・優しくてわかりやすかった。

- ・人間関係やコミュニケーション、社会がテーマとなる授業は今まで受けてきたが、ここまで本格的に行うのは初めてだったため、とても興味深い授業であった。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

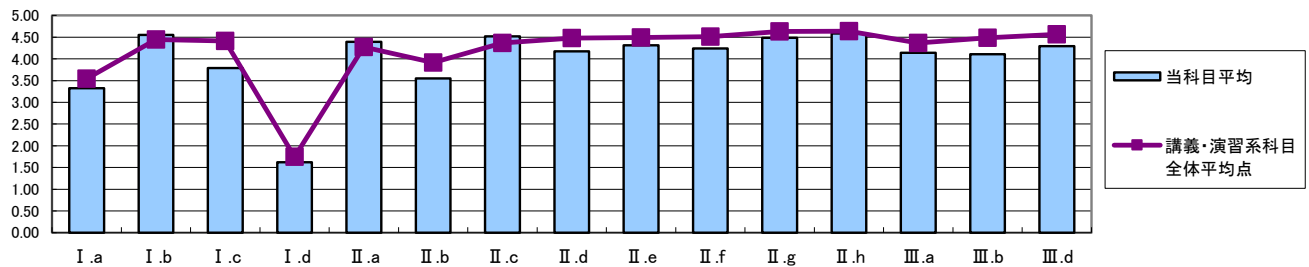
科目名	ウィーンの社会と文化Ba
教員名	荒木 洋育

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	34
回答者数	29

設問	設問文	平均点	全体平均点		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.32	3.54		
	b この授業の出席は良好であった。	4.55	4.45		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.79	4.41		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.62	1.74		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.39	4.27		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.55	3.91		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.52	4.36		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.48		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.31	4.49		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.24	4.51		
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.48	4.63		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59	4.64		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.14	4.37		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.10	4.48		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率			
		5	4	3	2
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.29	4.56		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果に最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習と十分な復習を求めている。水曜日の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。数年前から、プロジェクター（Power Point）を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて別に小レポートを課する形をとっている。

そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。まず出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であった。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であったと考えている。

次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するIグループではdの数値が特に低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するIIグループに関しては、昨年度の課題とした成績評価の基準に関するcの数値が上昇した。また（学生が感じる）教員の熱意に関わるhの数値も標準的であったが、授業の進め方に関するdの数値がやや低く、自由記述欄においてもその点に関して厳しい指摘がみられた。授業全般の充実度・評価に関係するIIIグループに関しては、cの項目において、「新しい知識・技能」「関連分野の学習意欲」が「自分のためになったこと」の割合として高かったが、反面「新しいものの見方」は、関連する同グループbの数値は標準的であったにもかかわらず割合が低かった。自由記述欄については、上記のような意見もあったが、学生との意思疎通、授業内容等の面に関しては好意的な意見が多かった。このアンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行う。

● 問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにある。アンケートの結果をみると昨年度に関し当クラスでは成果が現れたといえる。残る課題は予復習の重要性の認識が低いこと、また教科の性質上「新しいものの見方」の「自分のためになったこと」の中での割合が低いことである。これについて以下、改善の方策について述べたい。

● 改善の方策

昨年度の授業に対しては、総体として授業において講師側の意図はある程度達成されたといえる。しかし、科目の性格上、教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、受講を通じて学生が「発見する」機会を増やすことが今後も求められるだろう。今年度はその点を踏まえて、予復習の役に立つよう教材内容を充実させ、学生側の「発見」を促すような新鮮味のある授業を提供し、講師・学生間の双方向のやりとりを増やすなどの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

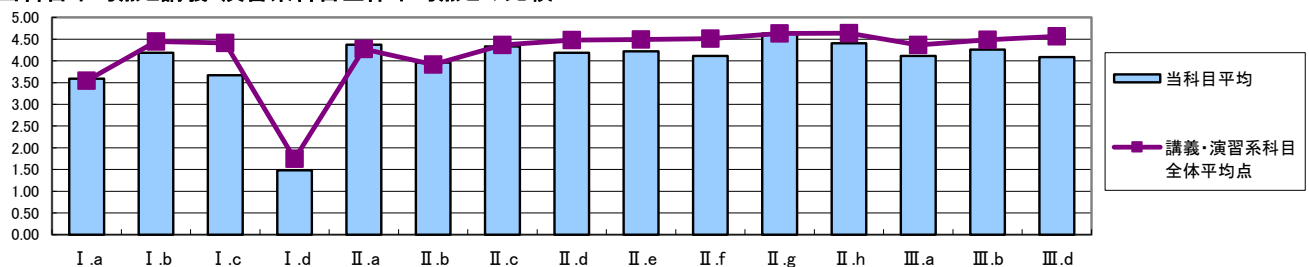
科目名	ウィーンの社会と文化Bb
教員名	荒木 洋育

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	29
回答者数	27

設問	設問文	平均点	全体平均点				
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.59	3.54				
	b この授業の出席は良好であった。	4.19	4.45				
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.67	4.41				
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.48	1.74				
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.37	4.27				
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.96	3.91				
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36				
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.19	4.48				
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.22	4.49				
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.11	4.51				
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.63				
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.41	4.64				
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.11	4.37				
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.26	4.48				
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率					
		5	4	3	2	1	
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.09	4.56	73.08	30.77	34.62	7.69

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果に最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習と十分な復習を求めている。水曜日の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。数年前からプロジェクター (Power Point) を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて別に小レポートを課す形をとっている。

そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。まず、出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であった。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であったと考えている。

次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するIグループではdの数値が特に低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するIIグループに関しては、昨年度の課題とした成績評価の基準に関するcの数値が上昇した。また(学生が感じる)教員の熱意に関するhの数値も標準的であったが、授業の進め方に関わるdの数値がやや低かった。質問への対応に関するfの数値もaクラスと比較して低かったが、1、2のような低評価はほとんどみられなかった。授業全般に関する満足度に関係するIIIグループの数値については、cの項目において「新しい知識・技能」「関連分野の学習意欲」が「自分のためになったこと」の割合として高かったが、反面「新しいものの見方」は、関連する同グループbの数値は標準的であったにもかかわらず割合が低かった。自由記述欄については、学生との意思疎通、授業内容等の面を中心に好意的な意見が多かった。上述アンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行う。

● 問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにある。アンケートの結果をみると昨年度に関し当クラスでは成果が現れたといえる。残る課題は予復習の重要性の認識が低いこと、また教科の性質上「新しいものの見方」の「自分のためになったこと」の中での割合が低いことである。これについて以下、改善の方策について述べたい。

● 改善の方策

昨年度の授業に対しては、総体として授業において講師側の意図はある程度達成されたといえる。しかし、科目の性格上、教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、受講を通じて学生が「発見する」機会を増やすことが今後も求められるだろう。今年度はその点を踏まえて、予復習の役に立つよう教材内容を充実させ、学生側の「発見」を促すような新鮮味のある授業を提供し、講師・学生間の双方向のやりとりを増やすなどの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

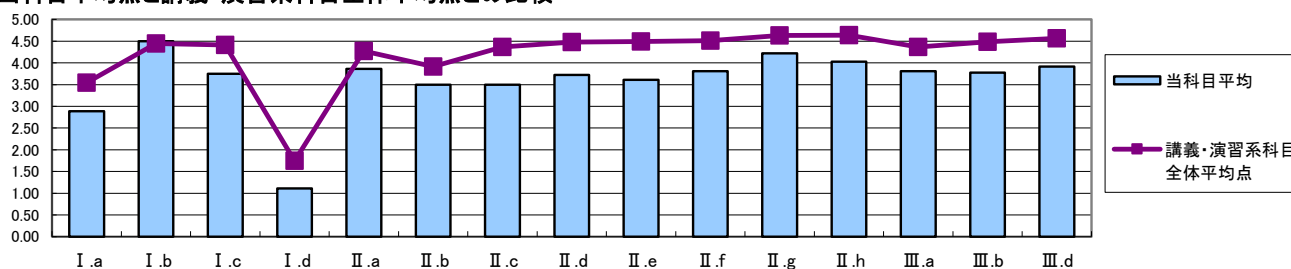
科目名	教育心理学
教員名	宇根 優子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	43
回答者数	36

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.89	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.75	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.72	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.61	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.81	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.22	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.03	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.81	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.78	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>48.57</td> <td>54.29</td> <td>14.29</td> <td>5.71</td> <td>2.86</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	48.57	54.29	14.29	5.71	2.86
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
48.57	54.29	14.29	5.71	2.86														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.91	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目では、教育心理学の基礎知識を学び、その視点を獲得すること、受講者自身の教育にかかわる様々な観点（人間観や生徒像、あるべき教育者像）の自己洞察ができるようになること、生徒についての知識を身に付け活かすことができるようになること、また発達段階に応じた心理的特性を踏まえた学習指導の基礎となる考えを習得することを目的とした。

授業では、人間の発達や学習について、心理学で得られた知見を提供し発達や教育の効果について考える機会を提供しようと試みた。具体的には、学習の原理、学習に必要な人間の認知メカニズム、発達の人格面・知的な面における知識、発達における種々の問題、個人あるいは集団における教授法、様々な評価法、学校という集団での人間関係やリーダーシップ、発達にともなう心の問題やカウンセリング理論について、概略を紹介している。

授業形態は講義形式で、金曜の午後に行われた。受講者は43名であった。基本的にスライドを投影しつつ説明した。スライド内容については資料として配布している。また、授業中にデモンストレーションができる場合には、実際に実験や調査を行い、可能な場合はリアルタイムで結果を表示した。また、授業中でも気兼ねなく質問ができるように、Gogle Formを用いて匿名での質問ができるようにした。さらに、配布資料には必ずその講義回におけるキーワードを提示し、これをもとに自分の考えをまとめたり、内容を復習したりするようにした。

アンケートの集計結果によると、予習復習の時間や進め方、スライドや配布資料、質問や相談の受付など、理解にかかわる部分において集計値が低かった。自由記述では、資料に要点を示したことで見直しは簡単だったが、知識が定着しなかった、また心理学の難しさについてやキーワードについて黒板に記してほしいなどといった要請が見られた。

● 問題点

集計結果や自由記述から、配布資料やスライド内容についてもう少しわかりやすい方がよいとのことで、理解面での問題が見受けられた。また、授業中に匿名での質問が簡単にできるようにとGoogle Formを設置したがほぼ活用できていなかった。

● 改善の方策

授業内容の難易度について今一度見直し、紹介する内容を厳選したい。キーワードなどについては色を変化させるなど目立つようにしたい。また、前年度以前にはGoogle Formで様々な質問を受けることもあったため、質問を受け付ける時間を積極的にとっていききたい。さらに、こまめにフィードバックすることによって理解度における不安面を払拭していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

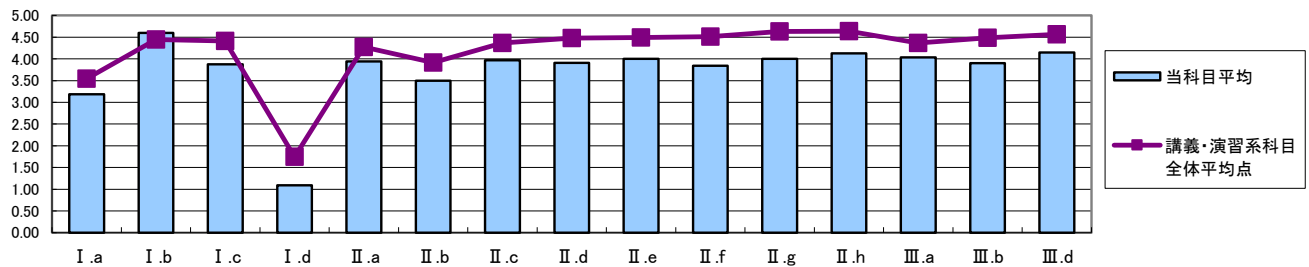
科目名	教育相談・進路指導
教員名	宇根 優子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	44
回答者数	32

設問	設問文	平均点	全体平均点		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.19	3.54		
	b この授業の出席は良好であった。	4.59	4.45		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.88	4.41		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.09	1.74		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.94	4.27		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.91		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.97	4.36		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.91	4.48		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.84	4.51		
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.13	4.64		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.03	4.37		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.90	4.48		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率			
		5	4	3	2
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.15	4.56		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本講義では「学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むこと」を目的とした。教育相談・進路指導は前半・後半と分けられており、教育相談は後半に行われた。教育相談では児童や生徒の心理的葛藤、いじめ・不登校の問題、発達障害、ならびにコミュニケーション不安等の児童・生徒が抱えやすい問題等を扱った。授業形態は基本的に講義形式でスライド提示とともに講義を行ったが、講義内容に関連したデモンストレーション（傾聴や構成的エンカウンター）やビデオによる事例紹介等を逐次行った。受講者数は44名、開講曜日・時間は金曜4時限であった。具体的な授業内容については、教育相談の定義と役割、自己理解・他者理解に役立つ検査の実施、または理解する際に生じる様々なバイアスについてや発達段階ごとに求められる発達課題についての紹介、コミュニケーションや傾聴のやり方について実際のデモンストレーションを行った。加えて、教育相談で使われるカウンセリング技法やアセスメントの紹介とデモンストレーションを行い、不適応行動、いじめ、発達障害等を紹介した。最後に、保護者との関係、学校内での教育相談のシステム構築について紹介した。授業内では質問が可能であるように匿名の質問フォームを設定した。さらに、毎回レスポンスシートで授業の感想を求めた。教育相談における到達目標は「児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えることができる。」「生徒を支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付け、支援に応用することができる。」というものであった。

● 問題点

アンケートの集計結果によると、新しい技能を得られたとの評価は見られた。ただし、特に理解の面において評価が低かった。内容がやや難しいと評定されており、教材等についても難しいと評定されていた。授業内外における質問相談対応についてもやや難しいと評価されていた。

● 改善の方策

教材内容については、デモンストレーションによる経験をさらに行うことで、相談技法等についてより実感できるように試みる。また匿名の質問フォームを設定したが、ほとんど使用されていなかったため、より質問しやすい方法を考慮してみたい。レスポンスシートについても感想と質問を分けることで質問しやすい状況を作っていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

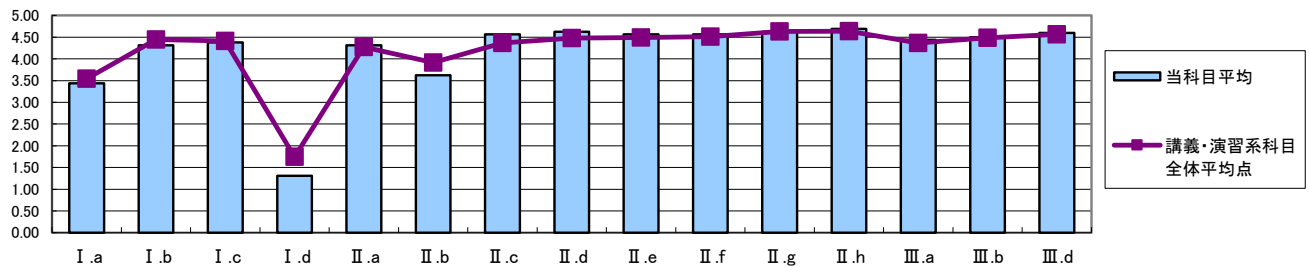
科目名	英語2a
教員名	増淵 千幸

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	21
回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.44	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.31	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.31	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.31	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.63	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.56	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.69	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.44	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>56.25</td> <td>25.00</td> <td>31.25</td> <td>6.25</td> <td>25.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	56.25	25.00	31.25	6.25	25.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
56.25	25.00	31.25	6.25	25.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行ってきた。履修人数は21名で丁度良く、学生は真面目で、順調に授業を進められた。学生間の力の差はあったものの、理解度はある程度良かったと思う。1限ではあったが、ほとんどの学生がきちんと遅刻もせずに参加し、とても良く取り組んでくれた。

アンケート設問Iの自己評価については、各自評価をもっと高めてよいと感じている。Idの予習復習の部分であるが、この授業では予習の必要がないことをここで述べる必要がある。復習もあまりしていないのであれば、定着のためにもきちんとしてほしい。復習の仕方として、少なくとも音読はしてみようなどと、声掛けを増やした方がよいかもしれない。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見えない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● 改善の方策

毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回の授業でどうすべきかを判断し、その場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。学生の英語力の差をどうするか、また、年々増してゆく文法力の強化の必要性など、常に考えなければならないだろう。また、音楽に関わる文章を読むなど、学生のモチベーションをさらに上げてゆく工夫が必要だと思う。自分自身の英語も日々アップデートが必要と痛感している。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

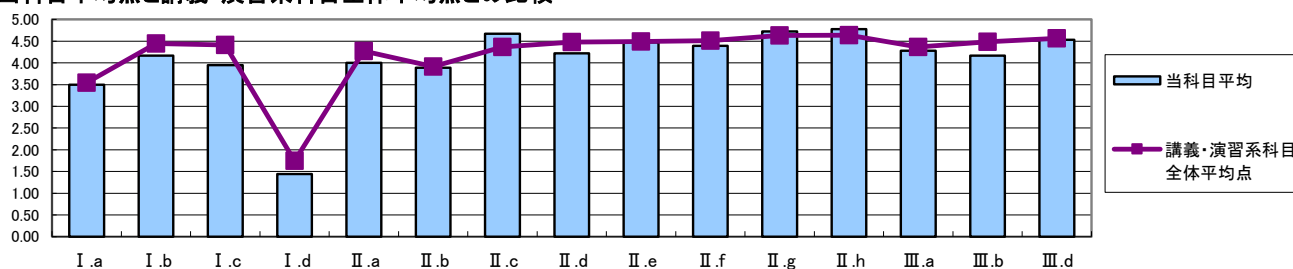
科目名	英語2b
教員名	増淵 千幸

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	21
回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.17	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.94	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.44	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.22	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.47	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.39	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.72	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.28	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>68.75</td> <td>31.25</td> <td>43.75</td> <td>18.75</td> <td>25.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	68.75	31.25	43.75	18.75	25.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
68.75	31.25	43.75	18.75	25.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.53	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行って来た。履修人数は21名だった。コロナ禍で高校生活を送った学生が多いせいか、英語の基礎力に欠ける学生が多い印象を持った。大きな学力差がある中で、大学生という立場にある学生たちに、どのように基礎力をつけるための授業を進めるべきか考えさせられた。

アンケート設問Iの自己評価が低い、謙遜ゆえと感じている。Idの予習復習に関しては、この授業では予習の必要がないことをここで述べなければならない。復習もあまりしていないのであれば、定着のためにきちんとしてほしい。語学専門ではない学生ゆえ、勉強の仕方今一歩わからない学生もいるため、復習には少なくとも音読はしてみようなどと、声掛けが必要であると感じている。語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見られない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● 改善の方策

毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回の授業でどうすべきかを判断し、その場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。学生の英語力の差をどうするか、また、年々増してゆく文法力の強化の必要性など、常に考えなければならない。音楽に関わる文章を読むなど、学生のモチベーションをさらに上げてゆく工夫が必要だと思う。自分自身の英語も日々アップデートが必要と痛感している。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

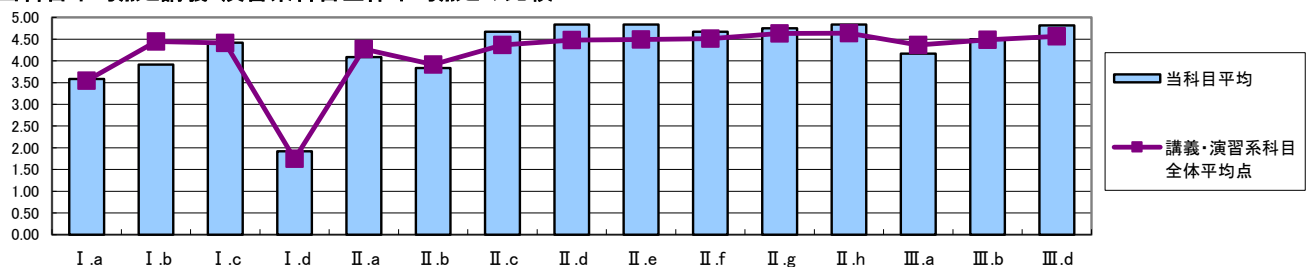
科目名	英語4
教員名	増淵 千幸

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	19
回答者数	12

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.58	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.92	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.42	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.92	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.08	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.83	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>33.33</td> <td>41.67</td> <td>16.67</td> <td>25.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	33.33	41.67	16.67	25.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
83.33	33.33	41.67	16.67	25.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたこと、英語1・2で学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行ってきた。履修人数は19名であった。

学生は授業にとっても真面目に取り組んでいた。学生間の力の差は英語1・2の時につかんでいたため、授業で困ることはなかった。それぞれが良く学んでくれたと思う。

アンケート設問Idの予習復習に関しては、この授業では予習の必要がないことをここで述べなければならない。復習もあまりしていないのであれば、定着のためにもきちんとしてほしい。ほとんどの学生は授業を離れても力をつけていってくれると思っている。これからさらに学びを続け、深めてゆくためのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見られない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● 改善の方策

毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回の授業でどうすべきかを判断し、その場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。学生の英語力の差をどうするか、また、年々増してゆく文法力の強化の必要性など、常に考えなければならない。音楽に関わる文章を読むなど、学生のモチベーションをさらに上げてゆく工夫が必要だと思う。自分自身の英語も日々アップデートが必要と痛感している。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

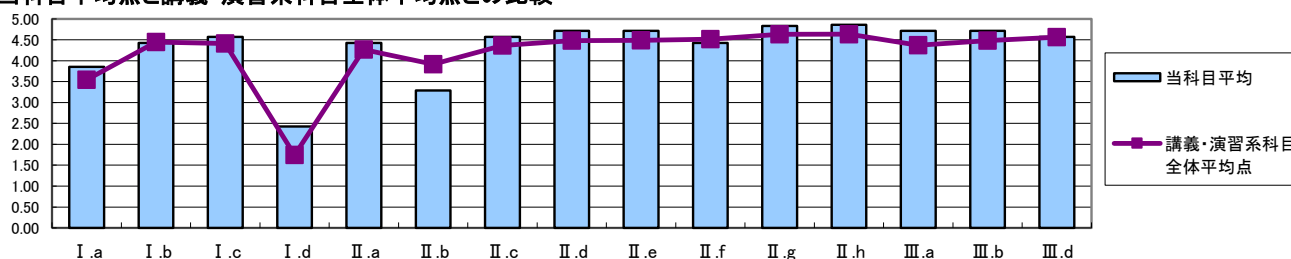
科目名	コンピューター演習Ba
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	9
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.43	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.43	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等が分かりやすかった。	4.71	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71.43</td> <td>42.86</td> <td>28.57</td> <td>28.57</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	71.43	42.86	28.57	28.57	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
71.43	42.86	28.57	28.57	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

＜科目の目的＞

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアの実習を通して、データファイルの取り扱いや情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術について基本的な知識を習得する。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法について考察する。音楽の発信者として情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。

＜内容＞

コンピュータの基本的な構造、ハードウェア・ソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンを使ったコンピュータリテラシーの向上。また、小学校から必修化となったプログラミング教育についてその意義を確認し、教育現場で多く利用されているプログラミングソフトウェアを用いて実践を行い、音楽の授業などでの活用方法について考察する。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。

また、PC教室備え付けのWindowsでの作業に加え、初等中等教育現場で近年取り入れられているGoogle Workspace for Educationを利用した。予習復習を促進するためにも、ネットワーク上でのデータの共有・協働編集など、個人のスマートフォン等でも作業ができる環境も用いた。

＜状況説明と集計結果の分析＞

月曜日1時限、履修者数9名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは1～3年生の混合クラスであった。真面目に取り組む学生の割合が高く、授業中にできなかったところを自宅ですっかりと復習してくる学生や、授業時間以外にも、できないところの質問や課題の修正などに教室へ来る学生もいて、主体性を感じられるクラスであった。

● 問題点

「授業の難易度」難易度について「易しい」「やや易しい」の回答はなく、「適切」～「難しい」の範囲の回答となった。「難しい」の回答は予習・復習の時間を多く取っていた学生と思われるが、確実にスキルアップできた部分があると思う。また、演習中に学生対応をしている中で、コンピュータの操作内容が難しいと感じているというだけでなく、読解力や数学の基礎的な力が不足して操作ができないといった場面もあった。

● 改善の方策

表計算ソフトウェア、音楽制作ソフトウェアは、学生によって得手不得手が分かれるものであると思う。特に表計算ソフトウェアについては、不得手と思われる学生には基礎を固められる演習を多く行えるよう課題を準備し、状況によって課題の内容を個別に変えて対応していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

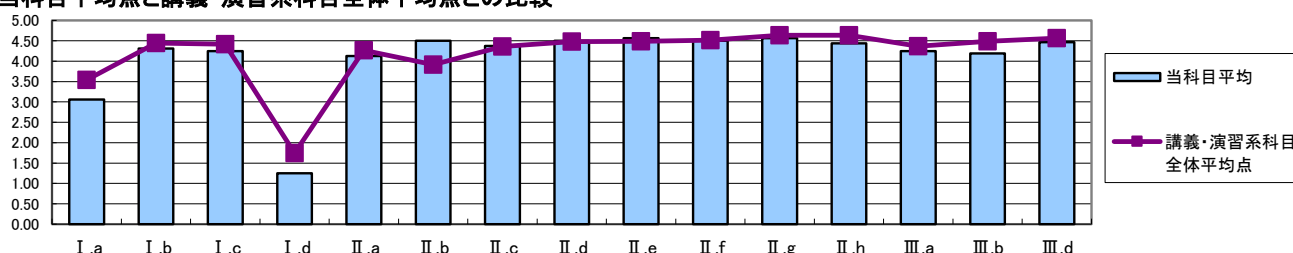
科目名	コンピューター演習Bb
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	19
回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.06	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.31	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.56	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.56	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.44	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.19	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		81.25	31.25	25.00	12.50	0.00
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.47	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアの実習を通して、データファイルの取り扱いや情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術について基本的な知識を習得する。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法について考察する。音楽の発信者として情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。

<内容>

コンピュータの基本的な構造、ハードウェア・ソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンを使ったコンピュータリテラシーの向上。また、小学校から必修化となったプログラミング教育についてその意義を確認し、教育現場で多く利用されているプログラミングソフトウェアを用いて実践を行い、音楽の授業などでの活用方法について考察する。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。

また、PC教室備え付けのWindowsでの作業に加え、初等中等教育現場で近年取り入れられているGoogle Workspace for Educationを利用した。予習復習を促進するためにも、ネットワーク上でのデータの共有・協働編集など、個人のスマートフォン等でも作業ができる環境も用いた。

<状況説明と集計結果の分析>

月曜日2時限、履修者数19名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは1～3年生の混合クラスであった。全体的にコンピュータ操作に慣れている学生が多く、授業の中で行った実技小テストでも高い点数を取れる学生が多かった。1年生の割合が高かったがGoogle Workspaceを利用した演習もスムーズであった。

● 問題点

「シラバスを活用したか」教職課程履修生は必修科目となっていて、履修時には活用していない学生が多くいると思われる。

「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」

● 改善の方策

「シラバスを活用したか」：初回授業ガイダンスの際、全体に向けてシラバスの内容確認を行う。

「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」に関して：授業の難易度が「易しい」という回答は0名だったため、この理由が授業内容が易しすぎるということではないように思う。難易度を高く感じるために、この設問に対する回答が1などの回答になるのか、それとも演習内容に「やらされている感」を感じるのか、授業中の学生の様子や対話を通して見極められるようにして対策したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

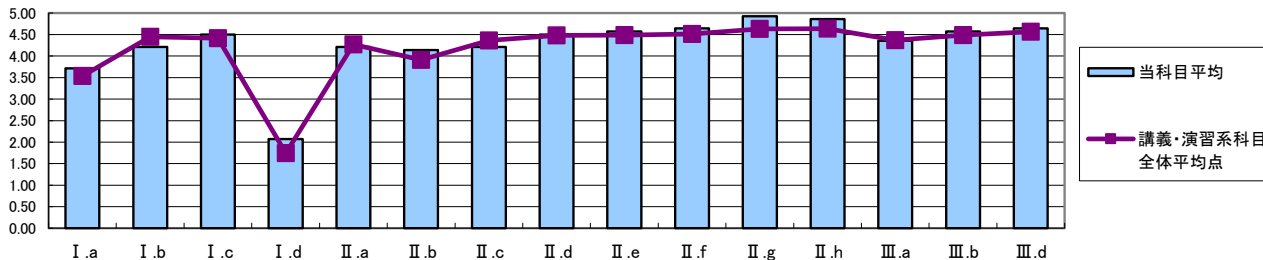
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	レンツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	16
回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.21	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.07	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.21	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.21	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.64	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.93	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.36	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>76.92</td> <td>15.38</td> <td>38.46</td> <td>7.69</td> <td>46.15</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	76.92	15.38	38.46	7.69	46.15
	回答率																	
5	4	3	2	1														
76.92	15.38	38.46	7.69	46.15														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.64	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



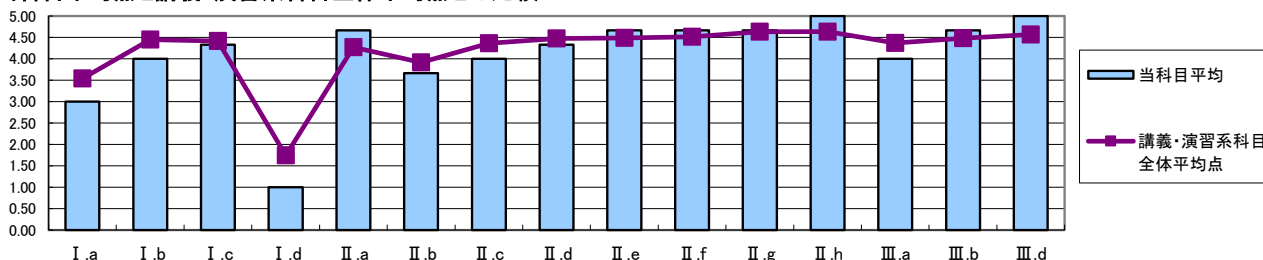
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション4
教員名	レンツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	33.33	66.67	66.67	100.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	33.33	66.67	66.67	100.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

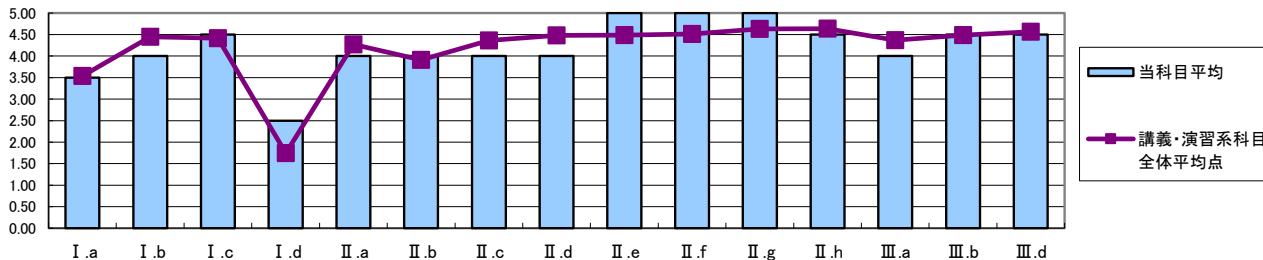
科目名	ドイツ語(Konzertfach)6
教員名	レンツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	50.00	0.00	0.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	50.00	0.00	0.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



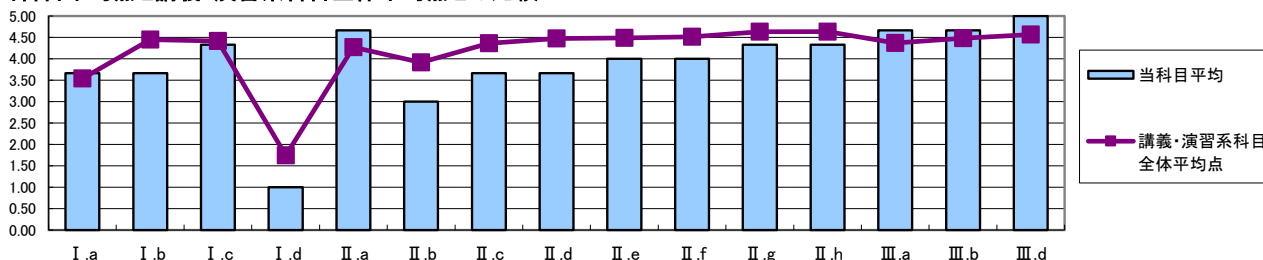
科目名	Advanced Communication Skills II B
教員名	レンツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	66.67	33.33	0.00	33.33	66.67
	回答率																	
5	4	3	2	1														
66.67	33.33	0.00	33.33	66.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

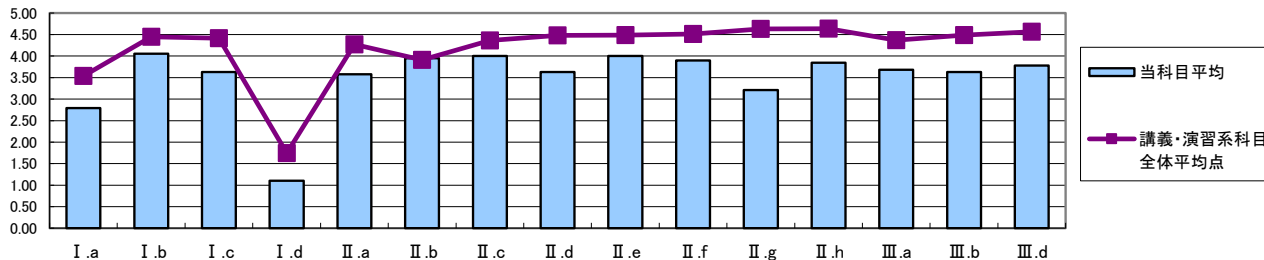
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	今枝 昌浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	21
回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.79	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.05	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.63	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.58	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.95	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.63	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.89	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	3.21	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.84	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.68	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.63	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>76.47</td> <td>35.29</td> <td>23.53</td> <td>29.41</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	76.47	35.29	23.53	29.41	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
76.47	35.29	23.53	29.41	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.78	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



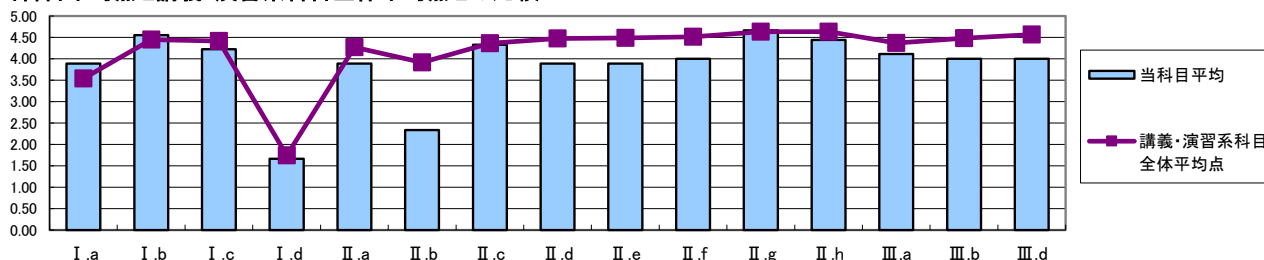
科目名	国際理解と交流B
教員名	今枝 昌浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.89	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.56	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.89	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.89	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.44	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.11	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>44.44</td> <td>55.56</td> <td>33.33</td> <td>55.56</td> <td>11.11</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	44.44	55.56	33.33	55.56	11.11
	回答率																	
5	4	3	2	1														
44.44	55.56	33.33	55.56	11.11														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

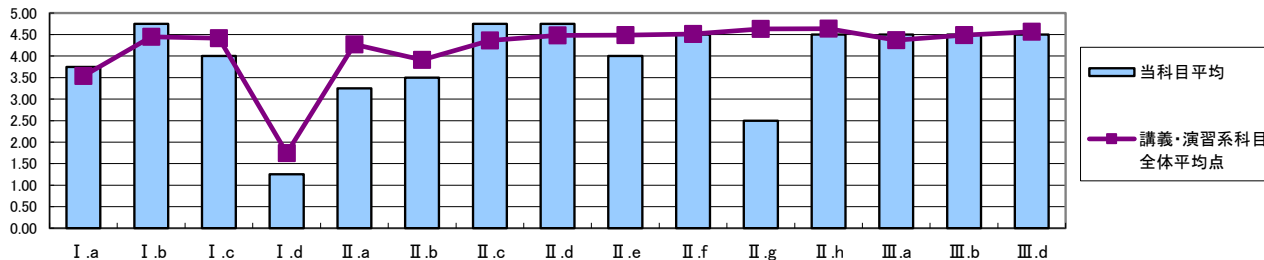
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	今枝 昌浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	2.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>25.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	50.00	25.00	0.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	50.00	25.00	0.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



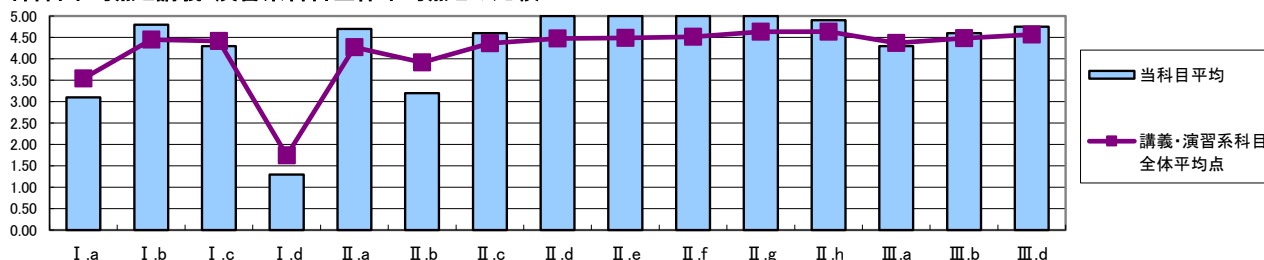
科目名	イタリア語2
教員名	ヴェルゴラーニ ミケレ

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	18
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.10	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.80	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.30	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.70	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.20	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.30	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>50.00</td> <td>10.00</td> <td>60.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	50.00	10.00	60.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	40.00	50.00	10.00	60.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

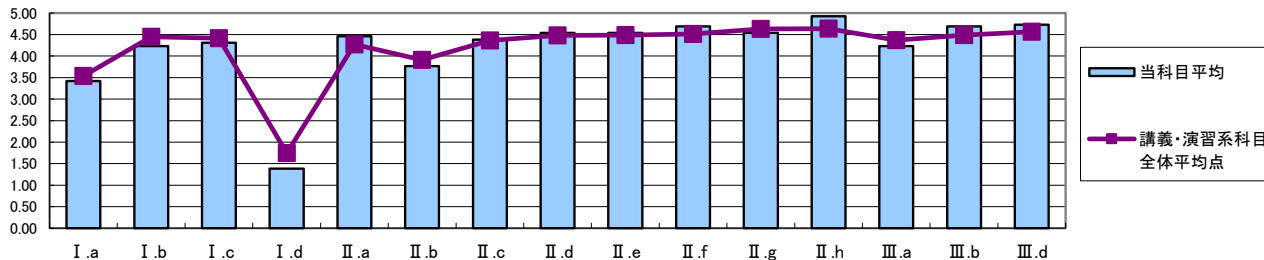
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2
教員名	ヴェルゴラーニ ミケレ

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	18
回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.42	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.23	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.31	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.46	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.77	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.54	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.54	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.69	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.54	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.23	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.69	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.00</td> <td>16.67</td> <td>50.00</td> <td>16.67</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	75.00	16.67	50.00	16.67	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
75.00	16.67	50.00	16.67	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.73	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



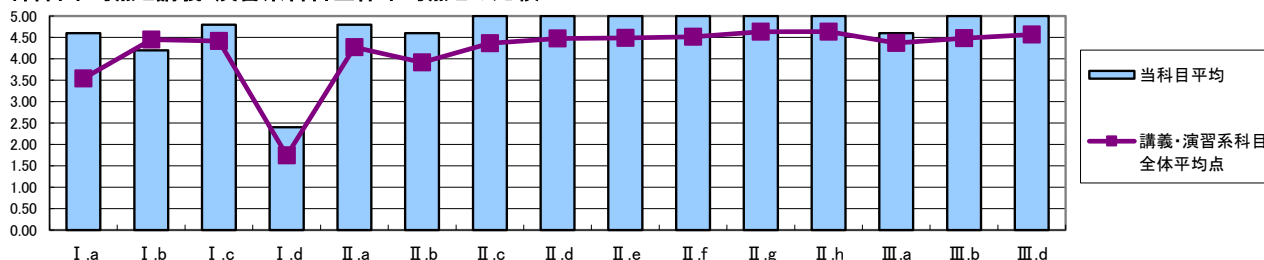
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション4
教員名	ヴェルゴラーニ ミケレ

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.60	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.20	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.40	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>80.00</td> <td>40.00</td> <td>80.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	80.00	40.00	80.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	40.00	80.00	40.00	80.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

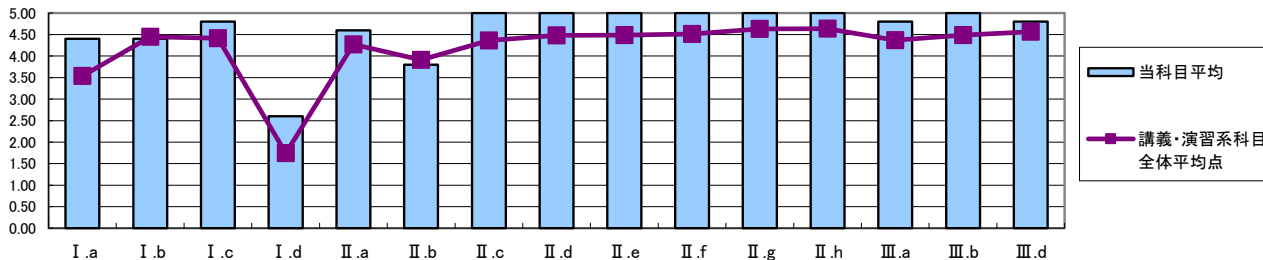
科目名	イタリア語4
教員名	ヴェルコラーニ ミケレ

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.60	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.00</td> <td>40.00</td> <td>60.00</td> <td>20.00</td> <td>60.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	80.00	40.00	60.00	20.00	60.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
80.00	40.00	60.00	20.00	60.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



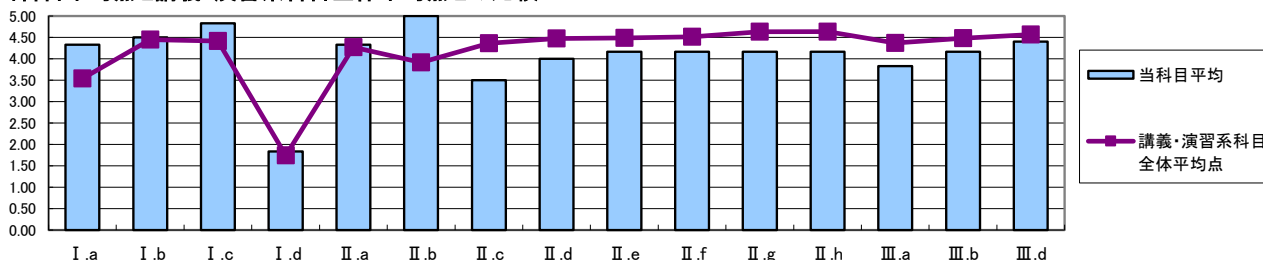
科目名	オンエアプロデュースB
教員名	佐藤 よりこ

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.83	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.17	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.17	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.17	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.83	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.00</td> <td>83.33</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	50.00	83.33	66.67	0.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
50.00	83.33	66.67	0.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

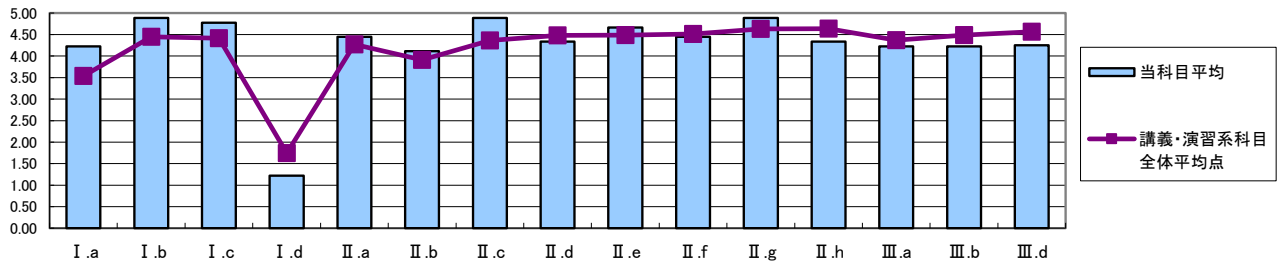
科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	高畑 敦子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	14
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.22	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.89	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.78	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.22	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.44	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.11	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.89	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.22	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.22	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.78</td> <td>77.78</td> <td>33.33</td> <td>22.22</td> <td>11.11</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	77.78	77.78	33.33	22.22	11.11
	回答率																	
5	4	3	2	1														
77.78	77.78	33.33	22.22	11.11														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



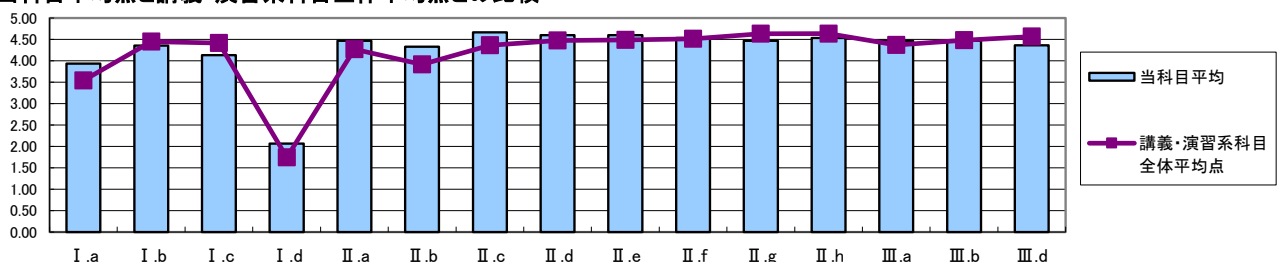
科目名	現代の心理学B(発達心理を含む)
教員名	徳富 政樹

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	24
回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.93	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.36	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.13	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.07	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.47	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.53	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.47	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.53	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.47	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.47	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57.14</td> <td>35.71</td> <td>50.00</td> <td>35.71</td> <td>21.43</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	57.14	35.71	50.00	35.71	21.43
	回答率																	
5	4	3	2	1														
57.14	35.71	50.00	35.71	21.43														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.36	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

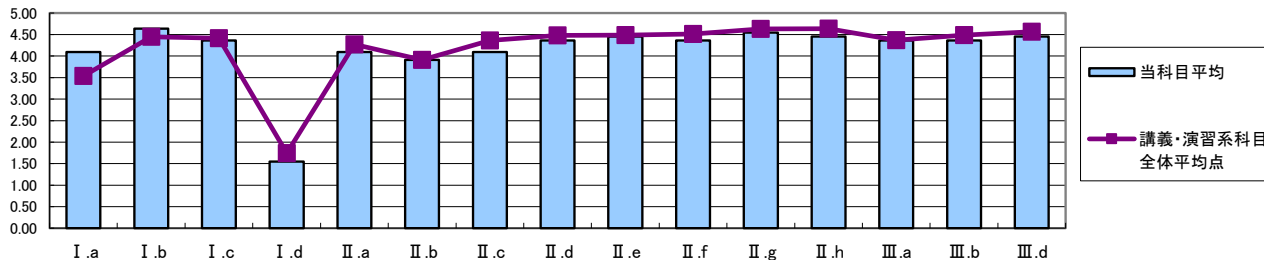
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2a
教員名	ヒュゴ ラファル

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	13
回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.09	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.64	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.36	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.55	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.09	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.91	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.09	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.36	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.45	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.36	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.55	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.45	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.36	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.36	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>54.55</td> <td>36.36</td> <td>27.27</td> <td>27.27</td> <td>54.55</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	54.55	36.36	27.27	27.27	54.55
	回答率																	
5	4	3	2	1														
54.55	36.36	27.27	27.27	54.55														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.45	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



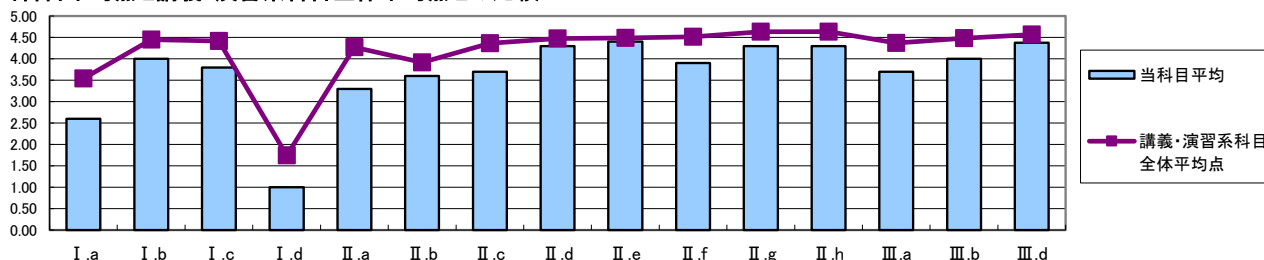
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2b
教員名	ヒュゴ ラファル

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	13
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.60	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.30	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.60	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.70	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.30	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.90	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.30	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.30	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.70	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60.00</td> <td>40.00</td> <td>30.00</td> <td>10.00</td> <td>60.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	60.00	40.00	30.00	10.00	60.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
60.00	40.00	30.00	10.00	60.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.38	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

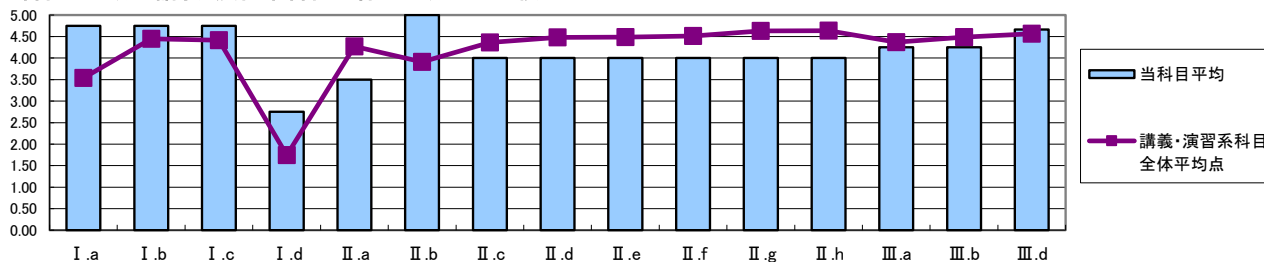
科目名	英語圏異文化コミュニケーション4
教員名	ヒュゴ ラファル

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.74																		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.64																		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> <td>66.67</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	100.00	33.33	33.33	0.00	66.67
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
100.00	33.33	33.33	0.00	66.67																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



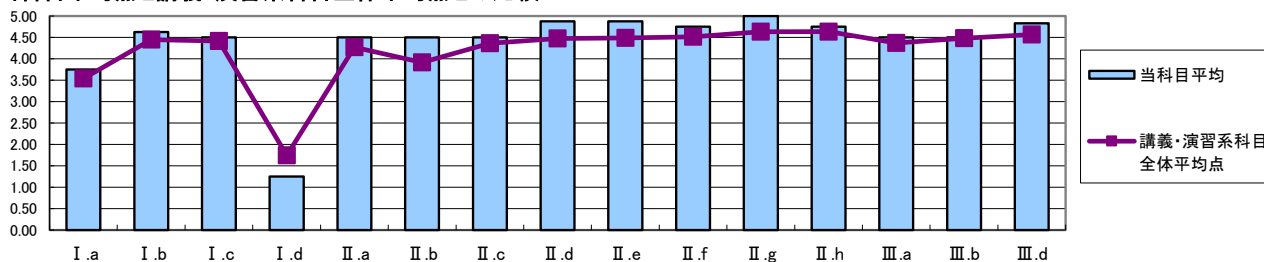
科目名	文化芸術論B
教員名	山下 暁子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	12
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	4.63	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.74																		
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.64																		
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>62.50</td> <td>75.00</td> <td>62.50</td> <td>12.50</td> <td>25.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	62.50	75.00	62.50	12.50	25.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
62.50	75.00	62.50	12.50	25.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



教職に関する専門科目

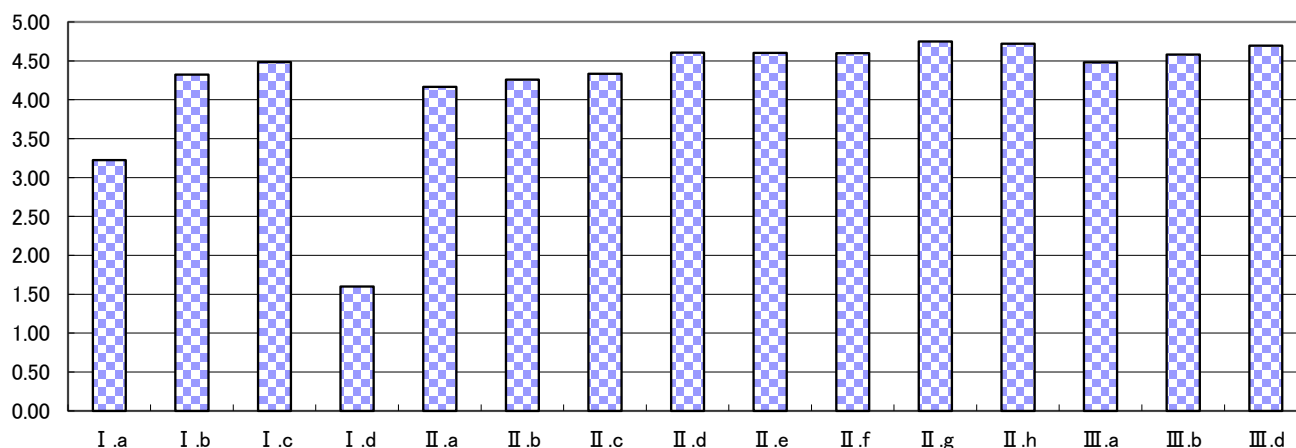
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	09. 教職に関する専門科目
科目数	17

履修者数	341
回答者数	273

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.22	62	70	65	19	57	273	0
			22.7	25.6	23.8	7.0	20.9		
	b	4.32	152	73	33	14	1	273	0
			55.7	26.7	12.1	5.1	0.4		
c	4.48	161	88	19	5	0	273	0	
		59.0	32.2	7.0	1.8	0.0			
d	1.60	11	8	24	47	182	272	1	
		4.0	2.9	8.8	17.3	66.9			
II	a	4.16	130	62	79	0	2	273	0
			47.6	22.7	28.9	0.0	0.7		
	b	4.26	18	44	193	15	3	273	0
			6.6	16.1	70.7	5.5	1.1		
	c	4.33	146	77	46	3	1	273	0
			53.5	28.2	16.8	1.1	0.4		
	d	4.61	191	60	17	3	1	272	1
			70.2	22.1	6.3	1.1	0.4		
e	4.60	187	64	21	1	0	273	0	
		68.5	23.4	7.7	0.4	0.0			
f	4.60	187	63	22	1	0	273	0	
		68.5	23.1	8.1	0.4	0.0			
g	4.75	216	45	12	0	0	273	0	
		79.1	16.5	4.4	0.0	0.0			
h	4.72	210	51	11	1	0	273	0	
		76.9	18.7	4.0	0.4	0.0			
III	a	4.48	160	85	25	2	0	272	1
			58.8	31.3	9.2	0.7	0.0		
	b	4.58	184	66	18	4	0	272	1
			67.6	24.3	6.6	1.5	0.0		
c	-	201	139	96	96	52	273	0	
d	4.69	179	40	9	3	1	232	41	
		77.2	17.2	3.9	1.3	0.4			

09. 教職に関する専門科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

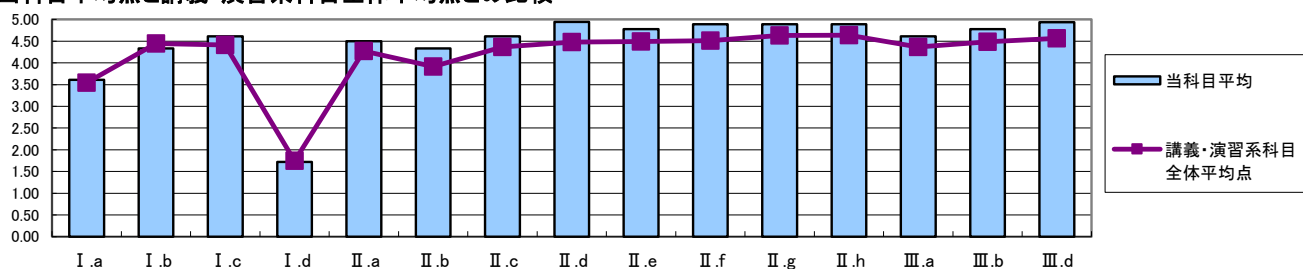
科目名	音楽科教育法Ba
教員名	大熊 信彦

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	19
回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.61	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.61	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.72	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.61	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.94	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.61	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.78	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.78</td> <td>77.78</td> <td>38.89</td> <td>38.89</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	77.78	77.78	38.89	38.89	33.33
	回答率																	
5	4	3	2	1														
77.78	77.78	38.89	38.89	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、中学校や高等学校などで、音楽科、芸術科（音楽）の授業を担当する教員に必要な資質・能力を身に付けることです。このため、平成29年告示中学校学習指導要領、及び、平成30年告示高等学校学習指導要領の理解、学習指導案の作成、学校現場での授業展開を見据えた授業づくりなどを内容とし、理論と実践の往還を大切にしながら、講義、グループ・ワーク、模擬授業、協議を組み合わせて実施しました。

水曜日の2時限に教職課程履修者19人の学生が受講しました。授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、協力し合いながらグループ・ワークを行い、模擬授業に真摯に取り組み、協議にも積極的に参加していました。

授業改善のための学生アンケート集計結果において、「自分のためになったことは何ですか（複数回答可）」の問いに対する当科目の回答率を、講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、「新しいものの見方」「コミュニケーション能力向上」「問題発見・解決能力」は、当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回る一方で、「関連分野の学習意欲」や「新しい知識・技能」は当科目の回答率が全体の回答率を少し上回る程度でした。

この結果は、当科目の次のような特性が要因と考えます。すなわち、中学校や高等学校などの学校現場で実際に音楽の授業を行うことを想定し、学生同士が協力し合いながら授業の構想を練ったり、教師役と生徒役に分かれて模擬授業などを行ったりする実践的な学修であるということです。このため、多くの学生が初めて模擬授業を体験して「新しいものの見方」「コミュニケーション能力向上」や「問題発見・解決能力」の高まりを実感できたと考えます。一方、実践的な活動が中心になるため、「関連分野の学習意欲」や「新しい知識・技能」の十分な獲得には至らなかったと考えます。

● 問題点

「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して約6割の学生が「1時間未満」の回答でした。昨年度と同じ科目の問いに対する学生の調査では約8割の学生が「1時間未満」の回答でしたので、一定の改善は見られますが、授業のねらいを達成するためには更に改善すべき点であると考えます。

● 改善の方策

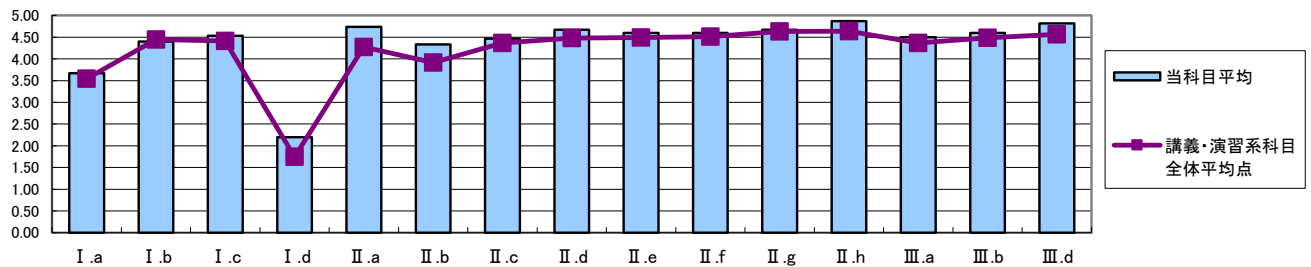
学生が授業の予習や復習を積極的に行い、学修を深めていくことができるように、今後、課題の設定などを一層工夫したいと考えます。また、科目の学修を通して、学習指導要領や学校現場での授業づくりに関わる実践力を獲得することに留まらず、学生の幅広い学習意欲をかき立てるような授業を目指して改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽科教育法Bb	職名	03. 特任教授	履修者数	20
教員名	大熊 信彦			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.53	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.20	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.73	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.47	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.87	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.67</td> <td>60.00</td> <td>53.33</td> <td>20.00</td> <td>40.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	66.67	60.00	53.33	20.00	40.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
66.67	60.00	53.33	20.00	40.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、中学校や高等学校などで、音楽科、芸術科（音楽）の授業を担当する教員に必要な資質・能力を身に付けることです。このため、平成29年告示中学校学習指導要領、及び、平成30年告示高等学校学習指導要領の理解、学習指導案の作成、学校現場での授業展開を見据えた授業づくりなどを内容とし、理論と実践の往還を大切にしながら、講義、グループ・ワーク、模擬授業、協議を組み合わせ実施しました。

水曜日の3時限に教職課程を履修している20人の学生が受講しました。授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、協力し合いながらグループ・ワークを行い、模擬授業に真摯に取り組み、協議にも積極的に参加していました。

授業改善のための学生アンケート集計結果において、「自分のためになったことは何ですか（複数回答可）」の問いに対する当科目の回答率を、講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、「コミュニケーション能力向上」「関連分野の学習意欲」「新しいものの見方」は当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回る一方で、「問題発見・解決能力」は当科目の回答率が全体の回答率と同程度でした。

この結果は、当科目の次のような特性が要因と考えます。すなわち、中学校や高等学校などの学校現場で実際に音楽の授業を行うことを想定した模擬授業などに取り組んだ経験が、学生にとって「関連分野の学習意欲」や「新しいものの見方」につながったこと、また、学生同士が協力し合いながら授業の構想を練ったり、教師役と生徒役に分かれて協働的に取り組む過程で「コミュニケーション能力向上」を実感できたと考えます。

● 問題点

「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して、約3割の学生が「1時間未満」の回答でした。昨年度と同じ科目の問いに対する学生の調査では約8割の学生が「1時間未満」の回答でしたので改善は図られていますが、授業のねらいを達成するためには更に改善すべき点であると考えます。

● 改善の方策

学生が授業の予習や復習を積極的に行い、学修を深めていくことができるように、今後、課題の設定などを一層工夫したいと考えます。また、科目の学修を通して、学習指導要領の理解や学校現場での授業づくりに関わる実践的な内容に留まらず、学生の「問題発見・解決能力」などを高めることにもつながっていくような改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

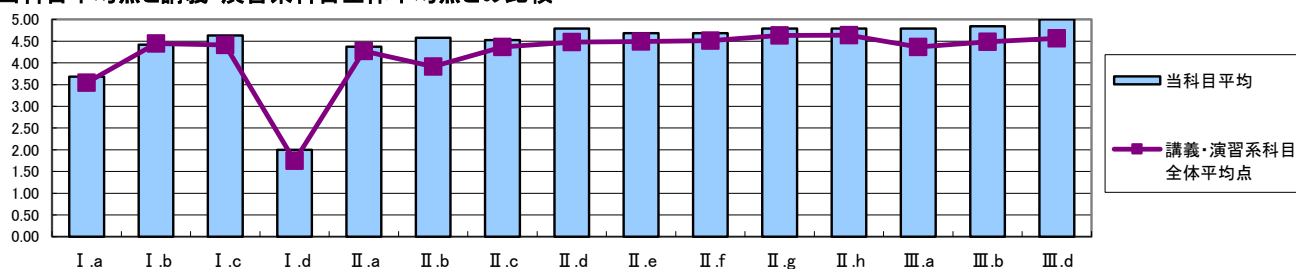
科目名	教職実践演習
教員名	大熊 信彦

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	24
回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.68	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.42	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.37	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.58	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.53	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.79	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.68	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.68	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.79	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.79	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.84	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57.89</td> <td>68.42</td> <td>47.37</td> <td>47.37</td> <td>26.32</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	57.89	68.42	47.37	47.37	26.32
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
57.89	68.42	47.37	47.37	26.32														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、教職課程の学修全体を通して、教員に求められる資質・能力を身に付けたかどうかを確認することです。このため、多くの学生が教育実習を終えた4年次後期に行き、教職課程を総括する視点で学修を進めました。内容、形態は次の2つです。

- ・「模擬授業演習」：学校現場での授業を想定して、音楽又は道徳のいずれかを選択し、一人15～20分程度の模擬授業を行う。教師役（一人）と生徒役（他の学生）に分かれて取り組む。
- ・「教育課題研究発表」（教員研修会の企画・運営）：学校現場での教員研修会を想定して、グループごとに選択した教育課題についての約30分の研究発表及び全体協議を行う。

木曜日の3時限に教職課程を履修している24人の学生が受講しました。授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、高い意識をもって参加していました。

授業改善のための学生アンケートの集計結果を見ると「自分のためになったこと」（複数回答可）の問いに対し、「問題発見・解決能力」や「新しいものの見方」を選択した学生の率が、講義・演習系科目全体の回答率をいずれも大きく上回っていました。また、有効回答者の全員が「この授業は総合的に判断して、意義あるものだった」について「強くそう思う」と答えました。さらに、自由記述に「自主的に考えるよう導いてくださる授業です」「授業を受けることができて本当にうれしかった」などとコメントした学生がいるなど、全体として一定の成果があったと考えます。

● 問題点

「開講時に成績評価の基準が明確に示された」の問いに対し、「強くそう思う」と回答した学生は7割弱であり、「どちらとも言えない」と回答した学生もいました。授業内容が「模擬授業演習」や「教育課題研究発表」及びそれらに関する「協議」から成ることからも、学修に対する評価の基準を事前に共有しておくことが重要と考えます。また、「自分のためになったこと」（複数回答可）の問いについて、「新しい知識・技能」は、講義・演習系科目全体の回答率をやや下回っていました。当科目が4年次の最終段階に位置付いていることから、教職に関する学びを総括し、学生にとって知識の定着や技能の向上を図ることができるような工夫が必要と考えます。

● 改善の方策

前述のとおり、教育実習の経験などを踏まえた「模擬授業」と「教育課題研究発表」の2つの内容で授業を行いました。今後はこれらの内容を柱にしつつ、学生の協働性を更に高めるとともに、教職課程各科目の学修履歴の振り返りにも重点を置くなど、学生個々のニーズに応じることのできる内容へと改善を図っていきたいと考えます。そのことで、教職課程の集大成に位置付く本科目の趣旨を真に実現できるようにしたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

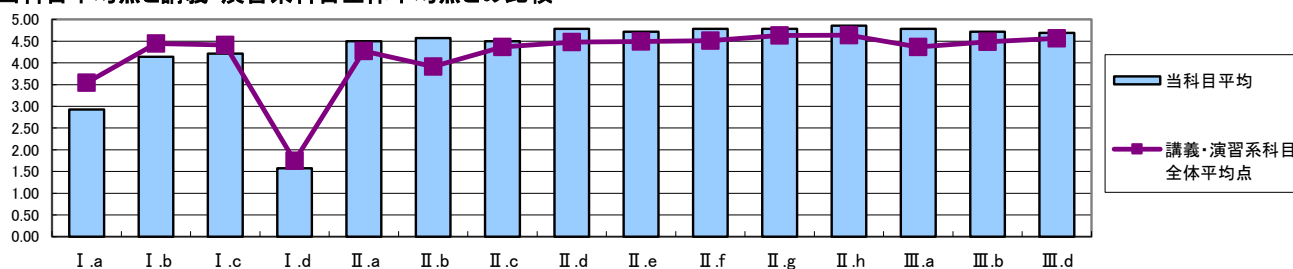
科目名	教育行政
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	19
回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.93	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.14	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.21	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.57	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.79	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.79	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.79	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.79	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71.43</td> <td>50.00</td> <td>28.57</td> <td>28.57</td> <td>7.14</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	71.43	50.00	28.57	28.57	7.14
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
71.43	50.00	28.57	28.57	7.14														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.69	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

各授業とも、講義式と協調学習、グループ学習等の協働的な学修を織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。授業の合間には、各学習内容と音楽科授業との関連に触れ、具体例を示した。アクティブ・ラーニングでは学生同士で活発な意見交換等が行われ、思考力や判断力、発表力を高め、知識の概念化が図られてきた。主体的・対話的で深い学びを行う中で、クリティカル・シンキングにより自分の考えを見直し、メタ認知能力を高めることができた。

授業内容は文部科学省、地方教育行政、学校教育行政、社会教育行政、家庭教育行政、安全教育等と広い分野に及ぶため、教育行政全般の概要を考察し理解することが主眼となる。この分野への興味・関心が薄い学生が多くいることから、教育行政の概要を考察して体系的に理解する意義は大きいと考えている。

留意したことは次の3点である。① 教育行政と学校運営との関係を具体的な事例に基づいて理解する。② 教育行政の変遷について概要をつかむ。③ 現在の教育行政の現状と課題を整理する。この3点は授業全般で意識して取り組んできたところである。音楽科教職課程の授業であることから、特に学校教育行政の変遷および新学習指導要領の方向性、家庭、地域との協働について、音楽教育を事例として取り上げ、具体的に踏み込んだ授業展開を試みた。今後の教育行政は産官学民が協働で歩調を合わせて進めていくことが求められている。この点については、特に強調したところである。

● 問題点

I a 「履修するにあたって、シラバスを活用した。」という項目で「全くそう思わない」に4人が回答している。授業は大方においてシラバスの項目に沿って進めてきたが、シラバスの活用について学生に周知する点において課題を残した。また、I d 「1回の授業のために平均どのくらい予習、復習をしましたか。」の項目では、11人が1. 1時間未満と回答しており課題を残した。

● 改善の方策

シラバスについて、第1回目の授業で印刷して配布し、15回の講義の見直しを持たせたい。さらに、毎時間の配付資料でシラバス内容を提示し、内容との関連を説明する。また、学生の専攻レッスン、演奏会、各学修の状況から鑑みると、予習・復習時間を確保することは容易ではなく、工夫が必要である。そこで、毎時間、予習、復習のポイントを示すことにより焦点化し、予習、復習しやすい環境を整えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

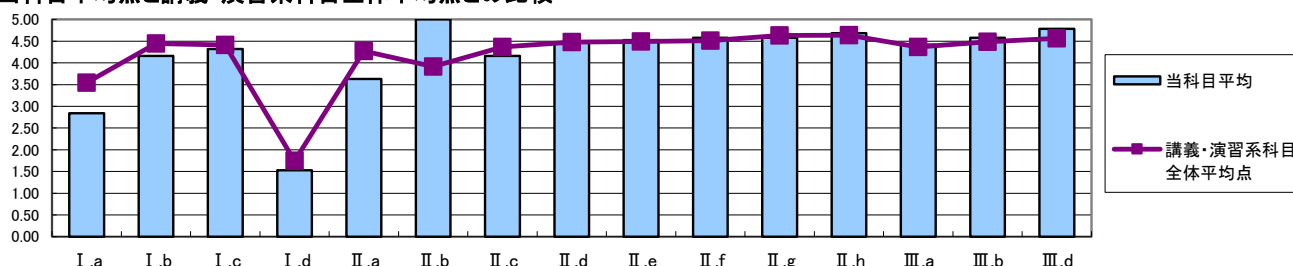
科目名	教育方法(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)b
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	21
回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.84	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.16	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.32	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.53	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.63	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.16	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.53	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.58	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.58	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.68	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.42	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.58	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>68.42</td> <td>26.32</td> <td>47.37</td> <td>15.79</td> <td>10.53</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	68.42	26.32	47.37	15.79	10.53
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
68.42	26.32	47.37	15.79	10.53														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.79	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

実際の授業で行われている多様な指導方法や学習形態を体験的にシュミレーションする授業を中心とした。特に協働による学びを重視し、協調学習、ディベート、ブレinstrooming、ランキング手法、グループ討議等について体験的に学修した。各授業とも、講義式、アクティブ・ラーニングを織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。音楽大学という特質から、音楽教育と結びつけて実践的な内容とした上で、主体的・対話的で深い学びを進め、これからの教育に必要とされるイノベーション能力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシーを含めた資質・能力の育成について体験的に理解していった。後半は、電子黒板、タブレット端末(コンピュータ)を活用し、情報通信技術の活用方法や課題について、個別学習、協働学習により知識・技能を深め、GIGAスクール構想の適応したICT活用指導力を高めることに主眼をおく授業を展開した。

3年生という特質から、各種演奏会出演、各種体験活動等から公欠が多く、継続的な学習という点で課題がある。この理由から、学生の学修に極端な差がつかないように復習に力点を置いたため、シラバスどおりに進まない現状があった。

留意したことは ① ねらいを明確にして見通しを示し、学習の内容、成果や課題について振り返りのある授業をめざすこと ② 協調学習(ジグソー学習)等主体的・対話的で深い学びの指導方法、学習方法を理解すること ③ 資質・能力の3つの柱を理念とした新学習指導要領の趣旨や概要を理解することである。この3点は授業全般で意識し、取り組んできたところである。また、家庭や地域社会との連携、協働、産官学民の協働の現状や求められる取組やICT教育の意義と今後の課題について掘り下げた。

● 問題点

I a 「この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した」という設問に対して 1 全くそう思わないに6人の学生が回答している。履修するにあたってシラバスを読み込んでいる学生はすくない現状がある。

また、I d 「1回の授業のために平均どのくらい予習、復習をしましたか。」の項目では、14人が1. 1時間未満と回答しており課題を残した。

● 改善の方策

シラバスについて、第1回目の授業で印刷して配布し、15回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の配付資料でシラバス内容を提示し、内容との関連を説明する。また、学生の専攻レッスン、演奏会、各学修の状況から鑑みると、予習・復習の時間を確保することは容易ではなく、工夫が必要である。そこで、毎時間、予習、復習のポイントを示すことにより焦点化し、予習、復習しやすい環境を整えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

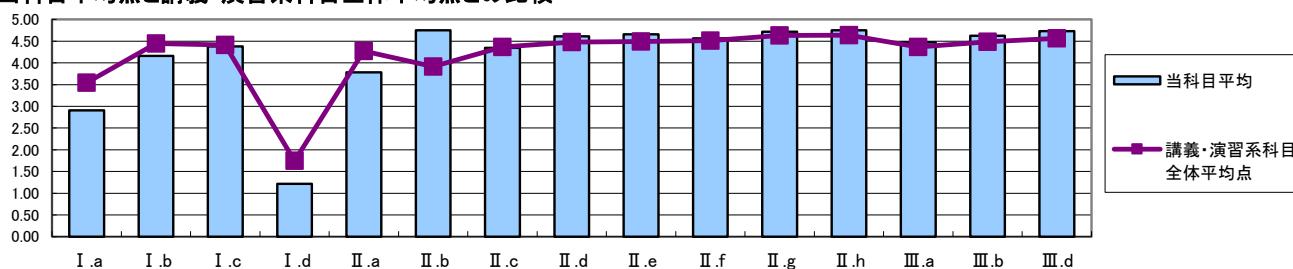
科目名	総合的な学習の時間の指導法
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	38
回答者数	32

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.91	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.16	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.22	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.78	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.75	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.34	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.61	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.66	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.72	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.47	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71.88</td> <td>40.63</td> <td>12.50</td> <td>31.25</td> <td>6.25</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	71.88	40.63	12.50	31.25	6.25
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
71.88	40.63	12.50	31.25	6.25														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.73	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

総合的な学習の時間は、新学習指導要領では各教科等の軸とされている。各教科学習で得られた知識、技能や思考力や表現力等を横断的に関連させ、知の総合科を回り、児童生徒に資質能力の3つの柱を身に付けさせ、生涯にわたって学び続ける力をつけていくことは、現代教育の命題といえる。その中心となる学習が総合的な学習の時間であるが、その意義、目的、探究学習の方法、年間指導計画の作成、音楽をはじめとする各教科等との関連、ポートフォリオ評価等の評価方法等について、演習方式で具体的な活動を通して学ぶ。また、学ぶ過程における協働学習やICTの活用について、疑似体験を通して学んでいく。

探究学習の方法については、課題設定、課題追究（情報の収集、整理）、まとめ発表の各段階の学習方法について考察する。また、年間指導計画の作成について、実際に計画を作成しながら各教科等との関連について考察する。さらに、地域学習をテーマとした場合の総合的な学習に時間について、「川越市」の歴史、観光をはじめとする産業、施設、地域的特色について考察し、ウェビングの手法を用いながら、課題設定の方法を検証する。

総合的な学習の時間と学校行事との関連は、表裏一体をなす。職業体験、宿泊的行事（学修旅行）に焦点をあてて、特別活動と総合的な学習の時間とのねらいを比較しながら、具体的な活動例をもとに特別活動と探究学習としての総合学習の違いについて理解する。

学生は小学校、中学校、高等学校と総合的な学習（探究）の時間を経験している。これらの経験知をいかして、授業を進めるよう心がけている。

● 問題点

学生アンケート結果ではI a 「この授業を履修するにあたってシラバスを活用した」で4人が「全くそう思わない」と回答している。また、I d 「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で28人は1時間未満と回答している。この点に課題がある。

● 改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、学修の内容をより深めていくようにする。特に、中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の内容について、その概要をつかめるようにする。単元計画の作成や探究学習の学習方法は、授業計画通りに進まない場合もあり、できる限り学習内容を精選して予習、復習の焦点化を図りたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

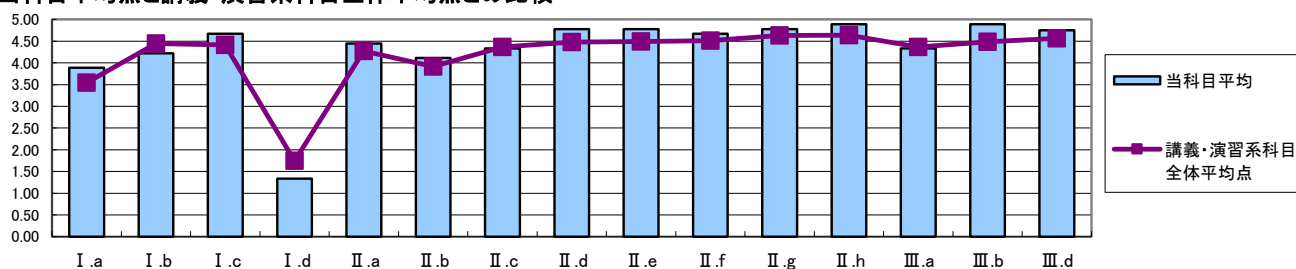
科目名	教職特講(教職実践)Ⅱ
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	10
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.89	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.22	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.44	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.11	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.78	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.89	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.78</td> <td>88.89</td> <td>88.89</td> <td>77.78</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	77.78	88.89	88.89	77.78	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
77.78	88.89	88.89	77.78	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、教職実践専攻2年生の学生が履修する必修科目である。履修者は当然ながら他専攻の教職課程履修者と比較して教員採用選考試験を受験し教員になるという明確な意志を持っていることから、今日的な教育課題について幅広く考察することで、教員として求められる資質・能力を高めることを目指している。特に教員採用選考試験における教職教養、面接、論作文で必要な知識を習得し、教員に求められる人間性について考察していくことに力点を置いた。併せて論文の出題傾向、主題形式、序論・本論・結論の記述方法等について詳細な個別指導を実施し、対応力を高めた。教育課題においては、生徒指導(いじめ・不登校問題を含む)、教育相談、キャリア教育、情報教育、特別支援教育、西洋、日本の教育思想及各種教育プラン等について、中教審答申や学習指導要領解説書、各種関係資料をもとに幅広く、考察する学修を展開した。これらの学修を通して教員としての資質・能力を高めるため、話し合い活動、疑似体験等アクティブ・ラーニングの手法で授業を展開した。また、教育法規について教育基本法、学校教育法、地方公務員法を中心として、学校教育の目標、ねらい、各種規定、教育公務員としての服務や義務について調べ、個別的な学修を実施した。これらの学修から、現代の学校を取り巻く諸条件や変化、現代及び未来に期待される学校教育の在り方、家庭や地域との協働、連携の在り方、求められる教師像と働き方改革につながる勤務の現状について掘り下げて考えることができた。

● 問題点

学生アンケート結果ではI.d「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で7人が1時間未満と回答している。今後いかにして、予習、復習時間を増加させるかが課題となる。

● 改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、発展的に学修の内容をより深めていくようにする。グーグルクラスルームを活用し、次回の学修内容を掲載し、焦点化した課題を提示するようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

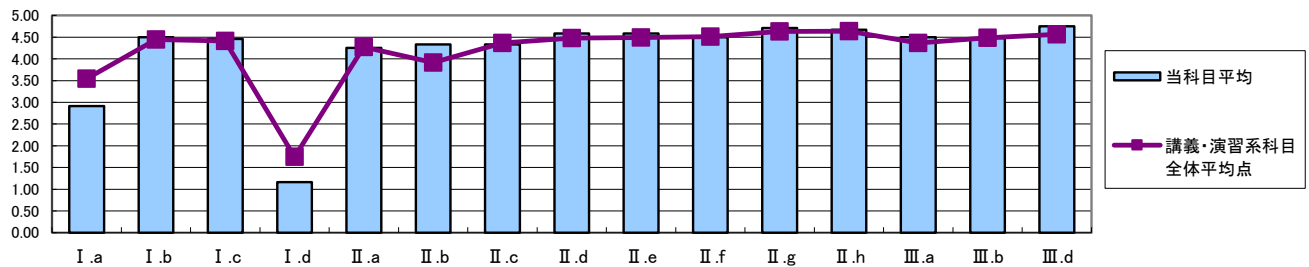
科目名	教育学概説
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	30
回答者数	24

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.92	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.46	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.58	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.58	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.48	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>62.50</td> <td>50.00</td> <td>25.00</td> <td>33.33</td> <td>8.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	62.50	50.00	25.00	33.33	8.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
62.50	50.00	25.00	33.33	8.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、西洋と日本の教育思想史から教育思想の歴史的な流れと概要を捉えるとともに、公教育の概念や変遷、学校教育、家庭教育、社会教育の特徴や関連等について法規、日本や世界における教育の現状をふまえて学修する。さらに学習指導要領の変遷から、現代日本の学校教育の変遷とこれからの教育に求められる学校教育の在り方を考察する。このように教育にまつわる内容を多面的・多角的に考察して、その概要をつかむことをねらいとしている。また、本科目は1学年の学生を対象としているため、教育に関する専門科目として基礎から積み重ねて行く段階であり、いわば教育を学ぶ上での土台作りとも言える科目だと考えている。そこで協働的な学修を多く取り入れ、身近な実体験を生かしながら学修を深化させていくため、アクティブ・ラーニングを中心に据えた。コアカリキュラムに沿い内容が多岐にわたることから、学修内容の継続性を図ることに課題がある。そのため、できる限り現代教育との関連を図りながら、学生の興味関心が高まるよう工夫してきた。学生は、真摯に学修に取り組み、新たな発見や知識の質を高め、学修にいきいきと意欲的に取り組む姿が多く見られた。特に教育の歴史、家庭教育、社会教育、学校教育の内容や関連性を考察し、諸外国の教育との比較をするなどすることにより、教育の概念の幅を広げ、深めていくことの意義を大きいと考えている。

● 問題点

学生アンケート結果ではI a 「この授業を履修するにあたってシラバスを活用した」で「全く思わない」と回答した学生が5人いる。また、I d 「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で23人はI時間未満と回答している。この2点に課題がある。

● 改善の方策

毎時間、次の授業内容についてシラバスに沿って説明するとともに、シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、学修の内容をより深めていくようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

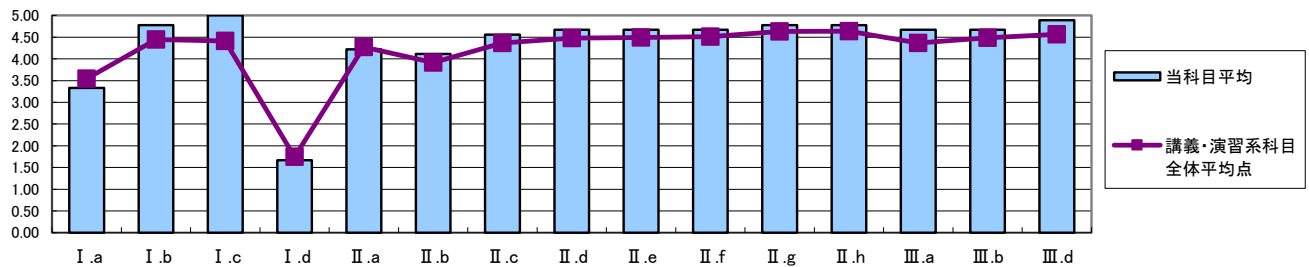
科目名	教職特講(教職実践) I
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	9
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.78	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.22	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.11	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.89</td> <td>44.44</td> <td>44.44</td> <td>44.44</td> <td>22.22</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	88.89	44.44	44.44	44.44	22.22
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
88.89	44.44	44.44	44.44	22.22														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、教職実践専攻必修科目であり、教職実践専攻のみの学生が受講する最初の授業でもある。履修者は当然ながら他専攻の教職課程履修者と比較して教員採用選考試験を受験し教員になるという明確な意志を持っている。教職に関する4年間の学修の導入として位置づけられ、教育に関する基礎的な知識や技能を身に付け、教員を志すための基礎・基本を定着させるというねらいがある。教員としての資質・能力の基礎を築くと同時に音楽科教員としての資質・能力の基礎を築くことが重要であり、今日的な教育課題を考察すると同時に我が国で長く親しまれている歌曲の特徴をつかみ、弾き歌いの基礎的な技能の習得を図っている。教員の職務内容の概要、教員に求められる資質・能力、社会の変化に対応する学校教育の現状、現代の学校を取り巻く諸課題等について、個別の学修とともに討論形式やプレストリーミング、KJ法等を取り入れたアクティブ・ラーニングを多く実施するとともに、中教審答申や学習指導要領解説書から適切な資料を用いて検証していくプロセスで知識・技能を身に付けるとともに、思考力、判断力、表現力を伸ばしていった。

また、音楽科教員としての基礎的な資質・能力を身に付けるため、中学校学習指導要領(音楽科)で示されている、いわゆる歌唱の共通教材7曲の歌詞の特徴、旋律や和音の特徴、それぞれの曲が作詞・作曲された時代の背景について、資料収集しまとめる学修を行い、曲に関する基礎的な知識を定着させることができた。併せて技能を高めるため、ピアノ伴奏、歌唱、弾き歌いの3つに分け、その中でそれぞれの学生が持つ技能的な課題を見つけ、その解決を図る個別の学修を展開した。これらの授業内容を通して、学生は教員を自ざす上で、これからの学修における課題となる事柄を明確にすることができた。

● 問題点

学生アンケート結果ではI d「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で5人が1時間未満と回答している。今後いかにして、予習、復習時間を増加させるかが課題となる。

● 改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、発展的に学修の内容をより深めていくようにする。グーグルクラスルームを活用し、次回の学修内容を掲載し、焦点化した課題を提示するようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

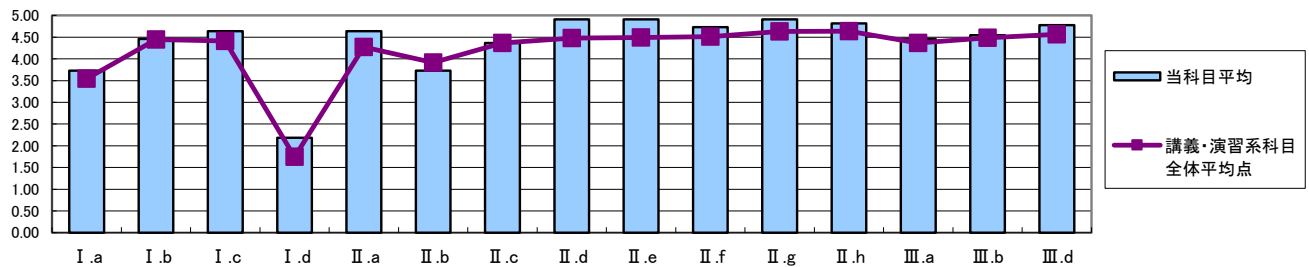
科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成a
教員名	五十嵐 由和

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	17
回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点				
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.73	3.54				
	b この授業の出席は良好であった。	4.45	4.45				
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.64	4.41				
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.18	1.74				
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.64	4.27				
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.73	3.91				
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.36				
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.91	4.48				
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.91	4.49				
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.73	4.51				
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.91	4.63				
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.64				
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.45	4.37				
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.55	4.48				
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
		5	4	3	2	1	
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.56	81.82	45.45	54.55	54.55

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

生徒指導及び教育課程の基本的な事項を理論的に学ぶと同時に理論を基に教育現場で生きて働くことができる実践力を育てることを目的とする。内容として、生徒指導提要及び学習指導要領解説総則編をテキストに生徒指導及び教育課程に関する基本的事項の理解を深め、中学校及び高等学校の教育活動で役立つように事例研究、演習を行い実践的に行っている。授業形態は、テーマに基づいて、パワーポイント、テキスト、資料を使つての講義を行うとともに、課題を設けてペア、グループ、全体のディスカッションを毎時間行っている。特に、テキストで学んだ理論を基に、事例研究・演習等を、教師の視点に立ち、多面的・多角的に学び、主体的・対話的で深い学びのある授業にしている。受講者数は、21名、木曜日3限で少人数の良さを生かして、教師と学生、学生同士の対話、ディスカッションができる環境にある。

受講者は、概ね積極的に取り組んでいる。毎時間の振り返り、自己評価では、概ね良いという評価が多く、記述欄ではテーマに沿って分析し、課題の追及に努め学びを深めている。課題として、理解度等個別差があり適切な個別指導が必要な学生もいる。

授業改善のための学生アンケートの分析は次の通りである。

Iの項目では、熱意をもって積極的に取り組んだ割合は高かった。それに、比較してシラバスの活用、特に予習、復習について低く今後の課題である。学生が主体的に学ぶために、予習や復習などの自学自習についても積極的に取り組むことができるように工夫する必要がある。

II授業内容に関して、授業の進め方、説明、教科書、資料等概ね良好であった。また、熱意や工夫、質問や相談等の項目で高かった。開講時の成績の基準、授業の難易度について、課題として改善する必要がある。授業を総合的に判断して、意義があるものとした割合は高かったが、さらに工夫をしていく必要がある。教職科目ですので、教育現場で役立つような理論、実践力を学生が身につくように工夫する必要がある。

● 問題点

授業の進め方、内容、履修してためになったとする割合は高かったが、シラバスを活用し、予習、復習など授業を踏まえた自学自習の割合が低かった。教員は、シラバスを配布し、予習・復習課題を示しているが、学生との意識のズレがあった。また、授業開きでプリントを配布して成績評価の基準を示していたが、この項目においても意識のずれがあった。記述欄でプリントを記述式にしてもらいたいとの意見があった。学力差もあり、記号から選ぶように配慮したが教員と学生の意識のズレがあった。

● 改善の方策

問題点であるシラバスの活用、予習・復習の割合を高くするために、現在の授業の進め方や内容をより実践的な事例にして予習や復習を通して、課題を追究したい意識を高めるとともに授業内で毎回、シラバスの確認、予習・復習の具体的な確認をしていくようにする。また、毎時間、出しているプリントにも自学自習、予習・復習を意識したものを加え、授業がより充実するようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

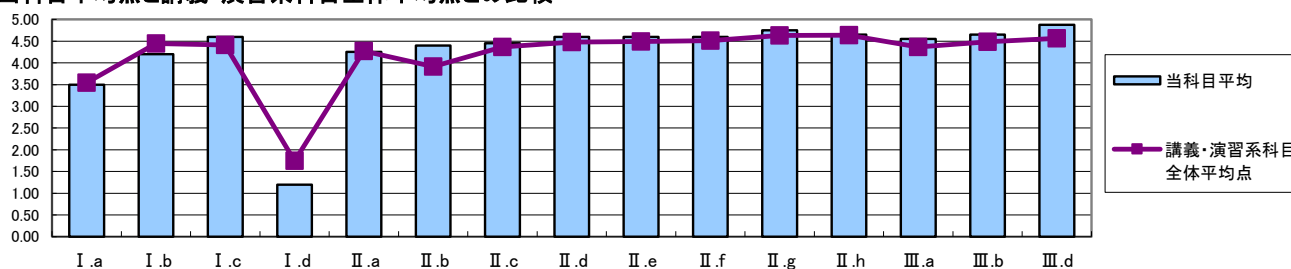
科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成b
教員名	五十嵐 由和

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	21
回答者数	20

設問	設問文	平均点	全体平均点																
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54																
	b この授業の出席は良好であった。	4.20	4.45																
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.41																
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.74																
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.27																
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.40	3.91																
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45	4.36																
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等が分かりやすかった。	4.60	4.48																
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.49																
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.51																
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63																
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.65	4.64																
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.55	4.37																
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.65	4.48																
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70.00</td> <td>65.00</td> <td>30.00</td> <td>70.00</td> <td>20.00</td> </tr> </tbody> </table>			回答率					5	4	3	2	1	70.00	65.00	30.00	70.00	20.00
	回答率																		
	5	4	3	2	1														
70.00	65.00	30.00	70.00	20.00															
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.56																	

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

生徒指導及び教育課程の基本的な事項を理論的に学ぶと同時に理論を基に教育現場で生きて働くことができる実践力を育てることを目的とする。内容として、生徒指導提要及び学習指導要領解説総則編をテキストに生徒指導及び教育課程に関する基本的事項の理解を深め、中学校及び高等学校の教育活動で役立つように事例研究、演習を行い実践的に行っている。授業形態は、テーマに基づいて、パワーポイント、テキスト、資料を使つての講義を行うとともに、課題を設けてペア、グループ、全体のディスカッションを毎時間行っている。特に、テキストで学んだ理論を基に、事例研究・演習等を、教師の視点に立ち、多面的・多角的に学び、主体的・対話的で深い学びのある授業にしている。受講者数は、21名、木曜日3限で少人数の良さを生かして、教師と学生、学生同士の対話、ディスカッションができる環境にある。受講者は、概ね積極的に取り組んでいる。毎時間の振り返り、自己評価では、概ね良いという評価が多く、記述欄ではテーマに沿って分析し、課題の追及に努め学びを深めている。課題として、理解度等個別差があり適切な個別指導が必要な学生もいる。

授業改善のための学生アンケートの分析は次の通りである。

Iの項目では、熱意をもって積極的に取り組んだ割合は高かった。それに、比較してシラバスの活用、特に予習、復習について低く今後の課題である。学生が主体的に学ぶために、予習や復習などの自学自習についても積極的に取り組むことができるように工夫する必要がある。

II授業内容に関して、授業の進め方、説明、教科書、資料等概ね良好であった。また、熱意や工夫、質問や相談等の項目で高かった。開講時の成績の基準、授業の難易度について、課題として改善する必要がある。授業を総合的に判断して、意義があるものとした割合は高かったが、さらに工夫をしていく必要がある。教職科目ですので、教育現場で役立つような理論、実践力を学生が身につくように工夫する必要がある。

● 問題点

授業の進め方、内容、履修してためになったとする割合は高かったが、シラバスを活用し、予習、復習など授業を踏まえた自学自習の割合が低かった。教員は、シラバスを配布し、予習・復習課題を示しているが、学生との意識のズレがあった。また、授業開きでプリントを配布して成績評価の基準を示していたが、この項目においても意識のずれがあった。

● 改善の方策

問題点であるシラバスの活用、予習・復習の割合を高くするために、現在の授業の進め方や内容をより実践的な事例にして予習や復習を通して、課題を追究したい意識を高めるとともに授業内で毎回、シラバスの確認、予習・復習の具体的な確認をしていくようにする。また、毎時間、出しているプリントにも自学自習、予習・復習を意識したものを加え、授業がより充実するようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

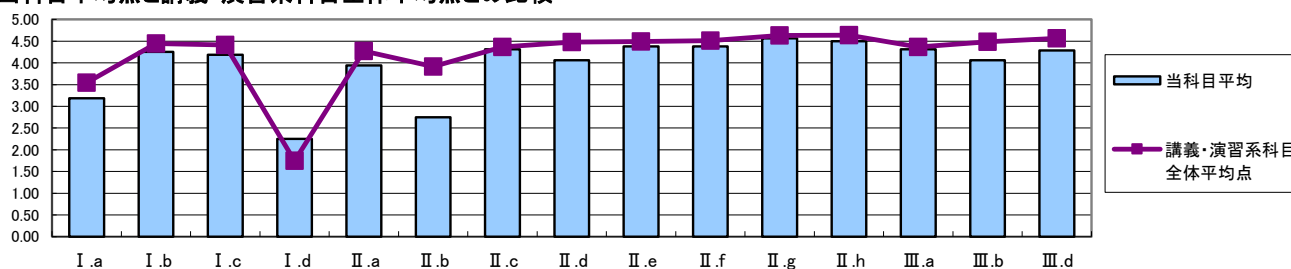
科目名	教材伴奏法 I Ba
教員名	小野瀬 照夫

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	22
回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.19	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.19	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.25	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.94	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.75	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.31	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.06	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.56	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.31	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.06	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		93.75	25.00	6.25	18.75	6.25
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.29	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

主に中学校の音楽教科書に掲載されている歌唱用楽曲のピアノ伴奏が学校現場で弾けるように、楽曲分析と伴奏の実習を行うように取り組んでいる。

取り扱う楽曲は、先ず中学校の共通教材（7曲）を主体的に扱っている。これは、ほぼ全国的に教員採用試験での弾き歌いの実技試験で共通教材が指定されているからである。

学生の中には問題なく楽譜どおりに伴奏を弾ける者もいるが、多くの学生はピアノ演奏があまり得意ではなく、更に歌いながらの「弾き歌い」となると歌も伴奏もままならない状態になってしまう者が少なくない。

このような現状の中、4年次に行う予定の教育実習や教員採用試験時、そして最終的には教諭として学校現場での授業の中で弾き歌いができなくてはならないものであることを想定して、実習を中心とした授業を行っている。

授業形態と内容であるが、講座90分中初めの30分は楽曲の解説を行って伴奏のみならず曲や詩に対しての理解を深め、より良い伴奏演奏や指導に繋がるようにしている。

そのあとの60分の伴奏実習はそれぞれの学生が自分で決めた楽曲を可能な限り毎回全員の学生が全員の前で演奏できるようにしている。その実習はSTEP1～9まで定めて申告し、個々の学生が自分の進捗状況に合わせて演奏するようにしている。そのSTEPとは、1「右手でメロディーが弾ける」、2「右手でメロディーを弾きながら歌える」、3「右手でメロディー・左手で低音が弾ける」、4「右手でメロディー・左手で低音を弾きながら歌える」、中略 7「8割以上楽譜どおりに伴奏を弾ける」、8「8割以上楽譜どおりに伴奏を弾きながら歌える」、9「楽譜どおりに伴奏を弾きながら歌える」というものである。

また、学校現場での大切な内容となる毎授業の初めに行う「発声練習」にも触れ、声楽が専門でない学生でも良い「発声練習」の指導ができるように努めている。

受講学生はIが27名、IIが9名の計36名で、同時開講している。

● 問題点

前述のように、学生の中にはピアノ演奏に対する苦手意識の強い者も少なくない為、単に伴奏を教えるのみでなく、その意識を解決させる必要も感じている。

また、それとは逆に歌うことへの苦手意識を持っている者も多く、例えばピアノが弾けても歌う声がか細く、学校の教室ではとても対応が厳しいと思われる学生も多い。そのため、昨年度からも力を入れているが、発声に関しても指導が必要になっている。

● 改善の方策

ピアノ演奏に苦手意識をもっている学生の殆どは指の使い方が的確ではなく、無理な指使いで弾きにくそうに弾いているという共通点があるように思われるので、先ずは指番号を見直させ、最適な指使いを考えさせるところから進めて参りたいと考えている。

歌に対する苦手意識を持った学生に対しては講座の中で発声の実習をしっかりと行うことで個々の学生が声に自信が持てるように導いていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

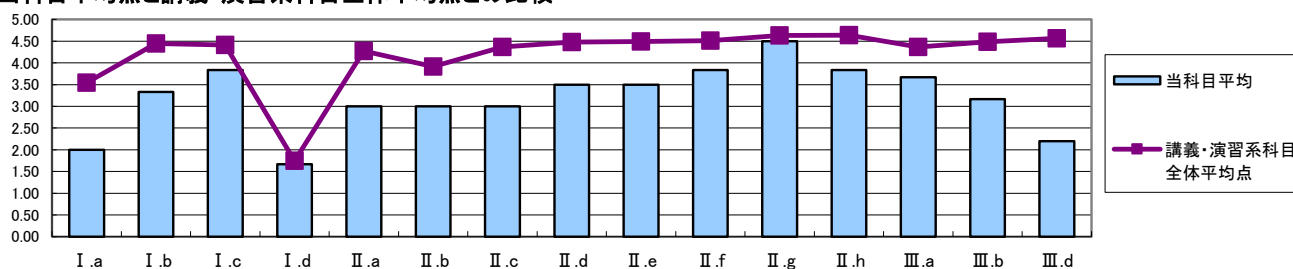
科目名	教材伴奏法ⅡB
教員名	小野瀬 照夫

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.33	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.83	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.83	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.83	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.17	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>16.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	33.33	0.00	0.00	16.67
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	33.33	0.00	0.00	16.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	2.20	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

主に中学校の音楽教科書に掲載されている歌唱用楽曲のピアノ伴奏が学校現場で弾けるように、楽曲分析と伴奏の実習を行うように取り組んでいる。

取り扱う楽曲は、先ず中学校の共通教材（7曲）を主体的に扱っている。これは、ほぼ全国的に教員採用試験での弾き歌いの実技試験で共通教材が指定されているからである。

学生の中には問題なく楽譜どおりに伴奏を弾ける者もいるが、多くの学生はピアノ演奏があまり得意ではなく、更に歌いながらの「弾き歌い」となると歌も伴奏もままならない状態になってしまう者が少なくない。

このような現状の中、4年次に行う予定の教育実習や教員採用試験時、そして最終的には教諭として学校現場での授業の中で弾き歌いができなくてはならないものであることを想定して、実習を中心とした授業を行っている。

授業形態と内容であるが、講座90分中初めの30分は楽曲の解説を行って伴奏のみならず曲や詩に対しての理解を深め、より良い伴奏演奏や指導に繋がるようにしている。

そのあとの60分の伴奏実習はそれぞれの学生が自分で決めた楽曲を可能な限り毎回全員の学生が全員の前で演奏できるようにしている。その実習はSTEP1～9まで定めて申告し、個々の学生が自分の進捗状況に合わせて演奏するようにしている。そのSTEPとは、1「右手でメロディーが弾ける」、2「右手でメロディーを弾きながら歌える」、3「右手でメロディー・左手で低音が弾ける」、4「右手でメロディー・左手で低音を弾きながら歌える」、中略 7「8割以上楽譜どおりに伴奏を弾ける」、8「8割以上楽譜どおりに伴奏を弾きながら歌える」、9「楽譜どおりに伴奏を弾きながら歌える」というものである。

また、学校現場での大切な内容となる毎授業の初めに行う「発声練習」にも触れ、声楽が専門でない学生でも良い「発声練習」の指導ができるように努めている。

受講学生はIが27名、IIが9名の計36名で、同時開講している。

● 問題点

前述のように、学生の中にはピアノ演奏に対する苦手意識の強い者も少なくない為、単に伴奏を教えるのみでなく、その意識を解決させる必要も感じている。

また、それとは逆に歌うことへの苦手意識を持っている者も多く、例えばピアノが弾けても歌う声がか細く、学校の教室ではとても対応が厳しいと思われる学生も多い。そのため、昨年度からも力を入れているが、発声に関しても指導が必要になっている。

● 改善の方策

ピアノ演奏に苦手意識をもっている学生の殆どは指の使い方が的確ではなく、無理な指使いで弾きにくそうに弾いているという共通点があるように思われるので、先ずは指番号を見直させ、最適な指使いを考えさせるところから進めて参りたいと考えている。

歌に対する苦手意識を持った学生に対しては講座の中で発声の実習をしっかりと行うことで個々の学生が声に自信が持てるように導いていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

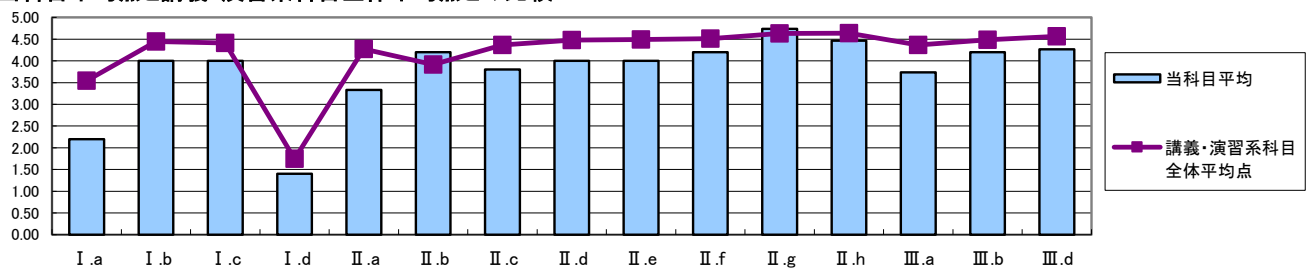
科目名	音楽科教材研究Ba
教員名	山崎 正彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	27
回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.20	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.47	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.73	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.67</td> <td>46.67</td> <td>13.33</td> <td>26.67</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	66.67	46.67	13.33	26.67	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
66.67	46.67	13.33	26.67	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.27	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

次年度に実施される予定の教育実習に必要な知識及び技能を身に着けることを目的としている授業である。授業は一斉の方式であり、授業方法は講義と演習とで進めている。受講者数は27名であり、開講曜日は水曜日、第2限となっている。

講義の内容は主に教員からの解説である。音楽科授業における指導の構成について、学習内容の設定、それを充足する学習活動、その結果、学習内容が学力に変容するという揺るぎない理論に基づき、理解を図る。その学習内容を創出するための楽曲の教材化について、個人々が考案し、模擬授業実践のための学習指導案を作成する。これが主に音楽科教材研究Aaの内容である。

音楽科教材研究Baの内容が演習であり、学生による模擬授業実践である。学生が一人一回、25分の授業を作成した学習指導案に基づいて実践する。授業後に全体で授業後検討会を開催し、成果と課題との共有を図る。

受講者には年間を通して、つまり音楽科教材研究Aaの段階から一貫して、授業の構成の基本的な理解と、それに基づく教材研究の方法の習得、さらには、それを模擬授業実践という形で結実することが課されている。

授業内容がシンプルであり、それに臨む学生の姿勢等は概ね良好であり、これまでに記したことについて全員が達成を図り、特に問題と感じる点はなかった。

ただし、評価回答を見る限りでは、学生に当方の意図したものが伝わっているかを確認することができず、その原因を考えざるをえない。当方の意図が伝わっていなかったのか、伝わってはいたが、学生が納得しきれていなかったのかのいずれかだと考えられる。

あるいは、質問項目に「本授業で、あなたが学べたことは何か」というような自由記述欄があれば、当方もその答えが最も確認したいことであり、なおかつ、最も責任を負っていることだと考えるので有難い。

● 問題点

前設問において記した通り、授業改善をする上での情報として、授業時間の大半を費やした指導構成における基本中の基本の理解と、それに基づく授業実践の振り返りに関しての学生の記述が乏しく、意識のずれに関しての本質的な問題点があれば、むしろそれを把握したい。

● 改善の方策

授業の内容を分かり易く学生に伝え続けることが不可欠だと考える。教育実習で必要となる授業を構成し、それを実践することを経験する。その過程で、教材研究の適切な方法を学び、それが現実にも適用できるのかどうかを全員で合議することを繰り返しながら教育実習の準備を可能な限り進めることの意味を頻りに伝えたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

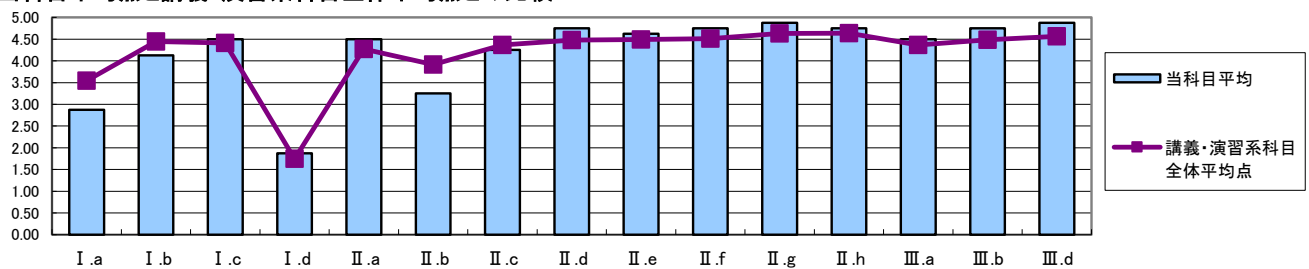
科目名	音楽科教材研究Bb
教員名	山崎 正彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	11
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.88	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.13	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.88	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.25	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.00</td> <td>62.50</td> <td>37.50</td> <td>50.00</td> <td>37.50</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	75.00	62.50	37.50	50.00	37.50
	回答率																	
5	4	3	2	1														
75.00	62.50	37.50	50.00	37.50														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

次年度に実施される予定の教育実習に必要な知識及び技能を身に着けることを目的としている授業である。授業は一斉の方式であり、授業方法は講義と演習とで進めている。受講者数は27名であり、開講曜日は水曜日、第2限となっている。

講義の内容は主に教員からの解説である。音楽科授業における指導の構成について、学習内容の設定、それを充足する学習活動、その結果、学習内容が学力に変容するという揺るぎない理論に基づき、理解を図る。その学習内容を創出するための楽曲の教材化について、個人が考案し、模擬授業実践のための学習指導案を作成する。これが主に音楽科教材研究Aaの内容である。

音楽科教材研究Baの内容が演習であり、学生による模擬授業実践である。学生が一人一回、25分の授業を作成した学習指導案に基づいて実践する。授業後に全体で授業後検討会を開催し、成果と課題との共有を図る。

受講者には年間を通して、つまり音楽科教材研究Baの段階から一貫して、授業の構成の基本的な理解と、それに基づく教材研究の方法の習得、さらには、それを模擬授業実践という形で結実することが課されている。

授業に臨む姿勢等は概ね良好であり、これまでに記したことについて全員が達成を図り、特に問題と感じる点はなかった。

ただし、評価回答を見る限りでは、当方の意図したものが学生に伝わっているかを確認することができないが、手掛かりとなるのが、自由記述に記されている「授業をする上での必要なことが分かってきた」「授業後のディスカッションがとてまためになった」である。これらが本科目の意図、及び指導上の重点を反映しているのであれば良いのだが。

いずれにしても、本科目において学生に伝えたいとしていることが、どの程度、伝わっているのか、やはり不確実である。質問項目に「本授業で、あなたが学べたことは何か」というような自由記述欄があれば、当方も、その答えが最も確認したいことであり、なおかつ、最も責任を負っていることだと考えるので有難い。

● 問題点

前設問において記した通り、授業改善をする上での情報として、授業時間の大半を費やした指導構成における基本中の基本の理解と、それに基づく授業実践の振り返りに関しての学生の記述が乏しく、意識のずれに関しての本質的な問題点があれば、むしろそれを把握したい。

● 改善の方策

授業の内容を分かり易く学生に伝え続けることが不可欠だと考える。教育実習で必要となる授業を構成し、それを実践することを経験する。その過程で、教材研究の適切な方法を学び、それが現実にも適用できるのかどうかを全員で合議することを繰り返しながら教育実習の準備を可能な限り進めることの意味を頻りに伝えたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

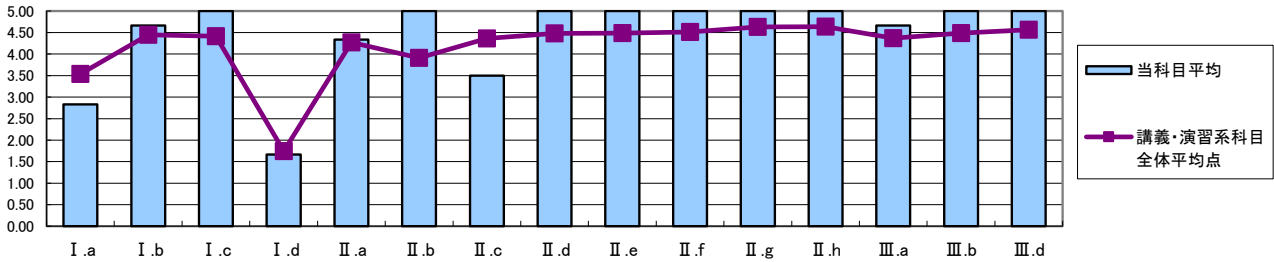
科目名	教育総合科目(教職実践)ⅡB
教員名	大熊 信彦

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	7
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.83	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>83.33</td> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	83.33	100.00	33.33	33.33
	回答率																	
5	4	3	2	1														
83.33	83.33	100.00	33.33	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



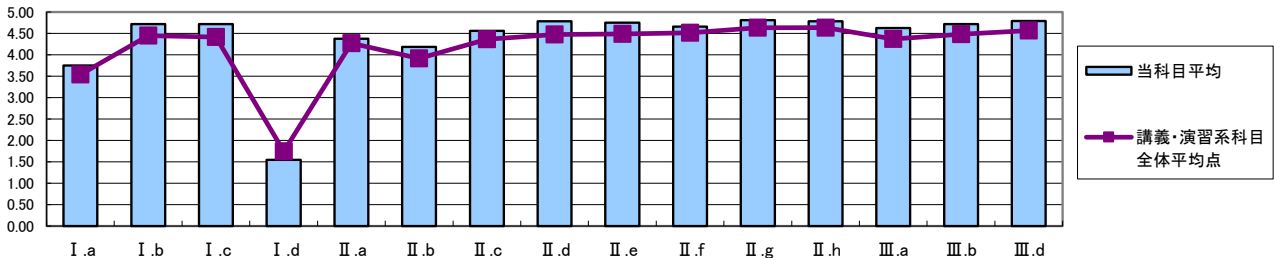
科目名	特別支援を必要とする生徒の理解
教員名	二俣 泉

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	39
回答者数	32

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.72	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.72	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.55	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.19	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.78	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.66	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.81	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.63	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.72	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78.13</td> <td>40.63</td> <td>40.63</td> <td>25.00</td> <td>12.50</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	78.13	40.63	40.63	25.00	12.50
	回答率																	
5	4	3	2	1														
78.13	40.63	40.63	25.00	12.50														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.79	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



音楽療法に関する科目

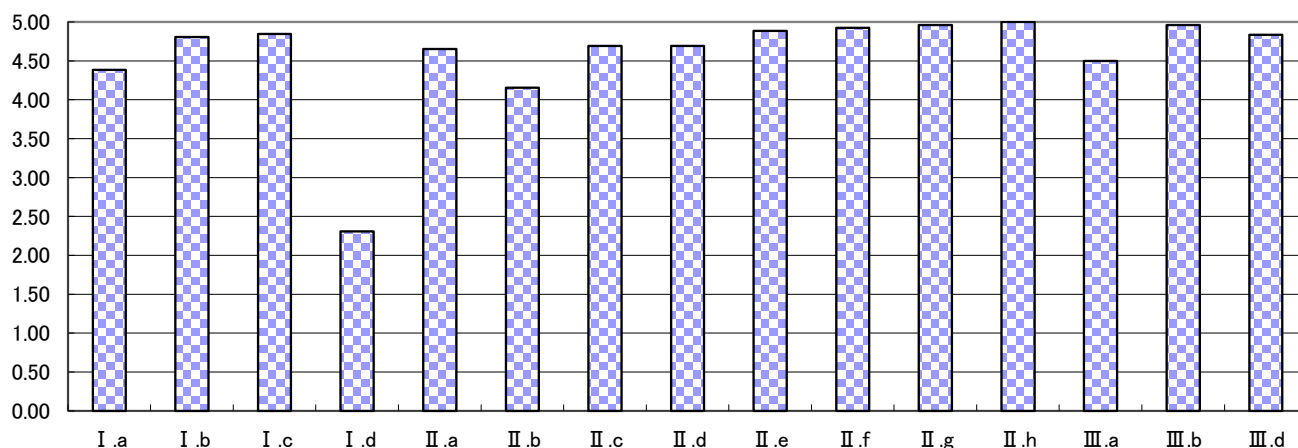
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	10. 音楽療法に関する科目
科目数	5

履修者数	27
回答者数	26

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.38	14	9	2	1	0	26	0
			53.8	34.6	7.7	3.8	0.0		
	b	4.81	22	3	1	0	0	26	0
			84.6	11.5	3.8	0.0	0.0		
c	4.85	23	2	1	0	0	26	0	
		88.5	7.7	3.8	0.0	0.0			
d	2.31	5	1	2	7	11	26	0	
		19.2	3.8	7.7	26.9	42.3			
II	a	4.65	19	5	2	0	0	26	0
			73.1	19.2	7.7	0.0	0.0		
	b	4.15	2	7	17	0	0	26	0
			7.7	26.9	65.4	0.0	0.0		
	c	4.69	19	6	1	0	0	26	0
			73.1	23.1	3.8	0.0	0.0		
	d	4.69	18	8	0	0	0	26	0
			69.2	30.8	0.0	0.0	0.0		
e	4.88	24	1	1	0	0	26	0	
		92.3	3.8	3.8	0.0	0.0			
f	4.92	24	2	0	0	0	26	0	
		92.3	7.7	0.0	0.0	0.0			
g	4.96	25	1	0	0	0	26	0	
		96.2	3.8	0.0	0.0	0.0			
h	5.00	26	0	0	0	0	26	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
III	a	4.50	14	11	1	0	0	26	0
			53.8	42.3	3.8	0.0	0.0		
	b	4.96	25	1	0	0	0	26	0
			96.2	3.8	0.0	0.0	0.0		
c	-	24	13	17	7	5	26	0	
		92.3	50.0	65.4	26.9	19.2			
d	4.83	20	4	0	0	0	24	2	
		83.3	16.7	0.0	0.0	0.0			

10. 音楽療法に関する科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

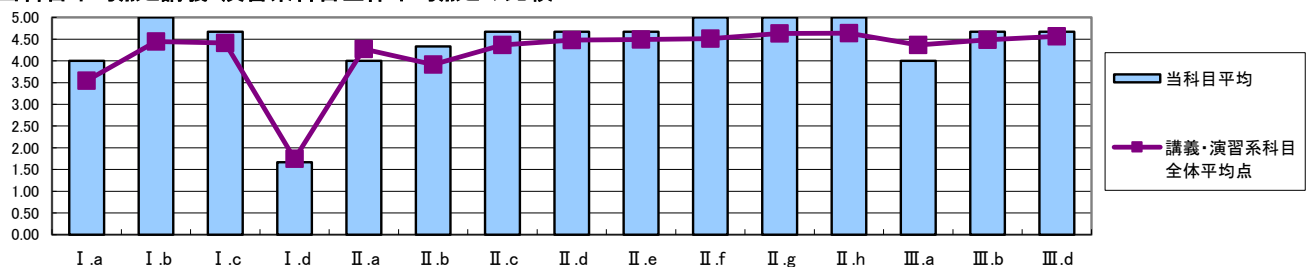
科目名	人間と医療ⅡB
教員名	馬場 存

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	66.67	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	0.00	66.67	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

木曜日1時限に開講された当科目の目的は、音楽療法を行う者にとって必要な精神医学の知識を習得し、心理療法的・精神医学的側面を持つ音楽療法を行う人間に必要なスキルを伸ばすと同時に、病理までも視野に入れた人間理解と、温かみや共感性を持った人間を育てる一助とすることである。受講生は3年生4名である。内容は、いくつかキーワードを列挙すると「器質性・症候性精神障害」「認知症性疾患」「統合失調症」「妄想性障害」「感情（気分）障害」「不安・強迫性障害」等であった。これらは、前述の通り精神医学と関連した音楽療法を実施する場合の必須な知識であると同時に、自分自身への洞察を高める目的も一部に持つ。アンケート結果は、今年度は平均を上回る項目が多い。自由記述では「教科書以外にも資料を使った説明があり、非常に分かりやすかった」「疑問に思ったことや忘れていた内容があると柔軟に対応しても教えてもらえて講義に興味湧いた」「分からないワード等があると随時スライドを追加して説明してもらえて、楽しいと感じながら授業を受けられている」とある。好評と言えるが、今年度の学生は特に授業への参加態度が熱心で、むしろ受講生の側の要因も大きいように思われ、慢心せず改善を続けてゆく所存である。

● 問題点

自由記述を踏まえるとすれば、余りズレはなかったと思われる。

● 改善の方策

現状のように、学生の理解度をその都度把握しながら、随時柔軟に講義内容を発展させて行く。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

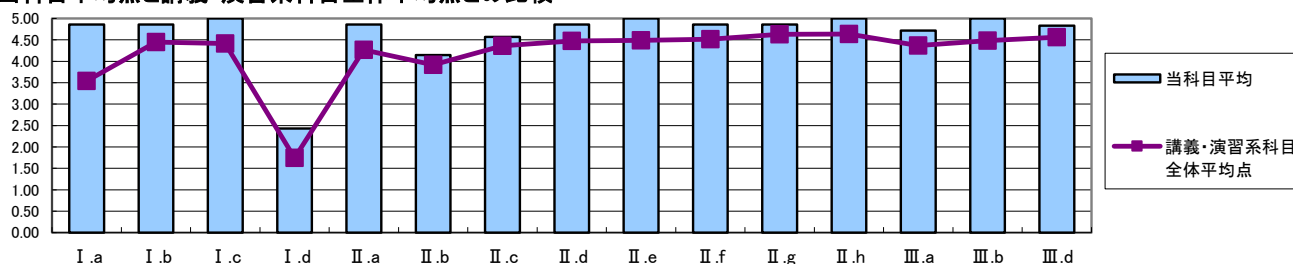
科目名	人間と医療 I B
教員名	木下 容子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.86	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.86	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.43	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.71</td> <td>57.14</td> <td>85.71</td> <td>14.29</td> <td>14.29</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	85.71	57.14	85.71	14.29	14.29
	回答率																	
5	4	3	2	1														
85.71	57.14	85.71	14.29	14.29														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<当科目の目的>

音楽療法実践に役立つ基礎・身体医学（主に神経学）の基礎知識を得て、対象者理解を深めることである。

<内容>

基礎医学・身体医学の中で、音楽療法の対象者理解に必要な神経学（入門程度）を理解する力を身につける。また、それらの疾患のある方々へ自分が音楽療法士として接する時に、自分ならどのように配慮・工夫するか等を言語化できるようにする。

<授業形態>

講義形式であったが、上述の疾患のある方々に対して、またその方々への音楽療法実践に対する自分の意見を述べる場面を適宜設けた。

<受講者数> 7名

<開講曜日・時限>火曜日3限

<受講者の状況説明>7名とも授業に熱心に取り組んでいて、意見や感想を問われるとしっかり述べる事が出来ていた。

<アンケート結果より>

① I-aより、学生全員がシラバスを活用したことが明らかとなった。これは、教員が毎回授業の冒頭でシラバスを読み上げながら、授業内容や目標の確認をしたことが影響していると考えられる。また、I-b・cより、学生が非常に積極的にこの授業に取り組んだことが読み取れた。I-dからは、予習復習時間は全体平均より高く、また受講生によって時間にバラつきがあることが分かった。

② 担当教員は比較的難易度の高い身体医学の内容を、カラー資料や図表で伝える工夫をしたが、II-d、e、f、hの結果より、受講生の理解に効果的であったと感じた。具体的には、脳の器質的疾患や聴覚のしくみなどを、全てカラー資料を用いて説明した。また、図表をPPTでも映し出し、該当部位を指し示しながら説明した。加えて、検査方法などは学生たちに実践してもらったが、受講生は興味をもって取り組んでいるようであった。

③ III-a・b・dより、概ね全員が到達目標を十分に達成でき、興味深く学修し、意義のある授業だと感じていることが明らかとなった。また、III-cで「新しい知識・技能」「関連分野の学修意欲」は6名が、「新しいものの見方」は4名が獲得したと回答した。今まで学修する機会がなかった基礎・身体医学に触れることで、音楽療法実習で出会う対象者の状態を新たな視点から理解・評価できることを発見したためだと考えられる。

● 問題点

アンケート結果より、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったと感じている。授業終了時に、学生一人一人にその日の講義の感想や質問を述べてもらい、密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。また、コメントに「難しい内容を分かりやすく教えてくれて、分かりやすい。重要な部分は何度も取り扱ってくれるため、知識が身につけやすい。」と書いている学生が複数いた。このことから、学生の理解度を確認しながら、繰り返し説明することの必要性を知ることができた。

● 改善の方策

2023年度の学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションしたことで、全員が非常に意欲的に授業に出席していた。しかし、そのような学生ばかりではないため、履修する学生の実態に合わせて、難易度や内容を柔軟に設定していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

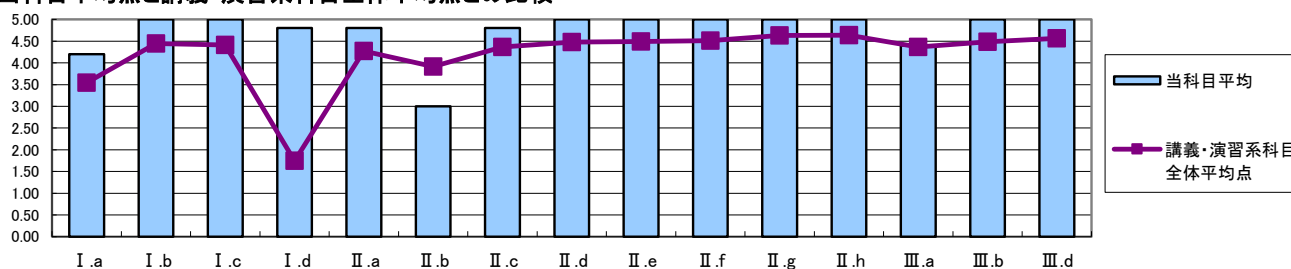
科目名	学内実習発表(音楽療法)
教員名	木下 容子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.80	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等が分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>80.00</td> <td>40.00</td> <td>60.00</td> <td>40.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	80.00	40.00	60.00	40.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	80.00	40.00	60.00	40.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<当科目の目的>

音楽療法における「研究とは何か」について多面的に学ぶ。また、研究をする上で必要な学術的思考や学術的情報収集能力、そして自分の考えを適切かつ客観的な言葉にして他者に伝えることのできる言語表現力を身につける。

<内容>

音楽療法の領域において、自分の興味のあるテーマを見つけ出し、それに対して科学的なリサーチを行うための手法を学ぶ。そして、研究としてまとめるための学術的思考や言語能力を身につける。最終的には、実際に専攻内の教員と全学年学生の前で学術発表表を行う。

<授業形態>

講義形式と、自分のテーマをみんなの前でプレゼンテーション・ディスカッションすることを、およそ半々の割合で行った。

<受講者数> 5名

<開講曜日・時限>火曜日 5限

<アンケート結果より>

① I-a・b・cより、学生がシラバスを活用して積極的にこの授業に取り組み、出席も非常に良好であることが分かった。また、I-dの結果より、全体平均よりも当科目の予習復習時間が顕著に多いことが明らかになった。これは、この授業が自分で研究したいテーマを決め、授業外の時間でそのテーマについて論文を読んだり、自分の論文を執筆したりする作業があることが要因と考えられる。

② II-bより、この授業の難易度を「難しい・やや難しい」と感じている学生がいることが分かった。ただ、II-d~hについては平均より若干高い数値であり、これは、担当教員がインターネットでの論文の調べ方や統計手法などを実演したため、学生にとっては理解しやすかったものと想像できる。つまり、指導内容や指導方法については適切だと捉えているが、自身のテーマで論文を書くという作業に対して難しさを感じていることが明らかになった。

③ III-cの結果より、この授業では「新しい知識・技能」「新しいものの見方」「問題発見・解決能力」「関連分野の学習意欲」「コミュニケーション能力向上」のすべてについて回答があった。今まで学生が経験してきた<小論文>は、テーマを与えられて自分の意見を述べるものであったが、<論文>はテーマ自体を自分で決め、研究方法についても自分で立案する、という明確な違いがある。この授業において新たに<論文>の書き方を学んだことが、上記の結果に繋がっているように感じた。また、他者の論文発表時に、質問したり賞讃したりする場面も複数回設定したため、「コミュニケーション能力向上」についても該当したと思われる。

● 問題点

アンケート結果より、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業中もディスカッションの時間を多くとって意見交換したこと、相手の意見を尊重する・褒める・疑問を率直に投げかけるなど、学生同士も学生と教員も密にコミュニケーションをはかったことが影響しているように思う。

● 改善の方策

2023年度の学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションしたこと、また全員が学修に対して非常に意欲的な態度であったため、授業に対する満足感・達成感が得られたと考えられる。次年度以降も、受講する学生の興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

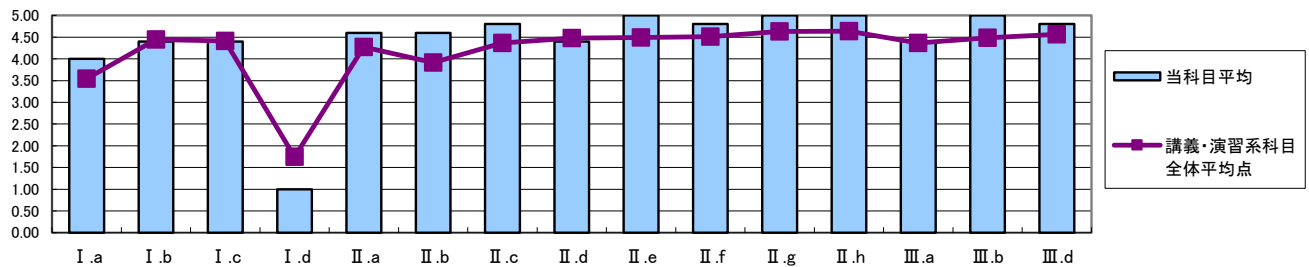
科目名	臨床心理学 I B
教員名	岩澤 直子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>60.00</td> <td>0.00</td> <td>20.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	60.00	0.00	20.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	40.00	60.00	0.00	20.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、心理学的アセスメントについて、その有効性や課題について理解することを目的としている。授業の形式としては、主に心理検査に関して座学で理解を深め、ロールプレイを交えながら、議論や補足的講義を行う。履修の際の留意点として、課題をこなすだけではなく、主体的に考え、それを言語化し、積極的に議論することが求められる科目である。授業は基本的にはシラバスに沿って実施されるが、学生の反応によって適宜変更する可能性がある。

アンケートの集計結果を見てみると、多くの項目において4点以上と評価されている。また、学生自身が「自分のためになったこと」として、半数の学生が「新しい知識・技能」「関連分野の学習意欲」へ回答している。これらの結果から、受講学生は授業内容に満足感を得ており、授業の内容や進め方は音楽療法の関連分野として十分な内容であったと考えられる。

● 問題点

集計結果全体からは、教員と学生間に大きな意識のズレはないと考えられる。しかしながら、昨年度と同様に予習復習の時間が少ないという回答であった。今年度は授業の内容量を増やす、課題の難易度をあげるといった工夫を試みたが、学生の理解度が高かったため、このような回答となったと考えられる。

● 改善の方策

授業の予習復習における結果を踏まえて、次年度では、予習の内容を充実させるべきだと考える。これまでは授業内容が定着しやすくなるように、復習に重点を置いた課題を出してきたが、学習意欲が高く、理解度の高い学生においては、予習復習どちらの内容も含めた課題に取り組むことで、授業内容の理解がよりすすむと考えられる。次年度の学生の反応を見ながら、工夫していきたいと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

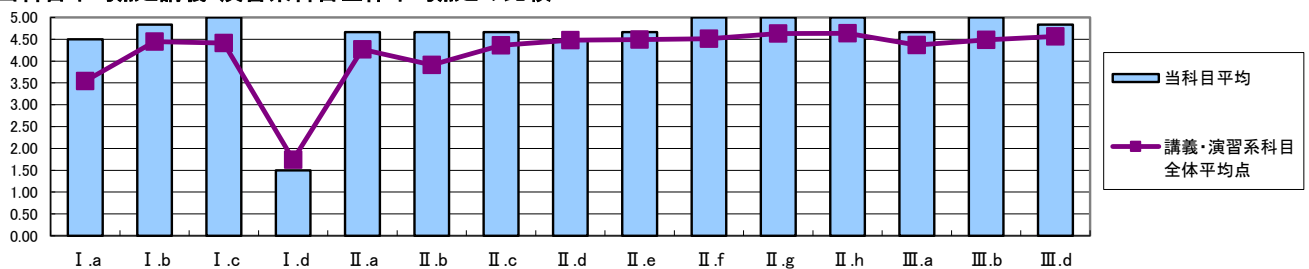
科目名	音楽療法の理論と技法B
教員名	二俣 泉

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.83	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		83.33	50.00	66.67	50.00	16.67
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



文化教養科目

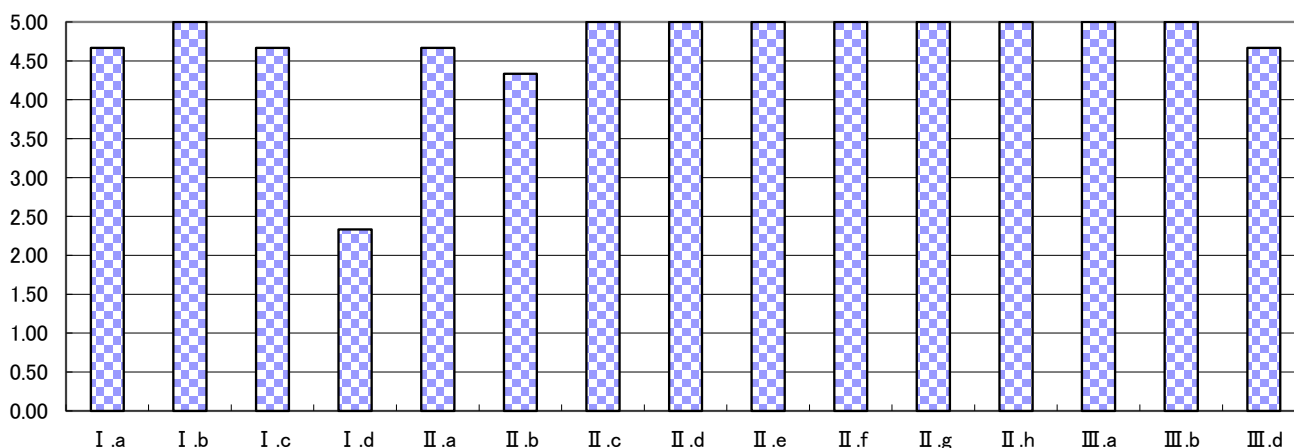
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	11. 文化教養科目
科目数	2

履修者数	3
回答者数	3

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.67	2	1	0	0	0	3	0
	66.7		33.3	0.0	0.0	0.0			
	b	5.00	3	0	0	0	0	3	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
c	4.67	2	1	0	0	0	3	0	
66.7		33.3	0.0	0.0	0.0				
d	2.33	0	0	2	0	1	3	0	
0.0		0.0	66.7	0.0	33.3				
II	a	4.67	2	1	0	0	0	3	0
	66.7		33.3	0.0	0.0	0.0			
	b	4.33	0	1	2	0	0	3	0
	0.0		33.3	66.7	0.0	0.0			
	c	5.00	3	0	0	0	0	3	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
	d	5.00	3	0	0	0	0	3	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
e	5.00	3	0	0	0	0	3	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
f	5.00	3	0	0	0	0	3	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
g	5.00	3	0	0	0	0	3	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
h	5.00	3	0	0	0	0	3	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
III	a	5.00	3	0	0	0	0	3	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
	b	5.00	3	0	0	0	0	3	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
c	-	3	1	2	1	1	3	0	
100.0		33.3	66.7	33.3	33.3				
d	4.67	2	1	0	0	0	3	0	
66.7		33.3	0.0	0.0	0.0				

11. 文化教養科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

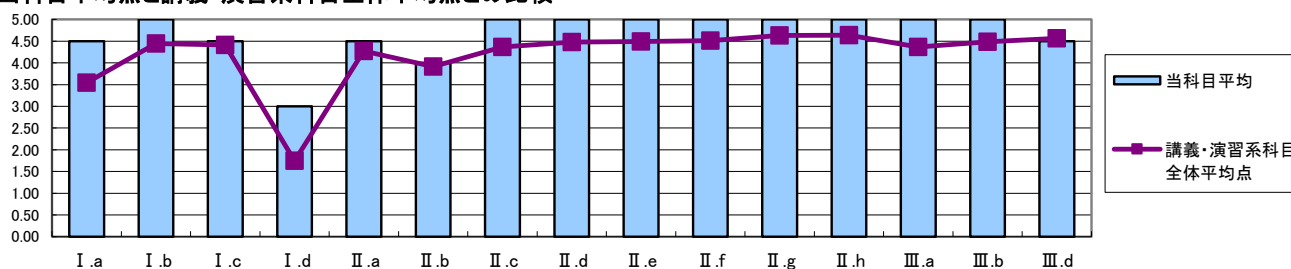
科目名	コンピュータミュージック演習 I B
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	50.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	0.00	50.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

音楽創造専攻以外の専攻生を対象として、コンピュータを利用しながら音楽制作をする。演奏する立場ではなく、音楽を創る立場になることで音楽に対する視点を増やし、自己表現の拡張に繋げる。音楽制作をコンピュータで行うことで、楽曲の組み立て・音色・テンポなどを客観的情報で観察するとともに、コンピュータでできること、できないことを理解し、音楽においての有効的な活用を考える。コンピュータを用いて「情報を整理する」「考え方を身につける」を学び、「自分のアイデアや伝えたいことを形にするための道具」として活用できるスキルを高める。

<内容>

Macintoshコンピュータの基本操作の習得。OSやアプリケーションソフトウェアなど、コンピュータの基本的な構造についての知識の習得。音楽制作ソフトウェアはDigital Performer、楽譜作成ソフトウェアはSibeliusを使用。ソフトウェアの基本操作を習得し、楽曲のモチーフ作成やその発展の手法を学び、コンピュータで音源や楽譜を作成する。

<状況説明と分析>

金曜日4時限、履修者数2名(ピアノ専攻生1名、管弦打楽器専攻生1名)。コンピュータ演習室にてMac PCを使用。授業形態は演習形式と講義形式で行った。学生の1名は、自身のコンピュータで作曲を行ったことがあり、制作を学びたいと考えて履修し、もう1名はコンピュータでの音楽制作そのものに興味があるわけではないが、コンピュータ全般のスキルアップを図りたいと考えての履修であった。制作する課題(作品)に関して自ら計画して作業を進める内容も多く、予習の時間を多く取る必要があったと思うが、2名とも意欲的に取り組んで準備をしていく姿勢が見られた。アンケート結果では「開講時に示された到達目標を達成できた」の回答結果が2名とも「強くそう思う」となっていたが、これは、各自計画して制作物の内容を決め、素材を集めたり音楽データや映像データを作成することで「自分のアイデアを形にできた」と感じられたことが要因の1つではないかと思う。履修当初、学生の1名は音楽制作自体にあまり楽しさを感じることができない様子であったが、学期末には制作物のための準備をしっかりと授業に臨んでいた。

● 問題点

「この授業は総合的に判断して、意義のあるものだったか」

● 改善の方策

「音楽制作をしたい」と考えて履修する学生にとっては、講義の中で多くの時間を制作時間として使えるため「意義のあるものだった」と感じることができると思うが、コンピュータでの音楽制作そのものに興味があるわけではないという学生に対しては、「自分で音楽を作る」「頭の中で鳴っている音を形にする」という作業をする「難しい時間」となってしまうかもしれない。制作の内容は学生に合わせて幅を持たせたつもりではあったが、制作物の選択肢を増やすなどして個々に対応できるよう努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

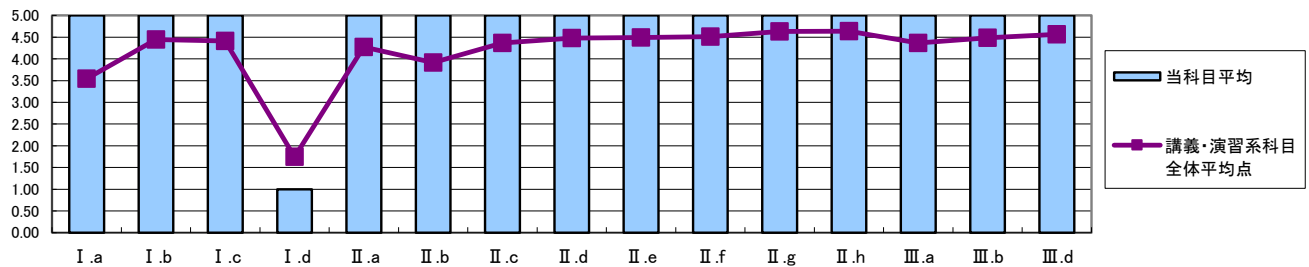
科目名	コンピュータミュージック演習ⅡB
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等が分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

コンピュータミュージック演習Ⅰを通じて習得した「音楽を観る視点」をさらに広げる。楽器・楽音以外の「音」を取り扱うこと、また「画像」「映像」など他のメディアと音楽の関わりについて考察し、それを自身の楽曲へ取り込む。自身が表現したいテーマを明確にして、それをどのような「音」に変換して表現するのか、どうしたら伝わるのかを探索する。「制作の計画を立てる→実行する→確認する→修正する」を繰り返し、企画の進め方の基本について学ぶ。

<内容>

演習Ⅰで扱ったMIDIデータに加えてAudioデータを扱う。普段見ている映像において、「音」「音楽」はどのような役割を持っているか、また、音楽制作ソフトウェアでの音声編集と効果について学び、映像・音楽作品から観察する。演習では無音の映像データを用いて、楽音ではない「音」での表現を行う。状況に応じて自分の持っている録音機器を使って音の採集をし、利用する。また必要な場所には楽音、メロディを加え、作品として仕上げる。期末課題として、自分で撮影した写真を利用したスライドショーを作成し、その映像に対する音楽を制作して一つのコンテンツとして仕上げた。音楽は学生自身の計画によりクラシック曲の編曲を行い、楽譜作成ソフトウェアで音声データを作成して利用した。

<状況説明と分析>

金曜日5時限、履修者数1名(管弦打楽器専攻生)。コンピュータ演習室にてMac PCとiPadを使用。授業形態は演習形式と講義形式で行った。履修生は4年生で、ウィーン研修や演奏会の臨時的授業などの関係で、学生自身が、制作物のためのデータの準備や計画などを予習復習で行うことが困難だったと思う。その中でも、時間を作ってできる限りの準備を行って授業に臨む姿勢が見られた。「計画を立てる」から始め、自分で考えて映像や音声のデータを作っていく作業は本学生にとって難しいことのようにだったが、粘り強く制作を進めていた。

● 問題点

「予習・復習の時間」

● 改善の方策

学生自身は予習復習の時間が取れていなかったと回答しているが、4年次であることと、学生の様子・状況を鑑みたと、出席時の準備の状態を照らし合わせると、精一杯取り組んでいたのではないかと感じている。

外国人留学生に関する科目

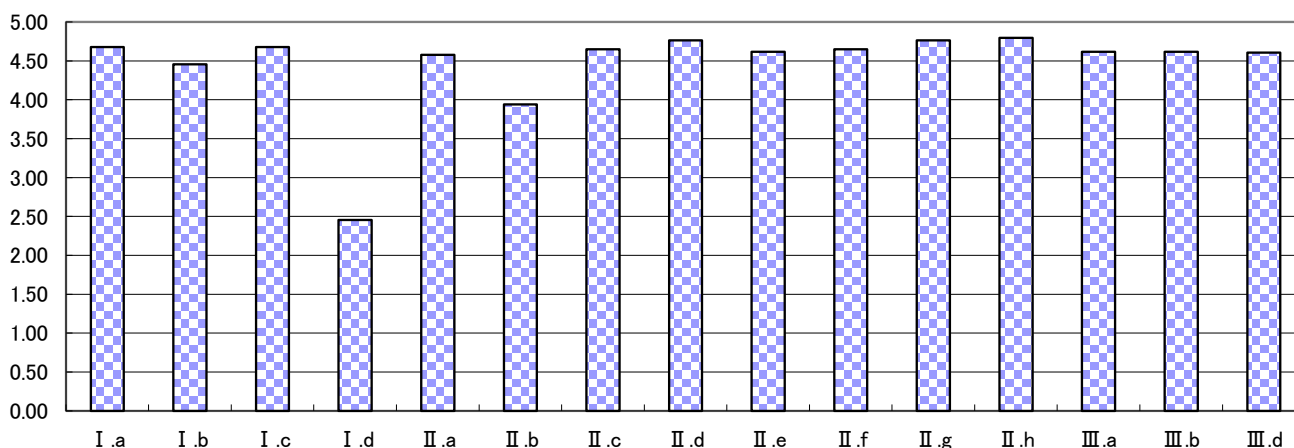
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	12. 外国人留学生に関する科目
科目数	8

履修者数	43
回答者数	34

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.68	26	5	3	0	0	34	0
	76.5 14.7 8.8 0.0 0.0								
	b	4.45	23	5	3	1	1	33	1
	69.7 15.2 9.1 3.0 3.0								
c	4.68	26	5	3	0	0	34	0	
76.5 14.7 8.8 0.0 0.0									
d	2.45	4	1	10	9	9	33	1	
12.1 3.0 30.3 27.3 27.3									
II	a	4.58	26	1	5	1	0	33	1
	78.8 3.0 15.2 3.0 0.0								
	b	3.94	1	5	20	5	3	34	0
	2.9 14.7 58.8 14.7 8.8								
	c	4.65	25	6	3	0	0	34	0
	73.5 17.6 8.8 0.0 0.0								
	d	4.76	29	2	3	0	0	34	0
	85.3 5.9 8.8 0.0 0.0								
e	4.62	27	2	4	1	0	34	0	
79.4 5.9 11.8 2.9 0.0									
f	4.65	27	2	5	0	0	34	0	
79.4 5.9 14.7 0.0 0.0									
g	4.76	29	2	3	0	0	34	0	
85.3 5.9 8.8 0.0 0.0									
h	4.79	29	3	2	0	0	34	0	
85.3 8.8 5.9 0.0 0.0									
III	a	4.62	25	5	4	0	0	34	0
	73.5 14.7 11.8 0.0 0.0								
	b	4.62	25	5	4	0	0	34	0
	73.5 14.7 11.8 0.0 0.0								
c	-	18	12	11	13	14	31	3	
58.1 38.7 35.5 41.9 45.2									
d	4.61	22	2	3	1	0	28	6	
78.6 7.1 10.7 3.6 0.0									

12. 外国人留学生に関する科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

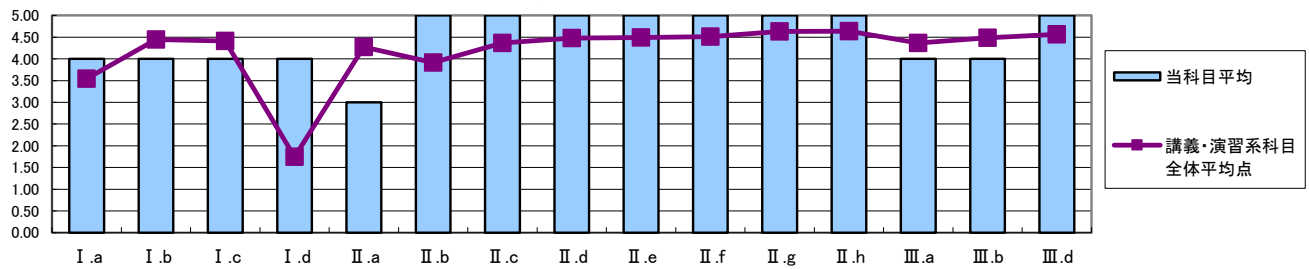
科目名	日本語1
教員名	周 亜芸

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
0.00	0.00	0.00	0.00	100.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目標：

- ・ 日常的な話題について書かれた文章を、読んで理解することができる。
- ・ 日常生活で実際に遭遇する場面の会話を聞いてほぼ理解することができる。
- ・ 教科書に出てきた新しい言葉を使って短い文を作ることができる。

内容：

- ・ 日本語の入門として、基礎語彙や基礎表現を学習し使えるようにしていく。
- ・ 背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。
- ・ 教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。

授業形態：

講義

受講者数：

8人

開講曜日と時限：

火曜日 1限

受講者の状況説明：

本科目は、講義・演習系課科目全体平均点よりほぼ超えており、受講者はおおむね満足できたと言えます。

● 問題点

受講生の回答を見ると、1回の授業の予習時間と復習時間についてまだ不十分だったことがわかります。

● 改善の方策

1回の授業の予習時間と復習時間についてさらに時間数に達するように課題の量を工夫したいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

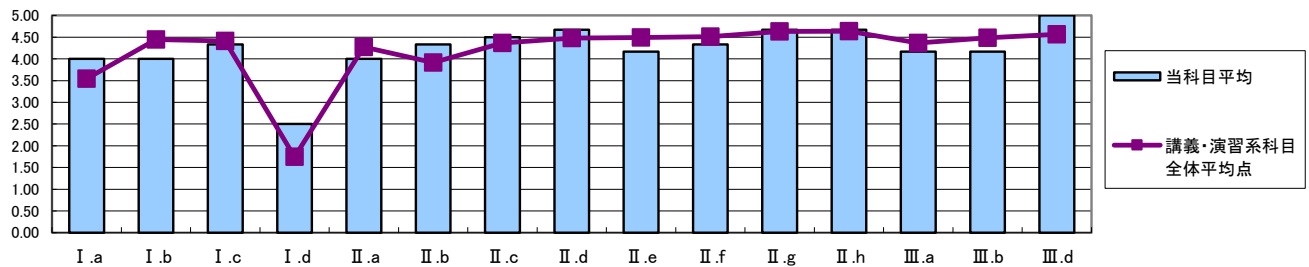
科目名	日本語2
教員名	周 亜芸

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>66.67</td> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	66.67	33.33	66.67	50.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
83.33	66.67	33.33	66.67	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目標：

- ・ 日常的な話題について書かれた文章を、読んで理解することができる。
- ・ 日常生活で実際に遭遇する場面の会話を聞いてはば理解することができる。
- ・ 教科書に出てきた新しい言葉を使って短い文を作ることができる。

内容：

- ・ 日本語の入門として、基礎語彙や基礎表現を学習し使えるようにしていく。
- ・ 背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。
- ・ 教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。

授業形態：
講義

受講者数：
6人

開講曜日と時限：
火曜日 1限

受講者の状況説明：

本科目は、講義・演習系課科目全体平均点よりほぼ超えており、受講者はおおむね満足できたとと言えます。

● 問題点

受講生の回答を見ると、1回の授業の予習時間と復習時間についてまだ不十分だったことがわかります。受講生のレベルやニーズに合わせて、予習の課題と復習の課題の量を工夫して、時間配分を配慮するようにしたいと考えています。

● 改善の方策

1回の授業の予習時間と復習時間についてさらに時間数に達するように課題の量を考え直したいと思います。受講生のレベルやニーズに合わせて、予習の課題と復習の課題の量を考慮して、時間配分を工夫するようにしたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

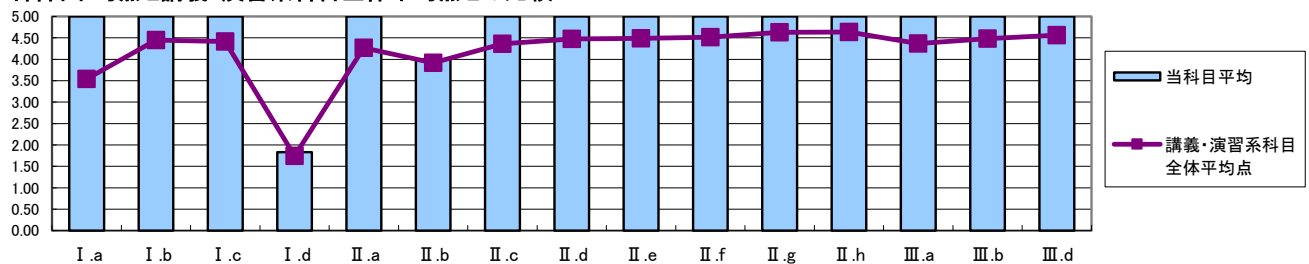
科目名	日本語4
教員名	周 亜芸

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.83	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>16.67</td> <td>16.67</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	50.00	50.00	16.67	16.67	50.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
50.00	50.00	16.67	16.67	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目標：

- ・ 日常的な話題について書かれた文章を、読んで理解することができる。
- ・ 日常生活で実際に遭遇する場面の会話を聞いてはば理解することができる。
- ・ 教科書に出てきた新しい言葉を使って短い文を作ることができる。

内容：

- ・ 日本語の入門として、基礎語彙や基礎表現を学習し使えるようにしていく。
- ・ 背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。
- ・ 教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。

授業形態：
講義

受講者数：
6人

開講曜日と時限：
火曜日2限

受講者の状況説明：

本科目は、講義・演習系課科目全体平均点よりほぼ超えており、受講者はおおむね満足できたとと言えます。

● 問題点

受講生の回答を見ると、1回の授業の予習時間と復習時間についてまだ不十分だったことがわかります。受講生の日本語レベルや能力に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を工夫して、時間配分を配慮するようにしたいと考えています。

● 改善の方策

1回の授業の予習時間と復習時間についてさらに時間数に達するように課題の量を考え直したいと思えます。受講生のレベルや能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を考慮して、時間配分を工夫するようにしたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

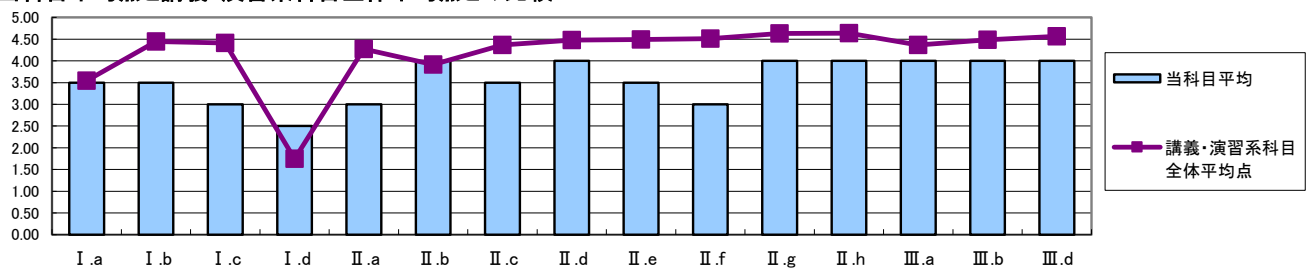
科目名	日本語6
教員名	周 亜芸

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	7
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.50	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目標：

- ・ 日常的な話題について書かれた文章を、読んで理解することができる。
- ・ 日常生活で実際に遭遇する場面の会話を聞いてほぼ理解することができる。
- ・ 教科書に出てきた新しい言葉を使って短い文を作ることができる。

内容：

- ・ 日本語の入門として、基礎語彙や基礎表現を学習し使えるようにしていく。
- ・ 背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。
- ・ 教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。

授業形態：

講義

受講者数：

7人

開講曜日と時限：

火曜日 1限

受講者の状況説明：

本科目は、講義・演習系課科目全体平均点よりほぼ超えており、受講者はおおむね満足できたとと言えます。

● 問題点

受講生の回答を見ると、1回の授業の予習時間と復習時間についてまだ不十分だったことがわかります。受講生のレベルや能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を工夫して、時間配分を配慮するようにしたいと考えています。

● 改善の方策

1回の授業の予習時間と復習時間についてさらに時間数に達するように課題の量を考え直したいと思います。受講生のレベルや能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を考慮して、時間配分を工夫するようにしたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

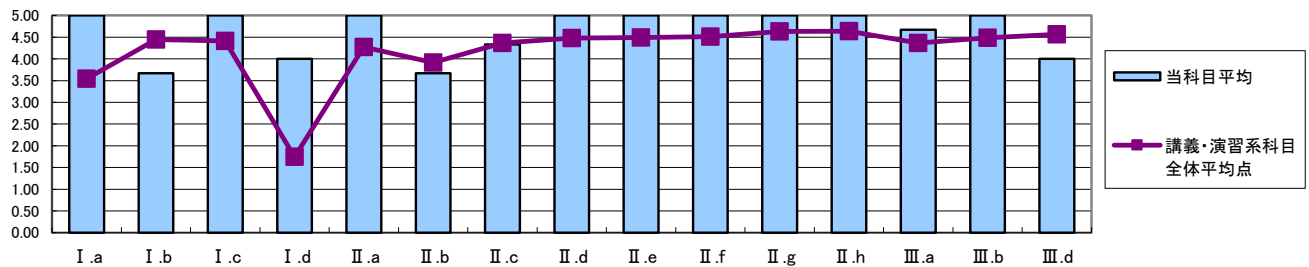
科目名	日本語8
教員名	周 亜芸

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	50.00	50.00	50.00	50.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	50.00	50.00	50.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目標：

- ・ 日常的な話題について書かれた文章を、読んで理解することができる。
- ・ 日常生活で実際に遭遇する場面の会話を聞いてはほぼ理解することができる。
- ・ 教科書に出てきた新しい言葉を使って短い文を作ることができる。

内容：

- ・ 日本語の入門として、基礎語彙や基礎表現を学習し使えるようにしていく。
- ・ 背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解する。
- ・ 教科書で学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。

授業形態：
講義

受講者数：
3人

開講曜日と時限：
火曜日5限

受講者の状況説明：

本科目は、講義・演習系課科目全体平均点よりほぼ超えており、受講者はおおむね満足できたとと言えます。

● 問題点

受講生の回答を見ると、1回の授業の予習時間と復習時間についてまだ不十分だったことがわかります。受講生のレベルや能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を工夫して、時間配分を配慮するようにしたいと考えています。

● 改善の方策

1回の授業の予習時間と復習時間についてさらに時間数に達するように課題の量を考え直したいと思います。今年度は受講生のレベルや能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を考慮して、時間配分を工夫するようにしたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

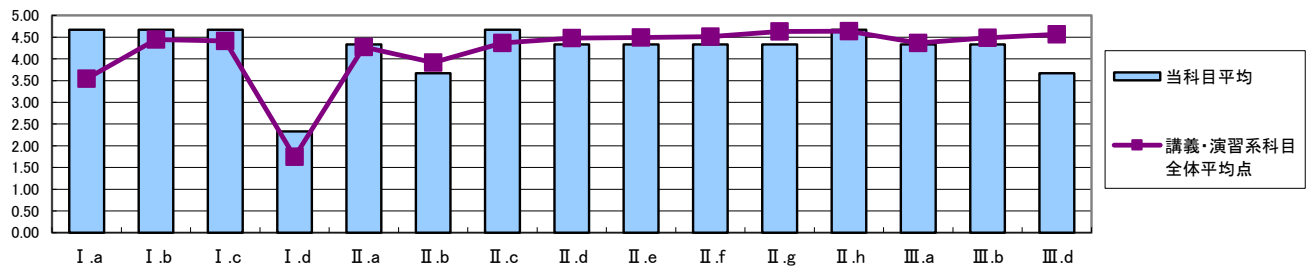
科目名	日本事情IVB
教員名	周 亜芸

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	5
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	0.00	50.00	100.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
0.00	50.00	100.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.67	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目標：

日常生活と関わる「住」「廃棄物」の2つテーマを取り上げて、学習者の日常生活と関係づけることができ、人間生存の基本条件と問題に対する理解を深められる。また、グループワークや振り返りを通して他人の意見を取り入れ、日本語で聞く・話す・読む・書くという4技能を身につけることができる。日本語の運用能力を高め、日本を含めグローバル社会への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。

内容：

テキストを踏まえて、「準備をしよう」「本文を読もう」「語彙・文法を学ぼう」「チャレンジしよう」という流れにそって学習し、グループで議論をしながら理解を深めさせ、自分の考えを振り返りとしてまとめさせる。

授業形態：
講義・演習

受講者数：
5人

開講曜日と時限：
金曜日 2限

受講者の状況説明：
本科目は、講義・演習系科目全体平均点よりほぼ超えており、受講者はおおむね満足できたと言えます。

● 問題点

受講生の回答を見ると、1回の授業の予習時間と復習時間について改善するところがあることがわかります。受講生の日本語レベルや学習能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を工夫して、時間配分を配慮するようにしたいと考えています。

● 改善の方策

1回の授業の予習時間と復習時間についてさらに時間数に達するように課題の量を考え直したいと思います。今年度は受講生の日本語レベルや学習能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を考慮して、時間配分を工夫するようにしたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

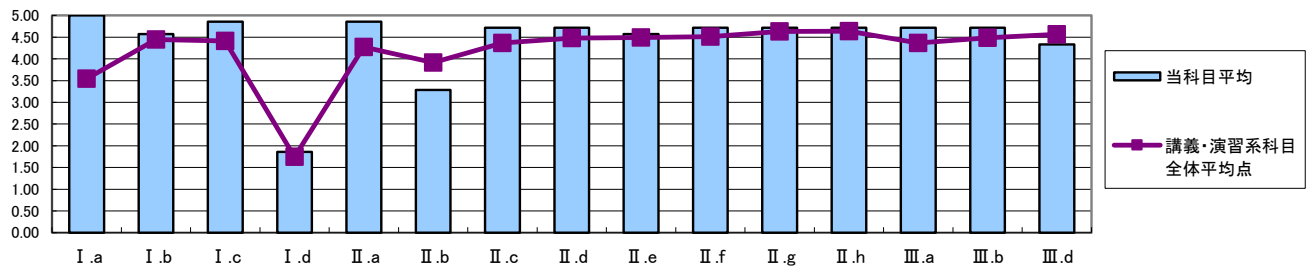
科目名	日本事情ⅢB
教員名	周 亜芸

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.57	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.86	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>42.86</td> <td>28.57</td> <td>42.86</td> <td>57.14</td> <td>57.14</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	42.86	28.57	42.86	57.14	57.14
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
42.86	28.57	42.86	57.14	57.14														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

日常生活と関わる「住」「廃棄物」の2つテーマを取り上げて、学習者の日常生活と関係づけることができ、人間生存の基本条件と問題に対する理解を深められる。また、グループワークや振り返りを通して他人の意見を取り入れ、日本語で聞く・話す・読む・書くという4技能を身につけることができる。日本語の運用能力を高め、日本を含めグローバル社会への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。

内容：

テキストを踏まえて、「準備をしよう」「本文を読もう」「語彙・文法を学ぼう」「チャレンジしよう」という流れにそって学習し、グループで議論をしながら理解を深めさせ、自分の考えを振り返りとしてまとめさせる。

授業形態：
講義・演習

受講者数：
7人

開講曜日と時限：
金曜日3限

受講者の状況説明：
本科目は、講義・演習系課科目全体平均点よりほぼ超えており、受講者はおおむね満足できたとと言えます。

● 問題点

受講生の回答を見ると、1回の授業の予習時間と復習時間について改善するところがあることがわかります。受講生の日本語レベルや学習能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を工夫して、時間配分を配慮するようにしたいと考えています。

● 改善の方策

1回の授業の予習時間と復習時間についてさらに時間数に達するように課題の量を考え直したいと思います。今年度は受講生の日本語レベルや学習能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を考慮して、時間配分を工夫するようにしたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

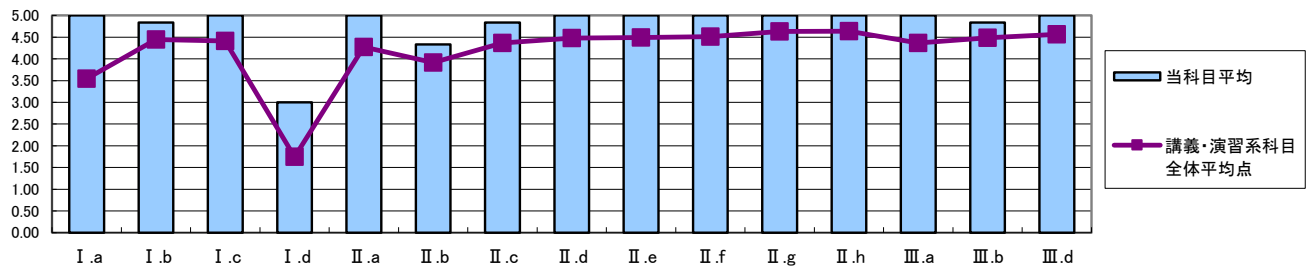
科目名	日本事情 I B
教員名	周 亜芸

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	8
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.83	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.83	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.67</td> <td>16.67</td> <td>33.33</td> <td>50.00</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	66.67	16.67	33.33	50.00	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
66.67	16.67	33.33	50.00	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目標：

日常生活と関わる「住」「廃棄物」の2つテーマを取り上げて、学習者の日常生活と関係づけることができ、人間生存の基本条件と問題に対する理解を深められる。また、グループワークや振り返りを通して他人の意見を取り入れ、日本語で聞く・話す・読む・書くという4技能を身につけることができる。日本語の運用能力を高め、日本を含めグローバル社会への理解を深めると共に国際的な視野で考え、意見交換ができる。

内容：

テキストを踏まえて、「準備をしよう」「本文を読もう」「語彙・文法を学ぼう」「チャレンジしよう」という流れにそって学習し、グループで議論をしながら理解を深めさせ、自分の考えを振り返りとしてまとめさせる。

授業形態：
講義・演習

受講者数：
8人

開講曜日と時限：
金曜日 4限

受講者の状況説明：

本科目は、講義・演習系科目全体平均点よりほぼ超えており、受講者はおおむね満足できたと言えます。

● 問題点

受講生の回答を見ると、1回の授業の予習時間と復習時間について改善するところがあることがわかります。受講生の日本語レベルや学習能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を工夫して、時間配分を配慮するようにしたいと考えています。

● 改善の方策

1回の授業の予習時間と復習時間についてさらに時間数に達するように課題の量を考え直したいと思います。今年度は受講生の日本語レベルや学習能力状況に合わせて、予習の課題と復習の課題の量を考慮して、時間配分を工夫するようにしたいと考えています。

東邦音樂短期大學

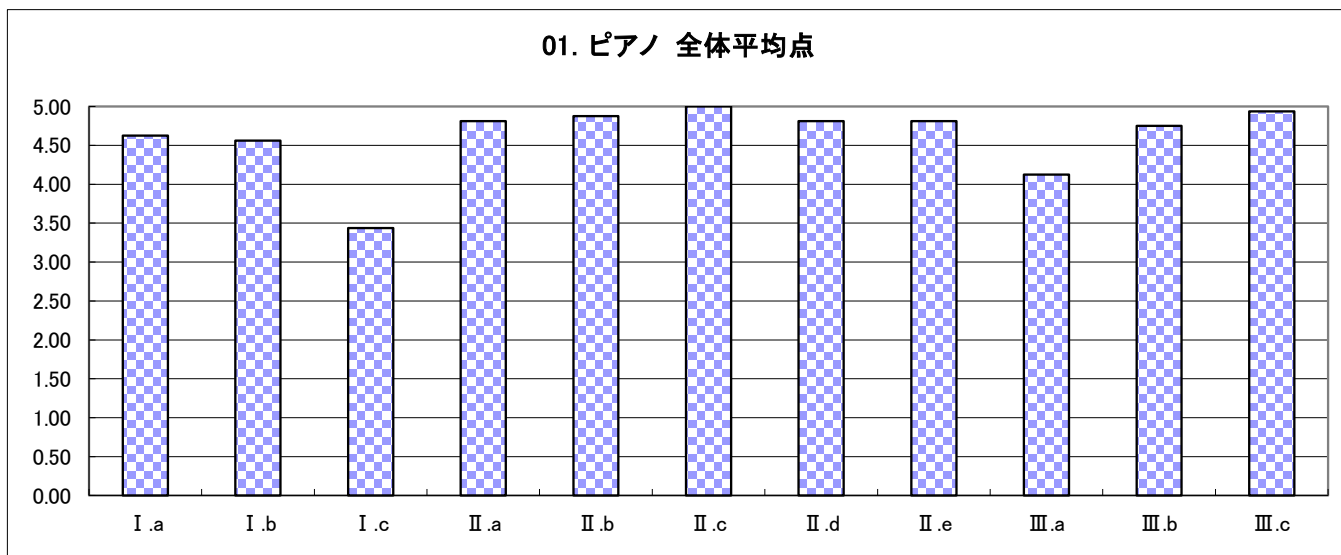
ピアノ

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	01. ピアノ
科目数	8

履修者数	16
回答者数	16

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.63	11	4	1	0	0	16	0
			68.8	25.0	6.3	0.0	0.0		
	b	4.56	9	7	0	0	0	16	0
II	a	4.81	13	3	0	0	0	16	0
			81.3	18.8	0.0	0.0	0.0		
	b	4.88	14	2	0	0	0	16	0
III	a	4.13	6	6	4	0	0	16	0
			37.5	37.5	25.0	0.0	0.0		
	b	4.75	12	4	0	0	0	16	0
IV	a	4.94	15	1	0	0	0	16	0
			93.8	6.3	0.0	0.0	0.0		

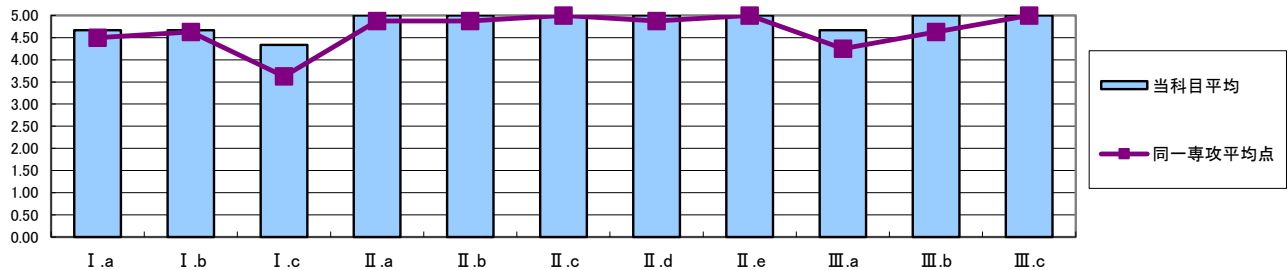


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	器楽専攻ピアノコース	職名	02. 教授	履修者数	3
教員名	國谷 尊之			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.63
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.33	3.63
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.88
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.63
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度の器楽専攻ピアノコースは2年次生1名を担当した。子どもの頃からレッスンしている学生で、入学時から継続して健康状態に気を配りながら進めてきた。教職員の協働による支援が奏功し、順調に卒業に至ったことは嬉しい。また、大学3年次編入試験にも合格することができた。アンケートの集計に人数のズレがあるようだが、結果自体には大きな問題はない。

● 問題点

昨年度よりも順調に履修が進んだことが表れており、こうした状態を継続したい。

● 改善の方策

引き続き、教職員の協働を大切に取り組んでいく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

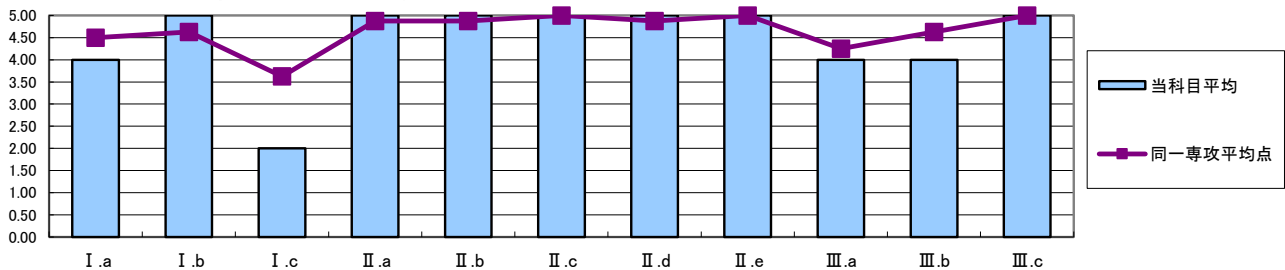
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	中島 裕紀

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.63
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.63
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.88
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.63
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

短期大学の専攻生は、1名であり、個人が特定されてしまうため、詳細を記すことは避けるが、非常に意欲的に取り組んでおり、毎回レッスンの内容を熱心につかんで、次に生かすサイクルが成立していた。ここに進学してよかったこと、学生生活が楽しいことなどを本人の口からも聞いている。

● 問題点

レッスンに関する数値的な問題点はない。練習時間に関しては、1日あたりの練習時間と1週あたりの練習時間を勘違いして申告してしまったと思われる。実際には、確実に週あたりは、5時間以上に当てはまっている。

● 改善の方策

引き続き、学生の意欲を引き出し、明るく向上心を抱きながらレッスンに取り組ませることができるよう心がけていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

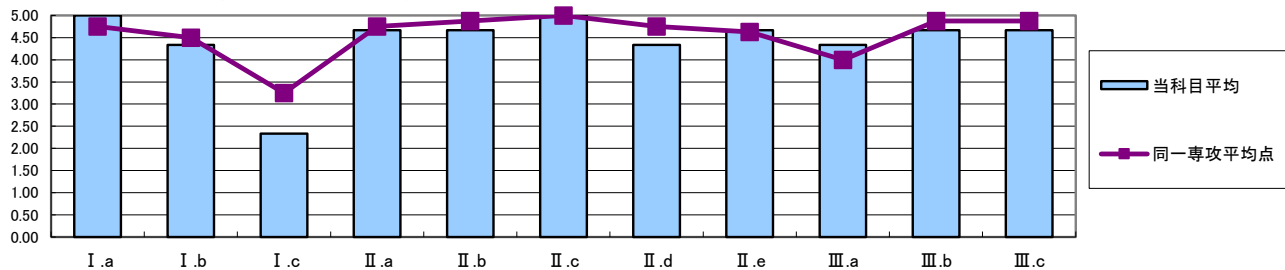
科目名	副科ピアノ
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	3.25
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.75
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.88
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.33	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.88
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ピアノ以外の楽器等を専攻する学生が、音楽の研鑽に必要なピアノ演奏の知識や技能を身に付けるための科目である。履修者は個人レッスン(20分間)を毎週1回のペースで、1 Semesterにつき計15回受講する。2023年度の履修者数は3名である。

● 問題点

出席や積極性に関しては概ね良好であるが、練習量については平均点を下回る。レッスンの内容や教員の対応についての評価は概ね高い。目標の達成度は概ね良好で、総合的に意義のあるものとして捉えられている。

● 改善の方策

熱意はあっても練習時間が確保できないなどの個々の状況をよく見極めながら、楽曲選択やレッスン時間設定などを工夫し、より効果的な指導方法を探っていく必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

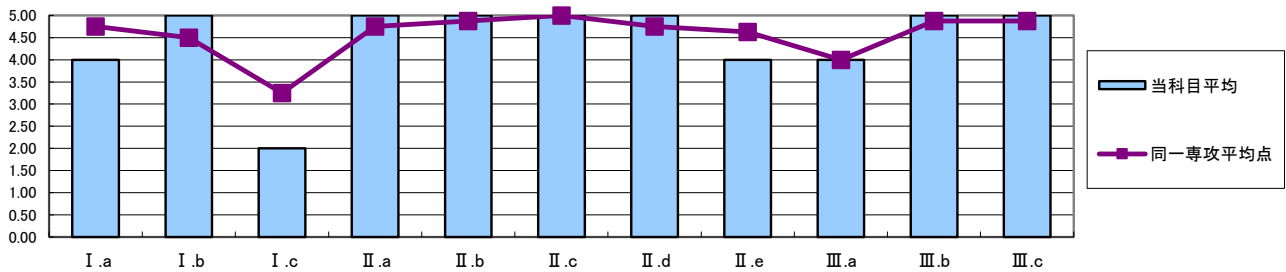
科目名	副科ピアノ
教員名	野田 説子

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.25
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.75
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度の短大の受け持ちの内訳は、 副科2年1名

● 問題点

特になし

● 改善の方策

出席も最後までよく真面目に取り組んだ

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

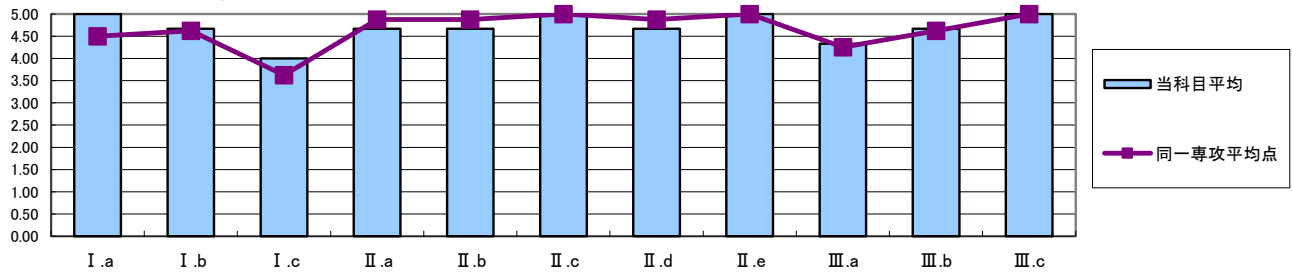
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	大場 文恵

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.63
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.63
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.88
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.88
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.63
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



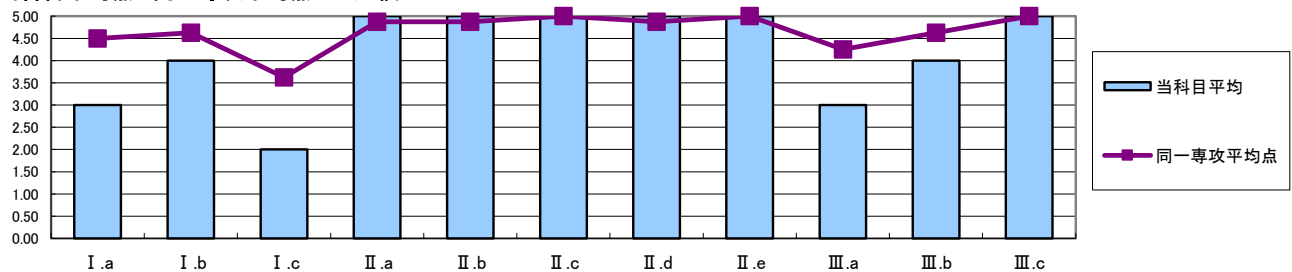
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	3.00	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.63
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.63
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.88
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.00	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.63
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

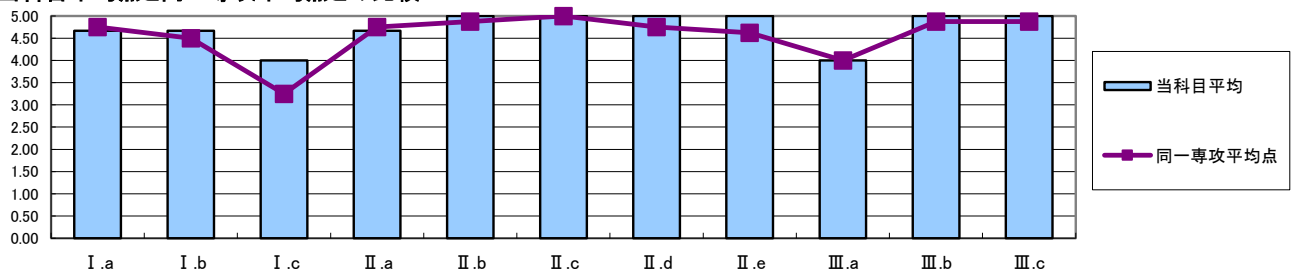
科目名	副科ピアノ
教員名	大場 文恵

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.25
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.75
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



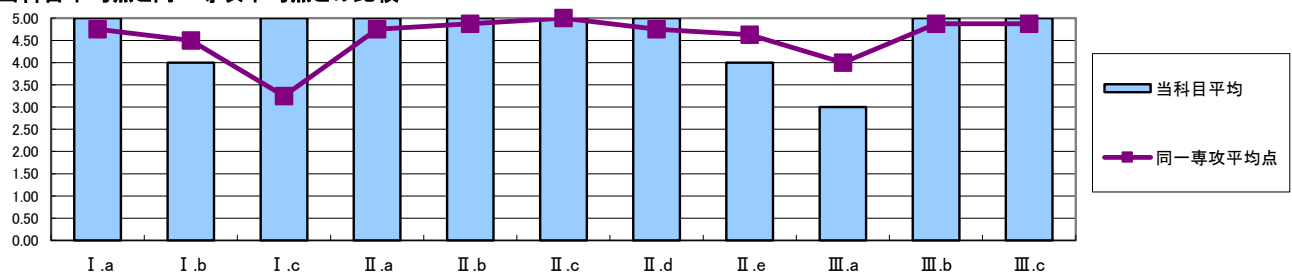
科目名	副科ピアノ
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.25
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.75
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.00	4.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



声 楽

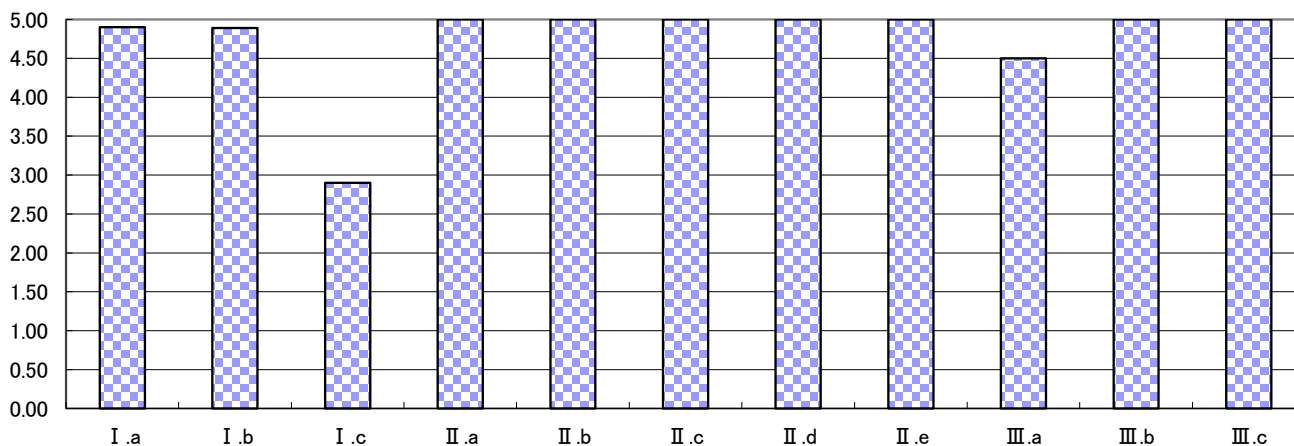
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	02. 声楽
科目数	6

履修者数	12
回答者数	10

設問	項目	平均点	回答数(人)/回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.90	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	4.89	8 88.9	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9	1
	c	2.90	4 40.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	4 40.0	10	0
II	a	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	d	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	e	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
III	a	4.50	6 60.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0

02. 声楽 全体平均点

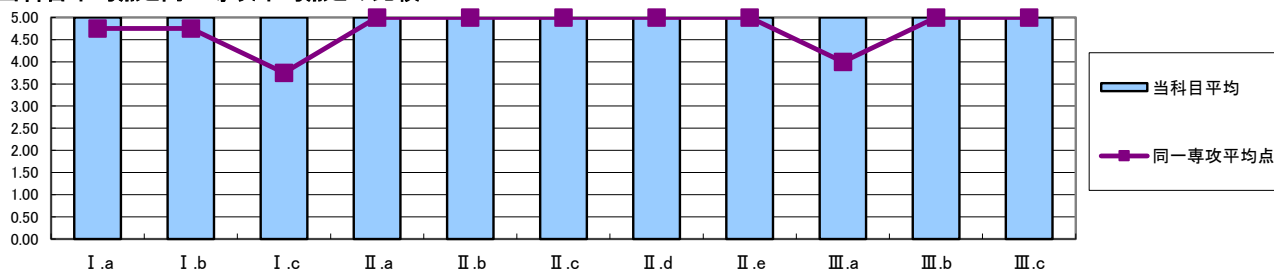


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	声楽	職名	01. 主任教授	履修者数	2
教員名	山崎 明美			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

短期大学において専攻声楽の学生2名を担当している。当日欠席の1名を除く1名から提出された。2名とも社会人である。専攻声楽は、個人レッスンの形態で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されると言う形式で進められる。専攻声楽におけるレッスン目的は、1、声楽技術の習得一呼吸法、レガート唱法の習得、なめらかな声区変換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど。2、さらにそれを向上させること。3、課題曲の背景を理解すること一作曲家についてはもちろんのこと、その時代背景、音楽背景、他の作品との比較等々。4、言葉への十分な取り組みを行うこと一語学としての基礎知識を習得する事はもちろん、正確で美しい発音、内容を正しく把握する。想像力を持って表現する、である。2年間を通してこれらの目的をそれぞれが認識し、成長できるよう指導している。社会人は長期履修を選択する場合が多いので、この2名に対しても3年間の計画を立てている。個人個人を対象とするため、それぞれに応じた内容となるが、進捗状況においても個々の目標を設定し、そのことを十分に認識していくことが大切である。アンケートにおいては、学生側の取り組みに対する質問1、教員の授業の進め方に対する質問2、授業の総合評価に関する質問3が設定されている。集計結果において本講座はすべて5点となった。

● 問題点

社会人の学修意欲は非常に高く、1つのアドバイスにおいても十分に取り組み、大きな喜びを感じつつ学んでいる様子がある。アンケートにおいても、音楽大学で学ぶ充実感が伺える。

● 改善の方策

自由記述においても学び続ける意欲、また将来的に人前で演奏し、社会に還元をしていく意欲が綴られていた。音楽を学ぶ事は、人生を豊かにし、また妥協のない厳しさに立ち向かっていくことでもある。今後も社会人のレッスンに関し真摯に取り組んでいきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

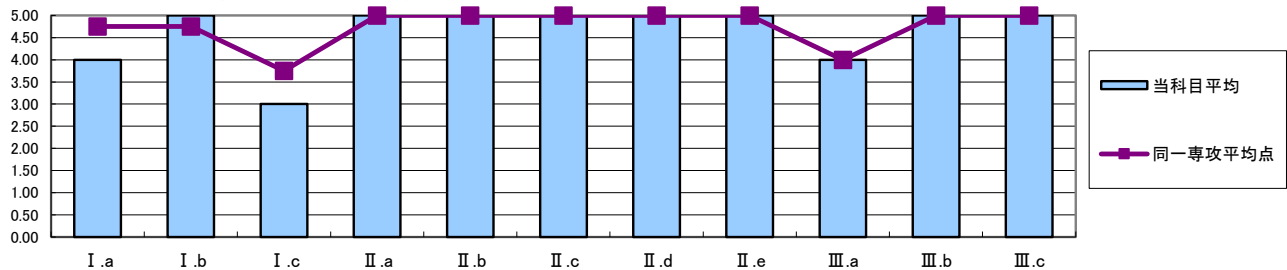
科目名	声楽
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。受講生は独自の方法で学習し、積極的に曲の意味を音楽として表現しようとする意欲を持って授業に臨んでおりました。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、実技の指導方法については特に問題点はないと思われます。

● 改善の方策

次年度以降も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、さらなる指導の強化を追求、実践していく所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

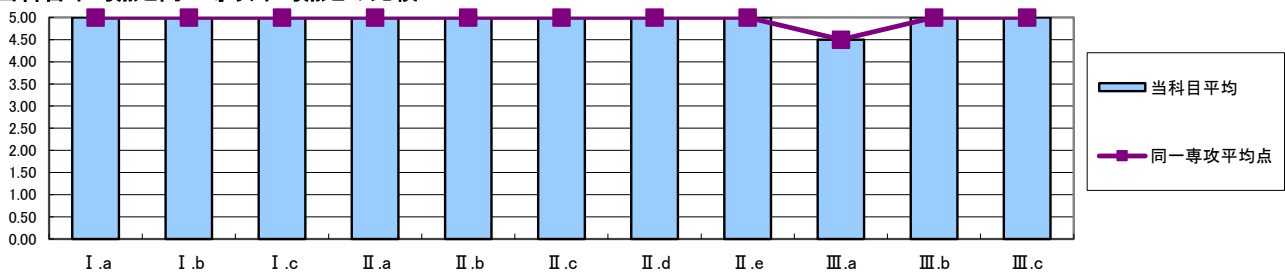
科目名	音楽教養
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

主専攻音楽教養2名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。身体の使い方、発声法及び呼吸法を学ぶにつれ、曲の意味を音楽として表現しようとする意欲が出てきたと思料いたします。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、全ての設問回答からレッスンの進め方には問題はありませんでした。また昨年度の課題でありました練習時間の確保や練習方法については改善されていると思料いたします。

● 改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、今まで以上に学生のレベルにあわせた指導を心がける所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

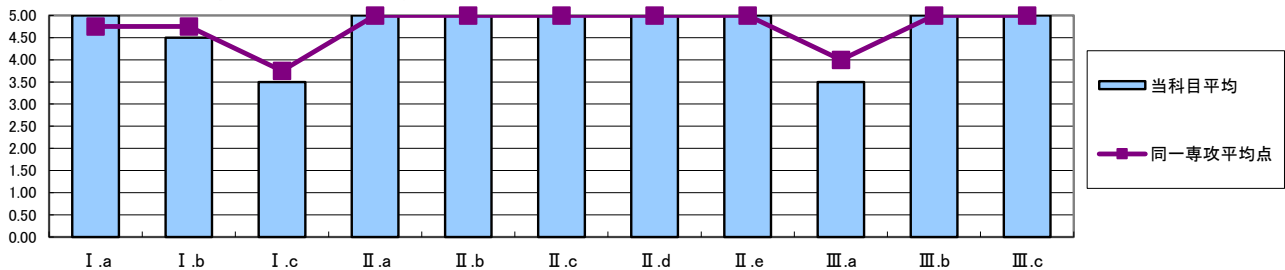
科目名	声楽
教員名	外山 愛

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.75
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.50	4.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

【声楽専攻 短1 秋山知子さん】年間30回レッスンで1回レッスンは1時間弱程度 金曜日
 全くの素人で声楽入学したため、発声はまるでシャンソン歌手のようでした。喉や身体の使い方を一緒に行っているうちに少しずつ変化が見られてきました。大変頭脳は良いので、頭の中の理解力も高いが声としてなかなか身につかないのが課題でもある。
 こちらの指導に対しては大変良く聞き、真剣に臨んでいるが身体がついていかない様子は感じる。
 本人は充実した受講をしているとの回答。
 発声、コンコーネ50番、イタリア歌曲集1、2巻を10曲程度修了
 譜読みはしてくるが大雑把なため、リズムや音程、発音のミスが多いことが課題であるために試験曲などはイタリア語のリブレットを使い発音を丁寧にさらわせる、出来ない箇所を取り上げて何回も歌わせるなどを行った。

【声楽専攻 短1 五十嵐美緒さん】年間30回レッスンで1回のレッスン時間は1時間弱程度 金曜日

大学の心理学科を卒業後、こちらの短大に入学。
 ほとんど声楽は経験がないが、合唱をやっていた。真面目で丁寧に曲をさらうので確実に力をつけ音楽性がありセンスを感じている。
 大人しい性格であり積極的なタイプではないためにレッスンについてどう考えているかなかなか感情が分かりづらいが、本人はそれなりの学習効果を感じているとの回答があった。
 控えめな性格なのでレッスン曲をきっちりさらっているのに自信がなさそうな様子を見せる時があり、試験前などメンタル面も含め前にむかうような心の持ち方も含め指導している。
 発声、コンコーネ50、イタリア歌曲集1、2巻を10曲弱修了

● 問題点

互いの意識のズレは特に感じられなかったが、専門の練習時間がアンケートにより少し少ないような印象があった。

● 改善の方策

今年度は課題を増やし、レパートリーを増やすことを目標にしたい。
 練習時間を計画的に確保し継続する習慣をつけてもらいたい

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

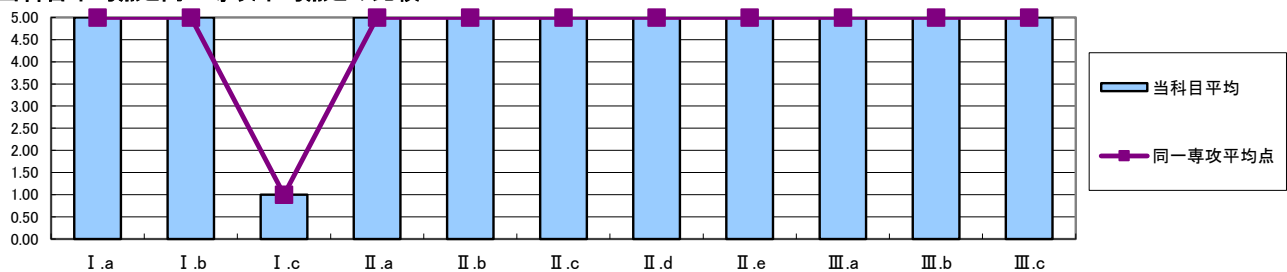
科目名	副科声楽
教員名	岩見 真佐子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	1.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	5.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科声楽専攻実技のレッスンは、ディプロマポリシーを到達目標に掲げ、カリキュラムポリシーの実践にむけ本年度のシラバスに従い、個々の習熟度、発達段階に応じて開講。本年度の履修者数2名が、短期大学の授業開講日及び、各自の希望により設定した補講レッスン日を通じ、前期15回後期15回計30回を確保しました。

個々の声域や身体的条件、経験値、取り組む歌唱課題曲の選曲については、声楽実技としての前期後期のレッスン内評価に一定の基準が求められることに配慮。クラス全体で取り組む方向性と実施内容、進め方においては履修者の個人的な事情に影響が出ないように、年度開始時に設定、クラス全体共有事項とし開講しています。本アンケートの各項目で概ね良い成果がみられ、声楽に求められる歌唱する力、表現の習得に向けて学生の理解を確認しながらレッスン成果につながったと拝察されます(12月現状)。

声楽力の理解と実践については、音楽表現につながる課題曲の設定、外国語の歌唱に求められる留意点については、原語の演奏表現への体得、この2点を主軸にして、学生自らの学びを総合的に判断し結び付けてゆく力が身につく現状があります。

● 問題点

概ね良好な結果であるが、履修者2名のアンケートであることから、引き続き学生が吸収しやすい伝え方でレッスンをすすめることが必要と考えている。

● 改善の方策

履修 I、履修 II、についての課題曲選定と歌唱指導のステップについては概ね2年間での効果的な設定ができていると思われる。特に同一専攻の履修者に対しては、参加しやすいレッスン組みに向けて、年度初めの全体の調整に更に工夫を重ねることが求められる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

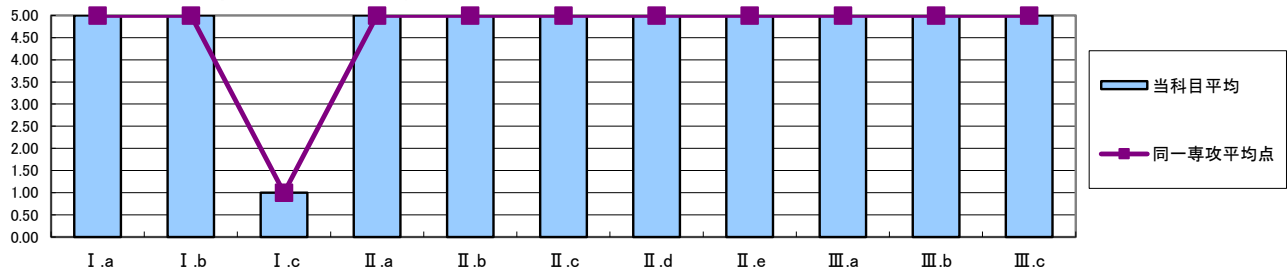
科目名	副科声楽
教員名	外山 愛

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	1.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	5.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科声楽

【松木美樹さん(短2 ハープ)】

年間30回、木曜日20分レッスン

社会人で子育てしながら学生をされている。

コンコーネ50番、イタリア歌曲を中心にレッスンし、1年間で10曲仕上げた。譜読みが早く、毎回しっかりさらってくる。

【日高莉子さん(短2Vi)】

年間30か回、木曜日20分レッスン

卒業年でもあり以前より歌をやってみたく、副科を希望したとのこと。譜読みはゆっくりであり練習している様子はないが、授業には集中力を持って取り組んでいる。

● 問題点

教員、学生間の意識は全てではないがほぼ一致はあり、自身の教育理念を理解し声楽分野の探究にそれぞれ取り組んでいたと解釈した。

一部の生徒に個人による練習時間不足があるようだ、以下改善策を記す。

● 改善の方策

個人練習の方法、課題への取り組み方を生徒へ細やかに伝達すること。

出来なかった箇所を取り上げて毎日反復すること、楽譜を正しく読み取ること、詩や原語を理解すること等を改めて伝えている

管弦打樂器

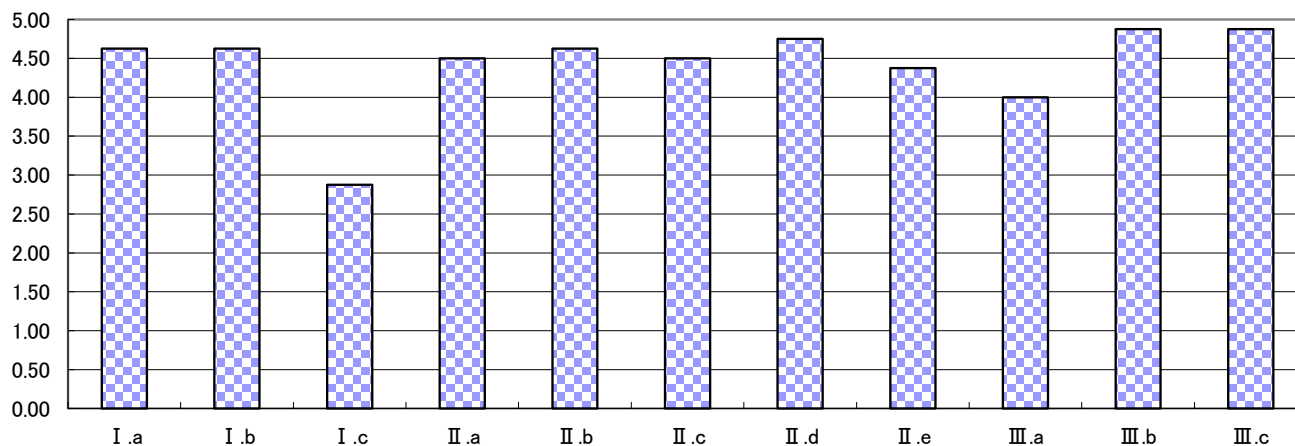
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	6

履修者数	8
回答者数	8

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.63	5	3	0	0	0	8	0
	62.5		37.5	0.0	0.0	0.0			
	b	4.63	5	3	0	0	0	8	0
62.5	37.5		0.0	0.0	0.0				
c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.88	1	2	1	3	1	8	0
			12.5	25.0	12.5	37.5	12.5		
II	a	4.50	5	2	1	0	0	8	0
	62.5		25.0	12.5	0.0	0.0			
	b	4.63	6	1	1	0	0	8	0
	75.0		12.5	12.5	0.0	0.0			
	c	4.50	6	1	0	1	0	8	0
75.0	12.5		0.0	12.5	0.0				
d	4.75	6	2	0	0	0	8	0	
75.0		25.0	0.0	0.0	0.0				
e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.38	5	1	2	0	0	8	0
			62.5	12.5	25.0	0.0	0.0		
III	a	4.00	1	6	1	0	0	8	0
	12.5		75.0	12.5	0.0	0.0			
	b	4.88	7	1	0	0	0	8	0
87.5	12.5		0.0	0.0	0.0				
c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	7	1	0	0	0	8	0
			87.5	12.5	0.0	0.0	0.0		

03. 管弦打楽器 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

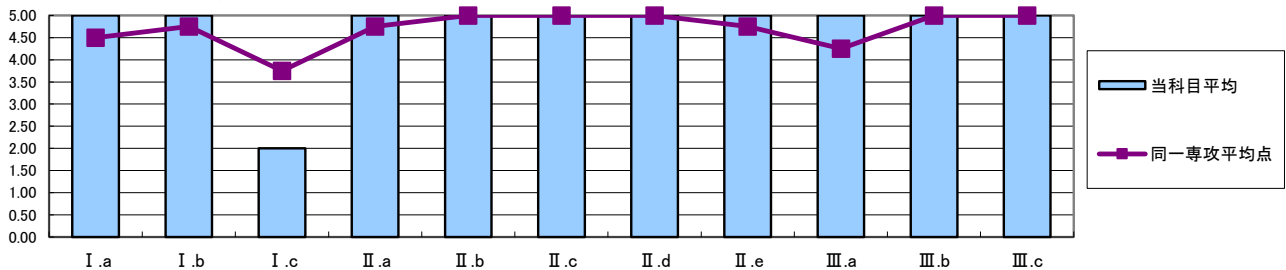
科目名	器楽専攻管弦打コース
教員名	宮野 陽子

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.75
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2年生の学生を1人受け持っていた。
 卒業の年なので進路の相談もしながら、基礎固めをしていった。
 進路については、本人が全く考えておらず、2転3転して、結局は卒業した。1年間フリーで今後のことを考えていくとのことだった。
 短大に入学する前は高校の弦楽部でヴァイオリンを続けている状態だった。真面目に言われた課題をやるので、思ったよりずっと速く、色々な技術が身に付いた。編入してもやっていけるだけの技術も備わった。が、川越まで通う自信もなく、また他にやりたいこともあるので、編入は視野から外れた。
 アドバンスのことも話してあったが、「行きたい」と言った時には、願書の締切は過ぎていた。もう少し決断力があると良いと思う。

● 問題点

本人は自信が持てない様だが、もう少し勉強すれば、ヴァイオリンを教えたり、ボランティア演奏などが楽しめるだろう。

● 改善の方策

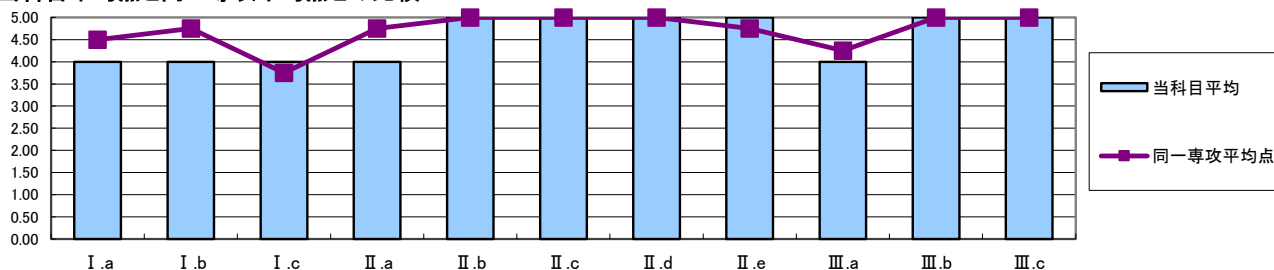
来年アドバンスコースに入ってくれたらよいな、と考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	器楽専攻管弦打コース	職名	08. 講師	履修者数	1
教員名	渡辺 由美子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.75
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.75
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

レッスンでは「自分を打楽器で表現するアイデアを実現するために必要なものは何か」について考えさせ、音楽を表現し伝える際に必要な実践的なスキルを磨き、イメージを具体化するために、さまざまなテクニックや表現力を修得させた。

レッスン毎の課題、実技試験、門下での発表会などを通し、音楽応用力を拡大することを目的とする。資質能力や学ぶ姿勢の向上を念頭に置き、学生の希望や学修の進捗を踏まえつつ、可能性を最大限に伸長する教育の実践を心掛けた指導を行った。

学生は、短大での学びの目的や意義をしっかりと理解し、楽器の技術向上に積極的に取り組んでいた。

● 問題点

アンケート結果を受けて改めて振り返ると、レッスンに向けて楽器練習だけでは得られない知識を図書館を利用するなど、広く音楽を学ぶ意識を植え付けたい。

- ・レッスンシラバスの活用
- ・レッスン目標に沿って行われていたか。
- ・予習、復習をすすめる

● 改善の方策

- ・第一回レッスン時に年間予定を確認する
- ・個々の問題に対して状況に応じて再構築する
- ・予習や復習の内容をレッスン時明確に伝え、より具体化する
- ・学生の要望に対しシラバスと乖離した場合調整する

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

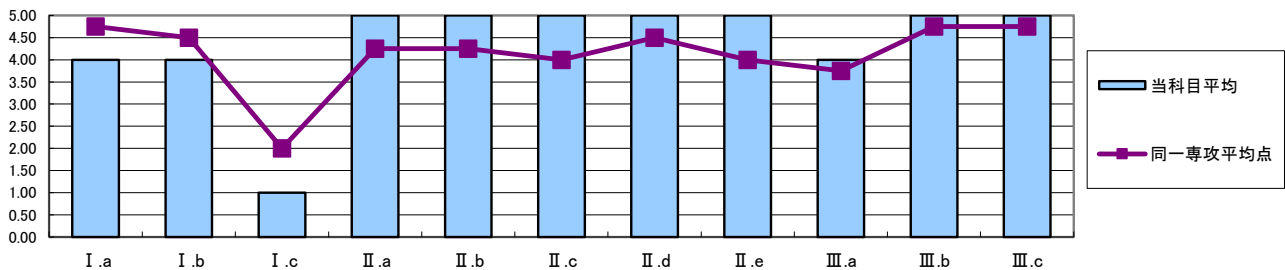
科目名	副科管弦打
教員名	宮野 陽子

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.25
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.25
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.50
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	3.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.75

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

高校時代はかなりヴァイオリンを頑張っていた学生なので、技術もある。ピアノの方も忙しいので無理のない選曲にしているが、表現力を養うための曲を選曲し、ヴィブラートや弓のスピードや使い方の勉強に取り組んだ。

● 問題点

特に問題点はない。時々体調が悪くなると欠席が多くなるので、体調管理にも気を配ってほしい。

● 改善の方策

3年編入して川越に通う様になったら、オーケストラも経験したいとのこと。是非参加してほしいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

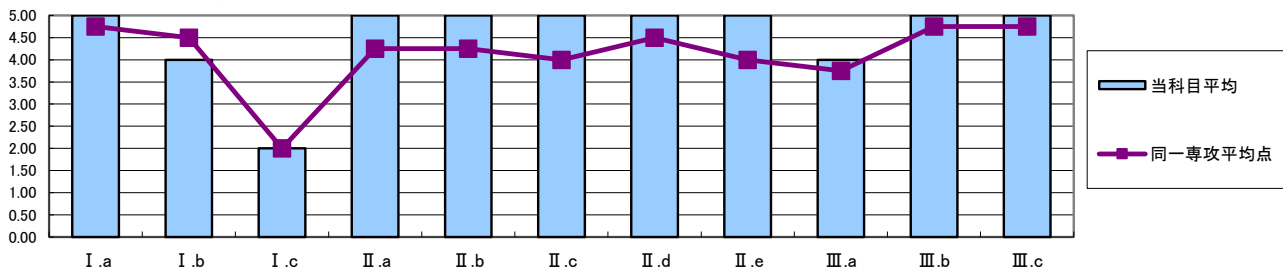
科目名	副科管弦打
教員名	岩間 丈正

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.25
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.25
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.50
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	3.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.75

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

専攻学生同様、各学生のレベルに合った指導をしている。今年度のレッスン生は1名であった。副科であるため高いレベルの演奏技術を求めるのではなく、楽しくフルートを吹いてもらうレッスンを心掛けている。回答はほぼ4~5に集中しているため、信頼関係も上手く築けている様である。今年度は初心者であったが、実際に上手く吹けるようになり、試験の成績が上がり喜んでた。卒業演奏演習で翁派でも演奏していた。

● 問題点

学生の準備不足もなく今年度は概ね良好であった。
自由記述欄を見ても学生は満足しているようである。

● 改善の方策

今年度は学生との関係性は良好であったが、今後もレッスン担当教員として、個人のレベルに合わせたレッスンをさらに心掛けなくてはならないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

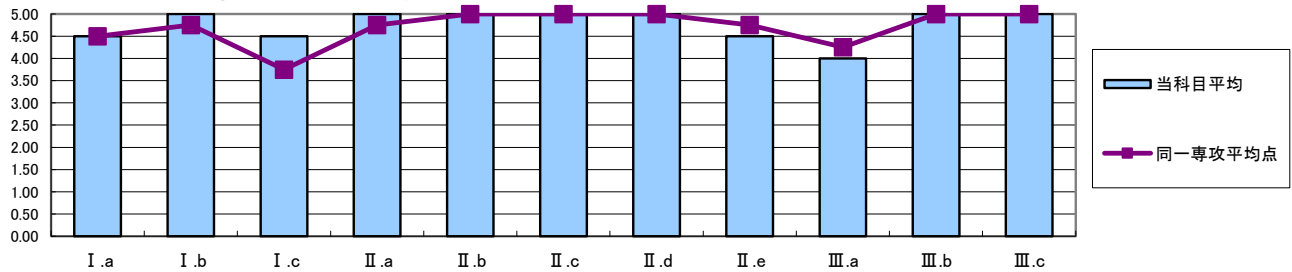
科目名	器楽専攻管弦打コース
教員名	佐々木 雄二

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.50	3.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.75
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.75
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



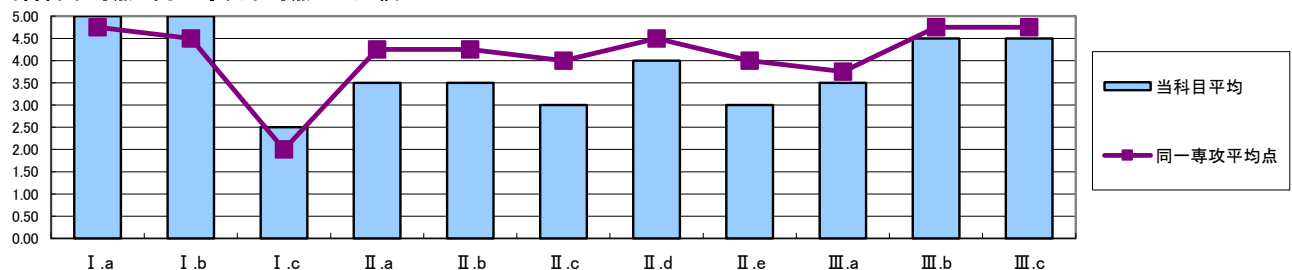
科目名	副科管弦打
教員名	松尾 賢一郎

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	3.50	4.25
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.50	4.25
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	3.00	4.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.50
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	3.00	4.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.50	3.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.75
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.75

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



シンガーソングライター・アーティスト

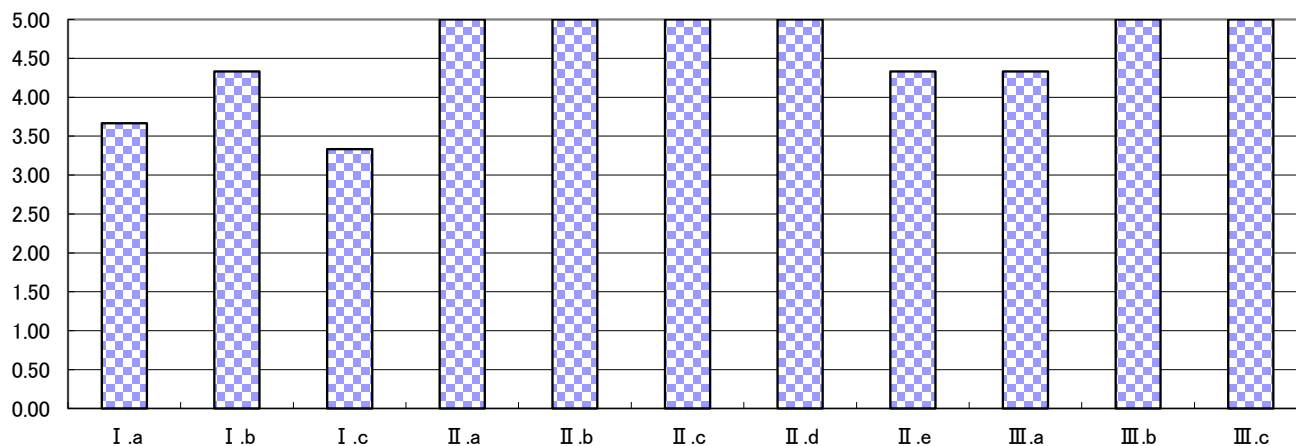
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	04. シンガーソングライター・アーティスト
科目数	1

履修者数	4
回答者数	3

設問	項目	平均点	回答数(人)/回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.67	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	3	0
	b	4.33	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	c	3.33	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	3	0
II	a	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	b	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	c	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	d	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	e	4.33	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
III	a	4.33	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	b	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	c	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0

04. シンガーソングライター・アーティスト 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

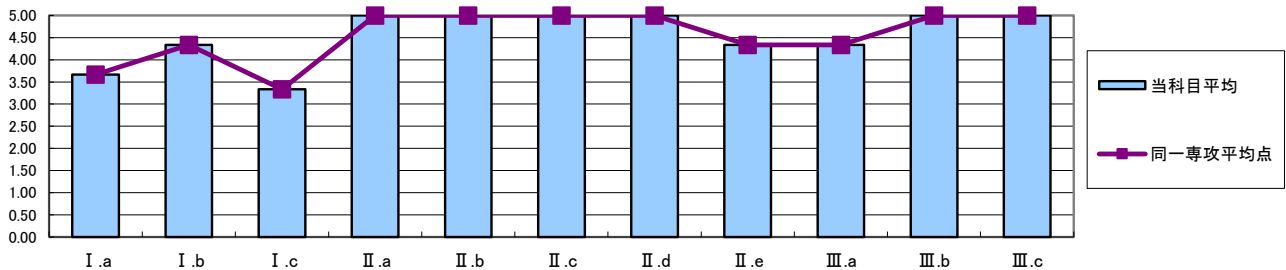
科目名	シンガーソングライター・アーティスト
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	3.67	3.67
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.33
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.33	3.33
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.33	4.33
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.33
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

SSWAとして1年時はレコーディング実習、2年次はライブ実践があり、またプロのアーティストと共演するライブに出演の機会を与えておたただけているので、常に「実践」での学びが大きいと思う。

● 問題点

センスが要求されるものなので、かといって作った本人次第などところがあるのでいくらDTMをが発達しようが、DTMを駆使しようが肝心の楽曲の完成度でしかなく、これが「センス」の問題でもあるので、センスをどう指導すればいいか禅問答中。どの学生もよく学び、次週には改善されているので努力家ばかりである。

● 改善の方策

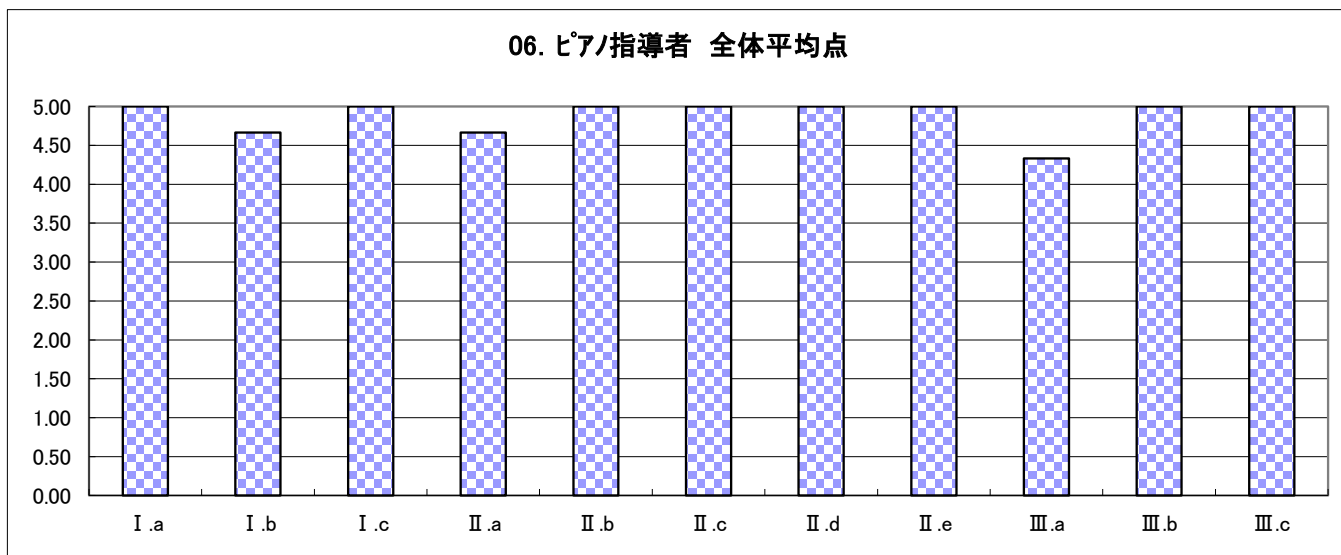
ピアノ指導者

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	06.ピアノ指導者
科目数	2

履修者数	5
回答者数	3

設問	項目	平均点	回答数(人)/回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	b	4.67	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	c	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
II	a	4.67	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	b	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	c	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	d	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	e	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
III	a	4.33	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	b	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	c	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0

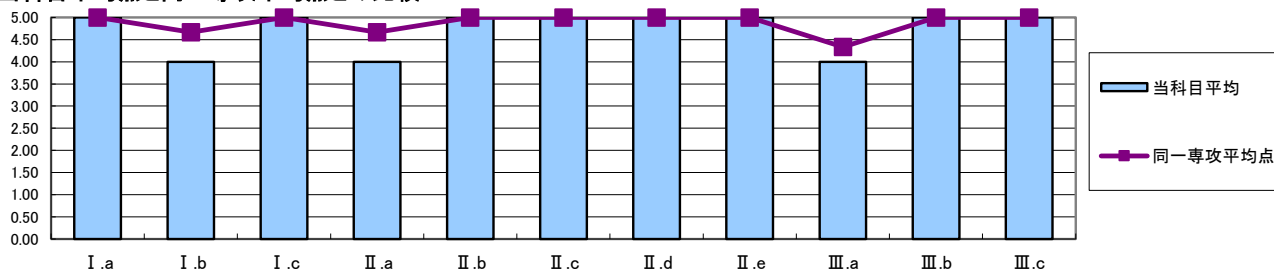


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース	職名	02. 教授	履修者数	3
教員名	國谷 尊之			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.67
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.67
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.33
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度の器楽専攻ピアノ指導者コースは、1年次生1名、2年次生2名（内、長期履修の社会人学生1名）、計3名のピアノ実技レッスンを担当した。1年次生は、英文科既卒の学生でピアノ講師を目指す目的を明確に持っている。2年次生は幼稚園教諭を目指している。長期履修生はピアノ講師の指導実績のある社会人学生である。3名とも、それぞれの進路に役立つ知識・技能を向上させることを念頭に置き、練習方法、メソッドなどについて会話の時間を多くとって進めてきた。アンケート結果からは、それが学生のニーズに合致していることが示されたと言える。なお、アンケートの集計に人数のズレがあるようだが、結果自体には大きな問題はない。

● 問題点

到達目標の達成について「ある程度そう思う」との回答があった。さらに学生が学習成果を実感し、全員から「強くそう思う」との回答を得られるよう、一層レッスン内容を改善していく必要がある。

● 改善の方策

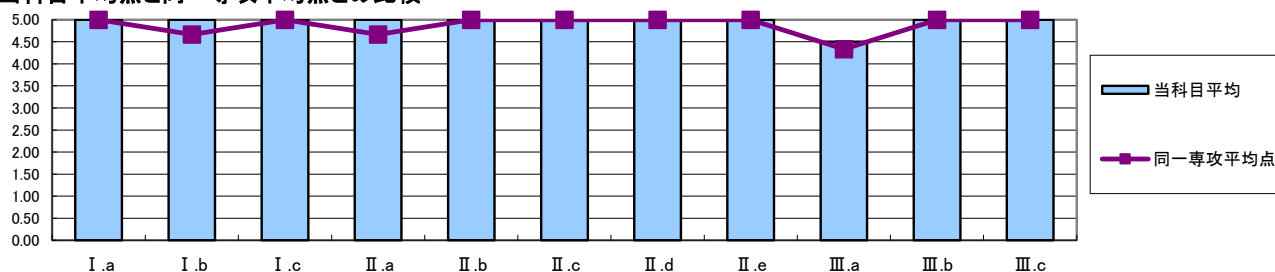
学生それぞれの適性と学習状況をよりきめ細かく把握し、レッスン内容に反映させる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース	職名	01. 主任教授	履修者数	2
教員名	大場 文恵			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.67
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.33
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂專門教育科目

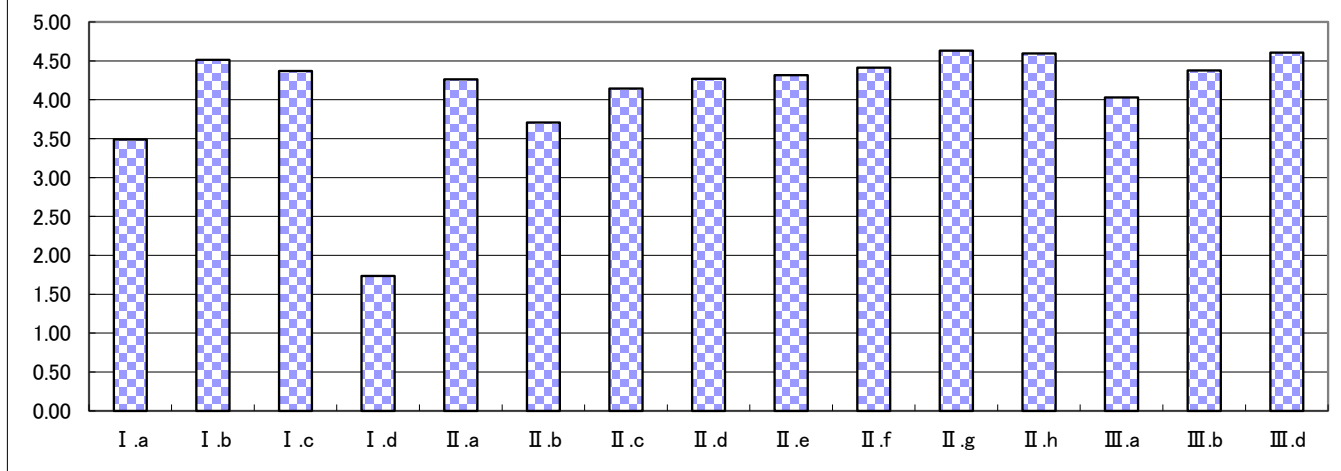
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	08. 音楽専門教育科目
科目数	25

履修者数	167
回答者数	133

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.49	30	53	21	10	19	133	0
			22.6	39.8	15.8	7.5	14.3		
	b	4.51	83	40	5	5	0	133	0
			62.4	30.1	3.8	3.8	0.0		
c	4.37	64	55	11	2	0	132	1	
		48.5	41.7	8.3	1.5	0.0			
d	1.74	4	8	16	26	79	133	0	
		3.0	6.0	12.0	19.5	59.4			
II	a	4.26	65	41	24	3	0	133	0
			48.9	30.8	18.0	2.3	0.0		
	b	3.71	16	45	66	3	3	133	0
			12.0	33.8	49.6	2.3	2.3		
	c	4.14	56	49	22	3	3	133	0
			42.1	36.8	16.5	2.3	2.3		
	d	4.27	66	44	18	3	2	133	0
			49.6	33.1	13.5	2.3	1.5		
e	4.32	68	42	21	1	1	133	0	
		51.1	31.6	15.8	0.8	0.8			
f	4.41	78	32	23	0	0	133	0	
		58.6	24.1	17.3	0.0	0.0			
g	4.63	99	21	12	0	1	133	0	
		74.4	15.8	9.0	0.0	0.8			
h	4.59	91	30	12	0	0	133	0	
		68.4	22.6	9.0	0.0	0.0			
III	a	4.03	40	61	28	4	0	133	0
			30.1	45.9	21.1	3.0	0.0		
	b	4.38	68	49	14	2	0	133	0
			51.1	36.8	10.5	1.5	0.0		
c	-	102	59	58	13	12	125	8	
		81.6	47.2	46.4	10.4	9.6			
d	4.61	78	28	7	1	0	114	19	
		68.4	24.6	6.1	0.9	0.0			

08. 音楽専門教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

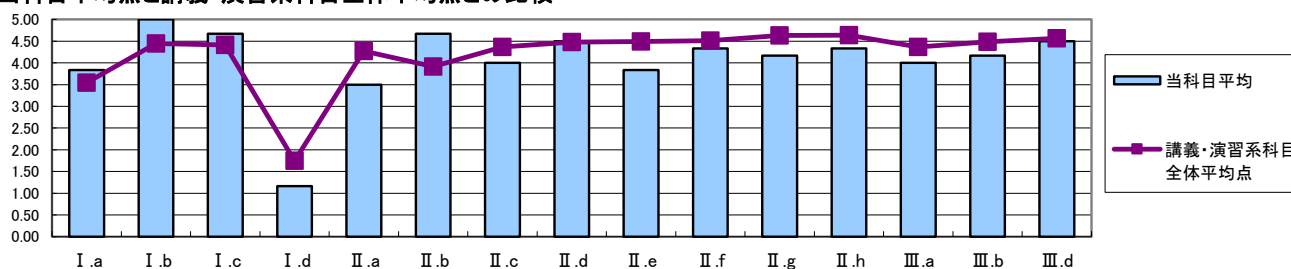
科目名	サウンドクリエーションB
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.83	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.17	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>50.00</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	50.00	33.33	33.33	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
83.33	50.00	33.33	33.33	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

POPSの現場に必要なサウンドにまつわる周辺についてを学ぶ授業

● 問題点

単位取得目的で興味がないのに授業を取る学生もいて意欲のある学生との格差に悩む。

● 改善の方策

興味のない学生にも、サウンドにおける実践の現場でのエピソード（著名アーティストのレコーディングやコンサートサポートミュージシャン）の話をもとに楽曲解説をすることが有意義であると感じる。popsの現場について、その現場を熟知しているかどうかにもよるので、ゲスト講師人選にも気を遣う必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

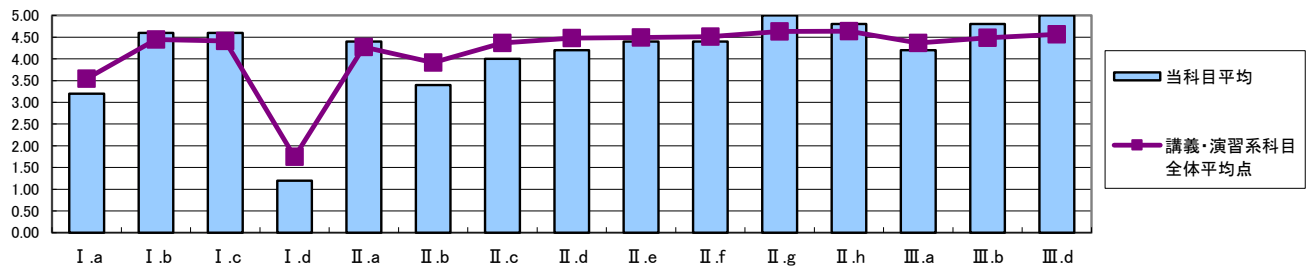
科目名	THE プロフェッショナルB
教員名	城之内 ミサ

職名	01. 主任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.20	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>40.00</td> <td>20.00</td> <td>20.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	40.00	20.00	20.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	40.00	40.00	20.00	20.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

各回のエンタメのプロから学ぶ、エンタメの世界
Bでは、主にステージングとダンス、表現を学ぶ

● 問題点

時々、振り付けについていけず見学をする社会人（年配の方）がいる。
18歳前後と同じ振り付けには無理があるが、かといって年配の方に合わせれば盆踊りのようなことにしかならず、悩ましいところではある。

● 改善の方策

なるべく、皆ができる振り付け（簡単な）にさせていただきよう願っている。
しかし、若い学生の不満にも繋がるのでバランスよく指導をお願いしている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

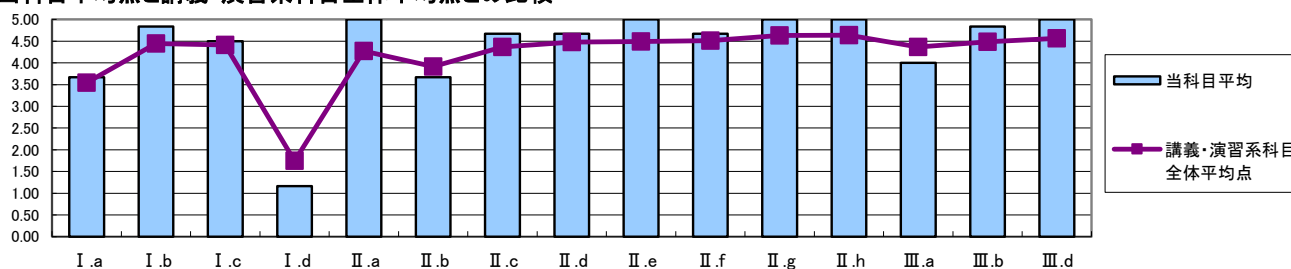
科目名	ピアノ指導者教材研究B
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.83	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>66.67</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	66.67	66.67	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	66.67	66.67	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目となっており、おもにピアノ指導者をを目指す学生を対象としているが、専攻にかかわらず音楽を通じた社会貢献に関心のある学生にもシラバスにて履修を呼びかけている。2023年度は2年次配当科目であり6名が履修した。主に卒業後にピアノ指導者をを目指すための技能と知識を身に付けるための授業であるが、ここ数年ピアノ以外の社会人学生の履修者が多く、シラバスに基づく授業内容は守りつつ幅広い年齢と専攻に受け入れやすい授業運営となるよう留意している。今回も全体に高い評価をいただいたことで概ね支持されたと感じている。

● 問題点

今年度は「授業の難易度」への回答結果が昨年度より低下した。現状の説明で述べたように、ピアノ及びピアノ指導者コース以外の社会人学生にも、十分な理解と学習成果が得られるように一層の工夫が必要であることが示されている。

● 改善の方策

今年度、授業時に理解が十分されていないと思われた内容については、復習のための補助教材や、次回授業時にさらに詳しい解説資料などを用意した。これらの取組みをさらに進めていくこととする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

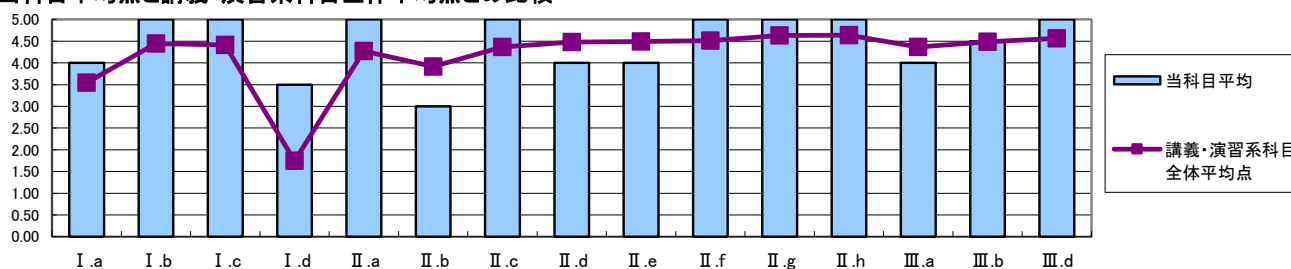
科目名	ピアノ指導法2
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点																
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54																
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45																
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41																
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習・復習をしましたか。	3.50	1.74																
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27																
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91																
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36																
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48																
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49																
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51																
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63																
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64																
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37																
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48																
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>			回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	50.00	0.00	0.00
	回答率																		
5	4	3	2	1															
100.00	100.00	50.00	0.00	0.00															
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																	

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2023年度の履修者は1年次生2名、うち1名は社会人、1名は英文科既卒。ピアノ指導者を目指すための科目であることから実践やディスカッションを積極的に取り入れている。2年間でピアノ指導者としての基本的なスキルを身に付けることを目標としているため、特にピアノを専門的に学んでこなかった学生には難易度が高いこともある。そのため予習・復習は非常に重要であり、それを促す工夫を行ってきた。今年度は、その時間が3～4時間という回答となり、有効性が確認できた。

● 問題点

全体的には良い評価を得られているが、授業の進め方の丁寧さ、配布資料など、アンケートの数値では改善の余地があることが示されている。到達目標の達成度も同様に改善の余地がある。

● 改善の方策

予習・復習と授業内での取組みの関連性をさらに高めることで、授業内容の理解が進むように改善する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

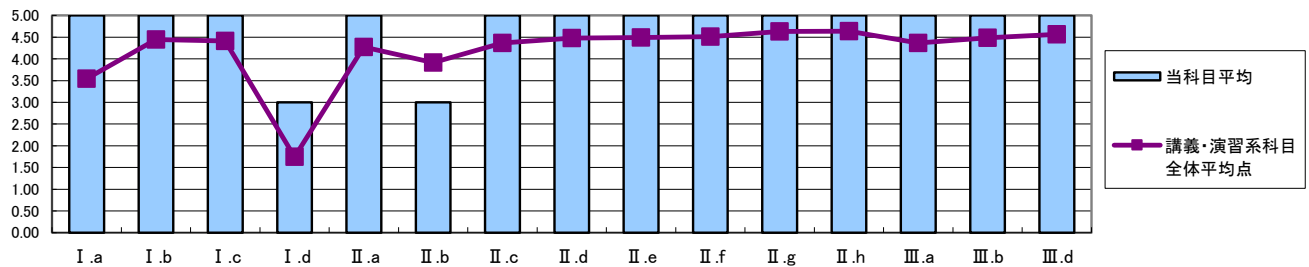
科目名	ピアノ指導法4
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
		5	4	3	2	1
		100.00	100.00	100.00	0.00	0.00
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2023年度の履修者は1名であった。ピアノ指導者を目指すための科目であることから実践やディスカッションを積極的に取り入れている。回答数が1名であるためアンケートとしての有効性には乏しいが、該当学生は積極的にこの授業に取り組んでいたと感じている。予習・復習の時間数は、昨年度から大幅に改善された。

● 問題点

アンケートには表れていないが、この科目の特徴のひとつである「レッスン実習」の運営が難しい。モデル生徒の募集、教材曲についての事前指導などをどのように進めていくか、卒業生のピアノ指導者などに協力をいただくことが不可欠である。

● 改善の方策

卒業生のピアノ指導者、東邦音楽学校の講師に加え、他専攻の社会人学生にも協力をいただくなど、レッスン実習を持続していくための方策を考えていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

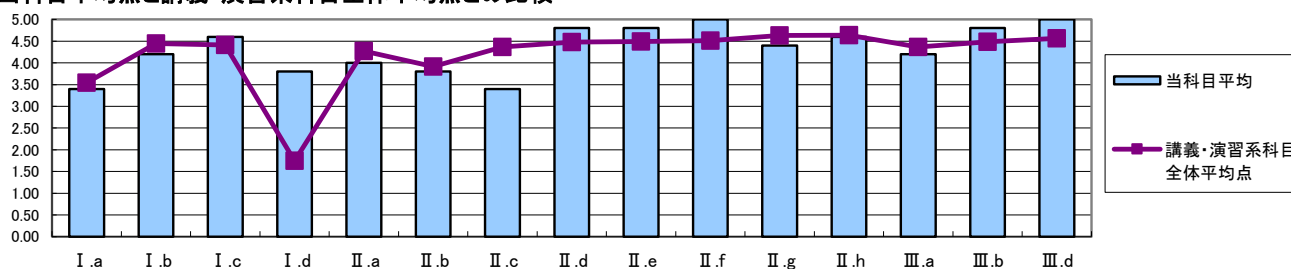
科目名	アンサンブル(ピアノ)ⅡB
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.20	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習・復習をしましたか。	3.80	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.40	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>25.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	50.00	50.00	25.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	50.00	50.00	25.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度のアンサンブルⅡBは5名の受講生により構成された。その内訳はピアノコース専攻4名、ピアノ指導者コース専攻1名、計5名である。本講義は2台ピアノの演奏を軸とし、演奏に必要な技術の習得、2台のピアノによる華やかな音響の実現等を目的として展開した。まず各受講生が課題となる作品を選曲し、その課題の研究・分析、練習を行い作品を仕上げていった。授業では各自のレッスンやディスカッションを重ね、納得の行く仕上がりを皆で目指した。まとめとして882教室において録音・録画を行った。

このクラスは大変積極的に皆真摯な学習姿勢を感じさせる、実に頼もしいクラスであった。2台ピアノの作品にはソロの作品とほぼ同等の技術的難しさがある。表現技術においても然りである。受講生は皆、予習・復習に多くの時間をかけたであろうことは十分に推察できる。やはりそれぞれのアンサンブルという演奏形態への純粋な興味と愛情が根底にあるのだと強く実感する。

● 問題点

アンケートの結果は概ね納得のいくものである。むしろ受講生の学習態度、生き生きと取り組む姿勢を見て教員自身初心に帰る心持ちであった。大変良い時間であったと受講生には感謝している。

● 改善の方策

問題点は感じていないが、受講生の真剣な学習意欲を今後も真剣にサポートしていきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

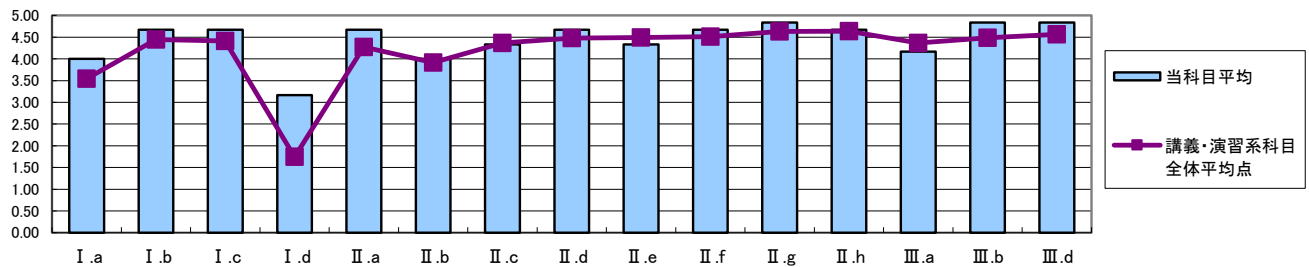
科目名	アンサンブル(ピアノ)IB
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.17	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>33.33</td> <td>16.67</td> <td>16.67</td> <td>16.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	33.33	16.67	16.67	16.67
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
83.33	33.33	16.67	16.67	16.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度アンサンブル1Bでは6名の受講生を担当した。その内訳はピアノコース3名、ピアノ指導者コース1名、シンガーソングライティング専攻1名、音楽教養専攻1名、計6名である。授業は木曜日3限開講、90分のクラスである。本講義の目的は4手連弾の作品を実際に演奏することにより①演奏におけるテクニックを身につける②良い響きを求める=聴く能力を養う③パートナーシップを育てる以上3点である。授業は各受講生が課題とする作品を選曲し、パートナーを決め共に練習を重ね仕上げていくという段取りを設定しており、毎週の復習・予習に対してレッスンをを行う形態を取った。受講生全員で行う2回の研究発表会を経て、講義最終日には三室戸学園15周年記念館ホールにおいて録音・録画を行った。ここでは全ての受講生が半期をかけて積み上げ仕上げた2曲～4曲の作品を演奏した。毎年の中ではあるが、このクラスも大変積極的、かつ勤勉であった。予習・復習も実に丹念に行われ、皆一生懸命であった。その根底にはやはり音楽に対する純粋な興味と愛情、4手連弾の演奏に対する情熱があるのだと思う。

● 問題点

アンケートの結果については概ね納得が得られるものである。よって特に問題点は感じられない。

● 改善の方策

長い長い年月を生き続けている芸術作品を実際に演奏できる喜びが受講生を積極的な学びへと導くのだと実感している。今後も良いサポートができる様、努力していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

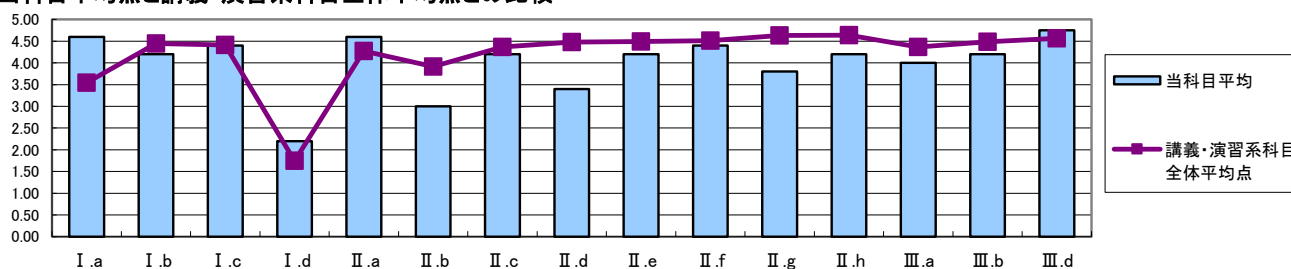
科目名	楽器の特性と機能B
教員名	岩間 丈正

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	8
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.60	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.20	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.20	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.40	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	3.80	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.20	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	75.00	50.00	50.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
75.00	50.00	50.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は鍵盤楽器、民族音楽を含む、全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は、毎週、各楽器の講師を招いて演奏を交えながら講義を行う点である。学生は毎週教員が代わり、解説される楽器も毎週違うので、学生は飽きる事なく受講している。

● 問題点

アンケート結果を見る限り学生の評価が良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。今期は11名程の教員が関わっているため、アンケート結果は授業全体の評価となる。

設問II-aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。

にもかかわらず、4と5を合わせて63.7%となっている。

今年度休講はなかったが、設問III-h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。

担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないため、評価はレポート100%となる。全ての楽器についてレポートを提出させるためレポートの分量が多く、毎年、提出期限に間に合わない学生や、提出出来ない学生も出てしまう。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。各教員のスケジュール調整が困難である。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。演奏研究員使用の許可を取り、担当講師が授業が出来ない場合は、担当講師に指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。

自由記述欄を見る限りは、学生の満足度は高いと思われる。

● 改善の方策

レポートをしっかり提出させるよう指導を徹底したい。
各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

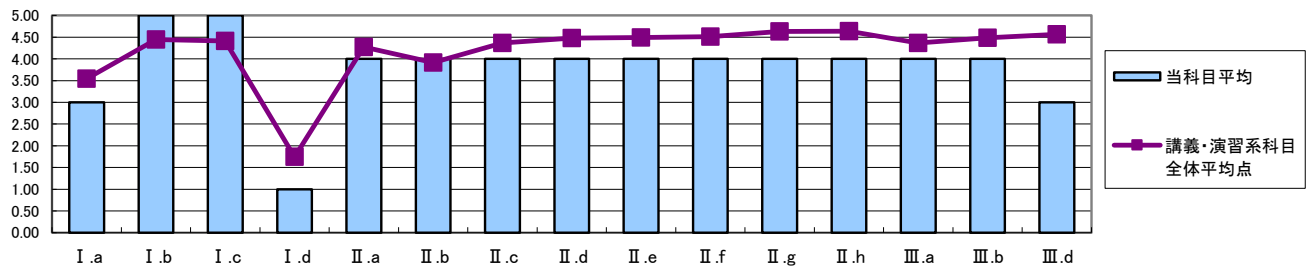
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	50.00	0.00	50.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
50.00	0.00	50.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2年次生の選択授業で第1回目の授業で履修者に聴音を行い、a、bの2クラスに分けた下位のほうのクラスである。授業時間は金曜日3～4限の2コマ分の90分である。ソルフェージュ4bの履修者数は2名であった。聴音、弾き歌い、新曲視唱(3b)、リズム打ち(4b)を中心に授業を進めた。成績評価のための試験も上記項目に準拠した。選択授業のせいかな履修者は少ないが、概ね履修者は意欲的であった。この人数ではアンケートの体をなしていないが、2名のレベル差はあまりに大きく、それぞれを上達に導くには足並みが揃わないのが現状である。また、近年のソルフェージュのレベル低下は著しく、小さい頃からの訓練が不足していて、中には入学してから初めてソルフェージュを習う学生もいる。授業内だけで専攻に最低限必要な音楽的な力や気力を、短期間で養うのは困難であるの否めない。

● 問題点

基礎力の不足が将来に音楽を続ける事への疑問となりモチベーションの維持が出来にくくなっている。理念にある音楽を通しての豊かな人間形成には程遠い。少人数とはいえその能力の差は非常に大きく、理解度の向上や習得のための訓練を個人的に分けてやらざるを得ず、万人に効く特効薬が無いのと同じに個々の処方箋が必要であり、それを行うにはクラス授業では限界がある。また、入学前にソルフェージュの基礎訓練を経て来ているのも一因がある。また高等教育機関としての短大の音楽のあり方について検討が必要な時期に来ており、それによって授業のあり方も考えないと、意識のズレがあるならばその点も問題点になるのではないだろうか。

● 改善の方策

各人にあった適切なアドバイスが出来るように、表面的ではないもう一步踏み込んだコミュニケーションを基に、効果的な訓練のプログラムを行うよう心がけたい。授業の時間的な制約もあり、個々の弱いところに時間をかけて対応するには限界があるが、下位クラスになればなるほどきめの細かい指導が必要である。よって、日々の積み重ねが必要であるため、授業以外にも訓練を継続するようなアドバイスや方法の工夫を出来るだけ分かりやすく紹介し、そして促したい。また、音楽を通しての人間形成についても意識の疎通を図っていくことを心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

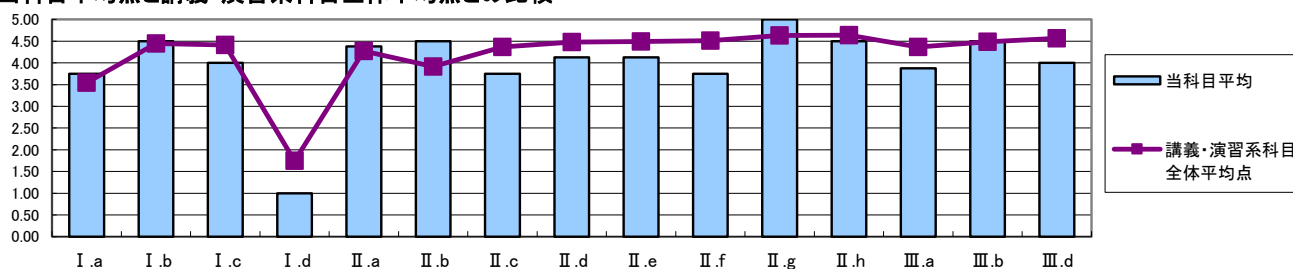
科目名	楽曲の楽しみ方 I
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	12
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.13	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.13	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.75	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.88	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		57.14	57.14	28.57	0.00	0.00
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

9月からの半期設定で1コマ50分の授業である。内容は映像や音源を使つての音楽鑑賞を主として、時代、社会文化等を知り、楽曲解説、逸話等を織り交ぜ、楽曲の聴きどころ、聴かせどころを知り、音楽鑑賞能力を高めるものである。音楽教養専攻生に多い社会人への対応を基として、社会人の興味に応えられるように進めた。今回は鍵盤楽器を主に扱った。受講者数は12名でアンケート回答者は8名であった。

● 問題点

受講生の年代の幅も広くまた興味や知りたいことへの要求も多様であり、また受講生の中には実演や音源を多く聴いていて知識も豊富な、所謂、耳の肥えている者もあり、扱う音質が音楽の教育機関としては物足りていない。それは音響、機器のインフラが今ひとつ完備されておらず、音のニュアンスやバランスの悪さにその影響を少なからず受けていると思われる。短い授業時間でインフラ以外の多様な要求を全て網羅するのは困難であるほか、今回もインターネット上から資料となる音源や映像を使用したのが、音質や映像の鮮明度に関する整備の必要性が今後益々高まるであろうと思われる。特に音楽では聴覚・視覚的環境は重要であり、出来る限り生演奏に近くなくては、いくら良い素材であっても良さが伝わらず、その分を言葉で補うのでは音楽への興味がマイナスになってしまう。その意味でも最後の授業ではピアノの生演奏を行なった。当然毎回は無理である。

● 改善の方策

万人受けをする進め方は難しいが、意見や批判はそれが発せられる何らかの要因があったものと受け止め、真摯に対応したいと思う。教材や資料が適切では無いというのは、音源や映像等のソフトの少なさと授業時間が短いため、取り扱う曲を全曲聞かせることが出来ず、鑑賞より解説で補ってしまい十分に曲の特徴や良さを伝えきれずに端折ってしまうことにあると思うので、準備に多く時間をかけて学生にとってさらに理解を深められる授業となるよう心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

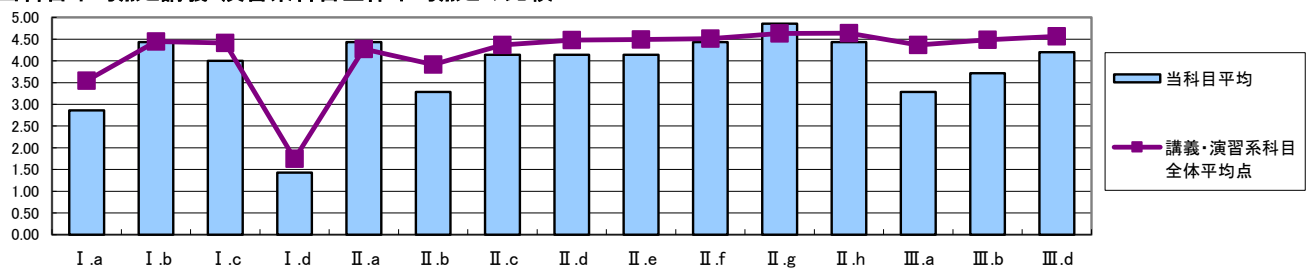
科目名	ソルフェージュ2b
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.86	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.43	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.14	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.29	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.71	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33.33</td> <td>33.33</td> <td>50.00</td> <td>16.67</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	33.33	33.33	50.00	16.67	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
33.33	33.33	50.00	16.67	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.20	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

教養専攻生を除いた1年次生と教養専攻2年次生を対象に1回目の授業で聴音によるクラス分けを行い、2クラスに分けた、下位のクラスである。授業時間は金曜日5限の週1回連続2コマ計90分である。履修者数は7名である。授業は聴音、コールユーブンゲン、暗譜唱、新曲視唱（1b）、リズム打ち（2b）を中心に言い成績評価の試験もそれに準拠した。クラスサイズは数字的には理想的ではあるが、下位のクラスはいつもそうであるように、個々の能力の開きに照らし合わせると、決して理想的とは言えない。

● 問題点

楽典の知識に乏しく音符の種類さえ不確かな者、耳では理解出来るが音符に置き換えられない者等、基礎的な知識や訓練が不十分等の能力の差が大きい個々に合わせての適切な課題を実施することが出来ず、機能しないことが多かった。学生たちは熱心に取り組んでくれてはいたが、ソルフェージュが出来るようになったという実感が持てなかったのではないかと。

● 改善の方策

音楽の習得は日々の努力とその積み重ねであり、効率の良い基礎訓練を学生の意識を集中して行わなければならない。本校の教育の基本方針であるOne to Oneは、数値的人数ではなく、出来る限り似通った個々の能力に合わせた懇切丁寧な指導を少人数ですることである。学生のモチベーションを上げ、学生のスキルの向上とより良い音楽作りのためにも、同じような能力である事がお互いの切磋琢磨を招き、集中力を高め向上を早めることになるだろう。特に下位のクラスにはそれが必要で、それには出来る限りクラスをOne to Oneに近づけることである。向上のため個人的なアドバイスを細かく出来る環境を作ることを前提として、学生には授業以外でも訓練を怠らないよう、その方法等の丁寧な指導をして行くことを日々心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

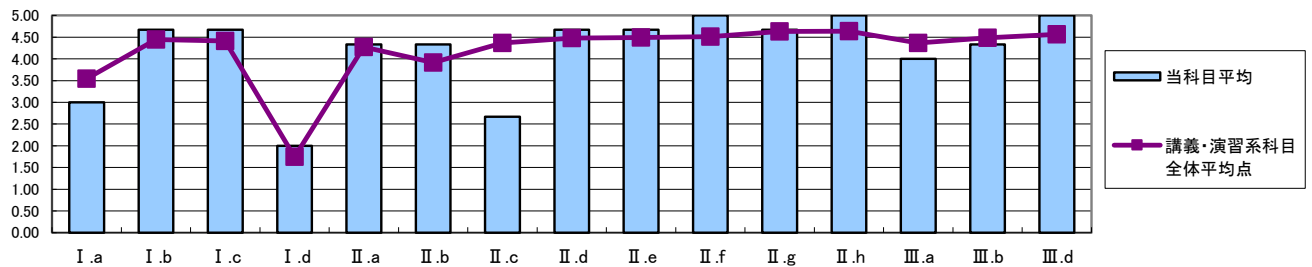
科目名	アンサンブル(管弦打) I B
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.67	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33.33</td> <td>66.67</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>33.33</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	33.33	66.67	100.00	0.00	33.33
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
33.33	66.67	100.00	0.00	33.33														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、大学院室内楽履修生の理解と協力により、大きな成果を得ることが出来ました。前期、後期の2回、50周年記念館で、大学院 短大合同室内楽発表会を開催。また東邦ミュージック フェスへの参加。この企画では、短大チームの演奏はもちろん、大学院生との合同チームによる演奏も実施し、短大生は院生よりとても良い大きな刺激を受け、各自がレベルアップすると同時に、表現面でも目覚ましい成長が、感じられました。

● 問題点

短大生のためのチームでは、メンバーの楽器編成上、選曲にとっても苦労した。編成に見合った曲は、そもそも無いので、様々な工夫が必要で、学生達も良く考え、いろんなアイデアを出してくれました。この点が、とても苦労する点で問題点としてあげました。

● 改善の方策

選曲した結果、少人数の編成を多く作ってしまった為、授業時間内教えきれなくなった時があった。この点に注意しないと、内容が深く教えきれない。これが大きな反省点で、これを改善したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

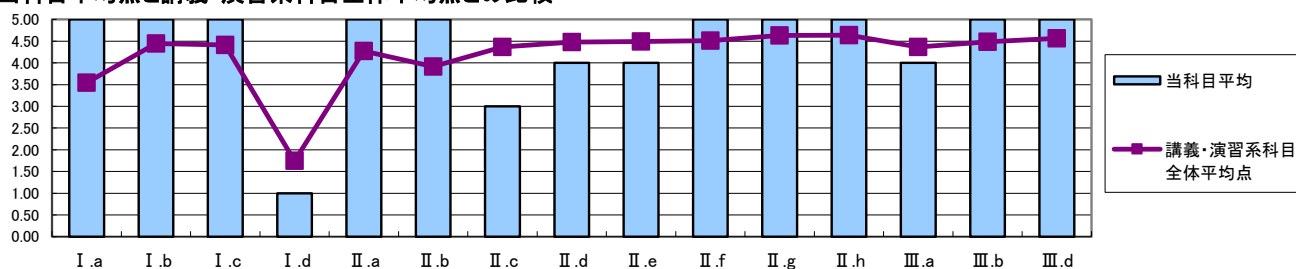
科目名	アンサンブル(管弦打)ⅡB
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	100.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、大学院室内楽履修生の理解と協力により、大きな成果を得ることが出来ました。前期、後期の2回、50周年記念館で、大学院 短大合同室内楽発表会を開催。また東邦ミュージック フェスへの参加。この企画では、短大チームの演奏はもちろん、大学院生との合同チームによる演奏も実施し、短大生は院生よりとても良い大きな刺激を受け、各自がレベルアップすると同時に、表現面でも目覚ましい成長が、感じられました。

● 問題点

短大生のためのチームでは、メンバーの楽器編成上、選曲にとっても苦労した。編成に見合った曲は、そもそも無いので、様々な工夫が必要で、学生達も良く考え、いろんなアイデアを出してくれました。この点が、とても苦労する点で問題点としてあげました。

● 改善の方策

選曲した結果、少人数の編成を多く作ってしまった為、授業時間内教えきれなくなった時があった。この点に注意しないと、内容が深く教えきれない。これが大きな反省点で、これを改善したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

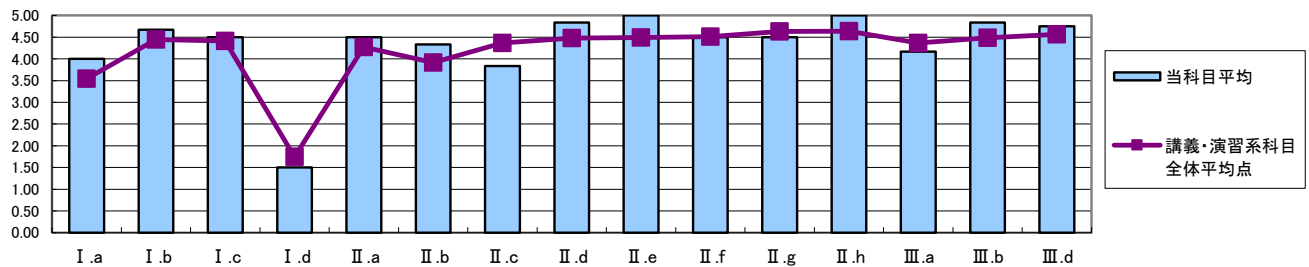
科目名	シンギングポップスB
教員名	仁科 薫理

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.33</td> <td>66.67</td> <td>83.33</td> <td>0.00</td> <td>16.67</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	83.33	66.67	83.33	0.00	16.67
	回答率																	
5	4	3	2	1														
83.33	66.67	83.33	0.00	16.67														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

・目的内容
時代によって移り変わるポップスについての考察。

・授業形態
講義、実践

・受講者数
6名

・開講曜日、時限など
水曜日12:40～

・受講者の状況説明と集計結果の分析
非常に真面目に受講してくださっていると。集計結果もこちらの意向を理解してくれていて嬉しいです。

● 問題点

こちらの想定以上に受講者の理解度が高く、ズレはほぼ感じませんでした。

● 改善の方策

予習 復習に費やす時間が少ないようなので、本年からは宿題としての課題もだそうと思っています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

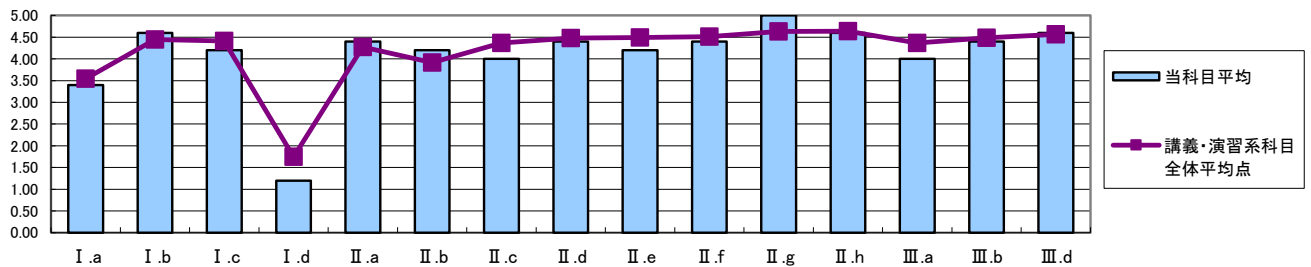
科目名	リミックIB
教員名	藤原 優里

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		100.00	25.00	50.00	0.00	0.00
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

月曜日の1限ということ遅刻が多い。数分は電車遅延などもあるが授業終わり10分前くらいにくる学生もいる。遅刻せずきっちりくる学生と両極端に分かれる感じ。今年度はしっかり話を聞き意見をいう学生が多かったので、シラバスの予定より随分早いテンポで授業が進んでいた。(シラバスを先取りすることについては学生に説明済み)その分プラスアルファでできることもあるので、年度によって学生さんのキャラクターが随分違うなという印象。

● 問題点

とくにズレはないと思える。あえていえば遅刻をしてくる学生の中にもセンスのある子がいるので、継続して出てくれたらもっと伸びるのと思うくらい。

● 改善の方策

課題を出すなど単位取得のための協力はしますが基本的には出席して頑張っている学生を応援します。遅刻してでも頑張ってきている、とみなしている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

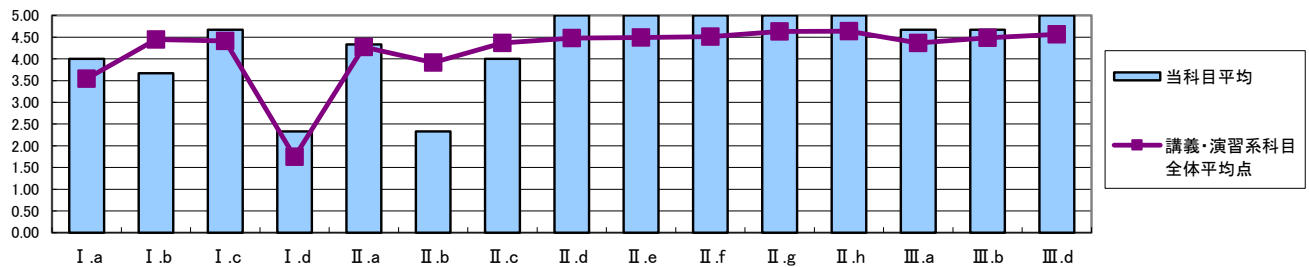
科目名	リトミックⅡB
教員名	藤原 優里

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	3.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> <td>66.67</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	100.00	100.00	66.67	100.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
100.00	100.00	100.00	66.67	100.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

人数は少ないが全員熱心に取り組む学生だった。授業の目的、課題の意図なども理解して課題に取り組んでくれた。出席も優秀。課題の出来も優秀。今までも優秀な学生は多くいたが、全員が優秀というのは初めてかもしれない。

● 問題点

特にありません。

● 改善の方策

24年度の2年生もしっかりした学生さんが多いので特に問題は感じておりません。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

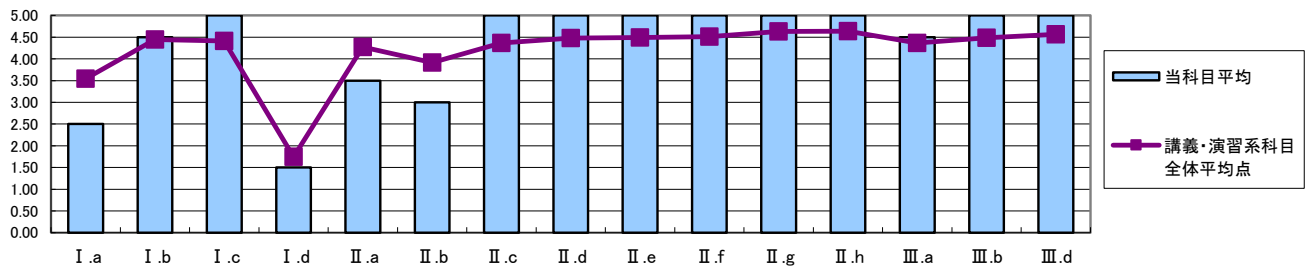
科目名	ソルフェージュ4a
教員名	横山 裕美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点				
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.54				
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45				
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41				
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.74				
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.27				
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91				
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36				
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48				
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49				
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51				
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63				
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64				
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37				
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48				
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率					
		5	4	3	2	1	
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56	100.00	100.00	100.00	50.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2年次の選択授業。2つあるうちの上のクラスである。1年次よりも高度な聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本の弾き歌いをバランスよく勉強し、試験に向けて個別アドバイスを丁寧に行っている。後期は、上記の試験科目の他に、各学生の「克服したい分野」「もっと力を伸ばしたい分野」の希望を聞き、こちらについても個別レッスン・アドバイスの時間をほぼ毎時間設けた。学生たちは、はっきりした目的をもってこの授業を選択しており、大変熱心であった。学生自身も日に力がついてきたことを実感しており、大変充実した授業となった。

● 問題点

特にないと考える。

● 改善の方策

なお一層授業を工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

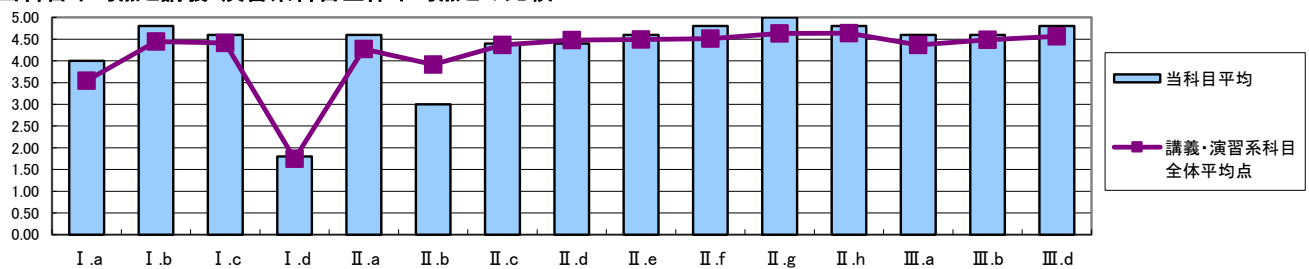
科目名	ソルフェージュ2a
教員名	横山 裕美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.80	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	40.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次必修授業の上のクラスである。聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本の暗譜唱をバランスよく勉強している。例年以上にaクラスとbクラスのボーダーラインの学生が多かったように思う。少人数のクラスであっても、その中では実力差があるため、予習・復習の大切さを毎年説明している。また1対1の時間を多く取り、個別アドバイスを丁寧に行っている。授業のたびに飛躍的に力を伸ばしていった学生も数名おり、前向きな雰囲気の中で授業を進めることができた。

● 問題点

特にないと考える。

● 改善の方策

引き続き、授業に工夫を重ねていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

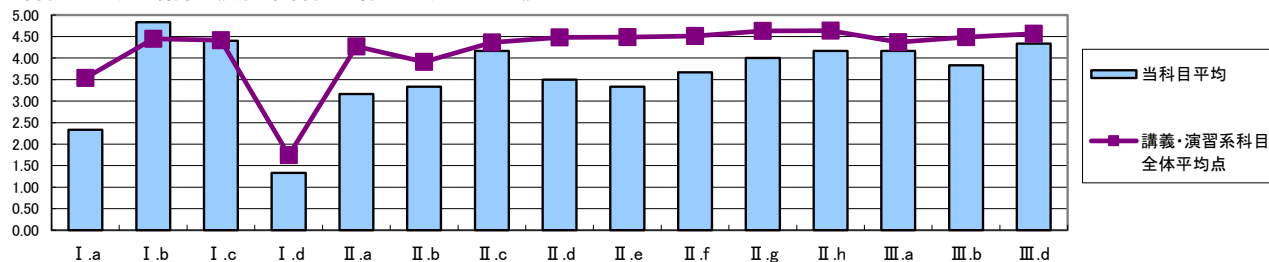
科目名	合唱ⅠB
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	15
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.33	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.83	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.17	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.17	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.83	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16.67</td> <td>16.67</td> <td>66.67</td> <td>16.67</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	16.67	16.67	66.67	16.67	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
16.67	16.67	66.67	16.67	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



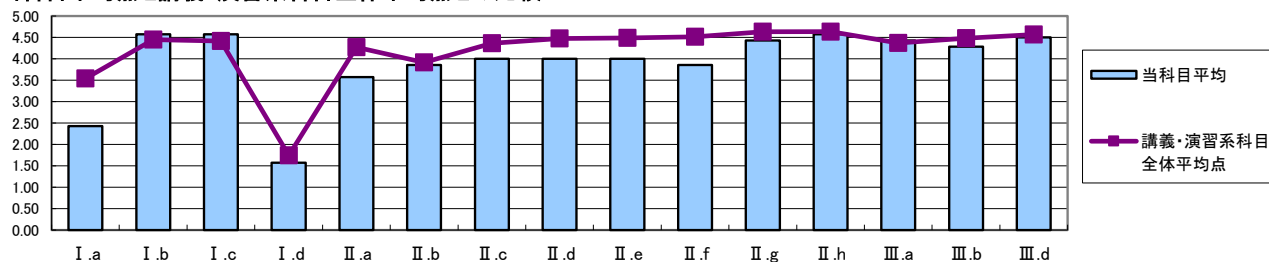
科目名	合唱ⅡB
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.43	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.57	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.57	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.86	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.86	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.43	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.43	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57.14</td> <td>71.43</td> <td>28.57</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	57.14	71.43	28.57	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
57.14	71.43	28.57	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

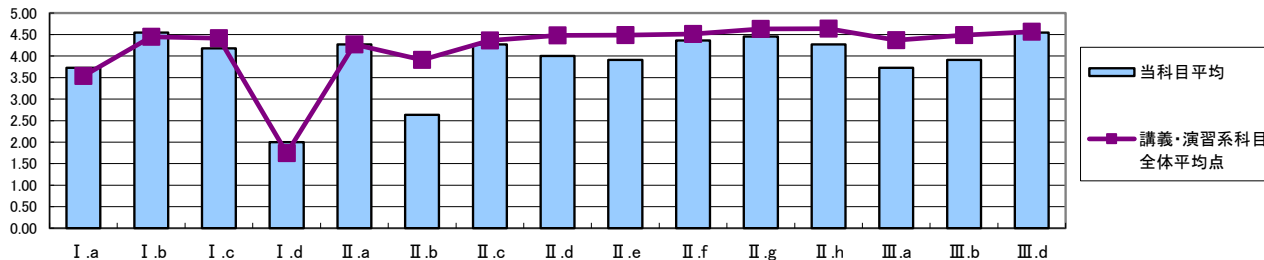
科目名	和声学2
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	14
回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.73	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.55	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.18	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.27	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.64	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.91	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.36	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.45	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.27	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.73	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.91	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>100.00</td> <td>20.00</td> <td>20.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	20.00	20.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	20.00	20.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.55	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



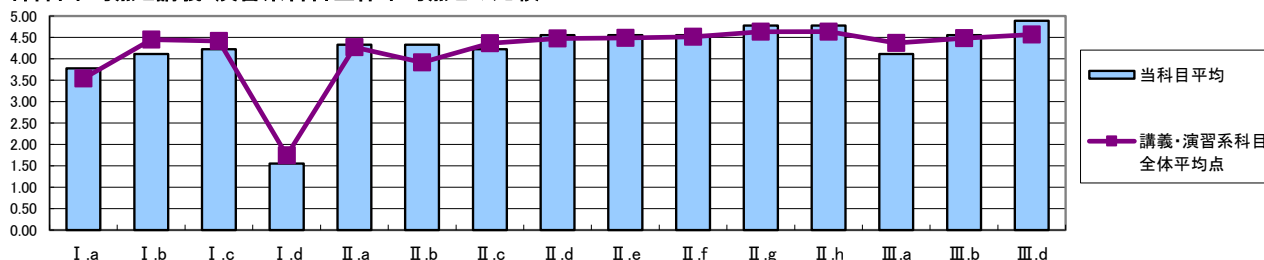
科目名	音楽の基礎理論B
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.78	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.11	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.56	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.22	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.56	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.11	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.56	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>100.00</td> <td>12.50</td> <td>12.50</td> <td>12.50</td> <td>0.00</td> </tr> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	12.50	12.50	12.50	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	12.50	12.50	12.50	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

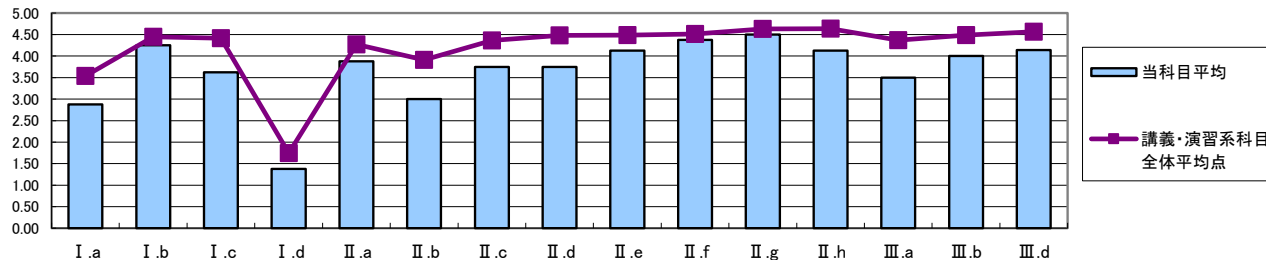
科目名	和声学4
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.88	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.63	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.88	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.75	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.13	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.13	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>57.14</td> <td>57.14</td> <td>14.29</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	57.14	57.14	14.29	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	57.14	57.14	14.29	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.14	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



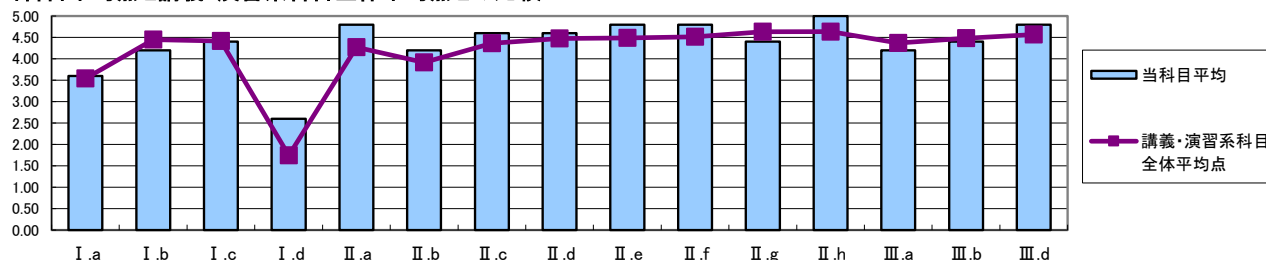
科目名	レッスンマネージメントB
教員名	嶋田 友梨香

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.20	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.60	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.00</td> <td>80.00</td> <td>80.00</td> <td>20.00</td> <td>20.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	80.00	80.00	80.00	20.00	20.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
80.00	80.00	80.00	20.00	20.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

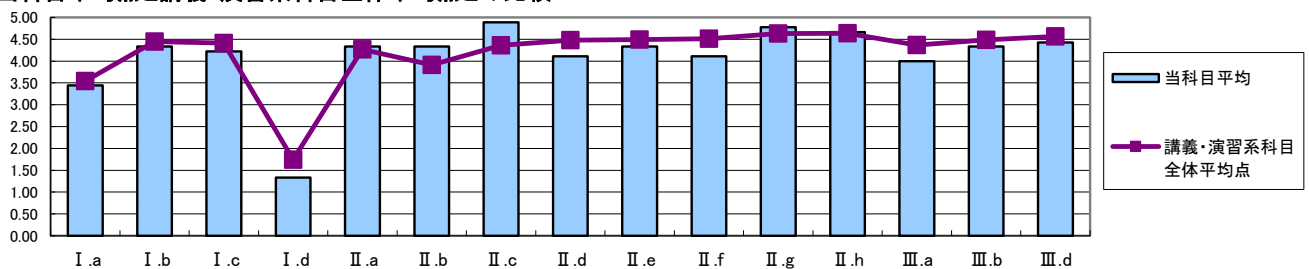
科目名	音楽史B
教員名	山下 暁子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	14
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.44	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.89	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.11	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.11	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>55.56</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	33.33	55.56	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	33.33	55.56	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



基礎教育科目

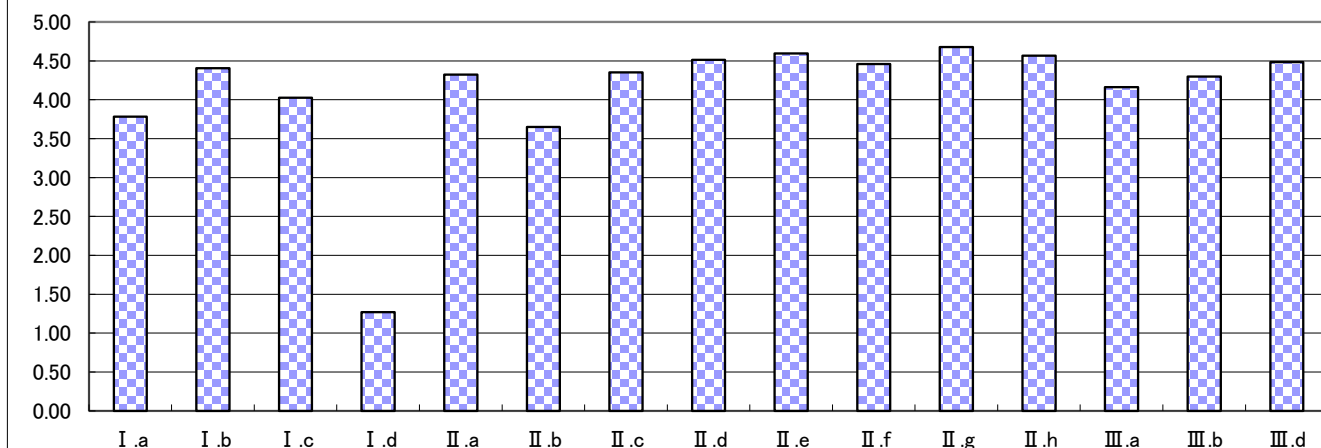
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	09. 基礎教育科目
科目数	8

履修者数	44
回答者数	37

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.78	11	15	7	0	4	37	0
			29.7	40.5	18.9	0.0	10.8		
	b	4.41	23	9	2	3	0	37	0
			62.2	24.3	5.4	8.1	0.0		
c	4.03	13	17	3	3	1	37	0	
		35.1	45.9	8.1	8.1	2.7			
d	1.27	0	1	1	5	30	37	0	
		0.0	2.7	2.7	13.5	81.1			
II	a	4.32	18	14	4	1	0	37	0
			48.6	37.8	10.8	2.7	0.0		
	b	3.65	6	8	20	1	2	37	0
			16.2	21.6	54.1	2.7	5.4		
	c	4.35	20	11	5	1	0	37	0
			54.1	29.7	13.5	2.7	0.0		
	d	4.51	22	12	3	0	0	37	0
			59.5	32.4	8.1	0.0	0.0		
e	4.59	25	9	3	0	0	37	0	
		67.6	24.3	8.1	0.0	0.0			
f	4.46	21	12	4	0	0	37	0	
		56.8	32.4	10.8	0.0	0.0			
g	4.68	27	8	2	0	0	37	0	
		73.0	21.6	5.4	0.0	0.0			
h	4.57	25	9	2	1	0	37	0	
		67.6	24.3	5.4	2.7	0.0			
III	a	4.16	15	15	5	2	0	37	0
			40.5	40.5	13.5	5.4	0.0		
	b	4.30	19	12	4	2	0	37	0
			51.4	32.4	10.8	5.4	0.0		
c	-	27	18	10	4	4	37	0	
		73.0	48.6	27.0	10.8	10.8			
d	4.48	18	10	3	0	0	31	6	
		58.1	32.3	9.7	0.0	0.0			

09. 基礎教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

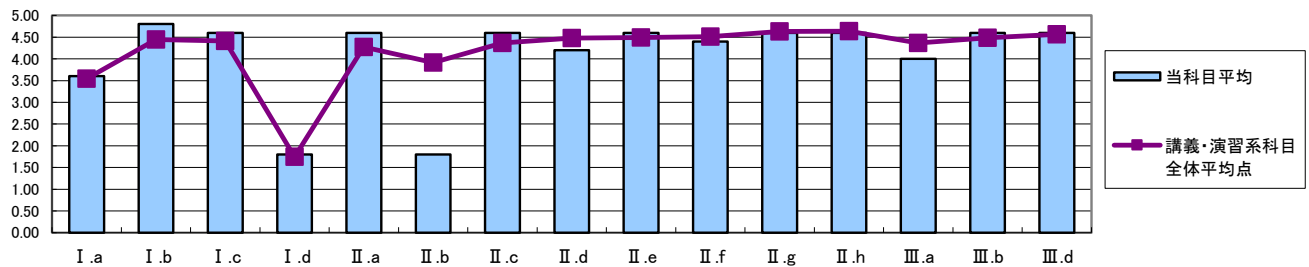
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.80	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	1.80	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>40.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	40.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	40.00	40.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ドイツ語圏の多様性を理解する為に、前期に引き続きビデオ映像を用いて最新のドイツ、オーストリア、スイスのトピックスを紹介した。特に日本の中のドイツ、ドイツの中の日本と言うコンセプトで、文化交流を通じたドイツ語圏の文化や歴史の理解を深めた。また、前期では未修の文法項目を習得しながら、話すことに重点を置きながら練習を重ねた。各回取り上げる内容は、日常生活に寄り添ったトピックスを取り上げ、習得した文法でそれらの内容を表現できる力の向上を目指した。

● 問題点

ドイツ語圏の多様な現状を理解する為に毎回様々な素材を用意したが、説明の時間が多くなり、学生のアクティブな参加が阻害されたきらいがある。素材の厳選と各回の学習項目の厳選化が必要である。

● 改善の方策

毎回の学習の要点と情報を分け、理解の高度化を図る。その為に各回学習と情報で別々のレジユメを作成し、授業の狙いが明確になるように工夫する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

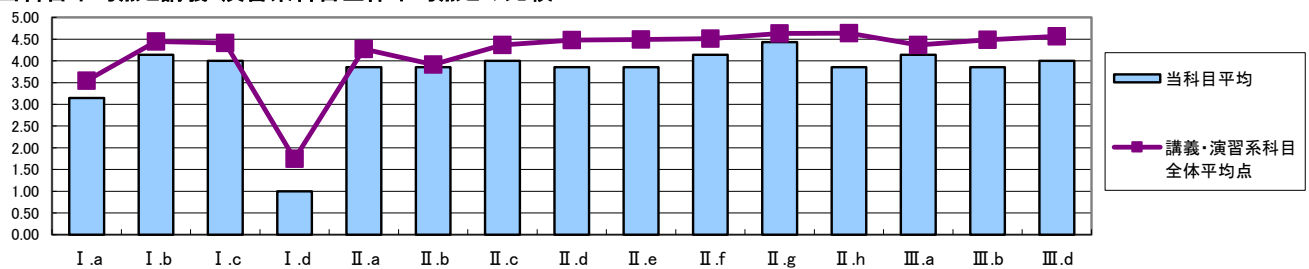
科目名	東邦スタンダードⅡB
教員名	益田 善太

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.14	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.14	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.86	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.86	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.86	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.14	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.43	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.86	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.14	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.86	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14.29</td> <td>57.14</td> <td>28.57</td> <td>28.57</td> <td>42.86</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	14.29	57.14	28.57	28.57	42.86
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
14.29	57.14	28.57	28.57	42.86														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

社会で働くことの意味、社会の中で各自が果たしうる役割、コミュニケーション力など社会人に必要な基礎力(社会人基礎力)を身につける事を目的に、音楽を通して得たスキルをどのように活かしていくかを考える授業である。短大2年次は社会に出る事が目前にせまっている為、社会の仕組みや労働、リテラシーなど多岐にわたって見地を広めていく事が目的である。

短大の2年間という短い期間の中で、短大に慣れたばかりの2年目。また「社会人とは？」というまだピンと来ない事について考えていく事と、専門的に学びたい音楽とは関係性が見えにくい内容に戸惑うことも多いように感じられる。社会に出てしまっている私達にとっては大切に感じる事も、やりたい事と格闘している真っ只中の学生にとっては積極的に取り組みたい授業であるかと言うと必ずしもそうとは言えないのかもしれない。

ただ、インターンシップなどを経験し社会との接点が増えつつある学生にとっては、少しずつ関心が増えていくように感じる。

アンケート結果にもそれが現れていて、学生個々の置かれた環境によって捉え方が様々に感じる。成人年齢が18歳になり、社会のあり方を理解する必要が増していく中で、この授業の重要性を含めて学生に認識させる努力を続けなくてはならない。

● 問題点

専門外の事に興味が湧かない学生も一定数存在する。そういった学生の興味や意欲をどのように引き出すか、授業内容や各自の生活への関連付けなどを考え続ける必要がある。

● 改善の方策

短大の1年次は良いと思うが、2年次は大学のように専門講師を配置する事も含めて、授業内容をより深めていく事を考慮する事も必要かと思われる。私自身も広い視野と見地を得ていく努力を続けていかなくてはならない。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

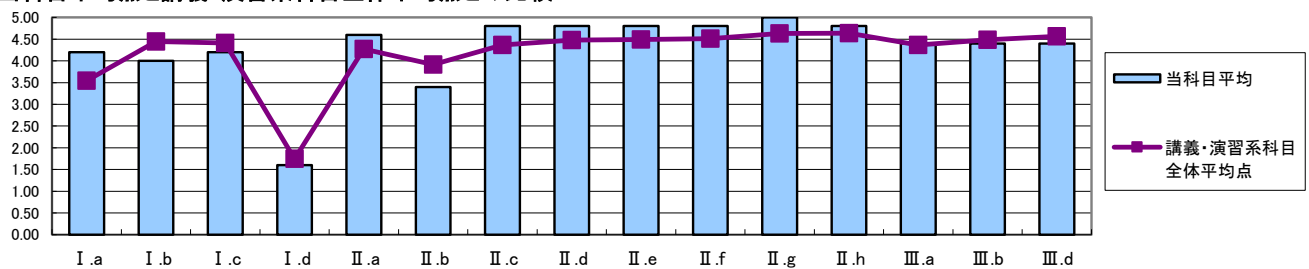
科目名	東邦スタンダードIB
教員名	野田 説子

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	40.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年6名中5名から回答を得た。
前期のGW明けから出席率が悪くなり、後期も引き続き同じ状態が続いた

● 問題点

課題に対しては、自分の考えを述べることができるのだが、朝1限の授業開始までに席に着く事が難しい学生が多かった。

● 改善の方策

伝達の方法を考える
時間の大切さを伝える工夫

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

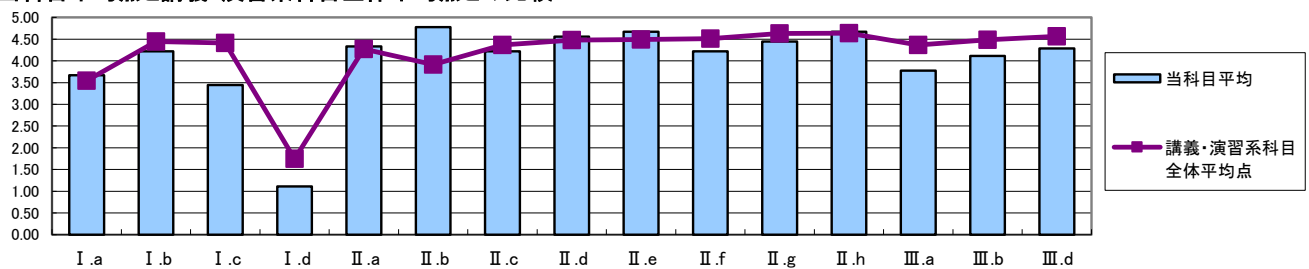
科目名	健康と音楽B
教員名	佐々木 和佳

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.22	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.44	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.78	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.22	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.22	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.44	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.78	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.11	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55.56</td> <td>77.78</td> <td>33.33</td> <td>11.11</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	55.56	77.78	33.33	11.11	0.00
	回答率																	
	5	4	3	2	1													
55.56	77.78	33.33	11.11	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.29	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

様々な障害・疾患の方への音楽療法や音楽で関わる際の目的・音楽の使い方について深く理解することを目的とし、音楽療法の歴史、各領域（高齢者、ホスピス・緩和ケア、精神科、障害児・者）における音楽療法について紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数10名。開講は水曜日の2時限目。現役生と社会人経験を経て入学をされた方がおり、受講生全員とコミュニケーションを図りながら講義を進めた。

I-b “この授業の出席は良好であった” について「強く思う・ある程度そう思う」80.8%、「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」がそれぞれ11.1%だった。I-c “熱意を持って積極的に取り組んだ” について、「強く思う・ある程度そう思う」66.7%、「どちらとも言えない」11.1%、「あまりそう思わない・全くそう思わない」がそれぞれ11.1%だった。II-c “成績評価の基準” について、「強く思う・ある程度そう思う」88.8%、「あまりそう思わない」11.1%だった。III-a “開講時に示された到達目標” について、「強く思う・ある程度そう思う」66.6%、「どちらとも言えない」11.1%、「あまりそう思わない」22.2%、だった。

● 問題点

授業の出席について多くの学生が良好であったが、数名欠席が多い学生がいた。熱意を持って積極的に取り組んだ学生が大半を占めているが、そうではない学生もいた。また、成績の基準について明確に示されていないと感じていた学生や、開講時に示された到達目標について達成出来なかったと感じている学生がいることがわかった。

● 改善の方策

毎回の授業内において扱う内容や説明の工夫をし、学生が自ら意欲的に取り組めるような授業を目指す。また、予習・復習したことが授業内で活かされるようにし、出席不良者の出席率が向上するよう働きかける。成績の基準について明確に示すとともに、多くの学生が開講時に示す到達目標を達成出来るような授業を目指す。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

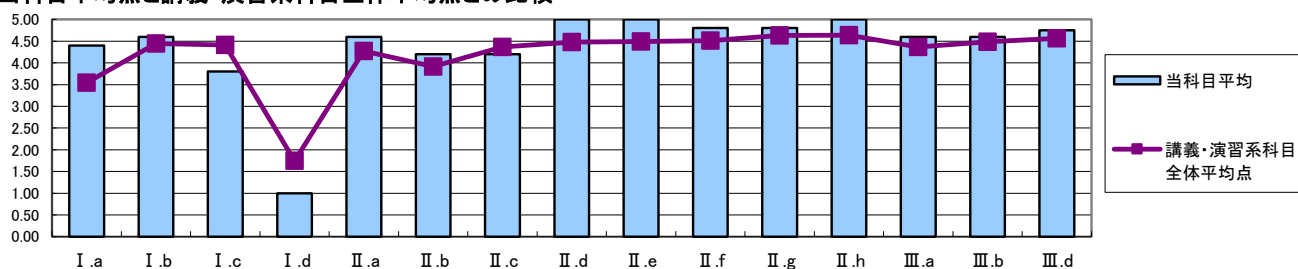
科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	佐々木 和佳

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>40.00</td> <td>20.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	40.00	20.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	40.00	20.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

社会福祉に関する基本的な知識を身につけるとともに、我が国や諸外国の福祉の現状を通して、身近な出来事として考えることを目的とし、様々な施策や社会福祉に携わる人たちの仕事内容等を紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数6名。開講は水曜日の3時限目。受講者全員、健康と音楽も受講していた。現役生と社会人経験を経て入学をされた方がおり、受講生全員とコミュニケーションを図りながら講義を進めた。

I-c “熱意を持って積極的に取り組んだ”について「強くそう思う・ある程度そう思う」80.0%、「あまりそう思わない」20.0%、だった。I-d “1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしたか”について「1時間未満」が100%だった。II-b “授業の難易度”について、「難しい」20.0%、「適切」80.0%、だった。III-c “この授業を履修して自分のためになったことは何か”について、「新しい知識・技能」100%、「新しいものの見方」40.0%、「関連分野の学習意欲」20.0%、問題発見・解決能力0%、コミュニケーション能力向上0%だった。

● 問題点

熱意を持って積極的に取り組んだと回答した学生が多くを占めていたが、そうではないと感じていた学生がいたことがわかった。また、授業の難易度について難しいと感じていた学生がいたことがわかった。

● 改善の方策

毎回の授業内において扱う内容や説明の工夫をし、学生が自ら意欲的に取り組めるような授業を目指す。また、予習・復習したことが授業内で活かされるようにし、積極的に取り組めるよう配慮する。授業内において内容の理解度を確認しながら、難しいと感じている場合には分かりやすい説明を行うようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

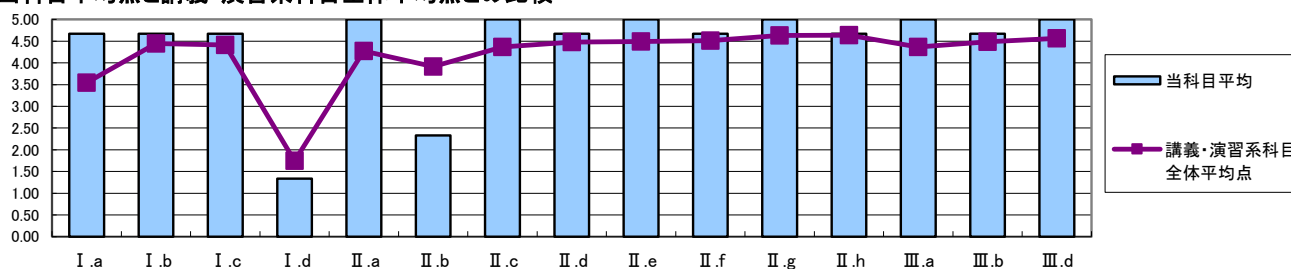
科目名	コンピューター演習B
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等が分かりやすかった。	4.67	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>33.33</td> <td>33.33</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	33.33	33.33	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	33.33	33.33	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術についての基本的な知識を習得する。一般的な文書作成や表計算ソフトウェアの他、楽譜作成ソフトウェアの基本操作を習得し、コンピュータを「自分のアイデアや伝えたいことを形にするための道具」として、自身の音楽活動やキャリアにつながる活用スキルを向上させる。

<内容>

コンピュータの基本的な構造、ハードウェア・ソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。PCを用いたコンピュータリテラシーの向上。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施した(状況によって、Google for Educationのツールを使用)。音楽に関するソフトウェアでは、楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。またMacコンピュータを使って、音楽制作ソフトウェアの基本操作を行う。学期末には、近年初等教育から行われているプログラミング教育の意義について学び、簡単なプログラミング実践を行って「プログラミング的思考」について考察を行った。

<状況説明と集計結果の分析>

木曜日2時限、履修者数4名(うち社会人学生が1名)。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは1、2年生の混合クラスであった。社会人学生も比較的コンピュータ操作には慣れており、特別なサポートを必要とすることはほとんどなかった。例年ではあるが、社会人学生には、授業内でできなかったことや終わらなかった課題などを、必ず復習の時間を取って次の授業には提出する、また授業前に質問・確認する、という姿勢が見られた。現役生は多くの課題をスムーズにこなしていたが、表計算ソフトウェアでは「苦手」「嫌い」と少し後ろ向きな姿勢であったが、基礎演習に加えて応用的な演習に取り組むことのできる学生もいた。

● 問題点

「予習・復習の時間」

「授業の難易度」: 「やや難しい」と「易しい」と、分かれる回答となった。

● 改善の方策

「授業の難易度」: 現役生を基準に演習内容の設定をしてはいるが、中でも「易しい」と感じている学生がいる様子であるため、容易に課題を進めているような学生に対しては、より応用的な課題内容や、自分自身で学びを深められるような課題やテーマの提供をしていきたい。「やや難しい」と感じている学生へ予習復習時間の確保を促すことができるよう、演習進捗の見極めが必要だと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

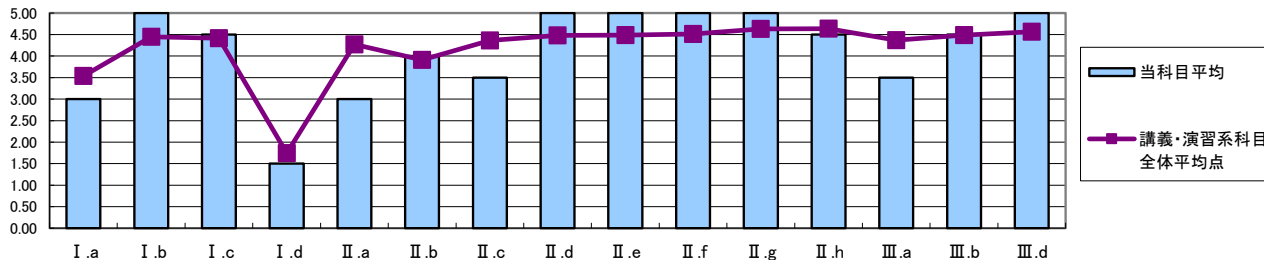
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2
教員名	ヴェルゴラーニ ミケレ

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.50	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> <td>50.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	50.00	50.00	50.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	50.00	50.00	50.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



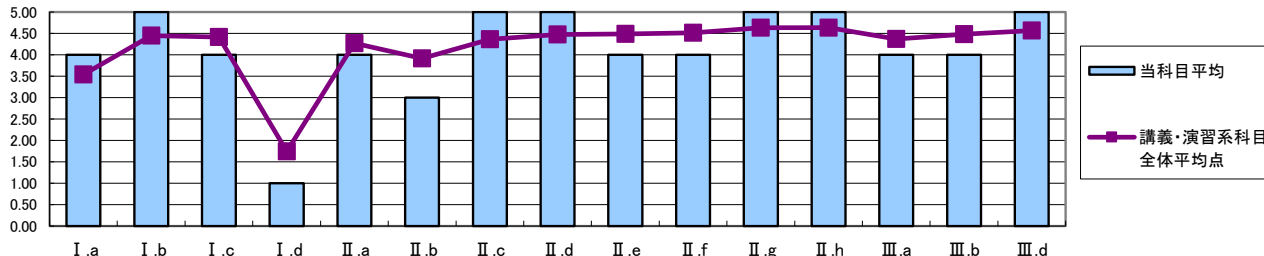
科目名	現代の心理学(発達心理を含む)B
教員名	徳富 政樹

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点															
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.54															
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45															
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.41															
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.74															
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.27															
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91															
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36															
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48															
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.49															
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.51															
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63															
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64															
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37															
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.48															
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																	
5	4	3	2	1														
100.00	0.00	0.00	0.00	0.00														
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



文化教養科目

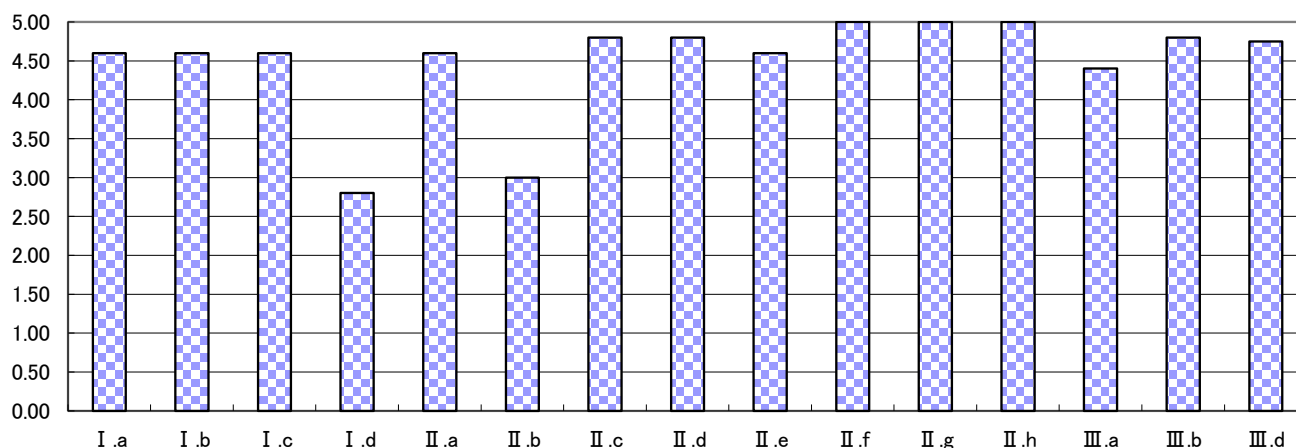
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	10. 文化教養科目
科目数	3

履修者数	5
回答者数	5

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.60	3	2	0	0	0	5	0
	60.0		40.0	0.0	0.0	0.0			
	b	4.60	3	2	0	0	0	5	0
	60.0		40.0	0.0	0.0	0.0			
c	4.60	3	2	0	0	0	5	0	
60.0		40.0	0.0	0.0	0.0				
d	2.80	0	0	4	1	0	5	0	
0.0		0.0	80.0	20.0	0.0				
II	a	4.60	3	2	0	0	0	5	0
	60.0		40.0	0.0	0.0	0.0			
	b	3.00	1	3	1	0	0	5	0
	20.0		60.0	20.0	0.0	0.0			
	c	4.80	4	1	0	0	0	5	0
	80.0		20.0	0.0	0.0	0.0			
	d	4.80	4	1	0	0	0	5	0
	80.0		20.0	0.0	0.0	0.0			
e	4.60	3	2	0	0	0	5	0	
60.0		40.0	0.0	0.0	0.0				
f	5.00	5	0	0	0	0	5	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
g	5.00	5	0	0	0	0	5	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
h	5.00	5	0	0	0	0	5	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
III	a	4.40	2	3	0	0	0	5	0
	40.0		60.0	0.0	0.0	0.0			
	b	4.80	4	1	0	0	0	5	0
	80.0		20.0	0.0	0.0	0.0			
c	-	4	4	2	1	0	5	0	
80.0	80.0	40.0	20.0	0.0					
d	4.75	3	1	0	0	0	4	1	
75.0		25.0	0.0	0.0	0.0				

10. 文化教養科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

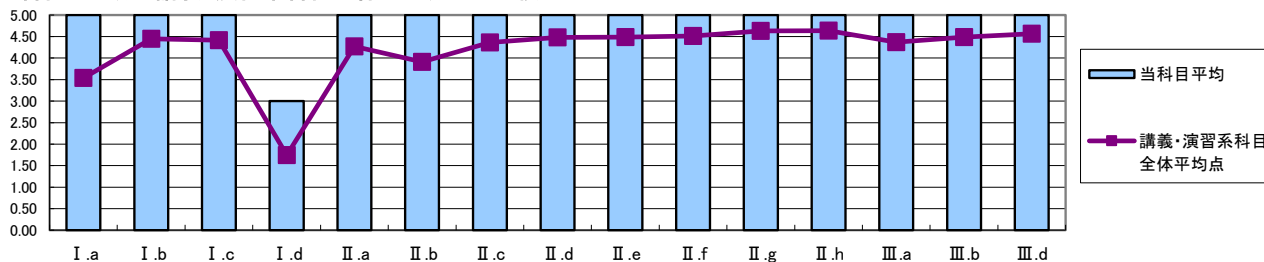
科目名	音楽教養基礎講座(ソルフェージュ)ⅠB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
Ⅰ	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74																		
Ⅱ	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64																		
Ⅲ	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>100.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
100.00	0.00	0.00	0.00	0.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



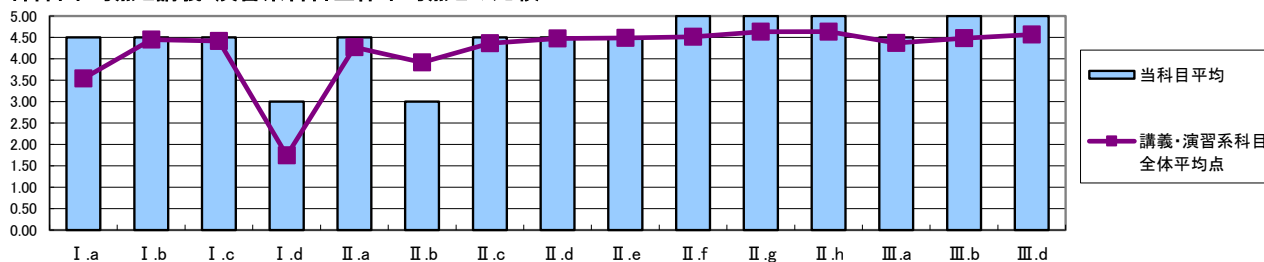
科目名	音楽教養基礎講座(ソルフェージュ)ⅡB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点																		
Ⅰ	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54																		
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45																		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41																		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.74																		
Ⅱ	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27																		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.91																		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.36																		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.48																		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49																		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51																		
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63																		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64																		
Ⅲ	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.37																		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.48																		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">回答率</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>50.00</td> <td>100.00</td> <td>50.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </table>					回答率					5	4	3	2	1	50.00	100.00	50.00	0.00	0.00
	回答率																				
5	4	3	2	1																	
50.00	100.00	50.00	0.00	0.00																	
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.56																			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

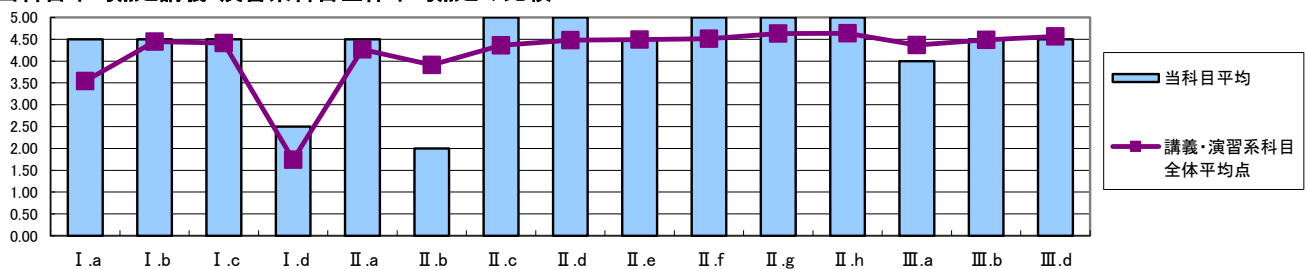
科目名	音楽教養基礎講座(楽典)ⅡB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点			
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.54			
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.45			
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.41			
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.74			
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.27			
	b この授業の難易度はどうでしたか。	2.00	3.91			
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.36			
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.48			
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.49			
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.51			
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63			
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.64			
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.37			
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.48			
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	回答率				
		5	4	3	2	1
		100.00	100.00	50.00	50.00	0.00
d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.56				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



東邦音樂大學大学院

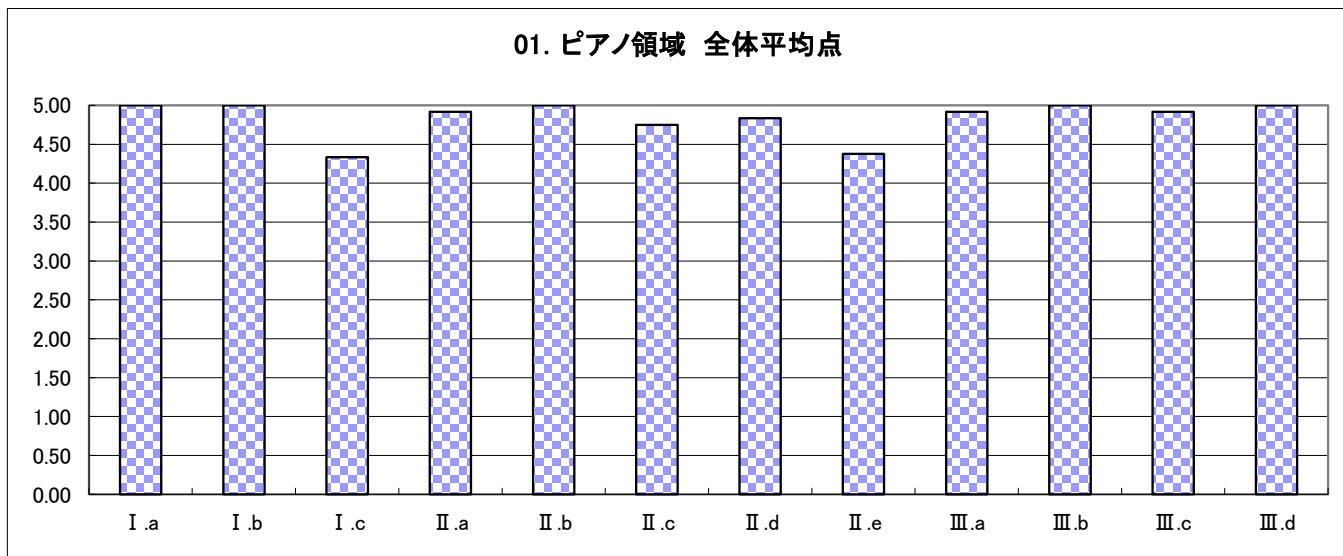
ピアノ領域

授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	01. ピアノ領域
科目数	6

履修者数	12
回答者数	12

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	5.00	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	b	5.00	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	c	4.33	7 58.3	4 33.3	0 0.0	0 0.0	1 8.3	12	0
II	a	4.92	11 91.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	b	5.00	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	c	4.75	10 83.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	12	0
	d	4.83	10 83.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	e	4.38	4 50.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	8	4
III	a	4.92	11 91.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	b	5.00	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	c	4.92	11 91.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	d	5.00	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0

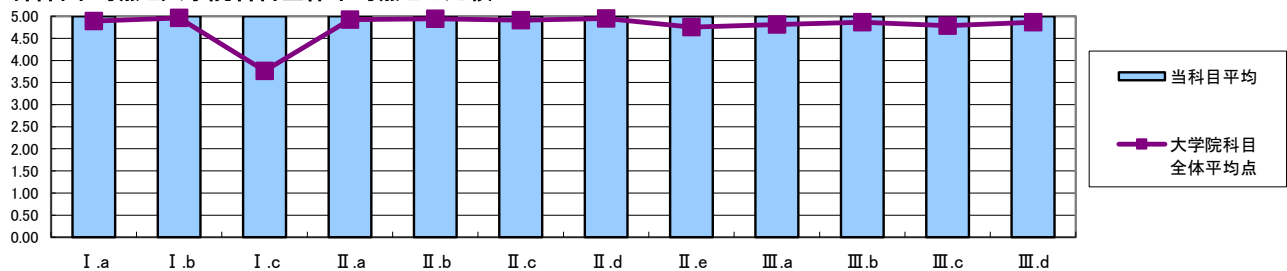


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習	職名	02. 教授	履修者数	2
教員名	國谷 尊之			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2023年度は、大学院ピアノ特別演習のレッスンを、1年次生1名、2年次生1名、計2名担当した。1年次生は大学Konzertfachからの進学であり、大学での学習成果を基盤に、主に楽曲分析とピアノ奏法においてさらに研究を進めた。ウィーン研修と大学院1年次演奏会では、その進展を実感することができた。2年次生は中国人留学生であり、昨年度までの成果を踏まえて学位審査修了演奏会の曲目と論文に取組み、修士課程の成果を形にすることができた。アンケート結果からは2名とも充実した1年間であったことが伺える。

● 問題点

中国人留学生へのレッスン及び論文指導では、全体に大きな問題はなかったものの、語学力がさらに向上すればより高度な内容にできたように思う。また、日本語での論文フォームや参考文献引用の方法などについての指導にも、もっと時間が欲しかった。

● 改善の方策

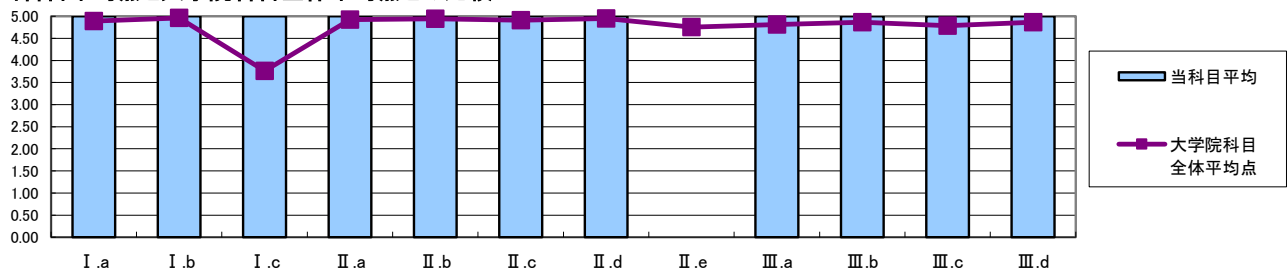
留学生の論文指導においては、論文の内容に加えて、論文作法についても早い段階から指導をスタートすることとする。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習	職名	02. 教授	履修者数	1
教員名	小林 律子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度、1名の院生の専攻実技レッスンを担当した。院生は付属中学、付属高校、大学と本学が提唱している「一貫教育」のもと、着実に研鑽を積んでいる。自らの意志がしっかりとしており、その学ぶ姿勢は実に積極的であり、また明確な目的意識も合わせ持っている。
アンケートの集計結果からも院生本人の学びに対する高い達成感や満足感を感じとることができる。12月に行われた大学院1年次生による演奏会ではその演奏技術、表現力等に明らかに成長が感じられ頼もしいと思うと共に、大変嬉しい思いであった。

● 問題点

特に感じない。

● 改善の方策

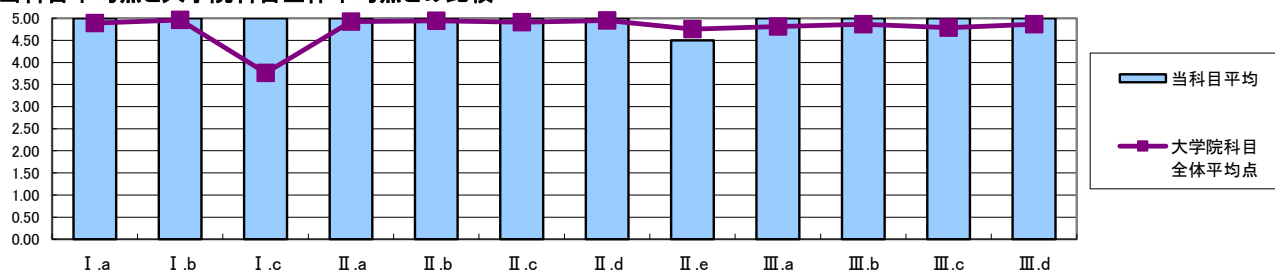
あと1年の大学院生としての学びの日々。
更に深い理解を得ることができる様、しっかりとサポートをしていく所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習	職名	02. 教授	履修者数	2
教員名	中島 裕紀			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.50	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

令和5年度は、2名の学生が在籍しており、2名から回答を得ることができた。非常に意欲的に毎回のレッスンに臨んでおり、国際コンクール参加など、目標を持って取り組んでいた。学生は、時間の有効な使い方など、工夫をしながら課題に向かっていた。

● 問題点

数値上、特に問題点は見当たらない。

● 改善の方策

現在非常に良い状態でのレッスンを提供できているが、大学院では、より研究的な視点が必要になるため、今後もさらに上質なレッスンができるように、研究を欠かさないようにしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

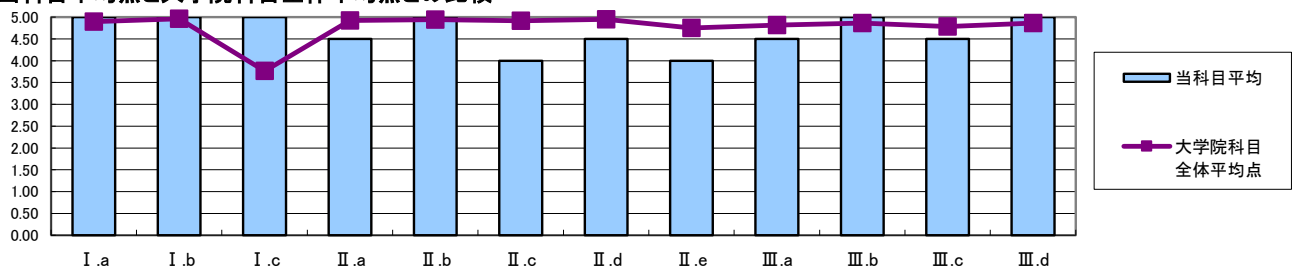
科目名	ピアノ特別演習
教員名	藤井 一興

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.50	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



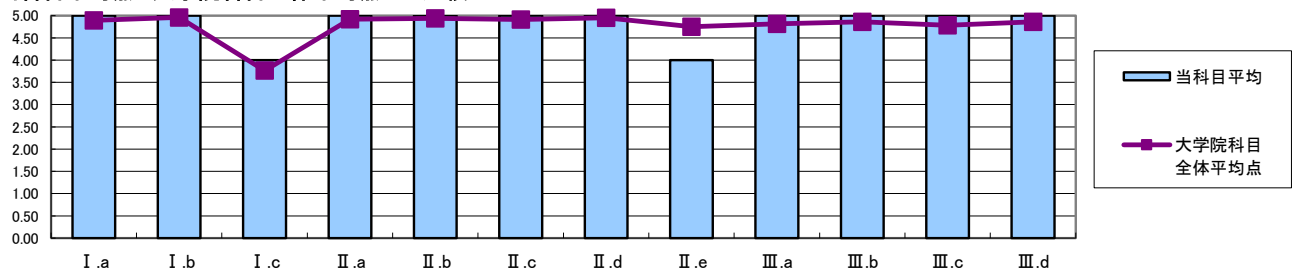
科目名	鍵盤音楽史研究
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

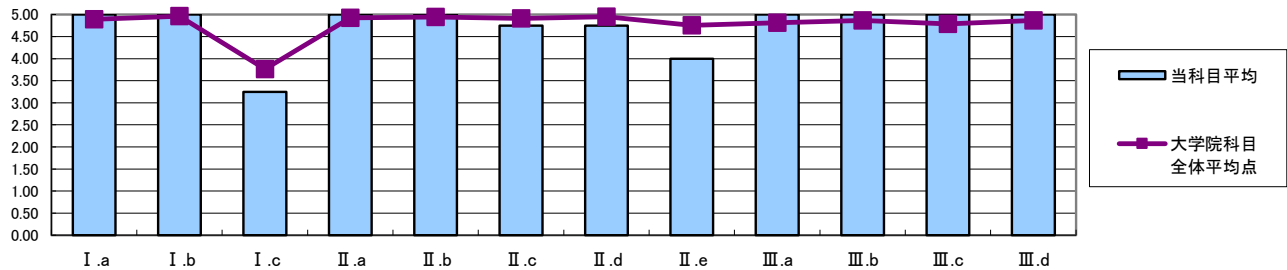
科目名	作品研究A(バロック・古典期)
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.25	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.75	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



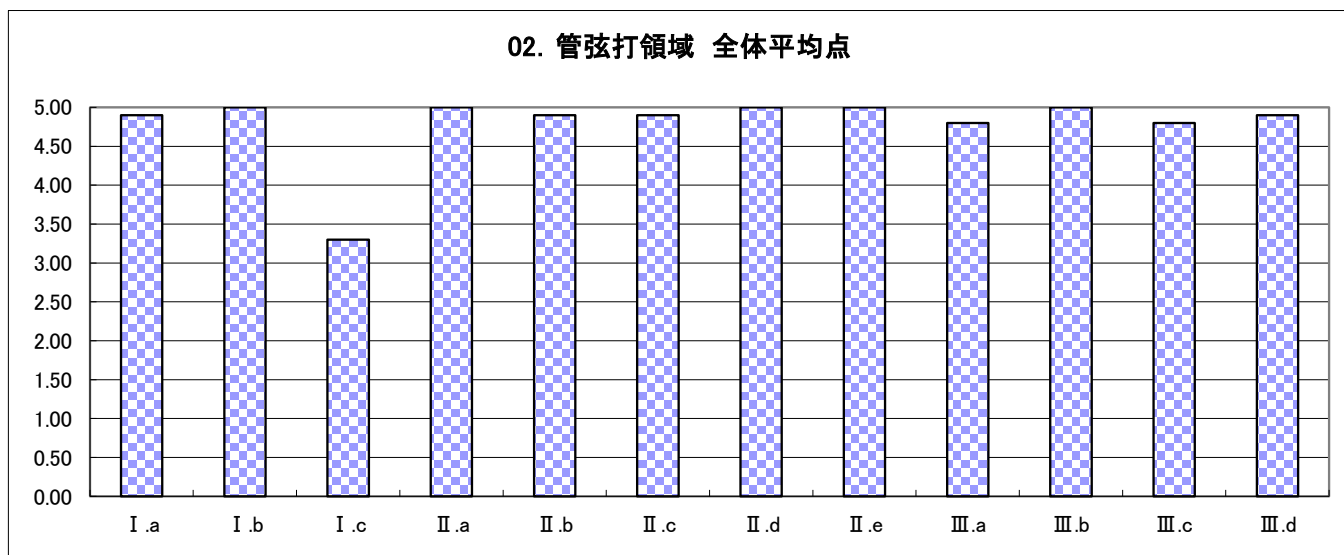
管弦打領域

授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	02. 管弦打領域
科目数	6

履修者数	16
回答者数	10

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.90	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c	3.30	4 40.0	0 0.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0	10	0
II	a	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	4.90	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c	4.90	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	d	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	e	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	5
III	a	4.80	9 90.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c	4.80	9 90.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	d	4.90	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0

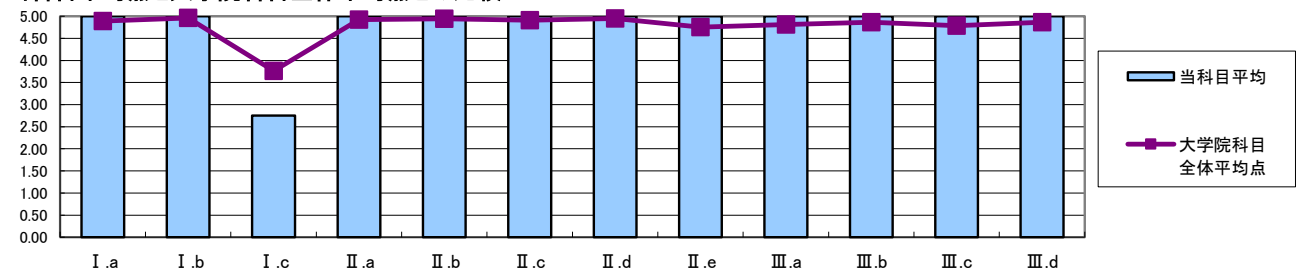


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	アンサンブル表現研究(室内楽)	職名	05. 特任准教授	履修者数	6
教員名	澤 敦			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.75	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業では、前期、後期の2回、50周年記念館で、短大室内楽授業履修生と合同で、発表会を開催しました。この発表会では、大学院、短大それぞれのチームによる演奏。そして大学院、短大合同チームによる演奏を行いました。この企画は、梅本、石田、中原諸氏の大いなる協力とサポートにより実現できました。大学院チームは、個人レベルの差はあるものの、大変意欲的なプログラムをこなし、それぞれに大きな成長が見られました。また、時には短大生に対しての指導もさせ「指導」という面でも学ぶ点が多かったと考えます。この1年を通して、学びの多い、演奏キャリアを積む、良い授業が展開出来たと考えます。

● 問題点

問題点は、どんな楽器の履修生がくるのか？4月にならないとわからない点で。それが明確になった時点から、取り上げる楽曲を考えなければならない為、事前に授業プランを具体的に考えるのが、困難な事です。個人レベルの差もあるので、選曲に時間を要する。

● 改善の方策

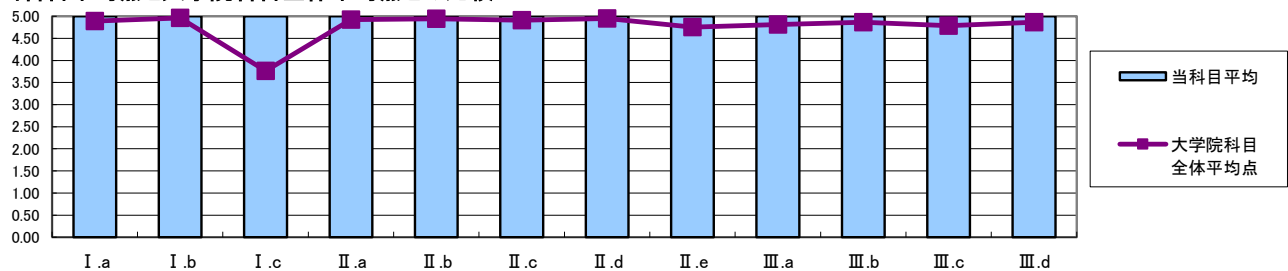
改善点としては、選曲においてより学習効果の高い内容を考える事。これは、楽器編成、個人レベル等を加味して考えなければならない為、より一層の私自身の工夫と研究が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	管弦打特別演習	職名	08. 講師	履修者数	1
教員名	渡辺 由美子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

実技レッスンでは「自分を打楽器で表現するアイデアを実現するために必要なものは何か」について考えさせ、音楽を表現し伝える際に必要な実践的なスキルを磨き、イメージを具体化するために、さまざまなテクニックや表現力を修得させた。

レッスン毎の課題、実技試験、門下での発表会などを通し、音楽応用力を拡大することを目的とする。資質能力や学ぶ姿勢の向上を念頭に置き、学生の希望や学修の進捗を踏まえつつ、可能性を最大限に伸長する教育の実践を心掛けた指導を行った。

学生は、大学院での学びの目的や意義をしっかりと理解し、楽器の技術向上に積極的に取り組んでいた。

● 問題点

アンケート結果を受けて改めて振り返ると、レッスンに向けて楽器練習だけでは得られない知識を図書館を利用するなど、広く音楽を学ぶ意識を植え付けたい。

- ・レッスンシラバスの活用
- ・レッスン目標に沿って行われていたか。
- ・予習、復習をすすめる

● 改善の方策

- ・第一回レッスン時に年間予定を確認する
- ・問題に対して状況に応じて再構築する
- ・予習や復習の内容をレッスン時明確に伝え、より具体化する
- ・要望に対しシラバスと乖離した場合調整する

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

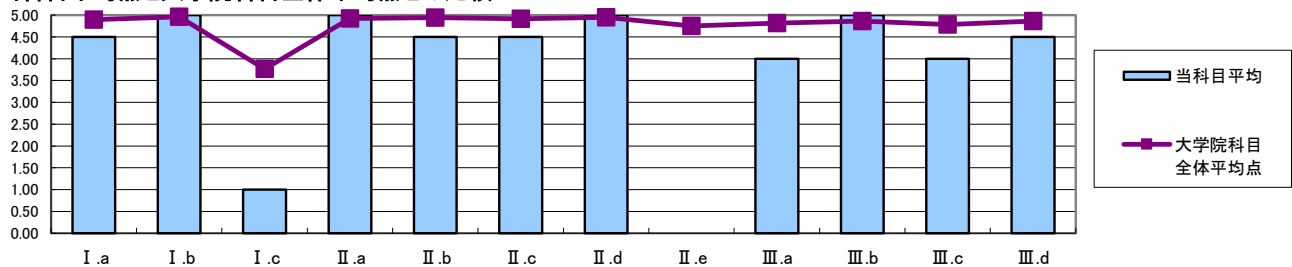
科目名	作品研究(室内楽)
教員名	萩久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.50	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.50	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.50	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



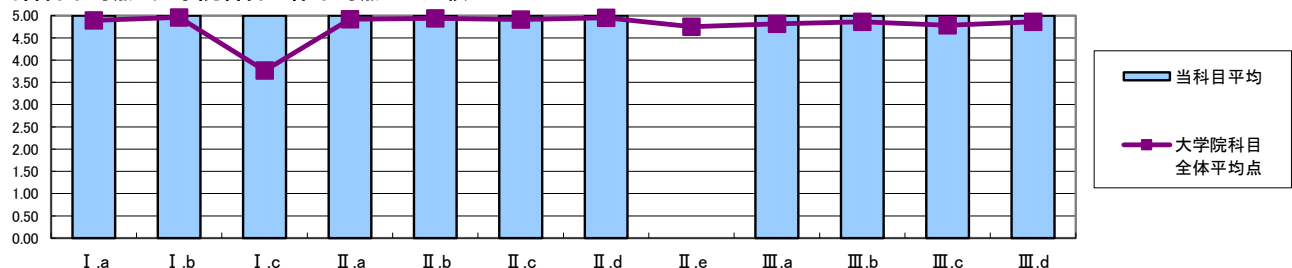
科目名	管弦打特別演習
教員名	清水 高師

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

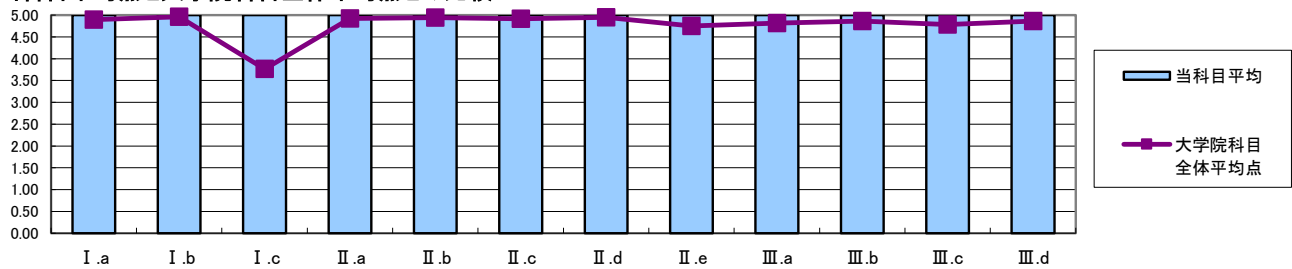
科目名	管弦打特別演習
教員名	菅原 政彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



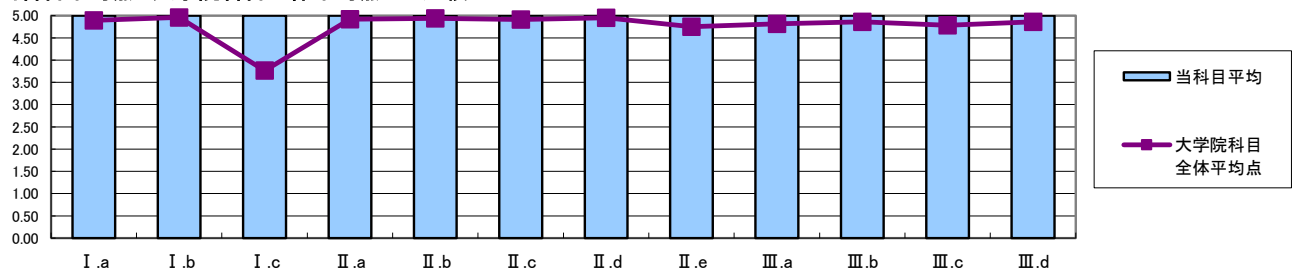
科目名	管弦打特別演習
教員名	田中 洪至

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



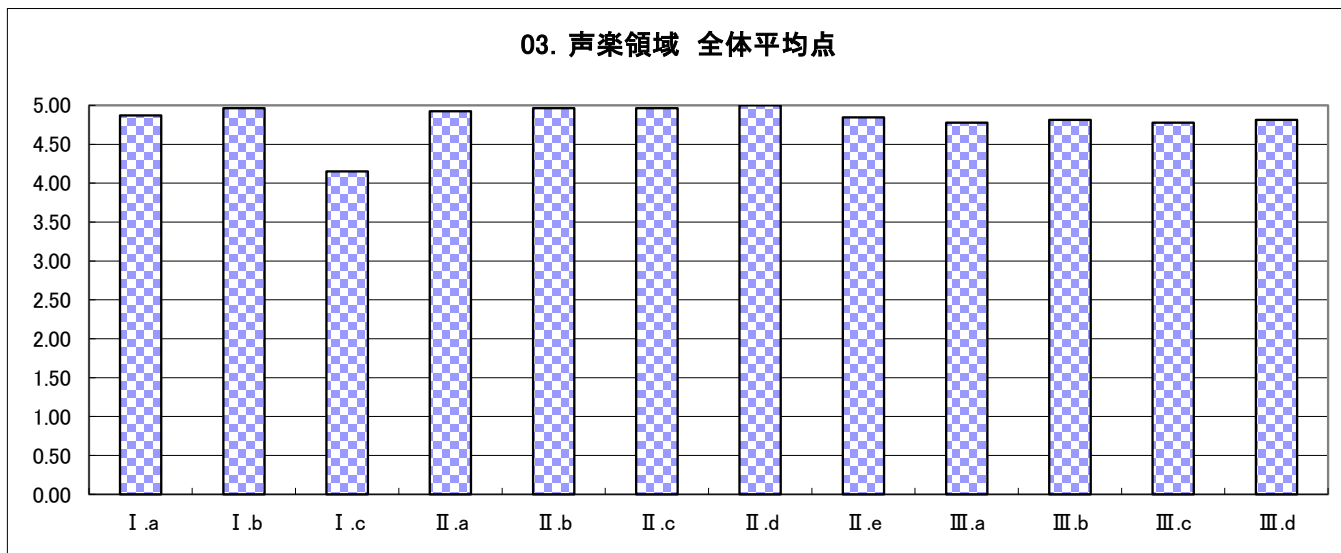
声 楽 領 域

授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	03. 声楽領域
科目数	12

履修者数	72
回答者数	54

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数	
			5	4	3	2	1			
I	a	4.87	47	7	0	0	0	54	0	
			87.0	13.0	0.0	0.0	0.0			
	b	4.96	52	2	0	0	0	54	0	
c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.15	29	8	11	5	0	53	1	
			54.7	15.1	20.8	9.4	0.0			
II	a	4.93	50	4	0	0	0	54	0	
			92.6	7.4	0.0	0.0	0.0			
	b	4.96	53	0	1	0	0	54	0	
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.96	52	2	0	0	0	54	0
				96.3	3.7	0.0	0.0	0.0		
d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	54	0	0	0	0	54	0	
e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)	4.84	40	4	0	1	0	45	9	
			88.9	8.9	0.0	2.2	0.0			
III	a	4.78	47	4	1	2	0	54	0	
			87.0	7.4	1.9	3.7	0.0			
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.81	45	8	1	0	0	54	0
				83.3	14.8	1.9	0.0	0.0		
c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.78	46	5	2	1	0	54	0	
			85.2	9.3	3.7	1.9	0.0			
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.81	47	4	3	0	0	54	0	
			87.0	7.4	5.6	0.0	0.0			

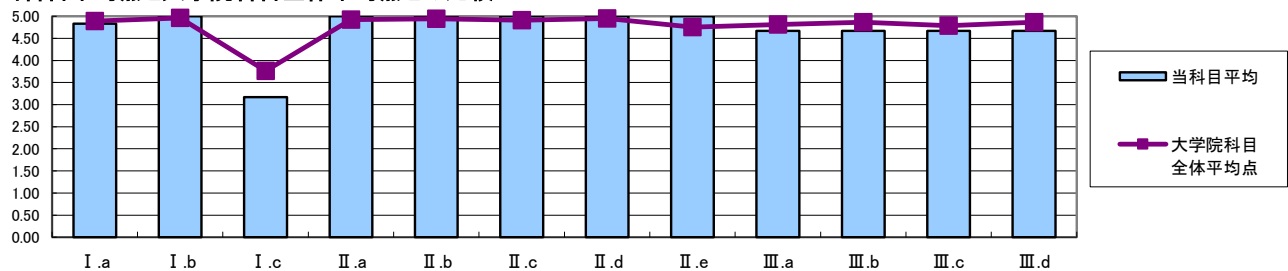


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	作品研究A- I(日本歌曲)	職名	01. 主任教授	履修者数	6
教員名	山崎 明美			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.83	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.17	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.67	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.67	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに、詩の解釈・朗読を研究し、詩人、及びその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を修得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲について、それぞれが資料を作成、それを基に研究発表を行う形である。教員は学生に更なる資料に対する助言、また補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、様々な課題を示し、各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づく助言を行い、必要に応じて視聴覚資料を用いている。アンケートは本講座履修者6名中全員から提出された。受講者は、留学生が4名と日本人学生が2名である。日本人学生2名のうち、1名は社会人である。アンケート結果は設問1 Cが3点台で、設問1 A、Bは4点台である。設問IIは全て5点であった。設問IIIはすべて4.67であり、平均をわずかに下回っている。

● 問題点

6名のアンケートであるので、1名が16.7%を担っている。平均をわずかに下回った設問3においては1名のみ評価3となる「どちらとも言えない」を選択、他の5名は評価5であった。設問IIIは、授業によってどのようなことが身に付いたのかを問うものである。

● 改善の方策

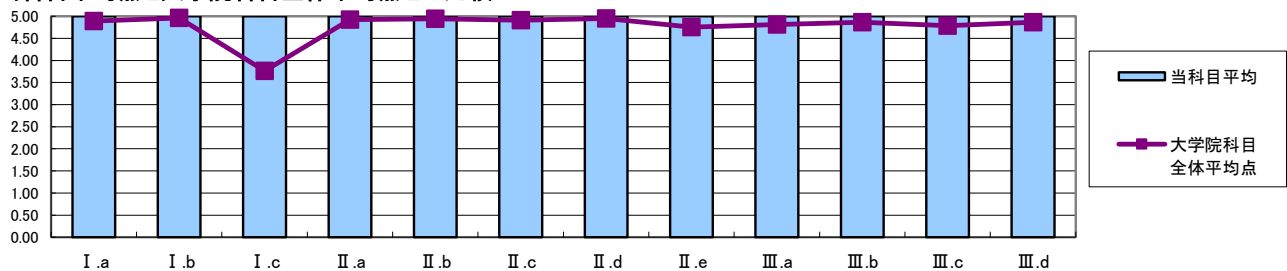
留学生4名、日本人学生2名と言うクラス編成ではあるが、留学生も真摯に取り組んでおり、説明の内容が難しくならないように基礎を繰り返し説明する場面もあった。日本人学生にとってさらに高度な授業内容となるよう資料等を紹介している。実質的に評価3となった学生が1名いたと言う事となる。自由記述においては、複数の高い評価を得ているので、現状を維持しつつ、個々の学生に目を配った授業内容をさらに心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	作品研究A-Ⅱ(日本歌曲)	職名	01. 主任教授	履修者数	2
教員名	山崎 明美			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに、詩の解釈・朗読を研究し、詩人、及びその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を修得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲について、それぞれが資料を作成、それを基に研究発表を行う形である。教員は学生に更なる資料に対する助言、また補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、様々な課題を示し、各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づく助言を行い、必要に応じて視聴覚資料を用いている。受講者は、2名である。アンケート時、欠席が1名であり、出席の1名より提出された。アンケート結果はすべての質問において「5」であった。

● 問題点

欠席の1名は、長期欠席となっており、残念ながらアンケートには参加できなかった。アンケートに参加した1名とは、他の授業においても十分にコミュニケーションを図ることができた学生である。当授業においても、積極的な参加の姿勢があり、すべての質問において「5」となっている。

● 改善の方策

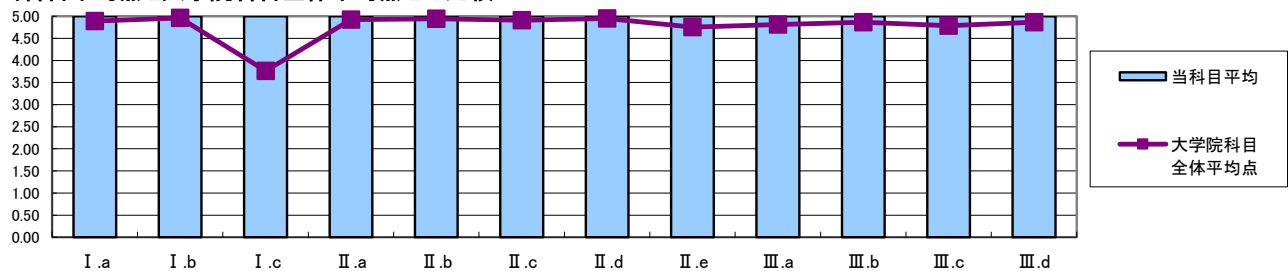
すべての質問において5となった事は喜ばしい。自由記述においても本人が積極的に取り組み、授業において成長を実感し、多くを学んだことが伺える。この学生は学ぶ意欲が高く、大学院の2年間で大きく成長した学生である。今後も授業において学生の学修意欲及びその成果が上がるよう更なる改善を重ねていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	声楽特別演習	職名	01. 主任教授	履修者数	2
教員名	山崎 明美			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学院において、声楽特別演習を2名担当した。声楽特別演習においては、大学四年間で培われてきた声楽における基礎技術を発展させ、さらに高度な音楽的表現に応えられる演奏技術の修得を個人レッスンにより追求し研鑽を積む。現今の声楽界においては、様々な様式の作品、また数ヶ国語によるレパートリーを歌いこなせる能力を持つということが要求される。つまり、オペラ、コンサートなど、あらゆる音楽現場の要求に対処できる能力を保持しているかが問われるのである。このことは、特にヨーロッパにおいて顕著であり、声楽という分野で職業に結び付く可能性を多く持つ唯一の国、ドイツにおける現在の大学院教育の基礎となっている。それ故に、高度な声楽技術、正確かつ幅広い学識に裏づけされた読譜力と、客観的かつ深く洞察された解釈力が必要条件となってくる。本講座を受け持つにあたり、以上のことを念頭に置きつつ、それぞれの課題を明らかにし、個人の特質に沿ったレッスンを心がけている。声楽特別演習 I においては、研究課題に積極的に取り組み研鑽を積むと同時に、院1コンサート、2週間強のウィーン研修を行ない、演奏の実際に必要とされる上記の事柄へ集中的に研修を重ねる。二年においては、修士論文の作成によって、さらに専門性を高め、修士演奏を行う事により、演奏の実力を養う。現在担当している声楽特別演習Iの2名は、中国からの留学生である。日本語の理解力も高く、両名とも高い資質を持っている。

● 問題点

アンケートの結果は全項目にわたり5であった。両名とも非常に熱心にレッスンに取り組んでおり、レッスンの中においてもコミュニケーションをしっかりと図ることができた結果であるかと思う。

● 改善の方策

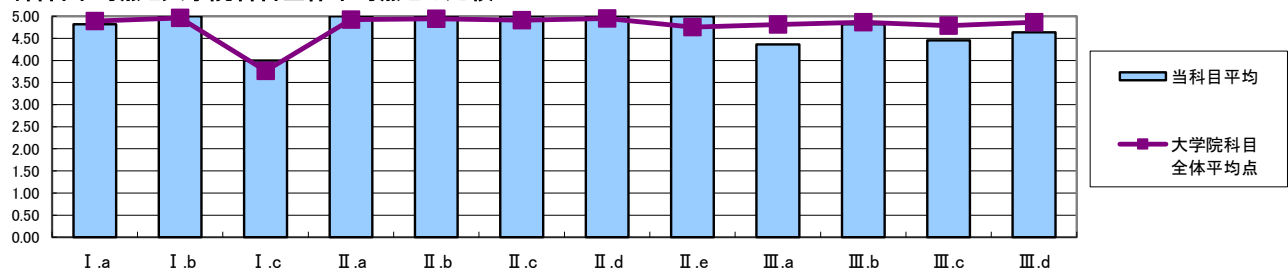
この結果に慢心することなく、さらなる技術、音楽の教授を進めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	アンサンブル表現研究(声楽)	職名	03. 特任教授	履修者数	11
教員名	佐藤 泰弘			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.82	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.36	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.82	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.45	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.64	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は、オペラの重唱曲の取り上げて、履修者をキャラクターや声質により数々の演目のキャスティングされ、声楽科教員3名、コルベティートルのピアニストの教員2名、指揮者教員、演出家教員と多角的な指導を受けながら、音楽稽古と立ち稽古を通して舞台でのアンサンブル感覚を学ぶという、将来プロの声楽家になるためには大変有益な授業である。他の大学院の授業は通常、文京キャンパスで行われているが、この授業が毎年恒例的に学部学生と大学院学生が合同で行われていること、またキャスティングの構成や立ち稽古のアクティング・アリア確保のため、オペラ舞台芸術を体現するのに狭い練習場しかない文京キャンパスではなく、敷地が広く、十分にアクティング・エリアが確保できる川越キャンパスにおいて、毎週木曜日の2, 3限に行われている。将来プロの声楽家を目指す学生達にとっては、必要不可欠な組織的訓練が出来る授業であると言える。

● 問題点

この授業で出席率が高い学生も介在したが、高熱やウイルス感染以外の理由で欠席回数が多くてバランスが保てない事があった。それゆえ、折角出席した学生達が、全員が揃わない歯抜け状態のアンサンブルでやっていく事も少なくなかった。また、稽古が進んでいく中で、指揮者先生や演出家先生がきめ細やかな指導をしても、日本語を全て理解出来ないことで稽古の進行に支障をきたすこともあった。それに対して、学生の要求が上回って、アンケートの感想の中には年間を通して同じ演目をやることに不満を訴える意見もある。また、アンサンブル授業を進めていく上で、予習復習が充分でない学生も目立った。

● 改善の方策

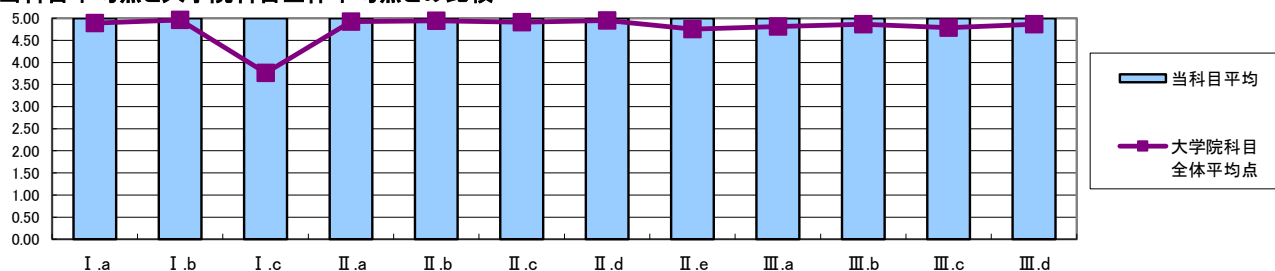
アンサンブル授業において、如何に全員が揃っての稽古が重要であるかを、繰り返して説明していく必要がある。また、喉が少し痛いなどの軽症での欠席を出来るだけ防ぎ、軽症で歌えなくても、見学してメモや記録を取ることで大いに勉強になるということをお勧めすることで、学生の出席率を上げることを目指す。また留学生の日本語学習能力アップの必要性を繰り返してアナウンスしていく必要がある。また、教員達から毎週同じ注意を指摘されないよう、如何に充分な復習をして次のステップに繋げていくかの教育も肝心である。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	声楽特別演習	職名	03. 特任教授	履修者数	3
教員名	佐藤 泰弘			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度初めは年間を通して火曜日に2名の履修者の担当の予定だったが、他の教員が体調不良で長期療養となってその教員の担当していた学生のための私が代役担当教員になった事情で、10月からはもう1名を水曜日に追加して合計3名担当することになった。大学院という学びの場はより専門的な研修をするのが理想ではあるが、私はこの授業の初めの15分は基本に立ち返っての発声レッスンを続行することも欠かさなかった。また、3名とも大学院2年生だったため、常に学位審査演奏会に向けての楽曲をまとめていくことを目標に、より洗練された発音と歌唱の指導のみならず、毎回ピアノ伴奏者を伴ってのレッスン指導として、ピアノ伴奏とのアンサンブル指導もきめ細やかに指導をし続けた。それにより、3名各々が実りある学位審査演奏会を体現する事が出来た。

● 問題点

集計結果から問題点はごく僅かだった。大学院科目全体平均に比べると、3名は予習・復習を充分にしている事がわかった。集計結果には出ていないが、3名とも中国人留学生であり、その中で1名は日本語能力が充分ではなく、その学生からは殆ど自ら日本語を発して主張することもなかった。その1名に関しては、私が工夫してわかりやすく懇切丁寧に説明して教示するやり方により、結果的にその学生本人は満足したと思われる。

● 改善の方策

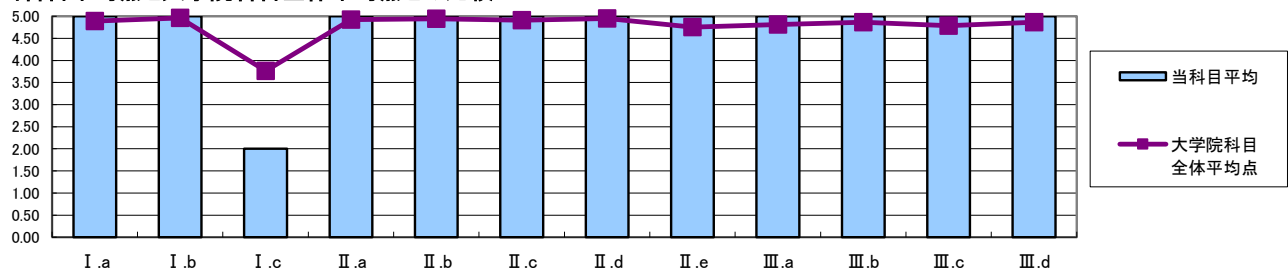
履修した3名の学生とも感想をアンケートに記載しているが、満足度は充分で改善点はないと記載されている。しかし、毎年本学に留学してくる中国人学生の日本語能力は多々問題が起きていることは否めない事実であり、大学院では論文を書く必要も相まって、彼らになお一層の日本語事前学習を促していくことが、我々教員の課題となっている。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	声楽特別演習	職名	06. 専任講師	履修者数	1
教員名	岩見 真佐子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

声楽特別演習のレッスンは、大学院ディプロマポリシーを到達目標に掲げ、カリキュラムポリシーの実践にむけた本年度のシラバスに従い、履修生の専攻力習熟度、発達段階に応じて開講。大学の授業開講日及び補講日を通じて、前期15回後期15回計30回を確保しました。

個々の声域や身体的条件により、取り組む歌唱課題曲の選曲については十分に意見交換を重ね、本人の目標設定と心技体のバランスに配慮し進めた現状を報告いたします。

本アンケートの各項目で概ね良い成果がみられ、修士課程に求められる声楽表現力の習得に向けて、専門分野についての理解も演奏演習の場で成果につなげることができていたと評価しています。

留意した点として、当該履修生1名については、本年はこの実技レッスン以外の授業環境に関して抱えていた精神的な負担が大きく、3か月にわたり体調を崩していた現状があり、これについては対処的なアドバイスのみに留まり、声楽演習でのモチベーションの維持が困難な現状がありました。環境対応力については個人差があり、健全な学びを維持するためには、到達目標に向けた全体環境の設定に努めてゆく必要があると受け止めています。

● 問題点

アンケート第I.c項のレッスン内評価及び同一専攻平均値については、大学院での研究の環境を整えているものの、学生間の学びの熱量差、授業に取り組む姿勢の違い、コミュニケーションが困難なため協働できない環境、そこに起因する大きなつまづきがあると思われます。学修意欲を支える重要なファクターとして、学びの環境を整えてゆく必要が考えられる。

● 改善の方策

声楽演習では専攻力を身につけ更に自分の研究を深めたい、という学びの意欲から、成果発表の場でPDCAをまわす、一貫した学びの継続が望まれる。また、レッスンでの質的な内容の維持、その効果的な実践、学生個々の興味に添った作品の提案にも引き続き取り組んでゆく。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

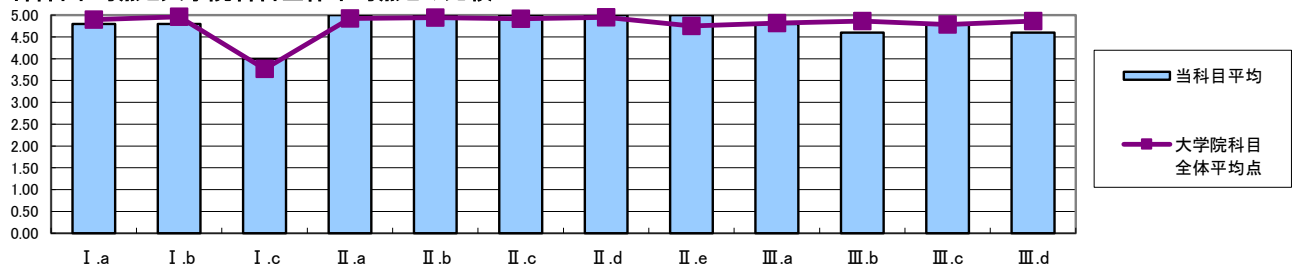
科目名	作品研究B-Ⅰ(外国歌曲)
教員名	片岡 啓子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.80	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.76
Ⅱ	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.80	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.60	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.80	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



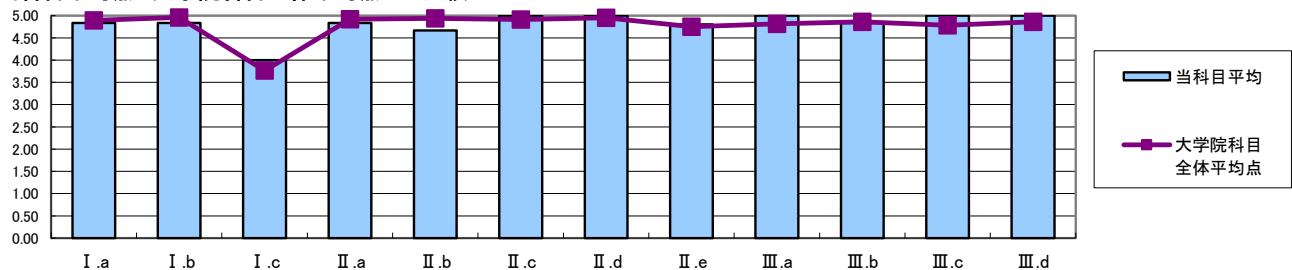
科目名	作品研究B-Ⅱ(外国歌曲)
教員名	片岡 啓子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.83	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.76
Ⅱ	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.83	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.67	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.80	4.75
Ⅲ	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.83	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

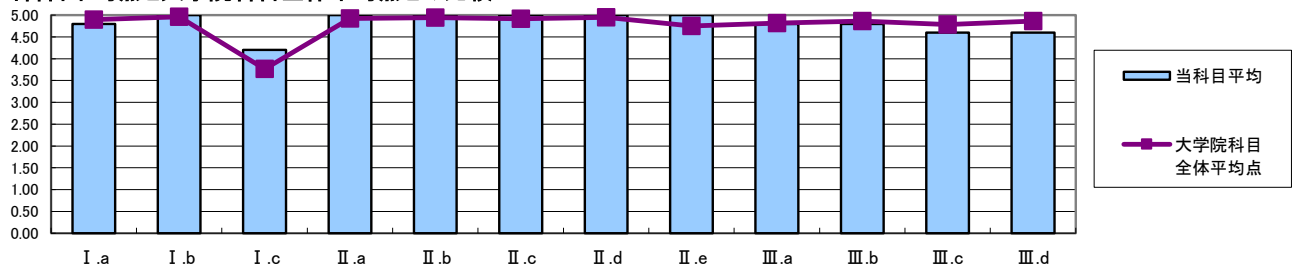
科目名	作品研究C-I(オペラ)
教員名	片岡 啓子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.80	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.20	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.80	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.80	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.60	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



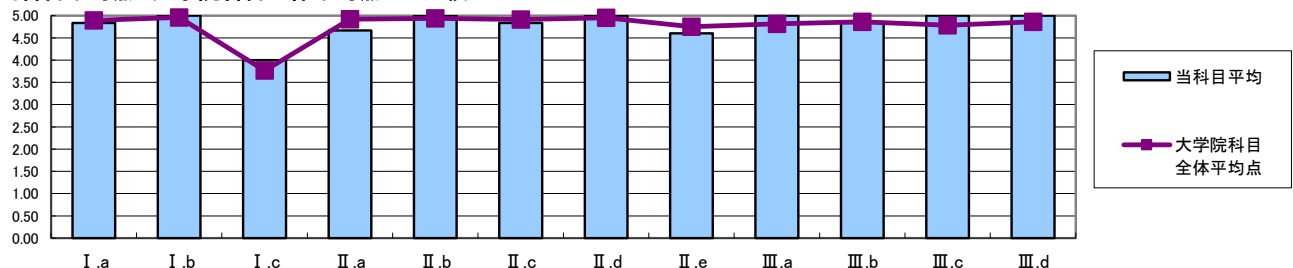
科目名	作品研究C-II(オペラ)
教員名	片岡 啓子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.83	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.83	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.60	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.83	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

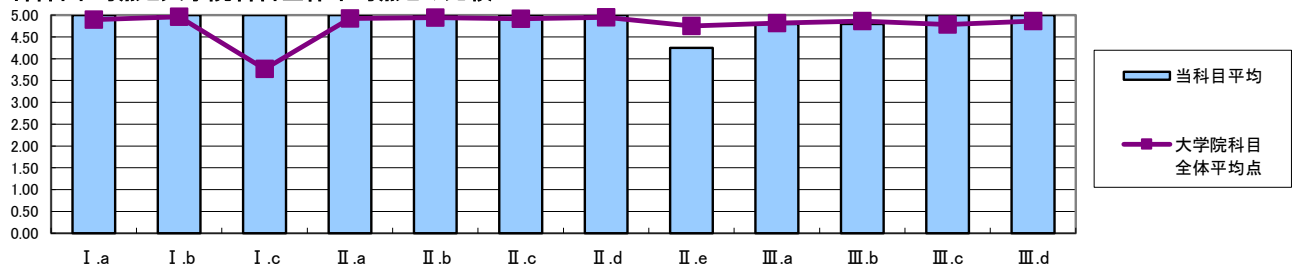
科目名	声楽特別演習
教員名	片岡 啓子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	7
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.25	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.80	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.80	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



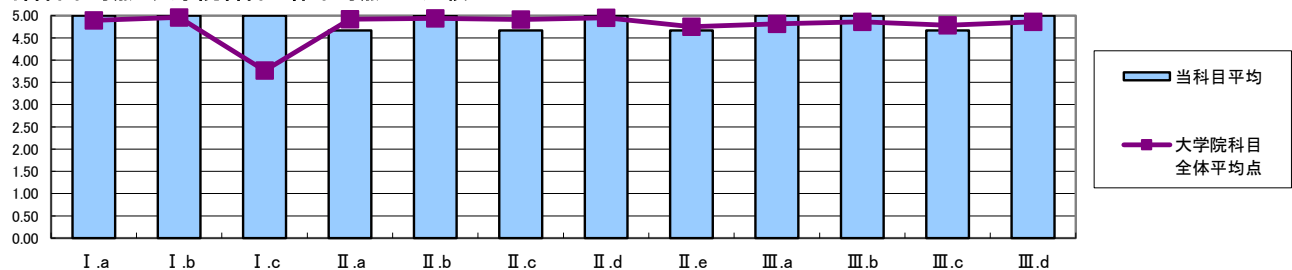
科目名	歌曲・オペラ史研究
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.67	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.67	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



作曲領域

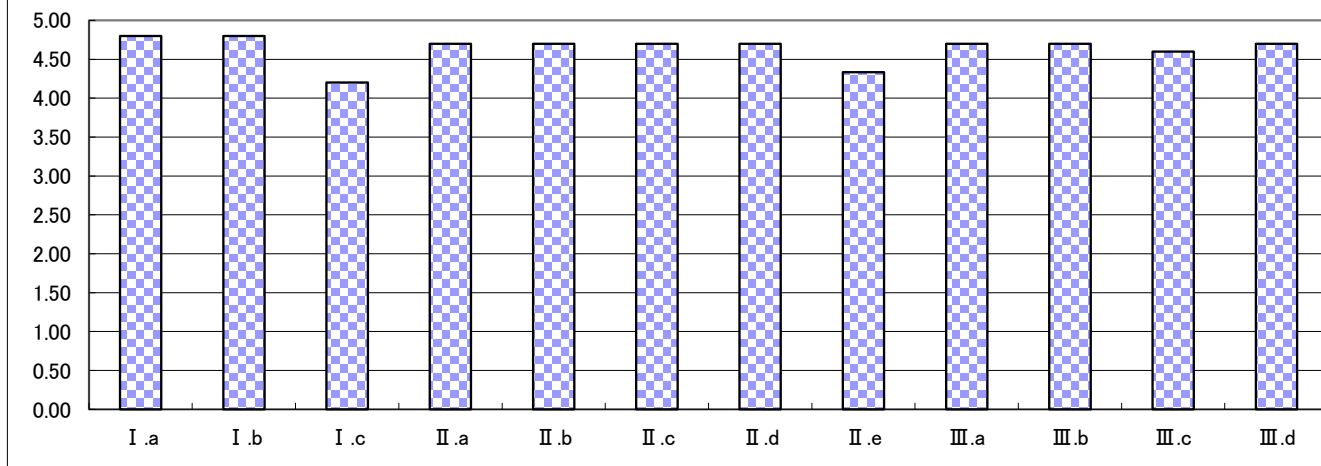
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	04. 作曲領域
科目数	5

履修者数	11
回答者数	10

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.80	8 80.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	4.80	8 80.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c	4.20	8 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	10	0
II	a	4.70	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	4.70	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c	4.70	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	d	4.70	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	e	4.33	7 77.8	0 0.0	1 11.1	0 0.0	1 11.1	9	1
III	a	4.70	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b	4.70	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c	4.60	8 80.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	10	0
	d	4.70	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0

04. 作曲領域 全体平均点

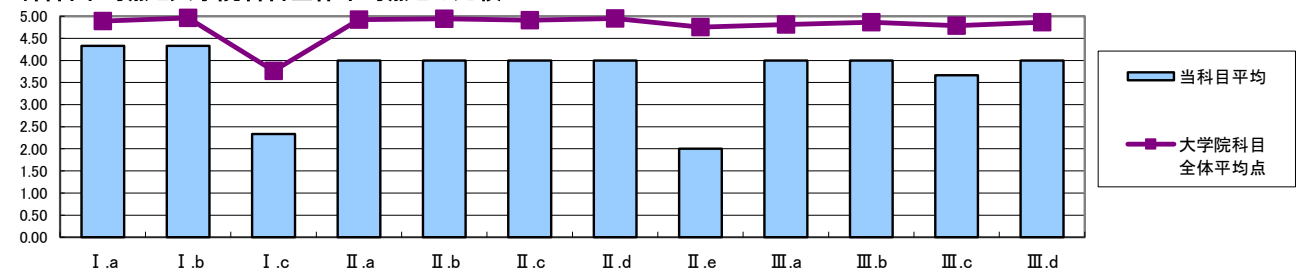


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	作曲技法特別研究 I	職名	05. 特任准教授	履修者数	4
教員名	井上 淳司			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.33	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.33	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	2.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	3.67	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学院生作曲領域専攻生に限定された必修の科目ではあるが、今年度は作曲領域1年次生2名、ピアノ領域1年次生1名、2年次生1名の計4名が履修した。アンケート回答数は3名であった。週に1コマ（90分）である。取り扱う題材は近代西洋音楽が中心となり、所謂クラシック音楽の系譜を追って、前バロック期から現代音楽へと調性音楽の誕生からその延長上にある無調音楽、さらにまた現在の多様な音楽におけるその構造（構成、旋律の扱い、和声法、リズムの扱い等）や作曲家の扱う題材をも時代背景を踏まえながら考察し、かつ研究することによって、作曲の技法のみならず作曲行為の精神性にまで探求することを目的としている。今年度は授業形態としての活性化を図ることについての議論等も発生した講義となった。

● 問題点

受講生それぞれに扱ってほしい題材を聞きながらそれに関連する事柄に派生することも含めて講義を進めた。それはあらかじめ予想不可能なのでシラバスを逸脱することが当然あり、しかしそれは作曲をする上やアナリゼを行うためにはどのように必要でありまたどのように扱うのかを本人の自主性を促しながら説明を行なったが、一部の受講生には正しく伝わらなかったようであり、またそれについての議論を行おうと試みたが残念ながら最後まで理解されなかったようである。

● 改善の方策

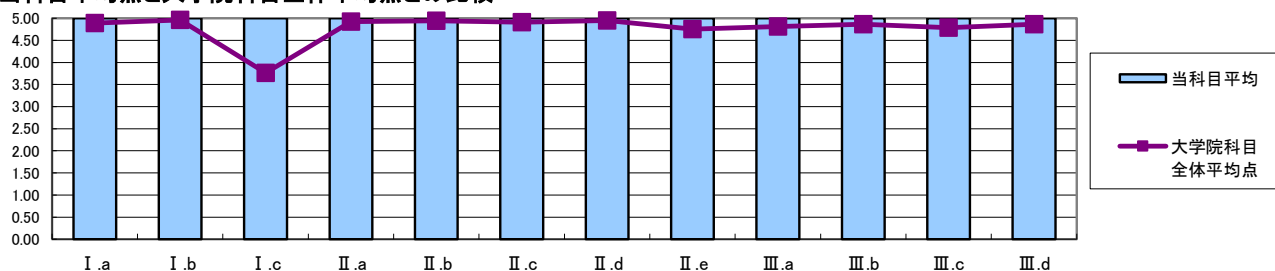
シラバスの見直しを行いあらゆる事柄や予測に対応し得る内容にしておくことが必要であろう。また受講生との意識や意思の疎通をさらに深めることも重要であろう。そして院生とは思えない知識の乏しさや考え方の幅のなさの是正も講義を通して図っていかなければならないだろう。受け入れる側の体制の強化が良い曲を書くために必要な熟考することの十分に余裕な時間を生むことになりそれが良い発想の湧いて来ることに繋がることも認識してもらいたい。良い音楽を創造するには何が必要か、そのための普段からの最低必要な準備の内容を整えながら院生の向上に努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	作曲楽書特別研究	職名	08. 講師	履修者数	1
教員名	上山 典子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は英語で書かれた文献（音楽書、理論書、音楽事典の項目、演奏会の楽曲解説など）を読むことで、その内容的理解を深めることを目的とする。履修者は年間の授業を通して英語による音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指す。また、英語圏の文献で日本の現代音楽や作曲家がどのように解説されているのかを知ることで、世界における我が国の音楽事情や音楽文化における位置づけについて考える機会とする。

シラバスでは、「The Harvard Dictionary of MusicやThe New Grove Dictionary of Music and Musicians 第2版などの音楽事典から20世紀以降の作曲家（邦人作曲家を含む）や作品、音楽用語の項目のほか、20世紀を中心とする作品の楽曲解説、CDの解説書、論文等を取り上げる」としている。例年、大学院の授業では、履修者の人数や専攻によって当初の授業計画を柔軟に変更することが多いが、本年度は履修者が作曲専攻のM1学生1名だったため、取り上げる文献は、ほぼ当初シラバスに記載の通りで進んだ。

履修者は中国からの留学生で、近年の学生のなかではもっとも高い英語力を有した一方で、日本語の運用には困難を伴っているようだった（＝日常会話のレベルでは大きな問題ではないものの、このような学問上の内容に関するやり取りになると、難しい点が多かった）。例年の授業では、英文で書かれた音楽書を日本語に訳した上で、内容の理解を確認して進めていたが、今回はその方式が通用しなかった（つまり、学生は日本語にはうまく訳せなくとも、英文を原文のままでも十分理解しているという状況）。今回は履修者が1名だったため、担当者が多くの場合英語で説明を試みる、という幾らか例外的な授業運営が成立したが、他にも履修者がいた場合、今回とまったく同様の方法をとるのは難しいかもしれない。

このように、日本語上多少の課題があったにもかかわらず、履修者の学習意欲は極めて高く、質問や意見表明など、非常に積極的なやり取りを行うことが出来た。

● 問題点

履修者（回答者）が1名という状況から、授業に対する問題点が浮かび上がってくる可能性は低い。履修者が1名である多くの場合、その学生は、たいてい「5」を選択して回答するため、それをすべて数字通りに受けとって、満足のいく授業ができました、ということはいけません。

● 改善の方策

今年度の履修者1名だったが、今後、今回の履修者のような学生、つまり高い英語力を有するが、日本語は堪能ではない、という留学生と、英語が決して高くはないに日本の学生が同時に履修した際の、授業運営、方法、文献の選び方などを考える機会となった。

授業担当者としては、日本語を学習途上の学生であっても、意欲を有する学生は大歓迎なので、そうした期待に応えられるような授業を行うよう努めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

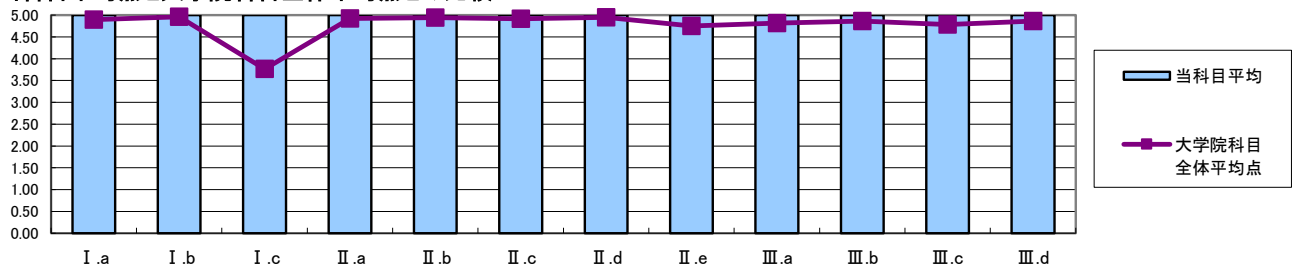
科目名	管弦楽法表現研究 I
教員名	萩久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



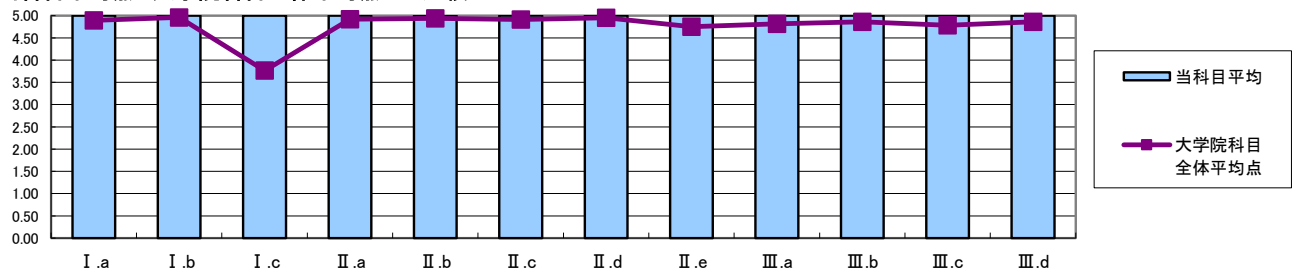
科目名	楽曲表現研究 I
教員名	萩久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

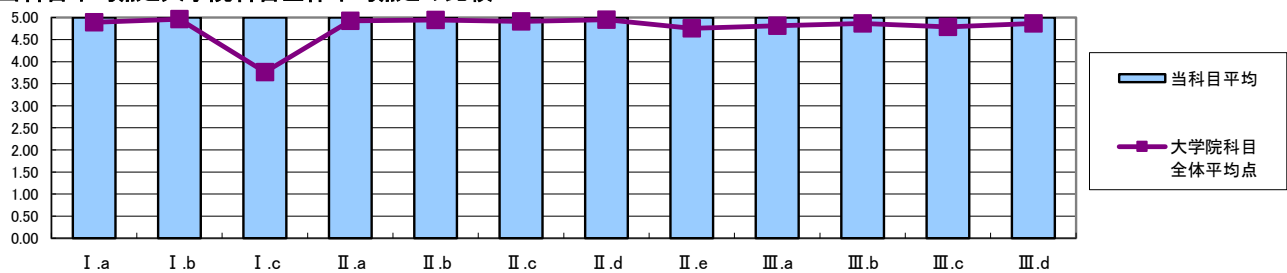
科目名	作曲特別演習
教員名	萩久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



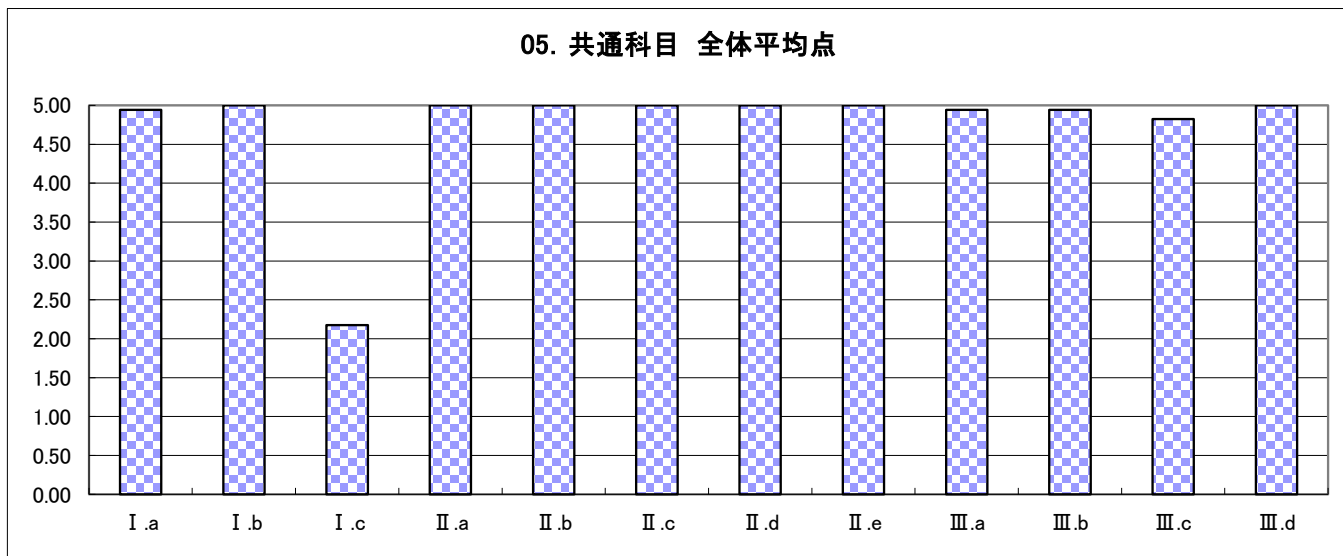
共通科目

授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	05. 共通科目
科目数	5

履修者数	24
回答者数	17

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.94	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	b	5.00	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	c	2.18	3 17.6	2 11.8	1 5.9	0 0.0	11 64.7	17	0
II	a	5.00	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	b	5.00	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	c	5.00	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	d	5.00	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	e	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	11
III	a	4.94	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	b	4.94	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	c	4.82	15 88.2	1 5.9	1 5.9	0 0.0	0 0.0	17	0
	d	5.00	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0

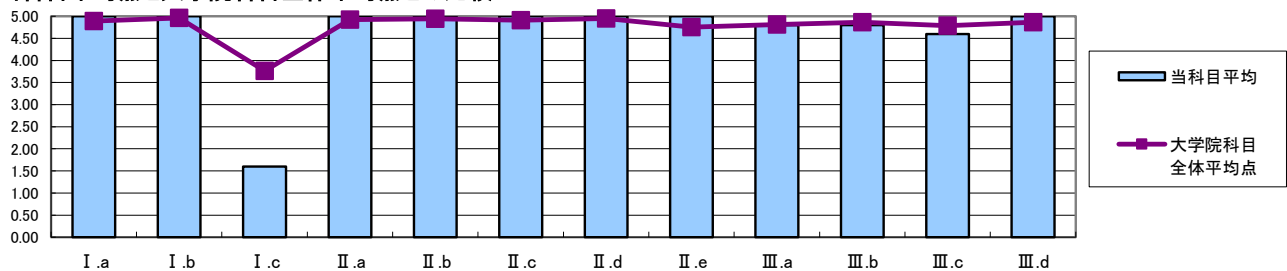


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	演奏表現研究	職名	08. 講師	履修者数	5
教員名	上山 典子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.60	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.80	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.80	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.60	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は大学院1年以上を対象とする通年科目で、月曜2限に開講した。鑑賞や分析を通して個々の作品の構造とそれぞれの作品が属するジャンルとしての特徴を把握するとともに、これらの作品を生み出した作曲家の意図や当時の時代背景、音楽社会・文化などにも目を向け、豊かな演奏表現につなげることを目的とした。前期はバロック時代～古典派のいわゆる大作曲家の作品を中心に取り上げ、時代による形式構造の変化や作曲家の特色を把握した。後期は19世紀ロマン主義時代から、多くの履修者にとってこれまであまり馴染みがなかったという20世紀半ば頃までを対象に、作品が生み出された音楽史的背景に対する理解を深めた。講義形式を基本としたが、履修者による作品分析、作品批評など積極的な参加とディスカッションを求めた。また、取り上げる作品の鑑賞（DVD映像など）とその補足説明も重視した。

履修者は合計5名で、内訳は全員が修士1年で、ピアノ専攻2名、管2名、弦1名で、最終的に全員が単位を取得した。（同時刻帯に音楽の授業が開講されているため、例年、音楽専攻者の受講者はいない。）学部からの内部進学者、外部音大からの進学者（2名）、社会人、留学生と、5名全員のバックグラウンドが異なるという珍しい状況だった。それはすなわち、学部における音楽学関連の科目の学習状況が異なることを意味するもので、どの程度の共通知識があるだろうか、と当初は少々不安もあったが、そのような心配は無用だった。履修者全員が意欲的で、年間を通して出席率も非常に良かった。（記憶する限り、これまでの講義科目で初めて、「出席は良好だった」の設問に対して、履修者全員が「5. 強くそう思う」を選択した。）

● 問題点

アンケートの結果、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みの平均点が1.60という極めて低数値となってしまった。2021年度にこれまでの最低値1.00を記録したが、昨年2022年度は3.50となり、多少は改善できたかと思っていたところ、再度1点台となってしまった。アンケートの回答者5名のうち、「4時間」が1名でほかの4名は「1時間未満」となっていた。1コマの授業に対して予習復習に各2時間程度の授業外学習が必要であることから、2024年度は早急にこの点を改善するよう努めたい。

● 改善の方策

授業に対する意欲や関心度はある程度良好だったと捉えられるが、履修者がこの授業の予習復習に費やした時間は決して十分なものではなかったことを改めて認識した。

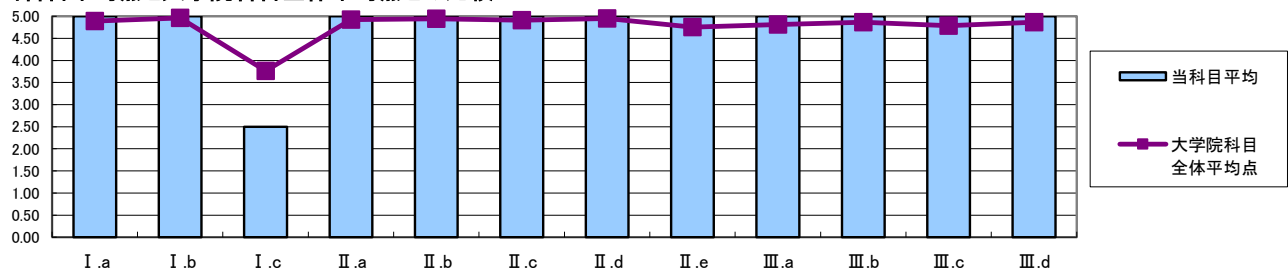
また、III-c「問題の発見方法や研究の進め方が身についた」の設問に対して、1名が「3. どちらともいえない」と回答している点に対しても、授業担当者としてどのような工夫が必要と感じた。今後は、授業の内容を出発点に、その先の各自の専門領域にどのように活かせるのかを具体的に示せるようにしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	楽書研究	職名	08. 講師	履修者数	5
教員名	上山 典子			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.50	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は英語で書かれた音楽事典や文献の内容を読み、その内容理解を深めることを目的とした。履修者には年間の授業を通して英文で書かれた音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指してもらった。

履修者は5名、内訳は修士1年の弦2名、管1名、修士2年の管1名、声楽1名で、全員が単位を取得した。楽書講読は留学生の履修者は多くはないが、2023度は中国からの留学生が2名含まれていた。両名とも日本語にかなり堪能だったため、基本的には英語の文献を日本語に訳すという作業にも、大きな問題がなかったように思われた。

講読文献を出発点とした発展的議論や意見・感想の共有などに対して、積極的に参加した履修者が多かった点は良かった。出席に関しても、5名全員が最高値の「5.」と回答した。しかし、この種の授業では必須の予習の実践については、とくに後期（なかでも演奏会活動や修士論文の執筆が山場を迎える時期）には、かなり曖昧なものになってしまっていた。

● 問題点

例年、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みが課題となっていたが、今年度は平均値こそ1.6と表示されているが（それでも他の科目の平均値と比べると大幅に低い）、内訳をみると「4時間以上」が1名と最低値である「1時間未満」が4名であった。5人の履修者のうち4名が、ほとんど予習復習を実践していないという結果は、重大に受け止める必要がある。（元々英語能力が高い学生の場合、講読文章の意味調べにかかる時間も必然的に短くて済むため、予習時間の多さが意欲や成果に比例するという訳ではない。）

● 改善の方策

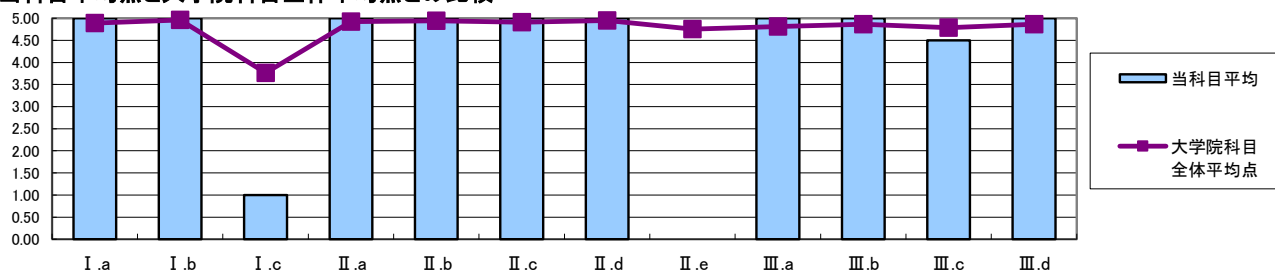
今年度に限らず、楽書購読の授業においてはやはりある程度の予習が必要となる。もちろん、辞書を用いずに多読を重ねる訓練も効果的で、意味調べの予習は敢えてせずに解読を試みるというやり方もある。しかしこうしたことが可能になるのは、一定の語学力を備えた学生にとってであり、多くの学生にとっては、地道な単語の事前調べが必要に思われた。しかし同時に、本授業は英語を文法的に正しく読むことではなく、あくまで英文で書かれた楽書の内容を理解することを目的としていることから、授業時間外の自修のあり方（内容、時間、方法などすべて）、そしてそれらを学生にどう促すかについては、引き続き担当者の課題としていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	身体表現演習	職名	08. 講師	履修者数	4
教員名	渡辺 恵			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

シラバスに記載されている『積み重ねが大切な科目であること』を理解して、極力出席するよう学生たちは努力していた。

● 問題点

特になし

● 改善の方策

興味を持って取り組めるよう、使用する曲の説明など織り込みながら授業を進める。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

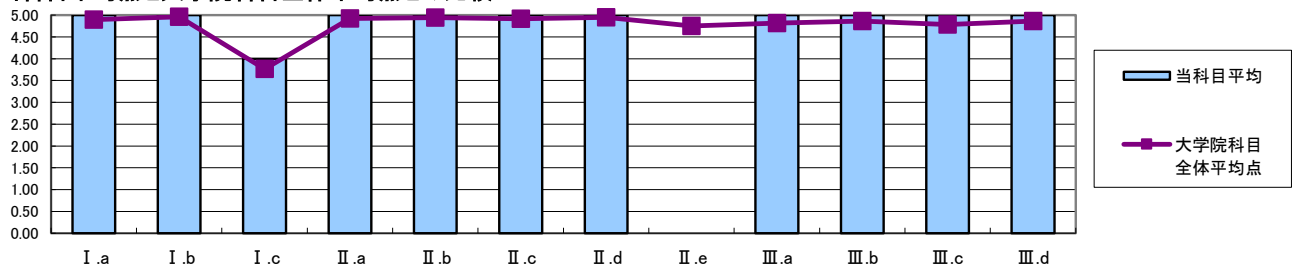
科目名	フランス語
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



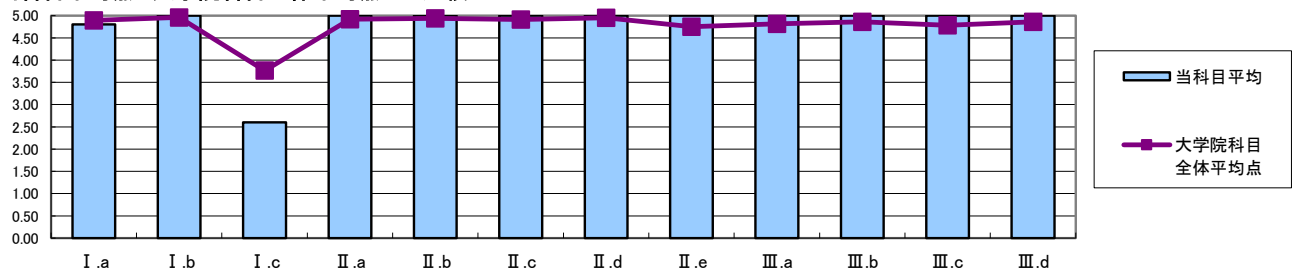
科目名	民族音楽表現法研究
教員名	櫻田 素子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.80	4.89
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.96
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.60	3.76
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.92
	b 教員は、専門領域に関する研究成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.94
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.91
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.95
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.75
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.79
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.86

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

2023 年度 授業改善のための学生アンケート実施報告書

令和 6 年 3 月 31 日 発行

編集発行 : 東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 FD 委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚 4 丁目 46-9

TEL 03 (3946) 9667

FAX 03 (3946) 2455

印刷・集計 : 株式会社 教育ソフトウェア